

芭蕉堂主園更先生之像

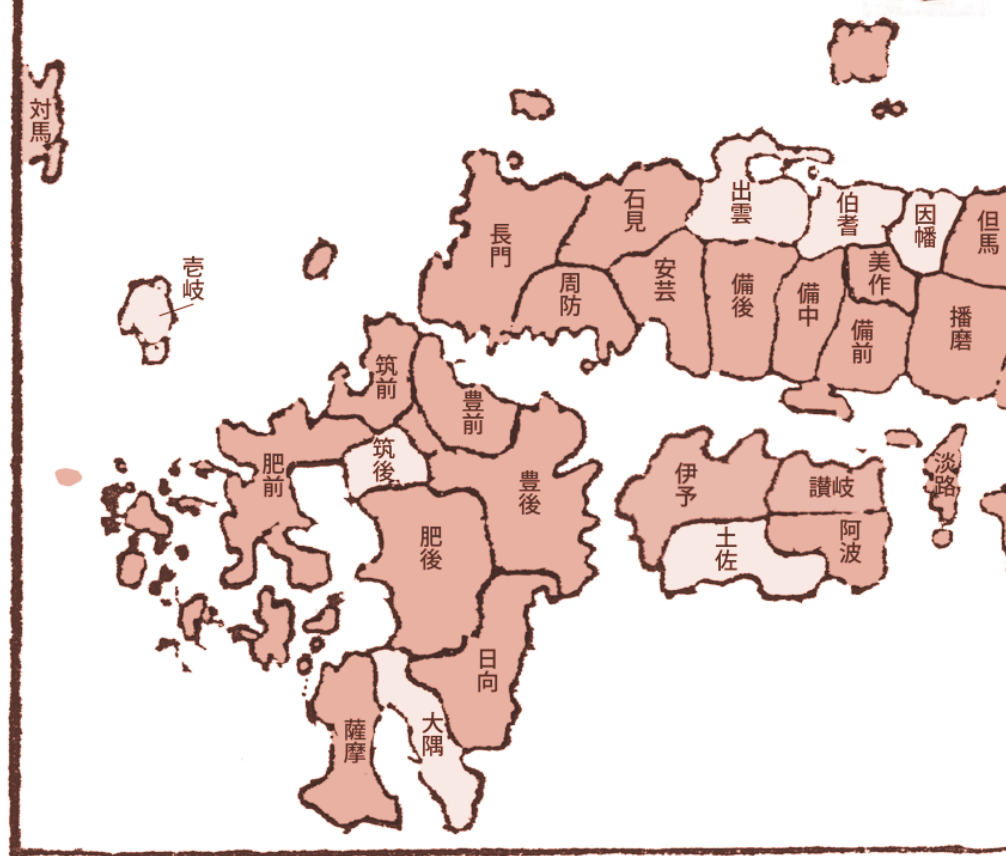


金水東山敬亮摹

か
李下畫
同国

対馬

吉岐



『花供養』 翻刻集成Ⅰ

— 蘭更の時代 天明六年（寛政十年） —

竹内千代子 編・著

『花供養』 翻刻集成 I

—— 關更の時代 天明六年～寛政十年 ——

目 次

凡例

翻刻本文

1	天明六年	關更主催	『花供養』
2	天明七年	關更主催	『花供養』
3	寛政元年	關更主催	『花供養』
4	寛政二年	關更主催	『花供養』
5	寛政三年	關更主催	『花供養』
6	寛政四年	關更主催	『花供養』
7	寛政五年	關更主催	『花供養』
8	寛政六年	關更主催	『花供養』
9	寛政七年	關更主催	『花供養』
10	寛政八年	關更主催	『花供養』
11	寛政九年	關更主催	『花供養』
12	寛政十年	關更主催	『花供養』

番号索引

付表一 各年本の編成

付表二 各年別・国別入集発句数

『花供養』所蔵一覧

付記

凡例

一、本翻刻集成は、京都東山芭蕉堂主催の『花供養』を収録したものである。天明六年の初刊から明治三年までの現存する総てを、四期に亘って翻刻する計画である。本冊のⅠは、天明六年から寛政十年までの、蘭更主催の十二冊を翻刻する。

二、各巻の翻刻に用いた底本・校異本の略称は次のとおりである。

○略称一覧（敬称略）

- (1) 糸井 京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫
- (2) 白鹿 兵庫県西宮市笹部桜コレクション
——白鹿記念酒造博物館寄託——
- (3) 愛知県大 愛知県立大学付属図書館
- (4) 綿屋 天理大学付属天理図書館綿屋文庫
- (5) 櫻井 立命館大学アート・リサーチセンター櫻井文庫
- (6) 月明 石川県立図書館月明文庫
- (7) 松宇 松宇文庫
- (8) 河野美 今治市河野美術館
- (9) 雲英 早稲田大学図書館雲英文庫
- (10) 竹内 竹内千代子
- (11) 高岡 高岡市立高岡図書館
- (12) 小林 小林孔
- (13) 某家 個人
- (14) 燕々 岡山市立中央図書館燕々文庫

三、翻刻にあたっては、次の方針に従った。

- ① 丁移りは、丁の最後に、柱刻によって漢数字で示し、丁の表は「オ」裏は「ウ」で略記する。柱刻が無い時は、「見返し」「序」「跋」などと適宜補う。

また、算用数字による丁数は、柱刻によらない通し番号である。柱刻と甚だずれる場合は、適宜下段に併記した場合がある。

- ② 本文の改行は概ね原文のとおりとする。
- ③ 連句における短句は、一字下げとする。

- ④ 漢字の字体は、概ね現行の常用漢字体等に統一する。ただし、俳号については当時の習慣を尊重して、原文の表記に従うことがある。

左のものは原文の表記に従う。

選・撰 野・埜 村・邨 船・舟 縁・椽 掘・堀 食・喰
淵・潤 碗・椀・盃

また、左のものは次のように改める。

- 帀↓虎 𪛗↓婦 𦉳↓網 𪛗↓侯 艸・屮↓草
- 朝貞↓朝顔 貌↓顔 𠂔↓鷹 𠂔↓雁 𠂔↓摩・磨・魔 売↓殻 太良↓太郎
暮、↓暮る 野、↓野の 令↓零
- 挑灯↓提灯 蓋↓盃 衿↓衿 竜↓龍 𪛗↓𪛗 𪛗↓𪛗 𪛗↓𪛗 𪛗↓𪛗 𪛗↓𪛗
𪛗↓梅 礪↓礪

- ⑤ 濁点・半濁点は私に付し、原文にあるものは「(濁ママ)」とする。なお、濁音が繰り返されない場合の踊り字は、左のように統一する。

親こ、ろ↓親こ、ろ としく↓としく 年く↓年く

- ⑥ 原本にあるルビはそのまま記し、私にルビは振らない。

- ⑦ 踊り字については、原文の表記に従い、次のように統一する。

漢字一字（一音）

々

ひらがな一字・同濁点

ゝ・ゞ

カタカナ一字・同濁点

ゝ・ゞ

- ⑧ 二音以上の繰り返し・同濁点

く・く

- ⑨ 音訓記号は原文の表記に従う。

- ⑩ 底本の虫損などによる判読不能箇所については他本で校合するが、それが可能な場合は、□で示す。

- ⑪ 校異等の注記は、【校異】で記し、本文に該当箇所がある時は傍線を付す。

1 天明六年『花供養』

底本 糸井本
校異 白鹿本

花供養

(原題簽・表紙)
(表紙見返し)

丙午花供養

蕉翁桜木の尊像に

花を奉ること、年毎の日に

なんめぐり来にければ、

おの／＼草堂につどひて

しづかさや真くづが原も花供養

春日照り添ふ像の衣手

蜂の巣に袋させ置掃除して

口のきたなき男どもなり

舟の興竹の筒より酢の出る

黒珊瑚といふものを送りぬ

月のもと机も紙も露にそみ

父母となく虫の居にけり

余略

酒飲ば下主になりよく花の山

花の雲都の不二も詠あり

花ちるや雀の狂ふ昼下り

花咲て山口しるき家居哉

幕取に走る野中の桜かな

山挽の木地に咲也奥の花

花のちる日比はうかれ心かな

、
其中に浅黄桜の栄耀かな

此上は散る風に来んさくら

絶てなくばとはいふもの、桜かな

しらぬ道間はで行けり山桜

柚が子を道の案内や山ざくら

花咲や何思ひける僧一人

夕桜花に酒ふくおのこあり

、

滝の花ならびてうつる日影哉

酒提てとへば留主也花の宿

桜戸や半分明て児の顔

おもしろやあき樽よせて夕桜

咲や花入日照添ふ顔の色

桜狩命こぼしつ酒二合

、

迷ひてぞ世は面白き桜かな

むしろ着た小町に花の散る日哉

惜しや桜いとま申せの鐘の声

曇なき空は錦の花見かな

筏士の宿さがしけり花の奥

遠近や花を隔つる曲り道

、

散花や切飯分る天窓数

般若読口へちり込さくら哉

花の里花もたぬ子もなかりけり

散かゝる桜にむかふ童べ哉

花守や衣を洗ふ苔の水

初桜遙に寒し猿の声

片心花に通ふや風の音

葵

喜竹

杷柳

夫木

一木

仙牛

言道

長広

志諺

女紫蘭

尼得終

女桃

月峰

定雅

在貫

百栄

吞鳥

女みほ

甫尺

車蓋

有庸

羅外

文堂

路春

眠江

曾陸

(二オ)

花ちるや松の梢を吹送る

、
諂はぬ色ぞ自然の山桜

ちる桜有やうれしき嵐山

代を潜む児麗しや山ざくら

、

心なや桜にかけし牛の沓

毛氈も筵も花の座敷哉

掛茶屋が訛も侘し山ざくら

花の庭踏あらしけり上童

老人の本性見たり花の下

桜ちる山静なる詠かな

、

小原女のしらぬ哀や日枝の花

長生を人のうらやむ花見哉

花の中に哀をつくす鼓弓哉

人の気の皆むつまじき花見哉

散る花や鏡の池の見えぬ程

、

かゝる日をまこと心や雨の花

械投る音もはるかに山桜

幕打て人の巢になる桜かな

、

道芝に誰筆やそも花曇

花の陰見ぬ世の花ぞ慕しき

常にさへ遊ぶに花の東山

鐘楼守酔せていなん花の暮

人はいさ花に幾代の幕のゆれ

花ならぬ花や誠の花見女郎

、

白黛

玄子

巴凌

嵐月

我春

鄙雀

如此

一峰

芽木

兎石

南路

南我

百明

曉山

女ちよ

重厚

大溪

かゝし

寄筈

花街

文推

都雀

在京 杜市

松磨

(四オ)

(三ウ)

(三オ)

酒買に宇治へ出けり山桜

ダイゴ 百哺

子をつれた人はまれ也初桜

踏月

杣一人花に暮たる山路かな

夕鳥

又よその花見る山や山の上

鼠角

旅人も宿をはづれて花見哉

狐来

哀さは寝に去ぬ鳥と散花と

ハワタ 斗流

我は迷ふ立名もあり花の山

古律

手折らめや唯末の花も匂ふなる

南化

初花やそゞろに寒き片原野

龍子

花堤て行子に道を除にけり

クツハ 不染

魂は山をはなれてさくらかな

大ツ 巨州

明がたや雲の下より初ざくら

小谷 湖青

手を当て見れど嵐の桜かな

カイツ 琴桃

いとよる芬の煙り桜かげ

新城 泉柳

また今年花につれなき命哉

青牛

かびくさき味噌踏里や花の道

石部 良交

人声の桜にふかき谷間かな

亀洌

散花にうか／＼暮る日毎かな

菩提寺 鉄翁

片里や花咲中に衣打

平松 亞溪

隈はたゞ空のみどりや花の山

女 しう

日々に城は隠れて山桜

辻村 梅仙

曙や蝶より先へ花の山

紫水

桜／＼また日くらしして帰りけり

柏子

夕栄や藪を見越して村の花

梅木 鳩鳩

桜散る陰に小者の軒哉

カミミ 志計

手を引てつれ行花の座頭かな

成山

長刀は預けて行よ山ざくら

梅支

【校異】糸井本は肩書に「ヒコネ」の書込有り。

谷一つ越て外山の桜かな

声志

咲花を独たのしむ庵かな

可笑

咲満て煙がごとし山ざくら

仁保 思声

花守や朝な夕なの花に染み

水口 蟹邦

膝もとへ散花染る硯かな

蟹州

侍のはかま着ぬ日や山ざくら

如江

折入し水に花咲一夜かな

芦角

岩角や登りて手折山桜

素水

一人二人花見て行や香煎湯

翅英

栄耀にはなりよき物か花盛り

蓮車

散花にうか／＼過て行身哉

梨風

心よや花に日毎の山廻り

駒井 柏由

菅笠は麓に捨て桜かな

毛牧 三枝

川一つ越されて床し山ざくら

吾友

椽先の火箱かりけり初桜

ハマン 珎松

花の枝に長刀掛る奴かな

白子連 幡水

昼まではあだに廻りて初桜

澄水

斧の柄の朽るまでさけ山桜

荻人

山桜ちらぬほど吹あらし哉

無曲

塩竈の煙は惜しき桜かな

可計

奥山やあたら桜に道もなし

女 千之

我よくやあまた所の花思ふ

霞打

喰合ふて花なちらしそ山鳥

津ベタ 梅二

雨空や翌の桜に眠りかね

米二

七つ八つの子の遠乗や江戸の花

万化

花の比関の戸ひらく仮寝哉

一身田 支朗

山里やげに人多きさくら花

臧阜

持込だきのふの酔や花曇り

野田 雨降

持かけし女ぢからや山ざくら

大通

筏士の影に迷ふやはつ桜

花郷

色に香に心を初る花見かな

津 文波

詠でも／＼只さくらかな

有方

花笠を着つ、馴にし舞子共

架橋

諸人の声ちる花のあらし山

楚鴻

雨雲はさばけて花の夕かな

文倍

散る花に心留るや酒の中

桂岐

花満て袖も諸肌ぬぐ日哉

淇園

酒売に花のちり込音羽哉

路鳥

蝶／＼や能つもだまつて花の中

丹波梶原 洞々

穀樽に恋しき峰や桜狩

ヒカミ 文虎

店やからしる人名乗花見哉

但馬イノ 松童

花盛り人のあらしや渡月橋

渡江

弁当や桜流る、はしり先

千原 夜卜

乞食の卒都婆によもの花見哉

和旦

おしめども／＼風の桜かな

ワカサ 梅五

神も出て在かしらず花曇
日南にも生れ付なり遅桜
麦太
谷泉

風の花心届くかたもちける
志州鳥羽 東溪
小荷駄借る京の女中や朝の花 伊勢四日市 馬曹

雨の花葉がちに成て日の暮る 備笠岡 湖嵐
散や花花や此身をいかにせん 季山
月の夜や花を出て行人の影 文里

此山は此一もとで花見哉 房州磯村 倭風
山桜遠寺の鐘の響けり 楚流

花飛で来るや煎売の膳の上
庭に有花から花を見初けり 梅喜
脱かける袖に積るや花の雪 柳月
うか／＼と花に暮たる独り哉 倭水
羽二重の肩に一枝桜かな 英

松は花の景色をそへて嵐山 加賀 馬来
日かげ／＼花ちる中の松くろし 祖竹
是は誰が麦の畑や初ざくら 麦風

嵐山桜ぞ秋の草木より 浪花 二柳
ちる花を拾ひあげつゝ又一盃 山父
散る花の庭静也夕づとめ 麦雅
石二つ向ふの山や初ざくら 不十
首筋や花見なれたるのびぢみ 江涯

狩人も鳥見失ふ桜かな 上下仁田 魚渕
わらひ合心競へよ花の旅 宮崎 柳旨

花の不二神の都はほとゝぎす
幾度か月に見かへる花戻り 富春

桜咲やまがね堀山も一さかり 甲州 牧父
山越えて咲や桜の朝ぼらけ 錦河

光さす山の尾崎や夕ざくら 静菴
暮る日や木の間に花を散し出 作良
嵐して峰に見え初る桜哉 樗冠
山風やうしろあらはす糸桜 真洞

夕榮や雫するかと桜陰 ツルガ 悦溪
花にうかれ花に静けき翁哉 五鼎

花のうへ目にたつ塔の高さ哉 丹後田辺 木越
日傘さへおもたき花のふゞき哉 梅里
夜あらしの岩根に白し花の山 洛 社牛
谷川に箸の筏やさくら時 紫桂改 芦仙

散初る鐘に影有桜かな 下総 尺艾
順礼の拝む座敷にちる桜 高砂 布舟
あはれ深し花咲る木の主かな トヤマ 退冥
水も寝て夜は音あらし山桜 ヒロシマ 可友
同じくは花守の宿の枕かな 長崎 車文
いざ臥て花の夢見ん岩枕 朝叟

桜狩よき寺見出す都かな 關更

京三条通御幸町西江入丁
蕉門書林 菊舎太兵衛梓

(裏表紙見返し)
(裏表紙)

2 天明七年『花供養』

底本 愛知県大本
校異 綿屋本

花供養

【校異】綿屋本「花供養 南無庵」

(表紙・題簽)
(表紙見返し)

いにしへ天和の比、杉風叟が花の句に對して
蕉翁脇、第三より歌仙一卷ともに筆を
染給ふ。師に一軸ありけるを、けふや供養
像前にひらかれるは、彼の天より花の
ふりけるにも、此席におるてはまさり侍り
ければ、すぐに冊子のはじめにをきて
光をそゆることをす、むるものならし

天明丁未春 芭蕉堂社中誌 (イオ・1)

歌仙

時節撫伊賀の山ごえ華の雪 杉風
身は爰元に霞武蔵野 桃青

店賃の高き軒端に春も来て
どうやらかうやら暮る年波 杉風
発句脇されば名残の月寒し

ウ たそこい鐘は八つか七つか
寝苦しき例のつかえに夢覚て
昨日の酒をとふほと、ぎす
浮雲の消て跡なき控帳

(イウ・1)

親仁以来の山嵐の風

古郷の松ははびこる堺杭

朱印を染て時雨降行

探幽が筐の雲に残る月

京橋渡る初雁の声

伏見駕籠扱其比は秋の風

かこひを亭に手枕の露

一生はをぎり気のなきわがおもひ

世をうきものにかるうしてをく

はりぬきに都の辰巳山見えて

ふのりをときし寺候な

前髪に立名を包絹のきれ

涙をむすぶ編笠の紐

落らる、心の中ぞ哀なる

まつさかさまに岸の下露

又独つゝいてす、む法師武者

いさごを蹴たて、尻馬に鞭

寝とばけて夜深き月に旅衣

三里ばかりの跡の朝霧

追剥に扱もあぶなき野路の露

うけて流いた太刀風の末

吉岡の松にかゝれる雲晴て

雨や黒茶を染て行らん

消残る手摺の幕の夕日影

火縄の端の一二寸程

何者か詠捨たる花の跡

江戸にも上野国本の春

手向

さくら木の像や花さき鳥もなく

關吏

百韻あり略之

(ハウ・3)

○

夢の世におそはれ申桜かな

藪の花雑談いふて過にけり

此夕花ふみ花を詠けり

吉原やさくら隔て日傘

華白に浅黄桜を奪ふかな

しなへ打花のうしろや家中町

京わらべ御室の花にからびずや

誰か来て短尺のあり初ざくら

げにや桜諸木に高し花盛

上市にするべもとめて朝の花

○

さもあらばあれ花にはゆるせ飲酒戒

花一ト木声ある松の数十本

くりかへす去年の日次や花の町

価ある浮世は安し市の花

世の嵯峨をちらせ桜のあらし山

駕昇は欠伸してゐる花見かな

たのしみも花咲春と成にけり

朝朗さくらがもとの曇かな

賤が家の麦飯うまし山桜

寝上戸と知らで連れけり山ざくら

○

(ハオ・3)

兼てしも思ひ入山のさくらかな

目に立や二本ならびてはつ桜

よし野山散るも開くも花ばかり

遅うてもやはり桜はさくらかな

あふひ 南榮 萩風 蛙面 平吞 角峰 曇水 杷柳 東雨 其成 有庸 周岱 明五 文童 嵐月 燕尾 紫更 之尺 麦榮 渭川 言道 曾陸 一峰 如此

(一ウ・4)

さればこそ日裏も花の真昼時
年毎に散る花惜しむ詠哉

三朝
佳計

遠退て松の木陰に花見かな

虹光

立ぬほど酔つぶれても桜かな

如風
(二オ・五)

やはく物置枝や花盛り
ちる花に枝のあぶなき早瀬哉

か、し
(三ウ・六)

なまぬくし花を吹来る四方の風 同名張 一応

(五オ・八)

和らかな道のしるべや華の山

蘭乃

月の夜や都でさくらばうす桜

布舟

梅やなぎ彼は花のひがんだ 城南寺田 秦夫

(五オ・八)

嵯峨御室つらなる花の往来哉

楽国

かしこうぞ花見に來たり翌は雨

定雅

いとまなや暮静まつて花の下 八幡 斗流

(五オ・八)

○

葛城や花によこれし人の顔

千尺

散や桜上野の放下はてをうつ

几童

兎角して花に引る、後ロかな 北野 梅五

(五オ・八)

宿かへて此比花の隣かな

夢客

眺入て花に物いふこゝろかな

都雀

花咲て静に歩む山路かな 佐山 励之

(五オ・八)

散華や払へど袖が鬢の霜

呂風

有明にぬれて散なる桜かな

甫尺

大名の「下日はゆるせさくら狩、試測改 馬雪

(五オ・八)

管鳥

伊賀上埜古雅社中

子麦

不自由さの替りに花は近所哉 御室 大樗

(五オ・八)

井亮

春はまだ月より高し峰の花

五風

黄昏や花にまぶれて啼鳥 山崎 待兎

(五ウ・八)

鈍人
(二ウ・五)

花の陰迷はん闇も朧く

可交

ねびまさる小町がさまや初桜 ナニハ 二柳

(五ウ・八)

西湖

しら雲に酔やよし野の花盛

橘子

狩暮てつかれ臥夜の夢も花 あこがれし花の記念は風かな 丁江

(五ウ・八)

花散て箒に疎き僕かな

如菊

閑居の花

蘇竹

御蘭 百哺

(五ウ・八)

○

酒の香は小袖に留て桜かな

女遊鶴

蝶鳥の外に友なし庵の花

如水

押せば明く露路の奥なり山桜 大津 楚南

(六オ・九)

花やさくら遠山くの雲の色

紫石

一ト峠最一ト峠や山ざくら

其朝

雨のはな八重九重の覚束な 花咲や能道多きひがし山 御蘭 芦卿

(六オ・九)

○

老木の何やら凄し夕桜

玉爪

夜ざくらや所ぐに松の闇

左月

夕飯も持て行ばや山ざくら 舟木 甫丈

(六オ・九)

入相を麓へ送るさくら哉

鬼丈

糸ざくら陰は雨とも柳とも

一如

薄縁を敷た宿借る桜哉 志賀越や花に冠の御乗物 花咲や溝に横たふ竹二本 此谷の奥に花あり水の色 カタ、 千羅

(六オ・九)

落る日の松から暮る桜かな

旭溪

雪ならば来まじき人や山桜

歌舌

一もとに暮の多さや遅ざくら

(六オ・九)

何となふたのもしげなり花の陰

直如客
(三オ・六)

邪魔に成る枝うたれけり遅桜

五明

常に来て寝られふ山か山桜

(六オ・九)

○

後から見れば風あり糸ざくら

嘉菊

亦惜しき命なりけりはつ桜

鳥夕

薄縁を敷た宿借る桜哉 志賀越や花に冠の御乗物 花咲や溝に横たふ竹二本 此谷の奥に花あり水の色 カタ、 千羅

(六オ・九)

花の中や月に傾く後口堂

古塘

人声に猿も出けり山ざくら

寄流

雲助は無縁なりけり遅桜

(六オ・九)

○

ふりかへりくつゝ夕ざくら

月峰

人声に猿も出けり山ざくら

寄流

雲助は無縁なりけり遅桜

(六オ・九)

○

風吹ば今も散べきさくら哉

在貫

雲助は無縁なりけり遅桜

未塵

雲助は無縁なりけり遅桜

(六オ・九)

雨の日や鳥静まりて桜ちる

得終

雲助は無縁なりけり遅桜

未塵

雲助は無縁なりけり遅桜

(六オ・九)

○

世のうは気離れて夜の桜かな
只ならば寝られぬ花の木陰哉
散花やはじめて風の醜しき

太田 瑤雀

裏梅

打風 雨麦 (六ウ・9)

○

桜木や見ぬ世の人の花の袖
嶽行や桜伝ひの九折
花笠やさくらの下の石仏
我ひとり塔見る花の後口哉

草津 可能

山上 路橋

江村 湖亭

駒井 柏由

○

今一種散込む花や阿知也羅漬
問ふ人もまれに花散る夕かな
足事を知るや藁屋の雨の花

辻村 梅仙

紫水

千鶚

(七オ・10)

○

玉味噌や深山桜の哀しる
尼御所や浅黄さくらの一重咲
山は只さくらのものとなりけり

梅木 鳩鳩

篠原 暁宇

八幡 文花

○

群れ啼は都鳥かなさくら花
天津風の歌の床しき桜かな

湖東 大夢

鷺橋

芳埜山に至りて

菩提寺 鉄翁

山陰や花に灯す寺の声

石部 良更

在の花四五人づゝの向寄哉

平松 亞溪 (七ウ・10)

菜畑に散るはむざんや志賀の花

女 しろ

○

朝よさに心ひとつや花の比
花は散れどいそがぬ人の心哉

彦根 青々

飛川

○

夕風や花散かゝる風呂揚げ

水口 蜷邦

唐金の鳥井立けり花の中

我袖に散花見たる火影哉

月雪や花のもどりの儲もの

○

人起て背中につゝむや夕桜
二日来ても戻り跡ひく桜哉

新城 青牛

上田 可計

○

むつかしき名もなき一重桜哉
山ざくら常に女は見め所
村端やさくら散こむ桔槔

土山 素秋

柳絮

田楽に散かゝりけり山ざくら

吃叟

○

花守や夕暮着たる茶の羽織
沖中にまぎる舟あり花日和

伊勢白子 霞打

宇兆

花の山鏑たる煙管拾ひけり

夏井

居士いかに花に手を組雨の朝

御蘭 岳尔

咲満て牛も隠すや此さくら

可計

○

花散るや炭屑ふるふ紙袋
ア、といふ跡は吃るや山ざくら
けふは又花にいつちの飯喰ん

地家 無曲

荻人

○

花笠とけふは呼れん檜木笠

四山亭 幡水

○

轟くや花見車にはなのちる
琴を橋に渡る川あり桜狩

勢ノ田 花郷

自酬

○

迷ひ入無何有の里や桜がり
その俣の形は見よし山桜
山陰や鐘聞なれて散さくら

津ベタ 雲和

岩田 桂岐

八丁 喜花

○

滝口や浮てゐる花沈む花
酒くさや花見に袖のふり合

一身田 時来

支朗

○

初花や此一もとの主は誰
島山や花に隠るゝ帆懸船
花守の年を語らす供養哉

洞津連 路鳥

振衣

初花や去年の枝折の草結び

架橋

山岨や滝に散込む花白し

此川

花守や花に恥入る鬢の霜

花潮

花ちるや箒もあてぬ寺の庭

崎松

神垣やいたゞく桜ふむさくら

杜影

爰かしこ杉の晴間や花曇り

楚鴻

花ちるや憂身に帰る日と成れり

淇園

○

雲にそふて静けき花の林哉
頃日やわきて賑ふ花の江戸

湖月

銀帛

雁路

○

小嵐や盛りの中の花の声
暮兼る遠山もとの桜かな
閑さや桜の中の星一つ

東溪

居敬

如何

維鵲

人伝に花咲伊勢の便り哉

昔之

常よりも桜に低し雨の雲

古極 (二〇ウ・13)

海暮て雪より白し花の陰

蒼梧

○

裏門に兎イや夕ざくら
花につくる罪ほろぼしや此供養
花咲やだまつて通る人もなし
一枝は月夜に見せて花戻り

天徳寺 芝舟

長江 芦流

三方 龜卜

能登の村 補石

(九ウ・12)

(二〇オ・13)

花によくつかざる人もなかりけり、

どちらから見ても桜の表哉、

咲華の中に隠るゝ翁かな、

花盛り開捨て置庵かな、

滝壺や夕日散込む山ざくら、

○

我家を見かけて淋し花もどり

酔さめて花散かゝる夕かな

○

なま中に書よごしたり寺の花

○

花ざかり鳥につれなき礫かな

酔ふて来る人を枝折の華の山

但生野 松童

夕暮は僧ひとりなり山ざくら

十も目の惜しきよふ也花の山

○

我心花にうつりてやつれけり

散初る花より起るあらし哉

楨の尾や犬飼ふ寺の夕ざくら

○

桜見に入みな這入小寺哉

曙や桜に近き寺の門

天女爰に遠方の高根や花の雲

○

山風や我家を越て散さくら

鶏を人のくれけり華の庵

花といひ曙といひ此世かな

○

有が中に花折人のこゝろ哉

独来てよき友にあふ花見かな、

遠山の桜しらみぬ宵の雨

世の中に出けり花のよし野山

半ば来て足袋踏抜ややま桜

此春や二月の末を華の比

○

春の情桜一つに尽しけり

酔に匂ふ花の辺りの時宗寺

泥亀の甲に花ちる堤かな

夕月や照すく花の裏おもて

世に匂ふ翁の花の雫満つ

花の陰磨が提たる草紙哉

○

きたなくも花に梟の声す也

掃除する男しかるや花の庭

酒臭き土と成まで花見哉

○

日は松の中を明行さくら哉

花に来て花の盛を見る日かな

木のもとの旅寝や花の客心

木像の守する花の木陰かな

○

岸に花籠に酒店あなかしこ

人なみや我等も花の握めし

散る花に三絃たゝく日暮哉

江戸の花駕賃式百奢りけり

さまぐゝや花見戻りの坊主もち

華の情空にうつりて暮近し

花戻り珊瑚の鞭をふらつかす

山くゝや花にくだけし杖の先

關更（二四オ・17）

京三条通御幸町西江入町

蕉門書林 菊舎太兵衛梓

（二四ウ・17）

（裏表紙見返し）

（裏表紙）

3 寛政元年『花供養』

底本 櫻井本
校異 綿屋本

花供養

寛政元酉年三月十二日於南無庵興行

一枝を捧る花の供養かな

在すがごとき肩の陽炎

伽羅真那かいづれも辛き春満て

水戸口近く朝びらき待

月しらみ額つめたき草の風

竿に掛たる露の狩衣

淋しさに土芋なんと焼ならべ

垣破れたる猿曳の家

盗人の咄しさへなき君が代に

四日のあやめ匂ふ夜すがら

下略

奉納句順任到来

明ぼのや花にのぼりて鳥諷ふ

夕嵐つらなる花をわたる哉

月は照れど只静也夜の花

宵しばし花をもてなす月夜哉

そのまゝの気色や庭に散る桜

四辻や花見戻りの花分る

(表紙・原題簽)
(表紙見返し)

山道や花を目当のかい曲リ 武本庄 一馬

老も肩に花かざしけり七曲リ 房磯村 英

花の山去年の貝殻見る日哉 、 倭風

鍋に酒たやさぬ花の主かな 、 梅喜

花咲てしたしき山家童かな 、 坡君

つくねむと外にもなし山桜 天津 楚南

花にうかれ酒に狂ふや浮世坊 、 陀仏

暁や冷酒に酔ふ花のぬし 、 芦江

見残さぬ心のうちや四方の花 、 井子

酔醒や睡にかゝる花の塵 江辻村 梅仙

下臥や花の雫の我をうつ 、 石部 龜測

花長く楽しむ寺の台かな ^(南マ)ボダイ寺 鉄翁

ひとりく出て来る人や初桜 、 山上 鷺橋

夜桜や物凄きまで静なる 、 三宅 酔月

山住の花に構はぬいびき哉 、 勝部 周路

盛とて散とて花に狂ふ哉 、 高島 圃丈

川越て見るも色あり山桜 、 堅田 未角

もどかしや花にわたりの手ぐり舟 、 千羅

水漉に花びらたまる庵かな 、 一之

いやいなじ花に暮行此曇 、 駒井沢 柏由

飲うたふ酒興に花も諷ひけり 、 蘭居

奥の花思ひ入にはさはらざる 、 水口 潮花

かたはらの花苔がちに雨寒し 、 蜷州

花満て野山の月に更るかな 、 江舟

菰着ても花見る事はたがふまじ 、 翅英

滝壺や昼寝の袖にちる桜 上藤岡 言志

幾さくら見捨て峰の桜かな 、 境町 専車

夜桜の只花がちに見ゆる哉 甲州 静菅

大名の忍びありきや江戸の花 若能登野 鬼雀

行春や花にきはづく我衣 、 藤井 白布

花咲て人通りあり知恩院 、 千里

みやびなる児達多し花の下 、 向笠 貫扨

盛上るやうに桜の咲にけり 、 吐雲

花の山鳥も獣なかりけり 遠州 白輅

花に身を売て守るも浮世哉 、 約我

花いろく子を並べたる思ひ哉 越ツルガ 五鼎

はつと咲後したはる、桜かな 加金城 楽山

さくら哉色を山路の奥までも 、 如流

桜咲て心我より行過ぬ 、 松華

たまくしげ向ふかゝみや桜影 能登 夕遊

笑ひ出す聲の顔や花盛り 越城ヶ端 杜市

白雲や花に集る人の声 丹梶原 洞々

山桜枝に届かぬ小腕かな 、 そのべ 其倍

初花や海道よりは北に見え 、 はこふ

朝顔の夢はさめけり初ざくら 播あかし 鷺山

旅寝せしむかしも今の桜哉 、 小野 君中

ちるはく夢かとおもふ花の陰 、 田履

さくらにも出しきる嵯峨の涼台 、 華桂

牛追に一里つれてよ山桜 淡路島 玉屑

板壁にそもちりそめつ山桜 芸ヒロシマ 東吹

夜の雨翌日はさくらのいかならん、小方浦 六賀

翁桜木の尊像に

其魂の刻めば見ゆる桜かな 備岡山 恋宇

花の雲いつしか嵐吹おろす 備後 柿風

ちる花の風情に捨舞扇 、 古声

雨のはな花の哀を尽しけり 、 牛琴

ちる桜打込志賀の畑かな 、 吏全

花の浪より来る蝶のあらし哉 、 馬樹

初花に見せたる山の表かな 長赤間関 薫里

浮たつは嵐の山のさくら哉 筑前 一超

(四ウ)

(三ウ)

(四オ)

(二オ)

(二ウ)

(三オ)

(二ウ)

強力の桜を出たる山路かな

筑黒崎 笋里

(五オ)

花の陰歌よむ女見付たり

、 龍花

花の中東へ通る聖かな

、 完

花の山我衣手に鳥の糞

、 塙山

なら坂や桜の中を狂女行

、 鶴二

花廿日浮世を出て眠る哉

、 碓松

老落の足もつゞきて桜狩

豊小倉 李三

曙や雲に乱る、花の色

肥前諫早 東律

鐘撞の僧酔せばや花の寺

サツマ 完尔

山彦に花は散けり旅の宿

、 菌柳

牛の背迄花咲にけりよしの山

、 桃水

切すかす山のはなれに桜かな

、 雷扇

黄昏の花折る細きかひな哉

大上市 可翠

被見て犬の吼けり山ざくら

大坂 凡十

虚無僧の三井寺諷ふ花見哉

、 山父

花の下に忘れし杖の主は誰

、松花連 巴孝

合点のうへにまよふや山ざくら

、 里山

咲花にいとほ白し嵐山

、 保山

柴の戸や留主守やうに遅桜

、 雨麦

此山の名を覚えけり初桜

城南平川 玉慶

桜見に足元くらき戻り哉

、 芦雁

さくら散る日もちり／＼の麓哉

、 梅英

花守も見しりてけふは笑けり

、 衣翻

老僧もよろほひ既に散桜

、男山 斗流

花盛麓に女太夫かな

、 黄口

花散や唯しづかにて風もなし

、宇治 松風

山かげや花に嘯く墓の面

タイゴ 百哺

花に寝ん夜は白妙と暮にけり

洛 紫暁

けふ見るは翌日のむかしの桜かな

定雅

ちる花を引浪ひくやいづこ迄

百池

暮たりな曇りしまゝの花の下

嵐月

跡追ふて登るは誰そや花の山

都雀

咲つゞく花のなかばや堂の椽

志諺

花曇谷間の家のおぼつか

義童

酔ふせる上戸めでたや花の陰

曾陸亭

介福

しづ／＼と千種に置や花の雪

帰棠

日当りの能枝ばかり初桜

夢友

都辺や花に切たる筆の先

之尺

花に霞かすみぞ花の行ふ哉

女 紫蘭

うちつけに得ほめぬ花の盛哉

、 蛤子

おそはれて桜おらる、夢を見し

一峰

寝にかえる鳥見てさりぬ花の下

三朝

ほろ酔で花ながめやる姿かな

佳計

よし麓くる、とも桜盛かな

如風

袖の香や童子つき添花戻り

鄙雀

幸におくれる足や花の道

三子

さ、がにも心ありてや糸ざくら

女 遊鶴

見とれけり桜にものを言やうに

至幸

洩茶にもはなしそみける雨の花

如北

寺の前行過したりさくら花

都鶯

逃ざまに花ぬす人が狂歌せり

呂風

誘はれて宵は桜の直宿哉

露才

夜桜や君おどろける流星

蓮車

東山西山かけて花の庵

尼 得終

此雨後や四方の桜の下見せむ

杷柳

咲たりや祇園林の犬ざくら

松丸

愛宕山にて

(八オ)

土器に付て散行桜かな

渭川

狩くらし花にいねつ、花の夢

月峰

花曇脂目のおこる日なりけり

蛙面

落花ふむ藁晶清し朝桜

有庸

よし野にて

日最中は花より起る曇哉

在他邦 瓜坊

のら舟の花にあやうき渡り哉

眉山

ちる花や年に稀なる酔狂ひ

白黛

或法師一重ざくらを好れけり

朝叟

立よらん花のこちらを水走る

車蓋

一座

花供養静まる心ありがたき

ナニハ 江涯

人絶て大路の桜散にけり

越後 桃睡

花は桜御出家がたは身持哉

僧 葵

柴の戸やさくらの中の花供養

在貫

雨よはき花のほとりの曇かな

能登 木鳴

とはれてもしらぬ山なり桜花

カバ 李三

花に来て心外なる供養かな

角峰

桜木の像をつたえて花供養

其成

遠近の人折そえつ花供養

蘭更

京三条御幸町西エ入ル

蕉門書林 菊舎太兵衛梓

遅来

酔覚や花にうつろふ星の数

上総長者町 汀鳧

天然の始は一重ざくら哉

、 土鴨

わけ行ばしらぬ里あり桜狩

、 潜鯉

花咲て日に／＼心ひとつ哉

、 正翠

蝶ひとつ桜戸に入曇かな

、 似雪

山里の夕暮白きさくらかな

、押目村 楽中

さくら狩日に来て月に戻りけり

、 青徐

夜桜や朧／＼の片庵、中滝村 瀧水 (一〇オ)

さく比を過てあたごの遅さくら 湖山

花と詠めさくらとながめ日は暮ぬ 江戸 白雄

五六日桜にぬる、硯かな、華溪

花に嵐居士衣のたもとむすぼる、春岐

拳しうつや袂にちりし糸桜、イセ 万化

人しらでながらふ花の命哉 姫路 寒鴻

紙すくやあらしもふかず花ぞ散 筑前 君花

出嫌もうかれ出にけり花の昼 梅人

見帰りて翌も来る氣や夕桜 蘇蝶 (一〇ウ)

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

4 寛政二年『花供養』

底本 愛知県大本
校異 月明本

花供養

【校異】愛知県大本に題簽がなく月明本で補った。

桂柱の露の東屋

誰もなく月三更にかたぶけば

かしこく召さる土器の味噌

鎌倉に気を沈れば波の音

人に贈りし琵琶を申しむか

右百韻下略

龜淵

桃睡(ロノオ・2)

嘉菊

百池

魯長

坊の花や天狗礫の跡もなし

夕風や花にふるひし油筒

誰が絵の是にもぬけん桜花

ちさい木もよしと花見るふたり哉

眠けり花にかまはぬ雨のくれ

、

天地や我もかまはぬ花の春

風あげる子をすかしけり花の主

ゆふぐれや川もさくらの嵐山

切株に四五輪咲て山ざくら

八重桜かくちるものと見ざりけり

関守も花にはゆるせ宵の闇

、

雨の花めぐみの中に哀あり

欲ふかき人の出る日や花ぐもり

花ちるやきいと仏間の折障子

花ちるやきのふを夢に二日酔

渦し水にうつるや花筏

魚くさき袂ふりつ、花の中

花に来て我ふつ、かの見へにけり

三度来しけふぞ桜のあふれ口

、

ゆふ山や雲のかしらを散桜

ちる跡は人の花なりひがし山

雨ばれや谷間に白き庵の花

跡見ればなれし桜や薄曇

先春の筆おさむるやちる桜

また、きもならぬ山路の桜哉

そぼくと花もちりけり雨の花

嵯峨に寝て月にとはる、桜哉

曾陸

蓮車

山曉

言道

長広(一オ・4)

曇水

思情

魯貢

得終

薰河

珠鳴

嘉菊(一ウ・4)

土卵

潮路

孤秀

長甫

古塘

梅斜

月峰

南榮(二オ・5)

杜桂

一二三

私青

百鳥

車草

青芽

山尾

(表紙)

(表紙見返し)

花を捧、香を捻り、やよひの

忌日をさだめ、祖翁の像前

に風雅をいとなみ給ふこと

年あり。人々つらなり給ひ

ける中にも、ことしはその巻

のおもきをになふ。もとより

辞するにあらねば、年毎

の誓をなしていへらく明年

此事にあたらん人は、予がごと

く是をおそれず、予がごとく

是を序して、その席を退く

事なかれ。師もまた此言を

わらひて供養の規矩にさだむ。

寛政二戊どし

(序オ・1)

(序オ・1)

(序オ・1)

(序オ・1)

(序オ・1)

(序オ・1)

(序ウ・1)

朝の花しづかに煎茶奉る

此日したふは皆桜人

富は世のかげろふものとかいやりて

白鵬などはなされにけり

薬堀けはしき山をかけめぐり

羅水

關更

鉄翁

南栄

車蓋

三代の花ぞゆかしき座敷かな
花や咲石碑を建て帰る人

桃柳
観水
(二ウ・五)

わりなさをうたれ狂女や花の滝

黄口

はな年々次第にきゆる鐘の銘

巨洲

花見人所さだめのいそぎ哉

桃睡

坂の花禿のころぶ午時の風

梅英

花こゝに都の西のかぎりかな

五来

花の主下戸とはさらにおもはれず
翌の人のしらぬ昔や山桜

一峰

二日遅し花に三日の届状

芦雁

出ぎらひの人うたせばや花の滝

井子

見ゆるなり遠山里の花ぐもり

百池

ちる桜またこぼれけり狩衣

鬼薊

静さの田井に花喰ふ鯨かな

玄兎

藤橋を苦もなく越つ花の時

都雀

あまましに花見て過ぬ西東

玉慶

立よれば竹の秋あり嵯峨の花

一萍

花浴て山鳥さりぬ谷間より

紫暁

山陰や猪の吹まはる花のもと

百哺

夜桜の風情をもゆる簞かな

近江潮花

家土産の花に門戸を開きけり

倭泉

開帳や花見てくらす人多し

寛算

花ひとへ嵐の下に咲そむる

蜃州

花七日あるは月の夜雨の暮

定雅

月輪の月に雨降桜哉

宥深

初花やくもり月夜のこゝかしこ

可石

順に咲花に日和の加減かな

在貫

難波女の見て居る花の後哉

松風

なまめきし声もきこへてくれの花

青楓

四五日の顔近付や花の中

山之

初花やよし野を出る古手買

礪水

暁や花のかたより鳥の声

江舟

蝶ならば朝夕とはむ花の庵

楚梁

花の中に物喰ふ人のあちら向

巴喬

ちる花や井戸に舞込奥の坊

鉄翁

芭蕉堂に桜木を奉りて

嵐月

寺の中桜咲日を子にうらむ

丹波あふひ

興尽て若衆寝にけり花のもと

青牛

あはれ幾世花の台に冥加あれ

管鳥

染色のおとこ女にちる桜

はこふ

いき甲斐のあつて桜に旅寝哉

柏由

誰ために竹にかくれて遅桜

其成

静なり花の中なる桔槔

其俗

蝶くはさすがに來たり初桜

如毛

ゆふ桜白がねちらすたぐひ哉

眉山

くろがねにかゝる大手の桜哉

文樵

薬馬や花に引ずる御乳母人

湖亭

まの、江やある夜桜にながれ星

眉山

うき島や危き上のはつ桜

乙路

明まつや桜見そめし夜の夢

其交

世わすれに來たれば花の移る哉

車蓋

花咲て人の狂はぬ里もなし

思月

花守の守隙もなきさかり哉

梨風

糸桜鞍にかゝる御遊かな

山城真爰

花咲て女房のうらみ聞日哉

静為

風流の曲ものおほし桜かげ

醉月

半ちる花の後の夜道哉

下方

青くても赤くてもよし花の野辺

洞々

仏には障子一重のさくら哉

千鶚

花の香に夢おもひ出すあゆみ哉

麦子

花ものいはず我も往來の数に入

大津未角

広沢や花と山との波がしら

吟呂

花の山月より花のわかれかな

衣翻

花ものいはず我も往來の数に入

大津未角

門内や人に摺たる花の塵

吟呂

誰跡か花の径の匂ひせり
朝の花寝巻の袖の弥古し
埒もなき味曾すりこぎぞ花の中
うとくと花の中より登る日ぞ
、
行違ふ人何者ぞ花くさし
花の日や坊から指し小脇ざし
宵の雨けふの花見の盛哉
狗の子や桜がもとに身をふるふ
、
夜桜や千金もたぬ身の果報
庵かりて乳呑子寝さす花見哉
花供養くれなば月も見え給へ
、
興尽ぬ花に杯なげくれむ
桜見や茶に行当る所まで
花陰や芝に伏たる下部ども
水茶屋の薄縁青しはつ桜
浦山や散来る花を帆にはらふ
、
三月十二日芭蕉堂に此
会の興行にまいりあいて
群徒の数に入ばや花供養
わらうだに花の主を見る日哉
、
蛤の気は吹きえてゆふ桜
はつ桜我もの云はず風ふかず
指折の日をまゝならね雨の花
年毎に老を知る花の歩み哉
花咲て珠簾浅き風情哉

李明 花橋 周路 曉宇 千羅 歌雄 二浪 一之 瑤雀 專兒 圓丈 イガ 一応 一如 岷霊 思竹 五麗 勢州 清秋 風洛 幡水 霰打 蘿道 寄峰 甘谷

(七ウ・10)

(ハオ・11)

(ハウ・11)

余念なき身にも報ふか花曇
花をわれにけなげなものをくれにけり
能寺や女房も持て山ざくら
、
天下る乙女もあらむ花の雲
雨の日や遠山もとの花黒し
羽織着て遊びの戻る花見哉
夜桜に御遊の灯うつりけり
、
桜花王一姓の国もなし
曙や花の波くむはね釣瓶
酒二石うりて花ちる小家かな
山下りて桜がもとの放下見む
獣の栖をかゆるさくらかな
花のもと立て寝に行鳥かな
琵琶の音もきくや御室の花盛
骨喰し犬匍匐や花のもと
降らばゆきて小袖にしめむ花の雨
七日とは誰がかぎりてやちる桜
、
雨催ひ灯に見む夜の花
山を出し雪解に花の道くさし
花の流掬してはおしみくけり
人によけて花見る幕や小長刀
、
酔ざめや花につかれて嵯峨泊り
山寺や砌に高き八重ざくら
何とのふつく息高き花見哉
花植て置土乾く日和かな
暮にけり是から奥は翌の花

珉山 支朗 無曲 雁路 杜影 吾友 銀俗 巨川 東鳥 陶河 百馬 柳支 希由 其堂 吞空 吐雲 鬼雀 悦溪 之丸 五鼎 波静 魚春 一川 東考 柳子 烏甲

(九オ・12)

(九ウ・12)

(一〇オ・13)

(一〇ウ・13)

立よればわれうつくしき花の下
朝曇晴ゆく花の零哉
【校異】月明本、作者名「李朝」。
あるが中にやさしき一重桜哉
こゝろから音ある花の雪吹哉
目ざましき黄昏時や花と人
、
花過て暫淋し京の町
花咲て醍醐小栗栖朝曇
楽やきのふの花を夢に見し
花の香や薫ものさそふ御簾の前
熊の子を見る人もあり山桜
奉公のはげしき中を花見哉
一日は散を見に行さくら哉
翌日からは麓の茶屋に花見哉
花しらぐ戸ざして夜の眺かな
待かねて花見に出るひとり哉
ゆく水を恨で見たり散桜
盃に蝶の名残やゆふざくら
花守やふるき桜の物がたり
雨の日や親子が花の物語
、
うら住やかかれて出る桜狩
くるゝ日や花の光のたゞならず
齒をそめた男来にけり初桜
、
こけ落て花盗人のわらひ哉
雪駄にも泥の付たりはつ桜
花照るや山くわたる雲の形
、

一巴 李牧 馬仏 兎文 馬来 能登 珠卜 素玉 都山 文遊 怡水 文玠 玻井 馬涼 文朝 加由 珥丘 嵐峰 李友 麦秀 暮臘 岸芷 梅眠 越中 杜市 緑水 壁斗

(二一オ・14)

(二二ウ・14)

(二二オ・15)

初桜ちるや湯立の煙る空	大坂	尺艾	山桜たゞごと歌の姿かは	芸州	東吹	花守に酒まいらせて詠め哉	鉄寿
花の中に育てうるや蕨もち	画涼	夢友	菅笠のつゞく路あり花の山	金寛	可友	昨日よりけふ猶花のよし野山	南江
傘も出しきる雨の桜哉	江涯(二二ウ・15)	凡十	峰つたふ山伏ゆかし花の頃	可友	凡十	世を軽く花の片荷の瓢哉	呉溪
花か我が嬉きうかれごゝろかな			われが身のしづこゝろなし散桜			埋れて花に昼寝の乞食哉	薫里
、							
花落る声や日ぐれの嵐山	和州	可翠	轟や花の御幸の牛車	雲州	龍尾	花守といざふたり寝ん夜は月夜	豊前
三尺の花に深山のほひ哉	三楽	鳳冲	ぼろつくや咲日となりて花の雲	石州	志山(二四ウ・17)	無事にして一期花見む願哉	渭水(六オ・19)
酣に花降かゝる天窓かな	芦雪	鹿鳴	雨の日やふり向かたにちる桜	志山(二四ウ・17)	如珪	人恋し嵐花喰ふ宝寺	木腸
、			明がたや桜にこもる鐘の声	吐阿	嵐峰	山の辺や公泥障して花の雲	夏夕
花守の果は鶴にも乗人か	紀州	海牛	庵かりて住たき花の山辺哉	如珪	甫山	、	南明
花咲や十日の雨も雲にのみ	魯水	見漁	風もはやすゝろになりて桜ちる	里眺	如蕙	花の後浮世に戻る気につかず	筑前
、			花なくばいかに住べき谷の庵	藤紫(一五オ・18)	如蕙	汐木とる妹に落けり花の雲	筑前
こゝろある膝行車や花の影	播州	君中(二三オ・16)	出うり屋に宿の無心や桜時	里眺	如蕙	誰の建し庵ぞ花の老にける	帰来
花咲や石の竈もふたつみつ	紫燕	雨山	あの谷の霞はいかに峰の花	見漁	如蕙	鶯の桜になくや鄙ぐもり	塙山
苔衣今も八千代のさくら哉	五水	里眺	花にさへかくぞうき世の夕嵐	如蕙	如蕙	朝ばれや月ふるふ鳥の花の枝	藍江
雨ばれや雲も桜のはなれ際	観水	如蕙	造り木はすて、見に行桜哉	如蕙	如蕙	、	君花(二六ウ・19)
遠近の酒に酔たり花の主	百和	如蕙	此日和蝶も出る日ぞ初桜	如蕙	如蕙	峰の花薄着をけふの手柄哉	肥後
三月や家を出れば花の人	寒鴻	如蕙	千々に物おもふ日ぞなし花盛	如蕙	如蕙	坊が妻魚喰ひに里の花見哉	柿青
、						なまなかにひとり花見ぞ心よき	箕溪
麓から夜は明にけりはつ桜	備中	南枝	市中や子供くづれる花の枝	阿州	蓼花	あれにしも桜は咲や奥芳野	葛路
、			こゝろよやそゝろに酔て花の雨	長州	花密	花の枝にかけし風折烏帽子哉	清壺
花桜一本持けり俗聖	備後	何笠(二三ウ・16)	御姿に色香たがへぬ桜かな	湖水	白遊	御陵や都にむかふ花の中	文曉
たしなみや花に間に合ふ摺火打	李朝	花毛	山蜂や花ついくゞりく	比雪	麦子	たまさかや花もてとはむ妾がもと	豊後
箱根八里乗掛遅し初桜	馬杖	一鳥	都辺やゆふべ音なく花の散	比雪	麦子	此頃や花の上ゆく人ごゝろ	磨牛(二七オ・20)
ちる桜見事や残るゆふ日まで	午琴	瓦二	跡ながく休む花見のそなへ哉	女ます(一五ウ・18)	里芳	いつ花に遊ぶべきものか雨の酒	肥前
白妙や峰も麓も花雪吹	瓦二	右汐	守人や旦を名残る花の跡	里芳	楚柳	病中辞世のこゝろにて	車文
ちる花や風にゆられて月薫る	古声(一四オ・17)	おもほへず花見る里に野宿せり	散花に灯ほそきすまゐかな	里芳	楚柳	夢中に唱ける	文塘
咲ばこそ散事おもふ桜かな			花なれや天上人の手になれし	里梅	楚柳	花山遊び得て今かへる也	遠州
二三畳寝所ほしき桜かな			おもほへず花見る里に野宿せり	里梅	楚柳	谷はまだ水音細しはつ桜	白輅
うかれ女や灯かげろふ夜の花							魯雀

ゆかりある僧に逢けり花の山
下臥や桜の中の花のゆめ

知白
約我

かくし田や一里は皆遅ざくら
はつ桜どちらが先ぞ須磨明石

尾陽 羅城（二七ウ・20）
濃州 佳乙

山桜こゝろおよばで分入らず
うしろめたく余所へもちるや家桜

甲州 可都里
作良

ゆふ月や花に誘るゝきのふけふ
めづらしや桜旗手に松くるゝ

美敬
樗冠

ゆふ桜誰千金の山のぬし

漢甫

箱根路や明て桜の朝ぼらけ
夜桜や提灯提し樽拾と

上州 朔宇（二八オ・21）
上州 専車

ちる花や荒し伽藍の仏達
人声に滝をうち消す桜哉

信濃 雲帯
武州 鳳爪

石加減に石のぬくみや山桜
久かたの日は静なりちるさくら

仙風
下州 楚流

夜桜や峰は弥生の天の川
花あればこそ夕ぐれを忘れけり

赤卒
水戸 石窓

日盛の花は満たり山ざくら
貧しきをこゝろの花のしをり哉

羽州 露橋
奥州 史仙（二八ウ・21）

翌の花日和請合ふ上戸哉

吾舟

【校異】月明本、作者名「呉舟」。

花に出て花におくれける
をあはれみ東山なる桃
青堂の翁、花供養

の後にゆるして初夏の
句をすゝめ給ふに

ほとゝぎす誠の初音聞日哉
花はふりゆく卯月野の雲

飛くゝに小家間近く潮満て
干和布をしがむ顔下司気也

選れし猿は衣着る名月に
招きまねける薄幾もと

秋の末炭詠へに小野へ行
六つとこたへる子を拾ふたる

朝夕に仏の食のくひあまり
大樹をうづむ白雲の中

鴉てふおよそ鳥など飛もせず
君待日数指にまぎるゝ

月寒く顔にたれたる額髪
夜の戸をうつ舟の上り場

愛らしき狗どものよろめきて
若侍の隙倦るさま

飛鳥井の御殿の花の色移
いとゆふといふものはあれかや
かたはらに蚕の煮殻悪くさき
乳兄弟とてもてなしにけり
勘七が夢ときえしも五六年
合歓堤の崩がちにして
気色よく見たすかたは磯馴松
高陽の徒とわれをいふらん
此度の女房も最早帰るまじ

龍爪
蘭更
朔宇
古塘（一九ウ・22）
何笠
渭川
其成
一峰
真菅
松風
あふひ
平吞
珠鳴（二〇オ・23）
言道
蓮車
不朽
長広
得終
在貫
山曉
陀仏
楚南（二〇ウ・23）
志諺
凡二
眉山

おとゝひからのもぞふれる雨
奇特見る滝の下なる籠堂
美人を縛る病有けり

風起雲起る月のさだめなき
藻に鳴虫の浮沈つゝ

囚れて秋やしるらん夷ども
かたりて見れば世に鬼はなき

たと紙に高野の土砂をうちちらし
清き岩根の水汲て来よ

匍匐しうなじへ花のちりかゝる
箕踞せし人も酔どれの春

かざし行花よけてやる径哉
暮るとも道暗からぬ桜かな

見つくして蝶にとはゝや花の味
雨の花我が身の罪をおもはるゝ

近江 陀仏
越中 不石
沙文
千友
伊セ 帯川（二二オ・25）

【校異】月明本の本文はここまで。
追加
京三条通御幸町西
蕉門書林 菊舎太兵衛梓
町西 菊舎太兵衛梓とある。

（裏表紙見返し）
（裏表紙）

5 寛政三年刊『花供養』

底本 月明本
校異 松宇本

花供養

(表紙・原題簽)
(表紙見返し)

花のあるじとなり、花のかくとなりける
時世粧のさまぐくにはあらず。かの桜
木の像前に花をたてまつり、ほ句を
手向つゝとしぐ供養あることいと
尊し。さればかすみわたれるあづまの
はて、霧こむるつくしのかぎりまでも、
月に柴の戸のさびしをりをしたひ、
阿弥陀坊の光りをつゝみし苔の下、
浅からぬこゝろざしをおこして、春の
雁の便りまつ人ぐ南北にもすくな
からず。ことしはやつがれら茶に清泉を
はこび、香炉に灰の塵を払らふ執事とは
なり侍る。頃は寛政亥の年弥生中
の二日、仰むけば阿弥陀が峰や花の雲と
東山芭蕉堂にたてまつりて、つたなき筆を
拭ふ。可能拜

翁こゝに花と双びの林かな 清秋
魂まねくべき蝶鳥の中 蘭更
うす霞浪卷雲の尻兀て 暁台
貝がら道のつゞくこし方 素里
おくれては小唄もうたふ御杵持 鼠洛

(一ウ)

三日さめざる酒に名をとる 野笛
兎や角と月にまたげし竹柱 鉄翁
幾世かざれし石に秋風 不木
露深き草の中なる笠の骨 定雅
都をさして座頭四五人 桃睡
飯喰ふて間なき体を横たへり 百池
濡にぞぬれし川狩の宿 完而
数ぐの嘘つくうちに罌粟散て 不朽
縁きり神の告やまつらん 得終
いつしかに世を宇治山を隔住 其成
木の葉隠れの月登りたり 芦涯
梟は真向に律を聞ならめ 古塘
錆鮎落る別荘の前 自来
入道の肩にかゝりて出たまふ 一峰
長崎蒸の菓子並べたり 月峰
下枝の花に懸たる玉簪 玉屑
竹の奥なる春深の宮 柏由
剣打む程よく水のぬるむ比 東洋
蓮根は人の老となるもの 巴龍
三俵の米施して訪も来ず 草牙
大師の作の仏買ふ也 筆
下略

奉納歌仙

しのばずや桜吹こす池のうへ 在江戸 瓜坊
南は東風に雨気つく空 菊明
掃頃を紙の蚕のうるおひて 百静
いくたりの子があだにそだてる 左鶴
さし入る夜の衾の月清き 百稀
や、秋声の賦をうたひけり 青奴

(二オ)

(三オ)

(二ウ)

優婆塞が小金朽たる磯の露 百機
離魂とやならん世の人の恋 百鯨
夏引のおがせの乱れ打かこち 一葦
蚤をふるふて木の下にイ 黒郎
総房に朱鞍おきたるはなれ駒 砂上
はやく灯ともす家並の雪 古龍
乞食に白粥配る宵の月 青瓠
無言の僧の鉦たゝき行 坊
見あぐればみあぐる程の滝の浪 明
きれて梢にもどる糸遊 静
沓撫ん余情や花の副車 稀
夢は覚しかひらと舞ふ蝶 女蓮止
四つ壁の崩れしまゝに膝いれて 花弟
名もうづもれし玉島の脇 荷菊
御鏡の塵に交はるふる社 千鶴
天窓くだしに雫の雨 稀
女房の人に馴たる町はづれ 鶴
狐にうけし瘡の呪ヒ 機
一葉なる芦間の桴たゆとふて 鯨
濁酒によるや情盆の月 奴
きりぐす紙燭の下に音もいれず 郎
菌の山の公事もむかしに 上
このあたり大宮人の檣柏 坊
お賀のかちんを手とりはいとり 瓠
鶴の間の鶴の衝立けけかゝり 龍
こゝろの外のを恋するかな 鶴
烏羽玉の闇のたそがれ責くれど 止
繫とゞめし海賊の舟 明
手向ともなれよあづまの潮の花 静
木かげも茂る姫松の春 筆

(三ウ)

(四オ)

(四ウ)

(五オ)

奉納句順任至来

おしまれて散る世のさまや初桜 伊賀上野 未塵
 十八里おくもゆかしや花ざかり 一如
 花もどり水振舞ははなくれん 勢州白子 無曲
 白浜やさくら消こむ山おろし 帯川
 けふもまた見残す花や三井の鐘 津 万化
 かゝる時命も延む花のもと 銀幣
 制札は去年のまゝなり初ざくら 自酬
 千金の価つもるやさくら花 春鷺
 よひ中の垣もくずれて桜哉 歌計
 花ちりて桮を埋むさくらかな 御風
 花みちて空さだめなく成にけり 山田 雀汐
 山伏の鼻に氣のつく花見かな 茶菊
 明暮を花にたらはぬこゝろ哉 連之
 肘笠も花かざす夜の眠りかな 石薬師 甘谷
 朝風や桮のさくら咲おくる 珉山
 栗櫃に市のしるべや花のおく 四日市 馬曹
 山はあらしとてもけふより散る桜 尾州 五周
 花の雲花の滝経てさくら狩 遠州浜松 白輅
 さくら見や人のこゝろも八重一重 知白
 島台に乗べき花のあるじ哉 春忻
 匂ひせり花の辺りの忘れ水 約我
 朧まくら雨のさくらの憂かりけり 川崎 演之
 花にぞむ心野山にあまりけり 甲州 可都里
 花の山守と思はゞ住倦ん 江戸 完来
 筵あり花の木の間ねぢけ人 宗讃
 花咲そめて散れどもくさかり哉 左鶴
 夕ざくら我に一枝曇りけり 青瓠
 山もとや花になるべきけふの雨 古龍
 誰が庵ぞ花の雪吹の中やどり 黒郎

(五ウ)

(六オ)

(六ウ)

大名の花守るかはりぐにも 長厚
 朝風や花潜る鷹の雫する 房磯村 英
 薄暮て月に又見るさくらかな 此君
 有がたき姿拝む花供養 梅破
 寢覚ては花のおもはるゝ夜の雨 凌花
 年をへて花の方向もいくゑにし 倭風
 けふはまたゆるす桜のあらしかな 大津 如々
 ちる花にいざよふ浪やよしの川 井子
 騎射すゝむ半は雪のさくら哉 陀仏
 女房の花見を宵の願ひかな 江州粟津 一萍
 星ひとつ朧に猶しはなの雲 草津 東郊
 山形に夜は明にけり花の雲 辻村 千鶴
 花満て曇る木下の雫かな 千鶴
 まだかぜのうき肌しらず初桜 千鶴
 庵せむ都の左やまざくら 花仙
 飛星の影に散りけり夜の花 石部 龜測
 見ぬ花の便りの人に馴染けり 平松 亞溪
 二羽からすおりる岡や朝桜 女 しろ
 うたかたや船に詠る島の花 駒井沢 柏由
 花散て浮世に遠き庵かな 霞川
 おそ桜凄き松間に咲にけり 楽遊
 山陰や花の梢を日のめぐる 篠原 暁宇
 咲初る日やうつり来て花の守り 杉江 素風
 夢にだに魂うばはるゝ桜かな 彦根 繡虎
 立山や地ごくもあればさくらあり 水石
 茶の会はいつか過行花見かな 勝部 周路
 花にくれてかえりものうしがけ伝ひ 梅山
 花にめで暮していたし首の骨 守山 花橘
 五六人花に行身のそぶり哉 錦月
 我を見ず美童子入ぬ花のおく 三宅 醉月

(七オ)

(七ウ)

(八オ)

(八ウ)

散かゝる花やさはちの魚の骨 水口 梨風
 翌とおもふうちにも雨の桜かな 呉雪
 我まゝに山踏わける花見かな 斯馨
 這伝ふ児甘嗅し花の下 李明
 齒薬の居合一ふり花の中 暮一
 夕ざくら破たる窓の詠め哉 竹葉
 富士かとも見まがふ峰の桜かな 麦盛
 聞てさへよし野はさぞや山桜 翅溪
 花盛り凡十日の日和かな 蓮車
 夜桜や此時世をぞ忘れけり 土山 露橘
 日をうけて山静なり夕ざくら 探湖
 本の夜は後に明けり山ざくら 素風
 元日の氣持わすれず花またん 信州上田 雲帯
 叱られて馬士の上見る桜哉 佐久郡 柯則
 うかるはこころに余る花見哉 松本 田舎坊
 花守に去年の盛りを問にけり 可考
 酔さめて山ざくら戸の月夜哉 雨曉
 夕山や花の中なる鳩からす 上州前橋 土蘭
 山城のかまへゆるみて花ざかり 輪賀
 月の出て漸花にわかれけり 四祖
 御出入のおやしつけにき花盛 素同
 あの山の花に寝るかもやがらす 上州高崎 雨什
 世忘れに花見る身こそ命なれ 境町 専車
 狩入し花をかえさの葉りかな 官崎 朔宇
 花守の花に肥たり帯の尺 富春
 木鼠の飛で花散るゆふべかな 才丁
 我窓や真向ならずも山ざくら 羽黄
 香に匂ふ花のあたりの土竈 尺龍
 人さつて桜しづまる夕べ哉 松和
 夕桜松のくろきは星月夜 南甫

(九オ)

(九ウ)

(一〇オ)

花に独山路鳥の一つ啼 曉鳥
 はつ桜棊に眠る供廻り 竹雨
 かぎり有と花に戸ざ、ぬ夜は月夜 亭々
 けふもまた心迷ふや花曇 富岡 露情
 入相に風静りぬ花の寺 尹口
 桜八重律は二葉片折戸 玉斧
 (一〇ウ)
 みなみ向何塵もなし花の庭 知十
 紅みの小袖はづかし薄ざくら 女 都野
 夕栄や磯並ざくら舟にちる 吉井 其蝶
 散る花に日傘かざすや知恩院 龍山
 めづるととどふ折らりよぞ初桜 白圭
 鐘つきの雲踏登るさくら哉 津軽 曉翠
 真白に見ゆる杉間の桜かな 雪川
 花満て山門覆ふさくらかな 草夫
 花に生き替りてうれし無垢世界 若州小浜 巨川
 (一一オ)
 いたづらに花散埋む御廟哉 百馬
 花の雨湯谷を諷ふて立さらず 左橋
 ちるや咲や花にをく身のいそがしき、 丈葉
 花に寝ん都の東にしのはて 藤井 千里
 咲花に五日の風の音もなし 陶河
 月落て桜しらみぬ山かづら、ノトノ 鬼雀
 山桜花の下風吹にけり、 仙舟
 花なくばしらじ谷間の籠り堂、少年 斗南
 眸に外山の花の薄ぐもり、 吐雲
 (一二ウ)
 滝の音も静になりぬ花ざかり 西津 漁林
 花ざかりふたひら三ひら散にけり、 雪肆
 花は盛少し隔て酒呑ん 鷺少
 散る花や外山の雲の動きより 柳只
 薄暮やひとり残りし花の陰、 鳥友
 鳥山や花に啼鳥は何くぞ、 呑空

動きなき花の曇りの真昼かな、 巴陵
 花守となりて其日をくらしけり、 古水
 雲低し花ある山としられたり、 東鳥
 (一二オ)
 花のかげ宿るこゝろに日は暮ぬ 後瀬 芝舟
 花の山雲にわけ入こゝちかな 北翠
 たまひたる花いたゞけば散にけり 沂山
 散る花や高根をつたふうかれ雲 会月
 朝の間や尾長啼たつ花の奥 加州金沢 松菊
 松山の出崎に夜のさくらかな 蘭尾
 桜よりくれて朝のぬれ鳥 兎文
 片沢や花降る中の鷺の声 卜舟
 うつりかはる世にもたのしき桜かな 麦風
 (一二ウ)
 下部等は穴市したる桜かな 鯉湖
 夕づゝにまたわけ入ん花の山 吐雲
 夜昼のわかちなき花の朧哉 羅葉
 朝の間や隣のさくら静なる 梨松
 人里を過て花見る棊かな 三峽
 折かづくたぶさに花の薫り哉 梅嶺
 程ふりて逢ふ友うれし山桜 其子
 結ぶ手にさくらかゝるや滝の下 可兆
 奈良坂や囀る鳥は花の奥 素山
 (一三オ)
 見おくれて花の流るゝ小川かな 烏甲
 すぐるゝや風なき空を桜ちる 鈍鷺
 朝日さす桜に駒のいさみかな 其葉
 来て見れば川のあちらぞ山桜 更々
 曙や花の波たつ鯨道 一川
 はつざくら有あふ人の詠かな 南峰
 細腰やしどろに登る花の山 勇夫
 春秋に切出せども山ざくら 花翁
 酒呑ぬ人のすゝみや桜狩 北雁
 (一三ウ)

雨の後塩屋吹こす桜かな 白義
 さくらふく風落付て夜の雲 一道
 幕うてど中には居らぬさくら哉 文顯
 遠山の花おほろなり朝の幕 漁船
 あけぼのゝ桜折ゆく馬上かな 甘谷
 煙たつ花の小ぐちの藁屋哉 五曹
 幾人が桜手折やゆふまざれ 素兄
 過來るや散花へだつ花の奥 凌冬
 硝子のさかづきふきぬ家ざくら 学遠
 (一四オ)
 藪過か軒端にすこし桜かな 馬来
 山陰やむきところ初ざくら 能州所口 暮臘
 風寒し花の灯すひがし山 一形
 九重や金棒ならす夜の花 黒鳥 珠卜
 ものいはぬ人に逢けりやま桜 素玉
 八重九重花をうる人浮世人 女 布遊
 野桜や曙しらぬ鳥の声 玻井
 空色や浅黄ざくらの吹ちるか 怡水改 柳汀
 (一四ウ)
 灯火につく虫もなし夜の花 麦秀
 散る花の草にみだるゝあした哉 馬涼
 橋にかゝる入江のさくらかな 加由
 散る花を追行蝶のたはれ哉 クロシマ 犁邑
 白鷺の白きをうばふさくらかな 李友
 花満てさほ姫鷹の羽音哉 珥丘
 花とともにくれて月照る姿哉 都山
 花鳥や常さへ鳩の夕げしき 文朝
 はなちける鶴の啼けり家桜 風峰改 岐草
 散花や窟の壁あらはるる 輪シマ 馬群
 (一五オ)
 花過て雨に暮けり須磨の里 錦川 玉史
 流行春や小川の花筏 穴水 王霞
 雲沈む夜のよしのゝさくらかな 川田 佳超

笠捨て我こそ出ぬ花の空 越中福光 緑水

雨ありし後をさくらのさかり哉 桃岳

風どめを天に祈らん花ざかり 奈古 麦秀

花半山かさなりて見ゆるかな 二翼

花の中まだ人がほの暮きらず 如友

家ごしや雨あたゝかに初ざくら 少年 李芳 (一五ウ)

西東花に二日のいとまかな 白老

夕栄や楼にさし入山ざくら 大酉

花の雲峰にも尾にもかゝる哉 明神浦 磯仙

初桜さくらの中を咲にけり 氷見 馬十

きのふまで見ながら花のはじめ哉 馳来

日ざかりや花を出て行蛇の声 都邑

さくら木は雲の天井の柱かな 岸松

笛の音や桜に雨のはれがまへ 春枝

薄ぐらき空の気色や遅ざくら 素秀 (一六オ)

面白ふ鳥に花散る夜明かな 菊良

花曇り鐘を聞日は舟の中 壁斗

笠に散る花も見むかず茶摘哉 越後 鳥路

花盗む袖にしがらむ胡蝶かな 十日町 桃路

埃たてゝ一しほ明日のさくら哉 徐翠

花咲て近道多し嵯峨あたり 臥虹

花に狂ふ科は緊那羅摩睺羅哉 丹波根 あふひ

雨となり風となる我心花曇り 洞々

花咲や侘る人又驕るひと 快志 (一六ウ)

花の日や船に諷ふて舞子はま 但馬 涼秀

としゝや花に費す口ぶくろ 和旦

鳥さしの何おもひけん花のもと 鹿友

花にさはぐ都の人よあらし山 播州 青蘿

行過て見れば日のさす山ざくら 為荔

花いく重かさねて咲や九折 小野 君中

花や笑ふいざ脱捨む破紙衣 沾節

暮ばくれよ花を主に旅すゝり 花桂

酒のみの気持を浅黄ざくらかなヒメジ 葵道 (一七オ)

花売は山を出るか花ざかり 寒鴻

夜桜やたゞ一声の鳥は何 備岡山 子坤

花散るか蛇の音する夜の庭 備中笠岡 李山

中ゝにねぶたき花の真昼哉 枝白

山ざくら埃に埋みし硯かな 江山

人去て朧くゝと花にほふ 香貫

したゝかに散る日もさすが八重桜 文里

何となくしづけしけふの花曇 倉敷 露朝

けふの人皆馴染あり花ざかり 烏夕

花ざかり主のしらぬ人もなし 軒聿 (一七ウ)

鞠それて主は仰向さくら哉 一魚

燕の巢はまださびしはつ桜 桃葉

初花にしぼる手ぶりや明徳利 玉井

たのもしき道の手折や花供養 寄人

月落て鳥しらむや花の空 南枝

植かへて哀れや花の咲かぬる 備後福山 李朝

守る人の留主か桜の散そむる 右汐

おしむべき花を山路の枝折哉 河翠 (一八オ)

唯ひとり花に箕踞して日暮けり 三原 梨陰

雨いかに遠山ざくら晴わたる 土芝

山買へば初ざくらありて人告る 何笠

行さきゝ紅魚の三月花の海 府中 枕雲

花に酔し人が散る日の泣上戸 田房 古声

花に如意是も都の手ぶりは アキ広シマ 東吹

然るとき木樵の案内さくら狩 山活

市中のさくら見おろせ岡の寺 蟬雨

山ざくら白馬驕て人はちる 晒之 (一八ウ)

山桜人こそしらね老夫婦 素候

太刀持や袖白妙に花の山 芝雀

おさな名を問れてゆかし軒の花 芝仙

文鎮の童子も笑つ庵の花 常曙

雨晴や桜のもとの牛車 芝川

植木屋の花を売てはおしみけり 小方 可友

花に聞蛙鶯啼上戸 凡十

制札は小僧の手也初ざくら 防州 孤甫

驚かぬ花に暮行鐘の声 長州赤間 南巢 (一九オ)

花曇りけふはうかれぬ日なりけり 薫里

酒くむや花になく声笑ふ声 羅風

さくらには鳴声もなき蛙かな 阿州 巨言

二本とは花さへいやし草の庵 讃州仁保 指馬

けふも又心残りや山ざくら 白羽

わくら葉に茶を烹る峰の花曇 宗徳

分入や道のなきまで桜狩 起石

花咲て茶のあらたまる山家かな 満里

花守の覚し枕言葉かな 汐木 三才 (一九ウ)

白浪の音せぬ花の梢かな 予州今治 素明

柴の戸や桜の月に客ふたり 卯七

龍灯に桜を照らす野川哉 几風

静さや窓に吹込花の音 挹波

大寺やさくらに交る鉈屑 葛輔

斧にもれて半ば朽し桜哉 蚕月

誤て花見ぬ里に出にけり 筑前黒崎 青人

花の雲およばぬ人の伊勢参り 錦江

花の道耕す人にことゝはん 幡榴 (二〇オ)

桜ちり終て岨の夜明かな 月池

花の山羹喰ふ人臭し 万都斗

庵の花仏と我と見る日かな 朴風

花多く足れば日によく月に欲

後風

世のさまや花の中にも花曇り

ハカタ

俚雪

花にすむ雪の額の夫婦かな

直方

君花

究まらぬ山の次第を花めぐり

蝸石

朝夕や花にはづれて人見ゆる

裏梅

花散て魂我にかえるかな

元二

箸削る人に向ばや花の宿

橋雨

背負出る薪の上に花ぞ降

何来

おろかさや花に餌をまつ親鴉

飯塚

竹雨

山かづら花新らしき尾上かな

文里

人さつて月にさくらの匂ひかな

奇峰

磯山や桜降日の波しづか

舎丁

唐土の舟に散込さくら哉

莞尔

水はきや桜流るゝ飯御殿

士沢

花ちりて淋しきもよき舎り哉

豊前小倉

夏夕

花に酒人は上見ぬこゝろなる

南明

けふの日もみすゝ花に暮る哉

長崎

左琴

花の盛松は静にあらし山

肥後山家

駒童

麦味噌に桜も吸ふや須磨の里

サツマ

全潮

花に迷ふこのころ老が飯うまし

対馬

孚湫

花咲や鹿の生るゝ朝ぼらけ

大坂

旧国

匂ふなる花も左近のさくら哉

伊丹

東瓦

夢にだも貞室を見ず花七日

和州土市

可翠

人はよき女房持けり花の陰

鼠来

咲花によごるゝ酒の通かな

葛城

夕山

畑打の花にかけおく瓢かな

城南

如水

そこゝの花に追るゝこゝろかな

秦夫

雲裡

酔顔を人の見て行花見かな

良水

門を出て月夜さびしき桜哉

馬雪

観音の桜しだるる我等かな

真菅

三輪の灯に眠るも花の勞れ哉

狛

麦子

春の夢さくらを見るもうき心

ダイゴ

百哺

しのゝめや夏雲うつる遅桜

宇治

松風

日の朝や夜の雨落る山ざくら

田原

紫圭

夜の花多勢ゆくもことゝし

ヤハタ

蛙方

花に明て花に宿かるよしの哉

古律

宦女や人見たらはぬ花のくれ

洛

志諺

竹門を押開てゆく花見かな

一照

花いろゝ塵塚崩す小鳥哉

夢友

坂なくば母に見せし山ざくら

蕙蝶

山ざくら夜はみどりの林かな

玄兎

月の桜雲あるかたにつゞきけり

嘉菊

このごろや花ちりかゝり咲かゝり

土卵

名にめでゝ散らめ花の嵐山

巴六

今朝の雨含で花の真昼哉

曇水

幾人か桜かざしつ嵯峨の暮

角蜂

朝の花匂はんとして散そむる

薰河

鬼若が墨に摺けり山ざくら

平吞

入相や雲おさまりて峰の花

路春

桜今不断ざくらもさかり哉

山尾

かけ襟に花吹込や京女郎

私青

明暮に山静かなるさくらかな

露虹

暁の花に拾へり舞あふぎ

管鳥

拝前や花に清香月に影

杞柳

夜桜や羽織かけたる白拍子

車蓋

暮行や次第に花のかすり雲

白黛

花に葉にむごくもちらす山桜

眉山

一座捻香

(二三ウ)

おしむ日を雨に桜の時うつる

鉄翁

月雪や花に踏出す足のため

完而

薄く濃く色かさなりぬ遠桜

定雅

散るこゝろ抱きてあけの桜哉

玉屑

木のもとのむかしゆかしや散る桜

桃睡

茎ゝのともぢから也花ざかり

百池

たてまつるいくよの花の匂ひかな

不木

山吹や桜重ぬる日もすがら

巴龍

こゝろとむなど申けり犬桜

不朽

春の夢ふたゝびさめて花の雨

月峰

風にちらぬ花十分のけしき哉

一峰

道ふかく此日の桜咲にけり

古塘

しる人の声やくらきに花戻り

尼得終

鳥啼てかけるや花の山かづら

自来

野宿して花に瘦たる心かな

草牙

としごとやちり数庭の花供養

其成

花の香や月にも日にも大内裏

芦涯

花の雲幾重こえしぞ夜の山

關更

花の手向の数ゝとりゝ物する

(二四ウ)

ほどにゝ年並のごと梓にのぼさ

ましとゝはやりおのほめかしあへるにゝ

心あはたゞしけれどゝ此堂のぬしは

越の空なつかしとて花の吹雪に

笠うちかづきゝとみに出給ひぬればゝ

つたなき筆にかひあつめぬる

種々のおぼつかなくゝ人わらわぐ

ならんもいとわびしゝいさや師の

(二五オ)

かしこきすさびにまかせてんとゝかの

国にたよりす。しかはあれど舟車の
ついでにはからずも月かさなり、日
たけていまし漸草稿成ぬ。

同志のむつまじきに送るとて
等閑のそしりを逃んと、秃筆を
かみしだきて、其しりへにかいつけ

【校異】松字本、「其しるへに」。

侍る事しかり

芦涯述

(二五ウ)

後れて来しを寔にしるす

下嵯峨や桜の散て後の人

ナニハ 画涼

牛飼の花の木陰の素面哉

筑前黒崎 舍鳩

鯛の値の鰯に替るや花盛

藍江

(二六オ)

寛政三辛亥三月

京三条通寺町西入丁

蕉門書林 菊舎太兵衛梓

(二六ウ)

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

6 寛政四年『花供養』

底本 月明本
校異 河野美本

花供養

(表紙・題簽)
(表紙見返し)

月雪のながめはさらなり。

されど、花鳥の情ぞ一きは

心うきたつ春のあした、東山

の像前に例のごと捻香

頓首して己くがくさを捧げ、

かつは近き遠きにおなじ志

ある風士の吟をもとりそへて

万代の外に伝へんとす。

供養の俳諧もて、巻の

はじめにおくこと旧に

ならひてしかり。

寛政よつのとし

山亭拝

(序一ウ)

風流のみちの葉ぞさくら花

声あげわたる春の諸鳥

建直す台崩すもあたゝかに

下百性の札提て来る

嵐して堰とめし水に小浪打

夕寂しきむらさめの跡

張替し障子に月の澄のぼり

うなゐひとりに秋を慰む

自ら萩の長者と名に驕り

山亭

闌更

白黛

柏由

古塘

浮遊

龍美

貞松

不朽

四十にて死ねと書しもことはりや

酔どれどもの世をそしり居る

なま中に棚なし小船波をきる

雷や落らん松煙りたつ

塔のみに今は名もなき法観寺

猛者引す、む捨石の上

花のかげ薺つむのは主なるか 肥前諫早

うき雲の根ざしは遠し山桜

さく花のもとに居眠る雄猫哉

臥虹

周山

投我

二雷

松路

白鷺

文若

孤石

(二オ)

朝照の峰にしらつく桜かな

日もながく回るなるべし花の山

雲下りていよく白し山桜

吹かなくに風もつ花の夕かな

山はさくらさすががざらず繕はず

花ぬすみほむるも花の主かな

蜂むれて林の中やちるさくら

反古干に出ては花をゆすりけり

山里や花うちふるふふる筵

肥前島原

楽只

文知

湛露

一壺

平戸

有無

血山

雪庵

玉李

雨夕

龜水

江良

文塘

輝白

都友

少年

芦月

肥後熊本

樂只

文知

湛露

一壺

平戸

有無

血山

雪庵

(四オ)

鯉仙

君岩

濃波

梅江

東伴

青虎

尾山

梅路

春芦

分入て水上見たり山ざくら
花さくや裏道あけるまた隣
遅ざくら又来ん春の記念かな
人すまぬ小家もゆかし山ざくら
うき／＼と花に出て行癪かな
花みちて花こそ見えね夜の山
夜のはな散るかたよりぞ月告る
木兔のねぶたき顔や花ぐもり
足もとに花の滝あり峰の坊
人去てしら雲下りぬ暮の花
咲花や野鍛冶が軒に人の声
傍の松に鶴来ぬ花七日
山寺や桜に青き篋竹
酒のまぬ人は香に酔花見哉
又けふも隙ぬすみ行花見哉
宵月は桜のあまり見る夜哉
狩暮すさくらが本の夜は月夜
見せ申母の笑顔やはつ桜
とふ人はまた男也はつざくら
栗の毬踏で驚く山ざくら
心して筏棹させ岸のはな
花守の夜あらしいとふ侘寝哉
雨雲の色にも染ず山ざくら
夜ざくらに羽た、きいとへ泊り鳥
たのしさに亡友思ふさくら哉
花守よ酒ふる舞んひとつ舞へ
戻る時初て凄し山ざくら
明がたや朧はなる、山ざくら
鐘つきの袖にすれけり糸桜

深里 酒仙 蘇泉 松童 箕溪 綺石 霊沾 歌舌 栄子 百児 潭月 抱琴 山鹿 駒童 石羊 有之 禹功 半橋 李程 芦隠 宜応 浦圭 其流 春潮 文石 卜貞 吾舟 呉江 桃仙 草夫

(四ウ)

さくら花雨に定て夕ながめ
人去てさくら且散る夕かな
百年の句塚をいとなみ
花裁て遠き主をしたひけり
すぎはひや是を折売初桜
露牛 雪岡 クロイシ 梅成 羽ノ久保田 五明

歌仙表

散りてこそ供養もあらん花も人も
春は名のみ山ほとゝぎす
いなみ野や霞の裾に水戸守て
三ッ輪くみつゝ梳する
月の比旅に瘦たる駒ならむ
すだれを捲し白萩の雪
瓜英 儲香 有之 蔦橘 文杏

(五オ)

岩橋のおもかげ深し夜の花
吹る、もうれし桜の袖に散
あの雲も散ゆく花のかたみ哉
桜見や木樵の道に迷ひ入
雨晴や雲も障らぬ山桜
ふかれては虻の声散桜かな
甲ノ平岡 如雪 河内 川里 小笠原 右書 箕風 三枝 玉河

(五ウ)

長崎車文が遅翁と号よと

たはれしをおもふ

遅ざくらうき世やかれも一さかり
日の影もゆらる、花の盛かな
尼寺もけふは留守也花の山
嘘いはぬ人の誘つ初ざくら
夕栄や情かぞふるさくら人
寺の門しめてぞ花の静也
世の中や花にかくる、里もなし
咲にけり大悲の御手のいと桜
静管 露橘 紫夕 素風 露朝 寄人 芥舟 玉井

(六オ)

(七ウ)

さとられぬ世をさとけり山桜
うらゝかな日は一しほに花曇り
しづけさや翌の嶂の山ざくら
此あたひ申さず花のちる夜哉
小雨してあしたの浅黄桜かな
雪水やにはかに花の橋供養
山ふかく鐘きこえけり夜の花
晴際や花をせり出す花の雲
柴の戸を極楽にして桜かな
又奥に能花ありや花を踏
猿啼て花のあけぼの静也
よぢのぼる山やたやすく散桜
ふところは曇り初けりはつ桜
たちならぶ塩のけぶりや夕桜
粥喰て七日籠りぬ花の山
文をしてある人告りはつ桜
宵闇やわづかにさます花の酔
朱の鳥居中にとりまく桜かな
炭焼の娘にあひぬさくら狩
ながめ置く花は翌日ある命哉
花さくやうき世の中とおもはれず
静さやさくらに曇る明の山
雲に動くこゝろを花の朝朗
人に洩てすがた霞や花の主
重ね／＼枝分つ也明の花
いづれ夢桜三世のひがし山
花の香や罪なき僧の住処
花の宿日裏のかたを尋ねけり
一木なる花やむかしを思はする
物売も花の香を出る東寺哉
桃采 軒棗 亀儿 烏夕 南枝 車南 挹波 琴秋 蔦輔 蛭月 几風 竹岡 奇峰 莞尔 枕石 舍丁 梨雀 遊水 士沢 湖桂 女ゆふ 何来 奇木 涼眉 可角 飯塚 文里 直方 雨萩 橋雨 遠子 桃雪

(八ウ)

(八オ)

(九オ)

目は花に居て河原に來りけり

裡梅

大原や花に往來の草むすび

蝸石

夕暮の雲すみのぼる桜かな

文鯉

(九ウ)

ちる花や車の簾風たえる

素釣

散うきて泡に見なせる桜かな

蘭溪

花の雪うつるや眉の水かゞみ

其外

散る花に裳かゝぐる小姫かな

木耳

桜く峰は日脚の曇りけり

花情

夜の花や我にすがれる蛇一ッ

里桂

夕暮や賦を諷ひ行花の中

芦江

幕絶へてけふは葉がちの桜哉

後風

花過て間遠になりぬ夜の夢

南明

山売て花見る客と成にけり

和水

極楽は外にはあらじ花の山

雲蝶

咲つゝくつくしの花を供養哉

可立

花ぐもり唯花皿の音のみぞ

梨陰

折捨て凋むも花の最中哉

土芝

散る花をつけて行けり暮の面

逸芳

かはるく花見の留守の独かな

吾中

花一木ゆづれる畔に添てけり

何笠

(一〇ウ)

我人の桜咲けり春のそら

馬來

折くや夜半の桜に雁の声

凌冬

散あとの花たしかなる梢かな

北雁

寺町や花見くらべん西東

霞外

酔ざめや桜にうつる山の月

可兆

こゝろさまやさしかれとや花見連

一道

人通る畑のそなたや花の里

南峰

こゝまでは去年も來たり花の山

文顯

野曇りや里は桜の花ざかり

野芹

(一一オ)

糊ごわな小袖出しけりはつ桜

漁船

身につかでもどる家路や夜の花

如方

初月の峰も幾つかさくら狩

其青

なけば散桜にそひて峰の雲

十廿

野ざくらや児供遊す松葉かき

五曹

花の山猿の声さへにぎはしき

勇夫

子供衆やかた路駕に嵯峨桜

犁松

花ありとおもふ寢覚や障子越

楚流

商人の心やすめるさくらかな

涼花

二三里を一日がけに花見哉

完車

つつくりと眠る鵲や山ざくら

鯉湖

墨衣はづして持や山桜

馬水

花折て桂へもどる暮の船

白義

青麦の畑買ばやさくら狩

大溪

岡の花外に米搗家もあり

岐北

故郷の母に見せたき桜かな

花翁

【校異】河野美本、中七「親に」。

はつ桜其日も已に暮にけり

梅曉

見に入は紙漉く里の桜かな

泊鳩

折くは柳のすれて桜かな

雨柳

ふさくくと名桜さけり雨の門

柏舟

桜見や中の十日は一ゆるぎ

其石

【校異】河野美本、上五「桜日や」。

我宿や花に絶さぬ酒二升

百來

行違ふ人は多けれ桜山

九夏

桜さく山く明の薄もよひ

夏陸

山本やさくらが中の石地藏

里叟

駒繫ぐ柳おしえてさくら守

女枝水

桜見や舟と陸との声合

黄鳥

ちる花に頭のかゆき日和かな

柏茂

花の香におぼれて寝ぬか夜の鳥

百几

酒のみの扇遣ひや花の本

合黎

花曇り傘提し大工かな

松菊

夕山やさくらが上の人通り

蘭尾

朝ぐもり桜出て来る掃除坊

竹之坊

幾人か花にうかる、見あげ皺

馬仏

うつろひを見せて夜に入桜かな

阿石

山ざくら中に四五本千もと哉

菱歌

西山の日はまだのこる桜かな

呉流

ゆたかさや花の中行牛の面

魯畔

まどろみの夢にも花を見る日哉

如蘭

日のあしも静けき花のさかり哉

鈍鷺

散初る花を敷寝や泣上戸

車大

抱上て子に折せけり山ざくら

一川

遠山や花をわかる、雪の星

烏甲

花ざかり瀬多の長はし隴也

如水

見かへれば花の芳野か花の雲

素吟

峰わたす花の気色や朝風

舟呼

振袖の門たち見たりいと桜

邑戸

日や斜御幸過ての花の雪

來止

一重づ、ちらばともあれ花に風

青錢

渡し場や人なき朝の花曇り

更々

【校異】河野美本、所書は無し。

檜より杉の深さやはなの雪

其子

戲や賃馬駈出す花の中

汀画

村雲の晴行あとの桜かな

金沢とみ

道色く心は花のひとつかな

ツ二笑

【校異】河野美本、所書は無し。続く「ツハタ」「金沢」

も書き入れ。

先へたつ人をなぶりて花見哉	ツバタ	風逸	馬道へ出て照かへる花ぐもり	能登僧	巴陵	さかりなる桜に人のなき日哉	幾必
花の本いかつに人の顔白し	金沢	梅嶺	唐人に見せばや花のよしの山	イセ寺家	五瀬	山陰や桜にしらむ朝日請	九河
夕暮や花散る丘の鍬づかひ	一抄		なまぐさき水のたまりにちる桜	帯川		鳥の山雲井につゞく朝日かな	嘯雅
目がはたて麓は近し遅桜	兔文		手鼓や桜折る間の乱れ打	無曲		【校異】河野美本、上五を「鳥の花」に墨書訂正。	
暮あひや児を呼歩花の中	阿青		恋草や長が井筒の糸桜	三階	五橘	玉垣の外見る谷のさくら哉	三爻
明ぼのや花とはみえぬ松の中	伊賀名張	一応	花一木人声満るすだれかな	李青		只人と見えぬ白髪や夜の花	為一
庭の花散果て屋根の普請哉	、	岷霊	ひとり春の山をめぐり			桜見し其夜はやすき心かな	石支
清らかや花の浪汲む閼伽の棚	、上野	一如	友ありや吸殻薫る花の下	二ノ宮	指月坊	花にくれ臚に匂ふあらし哉	不染
夜桜や時々ならず鳥の鶯	能登	岸芷	杯のさし処花にわすれけり	久居	如水	常はたゞ檀の木原の桜かな	春瓜
花時や簾つゞくる膝行人	暮留		花に添て乳母はなく子をすかしけり	雨青	桃川	岩陰や花を見付てまぎり舟	一形庵
苔から人にしられつ初ざくら	モロハシ	巴丈	よく見ればさくらが本の桜かな	二宮	椿葉	晩鐘の遠音に散るや遅桜	李月
曙や花に夢見し宇津の山	ワジマ	柳眉	野の末や花に暮行はな心			奥里や家毎に見ゆる山桜	百尔
雨の花僧都イむ鐘楼かな	タツノハマ	李溪				花の山蜂の巣つかむ座当哉	珎卜
			遠山や花にすれ行ながれ雲	ノト七尾	暮臘	花に埋む弥勒の堂の夜明かな	岐草
馬繋ぐ上野の花のほりかな	御園	四山亭	大空に花の香満る曇かな	其之		乞食に花折貰ふ女中かな	都山
岩窟を越ておどろし花の奥	白子	指月	山入や水音あらき遅桜	菊人		静かさや常念仏の花の奥	筭牙
中絶し人にも逢ふや花の頃	里旧	(一五オ)	紙漉を下に見て行桜かな	于康		召つれし児まいらするさくら哉	布遊
夕栄や花さく岡に人の声	無友		月落て花と定る尾上かな	嵐樵		花咲て鳴かぬ鳥なき山家哉	柳汀
前髪の坊主にはつす花見哉	菊阿坊		雲水にうつらふ花の夕かな	何芳		山本や花に付たる車あと	文朝
花さら／＼散行中の破家	泮水		あけぼの、桜に直き小雨かな	微斤		花咲や夜半を過る杳の音	馬涼
みよしのや世を一円にはな心	津	雁路	散る花に馬の瞬く昼間哉	荻邑		花ざかり見るとなふ児の機嫌哉	梨邑
何なくと花に宿せん奥山家	矛滴		散る花を鎮めて簾の上手哉	川田	佳超	鶴啼て花も興あるさくら哉	玻井
引越て花の田舎の住居かな	画橋		水色のかはるや堀の花の影	乃至		魂在す思ひを花のはやしかな	麦秀
あぢきなや花さく頃の朝嵐	麦秀		ちら／＼と何降暮や花の里	武部	好古	鈴鹿山鬼もなき世の桜かな	素玉
能因の晩鐘にくし山ざくら	憂玉		雪見えて桜のたかき禁かな	五雲		いざゆかむ花は翌又あらふ共	北生
幾人も花に薄らぐ青みかな	石薬師	甘谷	夜ざくらに灯移る舟の轍かな	ニノミヤ	兎泉	山鳥の幾代を經りぬ遅桜	錦川
木の下に栄花定るさくらかな	珉山		霞より上に遠山ざくらかな	花岑		水匂ふみなもと床し花の春	朝々
古木にもむかしわすれぬ花の笑	既白		陽炎の真昼を埋む桜かな	ハマ	雨卜	花の山哀なりけり鹿のほね	金丸
太刀もちを召すゆゝしさや桜狩	山田	栗花	小ざくらに身を隠したる座当哉	七尾	呂代	人声や花を離るゝ鳥の声	桂
照る星のくぼみて花の真空哉	白子	宇兆					子行

石打て蝙蝠出さん洞の花 梵鳥
 川舟や人声曇る花嵐 管史
 花売やあとに荅の打こぼれ 破衣
 子鳥の花ぶさ落すゆふべ哉 壺涼
 散る花に濁りを上る小魚かな 千路 文中
 汐くむや花と岩との間より 可上
 初花に伊勢の司代の白髪かな 飯田 記史
 や、けぶる滝のしぶきや遅桜 カマ 眉山
 道問へばやはり桜を目当哉 二ノ宮 柳枝
 杉山の奥静なりはつぎくら 久江 後流
 庭の花ぬか火に曇る山家哉 所口 定斎
 あれ／＼し木々の中より初桜 万遷
 酒酔の骸あづけし桜かな 馬涼
 門を出て三井寺諷ふ花見哉 巻如
 花ざかり家の建たきふもと哉 双我
 有明に山は桜のうねりかな タツノハマ 大牙
 鏡磨越路の花にもどりけり ノトベ 麦杜
 坂口は松重りてはなの山 越ノ高岡 馬丈
 嘸な都被のうへに散る桜 青阿
 おもたげに花をつくねてよしの山 龜台
 山下や桜にうづむ賤が家 史甫
 散行とおもへば花の胡蝶哉 之柳
 花守の寢覚床しや破れ窓 東河
 山ざくら桜に付て咲にけり 那古 大酉
 昼前や桜見て来るわらは病 里泊
 分入て琴柱拾ひぬはなの山 麦秀
 二階から杯投るさくらかな 友卦
 恐しうのぞけば溪の桜かな 分路
 柴人に顔みしらるゝ花見哉 李芳
 花の山もどりは道を忘たり 烏川

深山路や藤橋つたふ桜がり 山喜
 酔さめて見る時桜散にけり 白老
 花の雨五尺に結ぶいほりかな 如友
 なよ竹にすれてこぼるゝ桜哉 二翼
 花山や花に心の飛まどひ 明神浦 磯仙
 詠入てかなしきほどに暮の花 城端 而章
 汐風になれて花咲く浦輪哉 亞三
 散る花に睡を覆ふ被かな 呉晁
 山門の音や桜の朝ぼらけ 文江
 山寺の桜にくゝる御手の糸 嵐艾
 花手折人に寄添ふ雅かな 卜史
 小座敷や宗和折敷に花の影 巨山
 花の雲もろこし舟も渡りけり 嵩平
 音羽山の嵐はきのふ今日の花 杜市
 のぼるともおぼえぬ道や花の山 富山 花来
 初花に足駄ゆるさぬ門の内 今石動 文亀
 鳥山の松に暮初む桜かな 高岡 楚吟
 世は桜人を饗す網代笠 久々湊 湖龍
 九重の味のつくまで花見哉 生地 士沈
 枕高ふ寝る代の上に桜かな 氷見 杜明
 只の木に馬を繫で桜かな 素秀
 遠山や月の上なる花曇り 林亭
 みのむしの桜にすがる雨気哉 馬十
 渡月橋
 散る花や月と橋との中に落る 芸州 凡十
 雨晴や雲に継足す山桜 御手洗 淡水
 花守の我世にもどる風かな 南枝
 芳野への道聞人や花の友 川尻 東升
 六尺の花につかえる天窓哉 小方 可友
 髪結て翌の花まつ心かな 豊後 山離

山里の朧気もなき桜かな 房イソムラ 楚流
 中／＼に弥生の空や花曇り 倭風
 花に心移せば近き外山哉 英
 翌／＼と誘合たるさくらかな きん
 花の山翌の近道見て置ん 知水
 遠山や花の霞の猶ゆかし 紅枝
 花の本に田螺も売や隅田堤 梅岐
 散行ば散来る花の風かな 路翠
 思寄す花に行也遊さき 此君
 散かゝる花より牛の細目哉 江ノ水口 潮花
 長閑さや座当うかれて花に泣 土山 月窓
 酒取にもどる人あり初桜 七条 其道
 一日見て跡参らせんはつ桜 尔流
 散さくら二王の腕につもりけり 辻村 約我
 花霞山動くかと思えにけり シノハラ 暁宇
 雨風や花散る筋の生嘆き 守山 李明
 花さくら千代の古道ぬかり道 二保 思赴斗
 柴舟に散込む志賀の桜かな 江頭 吟水
 花に暮る人な咎そ市もどり カタ、未角
 咲揃ふさくらが本の花曇り 草津 月桂
 岩窟の花や哀に雉子の声 北湖南 湖龍
 花七日我に二日の隙もなし 舟木 圓丈
 迎も散る風も花の景色哉 西湖大留 瑤雀
 夜を行や花に背おひし筑紫琴 柏由
 香や洩れん朝日に絞る花の露 石部 亀渕
 我は花に酔ふてうかれし乱哉 守山 花橋
 踏めて草なかりけり花の下 江東 霞川
 散る花に無明の酔は醒にけり 杉江僧 素風
 花の中にするとき門の二王哉 水口 梨風
 けふもまた一人は医師よ花の連 湖東 烏月

炭負ふた人に問けり初ざくら 江ノ山上村 鷺橋

制札や花に余情のいやまさる 草津山寺 玉水

野はづれや花にとゞきし世の人氣 来石

九重や花に日頃の曇りなき 可能

目うつりや花を行過往かへる 辻村 多洗

凋むまで花見て御座る仏かな 蓮車

紙むすび是も名の有桜かな 江東 有隣

花の香の交る火繩の匂ひ哉 来小人

谷ぐは埋がごとし山ざくら このめ

山賤の袖へ吹込むさくら哉 狂笑

初ざくら樺も浅黄もなかりけり 武江戸 菊明

山ざくら蝦夷を去事一百里 行脚 瓜坊

さくら咲て艶にしかる、重哉 カツ つよ

興に折や花にのぼりし肩車 武本庄 一馬

北嵯峨や花の盛の鐘供養 みつ

日を送る深山ざくらに世棄人 双鳥

散初て散る日も花の五七日 李明

仁和寺や人の背たけの花の雨 若ノ小浜 陶河

吉野何我一もとの桜咲き 百馬

散る花や入江の魚の浮つる、 西津 柳只

花散て水甘嗅き谷間かな 巴陵

山高く花の麓の一里塚 漁林

花一本多賀の鳥居と咲にけり 古橘

初花を見越して雪の高根哉 鬼雀

花の香と我と残りぬよるの山 備中笠岡 文里

磯山や船にながむる朝のはな 備後福山 李朝

いと桜糸にみだれてちる日哉 田房 古声

花咲てあかるき山路くかな 知風

散る花の嵐にうつる姿哉 斗外

滝壺に凄さわする、桜かな 備前岡山 子坤

吟ふや花にうか／＼二里三里 丹後河守 沙鷗

外堀や桜散夜の水黒き 橋立 裸木

世わたりや花におほれぬ薪取 南紀 横馬

庭の花見る人も我守も我 河守 梅居

来るも／＼男也けり山ざくら 如曉

伐れたる枝もつ／＼山桜 無諍

花の山や桜の山や人の嘘や 丹波 洞々

独見る物あはれさよ山ざくら 可休

来て見ればふもとに雲や吉野山 東岐

手折らせぬ人の誠やちる桜 河内星田 田毛

見よがしに女房連けん花の山 ツシマ 孚湫

寺あればいにしへの桜哉 石ノ銀山 臥山

松さくら風二筋に分りけり 遠ノハマ松 白略

花の山松は色より暮にけり 撰ノ兵庫 岩苔

花守よ樹を抱て泣か行春に 阿ノ福島 蓼花

乞食に近よる花の鴉かな 但馬 因山

花さくら是なん不死の薬也 讃州 如竹

日ざかりや花の中道人に酔 志鳥羽 蒼梧

人散て我は可笑き花見哉 紀みなべ 梅旭

散かけて花のいざよふ夕かな 尾張 士朗

花に出て齢を松に契りけり 羅城

いとまなき人にも逢ぬ花の中 五周

八重桜夕旦はなかりけり 物載

如月も後の二本を遅ざくら 素外

羅城律師が芳野行脚を思出づ 桂吾

遅ざくら僧は吉野を出つらむ 紀鳳

長閑さや散るさへ花の一重宛 臥央

行越して桜見付る月夜哉

(二六オ)

夜ざくらの奢つもれば朝寝哉 甲州藤田 可都里

初瀬寺や念じて行ばはつ桜 漢甫

休らふて海見る花の余興哉 作良

はつざくら曇らぬもまた風情哉 唐笑

誰をかも松の木の間に遅ざくら 鯉沢 芦船

夕山や桜にちかく押寄る 岷山

夜ざくらや人を誘はる更ぬべし 甲ノ藤田 黒沢坊

桜戸や人を見に出る坊が妻 下毛橋木 尺樹

何人の娘なるらん花の窓 魚尺

花咲て酒の都となりけり 文賀

誰殿の使なるらんはつ桜 文化

夢にさへ桜見る夜と成にけり 野雀

夕月や田毎に曇る花一本 防州上ノ関 百樹

鋸挽も花見に筵とられけり 三尾 宇宙

山深し花より上の水の音 上州境町 専車

下戸ばかり橋わたりけり花戻 西ノ関 龍山

散る日こそ桜の山に暮過る 語山

散る花に鳴さす谷の蛙哉 白質

散る花を追行花のこゝろ有か 播ノ小ノ 君中

花清し庭に一日鳥の跡 沾節

時今ぞ一鞭急げ花の山 花桂

花なれや帰らんとすれば我に散 浪花 尺艾

寺々や都は花に能曇り 不休

抱上て扇に乗せん糸桜 馬仏

なつかしや花に垢つく墨衣 夢明

誰が足の跡ぞ桜の散し上 盛雅

望まれて枝折まどふ桜かな てる

類なや花ちる里にすむ月夜 江涯

(二九オ)

(二八ウ)

(二六ウ)

(二七オ)

(二七ウ)

花さくや扱東大寺西大寺	イタミ	老橋井	寺さびて花の落つく山辺哉	岳肥	(三二オ)	さく花に老がこゝろのいそぎかな	五雲
葉なきうちをさかりや山桜	蒼水		桜さく辻かひもとや古都	沙長			
蝶々やちいさき花を選歩行	貫風		桜かな岩角迄も小袖づれ	必蔵		濃く薄く色重りぬ遠桜	定雅
東路の花みな富士に移るかも	大坂 画涼	(二九ウ)	雨はる、計も花見心かな	楓沙		花咲て鐘を撞さぬ施主もがな	斗雪
ひやり／＼かほに降也夜の花	多武峰 芦雪		活て我ことしも花に逢日哉	杞柳		花やかな浮世につれぬさくらかな	湘夕
夕栄や下戸の面も桜色	如意山 残月		見おくれし人の心や遅ざくら	百鳥		人影もともに散らむ雨のはな	渡牛
飛花落花何れ錦の嵐山	其童		白拍子すがた斜に散さくら	桃之		たそがれとなりて桜の風情哉	柳光
夢のごとし花の上行月の影	城南寺田 秦夫		祖父祖母の小竹筒つめたし遅桜	一峰		雨の夜を薄月影のさくら哉	蒲月
色とめて日暮るゝ花の曇哉	雲裡		山もとや桜にへだつ人の顔	角峰		花二木里を隔てゝ散にけり	薫河
夕がたや花の間を花のちる	良水		花最中水上曇る思ひ有	青芽	(三一ウ)	水に移り兎角さくらの静也	在貫
弓矢すでにおこたる花の夕日哉	城南佐山 馬雪		我まゝに花のしがらみ見る日哉	自来		天狗住と聞て桜の曇り哉	白黛
明の香に桜詠る山路かな	巨口	(三〇オ)	夕月の高くかゝるや遠桜	月峰			
夜あらしのねためる花の朝寝哉	魯長		鶯も人なれにけり山ざくら	杜桂		釈迦堂に傘をまつ花見哉	玄兎
花に口あんがり唾か聲か	八ハタ 古律		いとまなみ夜桜を見る勸哉	呉雪		年々／＼やたえぬ言葉の花供養	土卵
花に酔ふて浅水踏や大井川	麦子		ほのかなる夜の山辺の桜かな	尼得終		花に捨し身の浮瀬や大堰川	幽明
酔て寝る人も有けり桜狩	平水		散花や一くづれつ暮かゝる	不朽		雨の花つら／＼夢のはじめ哉	一照
ほの明石西須磨かけて花曇	ダイゴ 仏大		木のもとへはしり着たり花の山	都雀		散花は情こぼるゝと思ふかな	其成
散らんとす花に子に臥寅に起	八ハタ 斗流					いぎたなき鳥はあるまじ朝桜	浮遊
鯨とれて此年浦の花見哉	蛙方		花問へばあるじは二日うつゝかな	菩山	(三二オ)	日に三たび気色持けり花盛	百池
花の香にしみ込ませぬ骸かな	深草 磯水		鐘の音も沈むや花の春の暮	子衿		花鳥もきなれて咲ぬさくらかな	車蓋
立聞や琵琶打軒の夕桜	サガ 一鳥	(三〇ウ)	袖もけふ斧ふり兼し桜かな	箕山		月の本に暁のさくらの雫哉	嵐月
散る花に心のうつる庵かな	峨乙		花見客花に酔たる人見へず	素文		嵐山黒き羽織にちるさくら	芦涯
馬士諷や駅路の花の咲初る	杏露		柴荊も雲分来るや山ざくら	秋者		日暮らすはいつをはてなる花見人	桃睡
花移る水に浮たる小魚哉	露口		花ざかり人顔うとく見ゆる哉	呂蛤		山住やあたら桜に人ぎらひ	關更
なまなかに散らで難面し雨の花	素供		花のあるうちが花なる山家かな	二雷			(三四オ)
嵐山にて 前書略之			たび人のしばし宿かるさくら哉	何龍		追加	
見くらべど花は芳野の種ながら	如泥		数盃のめどえ酔ぬ花の真盛	羅外	(三二ウ)	下陰や月さへからむ花の暮	上毛宮サキ 朔宇
音聞て見かへる滝や花の山	黛露		遠山や散る花に雲のみだれ寄	古塘		濁ける花にしたふや山根川	評一
衛士のたく火に白妙の桜哉	甘古		花守に見とがめられし白髪かな	貞松		独入て友よぶ谷の桜かな	玉支

八十あまりいける甲斐なる桜哉一ノ宮 羽黄
闇の夜や桜に明て鳴からず 、 尺龍
霽日もる岡辺の花に尾長啼 下仁田 曉鳥
山寺や花吹ちらす古畳 、 江朝
夜桜や油かすりし石灯籠 松井田 松和
散花を梢にまどふ松蘿 田島 南浦
山ざくら(ぼすがとく散にけり 上州前橋 李雪
浦風や桜吹ちるはなれ鳥 女 斗米
山門に酒ゆるせかし花ざかり 杉雪
ちればちる詠ありけり花の山 女 記之
散花に軒の音ぞ無念なる 土卵
おなじ色の桜にけふも暮にけり 輪賀
見るうちは花の主とおもふ哉 四祖
風の桜手をかざせども是非もなき 素同

(三四ウ)

(三五オ)

(三五ウ)

桜さく崖の下みち有やなし 大津 如々
山中や志賀も都も花の雲 井子
あけはつる雲のさかひや山桜 石州日原 万鼓
打はれて咲ものこらぬ桜かな 芳野 可翠
花に一夜桜に一夜有明し 若州 沂山
塩だちに瘦て花見の留守居哉 、 鷺少
朝の花青みの中に一つらね 越中福光 波弓
風絶て花に居眠る僧都哉 筑前直方 君花
捨てたさうき世に花の罪深し 讃州仁保 指馬
雪空はあこがれぬるや雨の花 白羽
花の陰するどき川の水煙り 宗徳
煙たつ空や闇ゆく花の山 満里
一宿枕かさぬるさくらかな 上総長者町 正翠
夕栄や桜に繋ぐ牛の面ヲ 加州 風手
花盛り日なれて川の水増り 、 舟若
散花の朝に床し遅ざくら 、 闌下
桜より暮て縄手の人通り 、 卜舟
守る花や科戸の風の雲を吹 八幡 鯉文
峠にて杖を尋る花見哉 日向美、津 一甫
約束の時刻延るや花戻り 、 可楓
少し酔心できたり花の陰 雨卜
春中の花に破る、衣かな 深草 巴橋
明の香にさくら詠る山路かな 城南 雲坡
幸と世にうとまれて花見かな 、 五牛
柚人に田楽やかす花見かな 備後福山 一声
客ひ事忘る、ころや初桜 信州塩奈田 柯則
京に来てむかししれとや花盛 加賀 龍石
山風や山をはなれてちる桜 宇治 方外
炭火さへ吹やむ花のあるじ哉 淡路溪竹改 黛葉
やすらはで画にうつしけり花の山 河内長尾 路平

(三六オ)

(三六ウ)

(三七オ)

(三七ウ)

花のおく静けき杉の黒みかな 辻村 千鶴
夜ざくらやしばし君まつ絵蠟燭 、 女りき
一えだに花の盛としられけり 洛 舍男
我こゝろもとめ得にけり初桜 越中 測美
山桜かはる詠やみねめぐり サツマ 賀松
明しらむ山の姿や花朧 、 其柳
とくも散る花にしあらば吹風 信州塩名田 文涛
花千本庵に一本のさくらかな 江ノ土山 素風
下臥や花に埋る、人の数 行脚 甫尺
道のほど近さに暮る桜かな 越後十日町 桃路
八重一重花咲うき世ごゝろ哉 ダイゴ 百喃
其ものに付て其ものを
そこなふときけば
曇りなき桜に花のくもりかな 城南大久保 衣翻
名のみ朧月は澄らん あふひ
音ンとれば右方左方の春富て 下方
くつね寄り来るめなもみの原 翻
飯持て汁に行日の初霜は ひ
軍なき世を祖父の匍匐 方
右洛東芭蕉堂花供養之日 於城南栗猥山史明闇
捻香之表
遅来
山畑やひと木立たるおそ桜 甲斐東郡 石牙
声きかぬ鐘をめぐるや夕桜 琴雪
戸を明て桜見てゐる月夜哉 梅夜
火ともせば蛇の声あり夜の花 里塘
此ほどや人に馴たる花の鹿 何鳥
夜に入ば又舍りたきさくらかな 菊児

(三八オ)

(三八ウ)

(三九オ)

桜さく陰に白造る山家かな

燕人

山里や都近まるはなざかり

魚藻

人の来て我も花見るゆふべ哉

春路

世中の望思はず花のかげ

李之

此筋や木樵も通ふ山ざくら

石州日原
義昼

京三条通寺町西江入丁

蕉門書林 菊舎太兵衛梓

(三九ウ)

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

7 寛政五年『花供養』

底本 白鹿本
校異 雲英本

花供養

(表紙・題簽)
(表紙見返し)

枝をならさぬ御代の在がたさ、空
のけしきも心地よなる春ごとに、此
道のしれものら、東山の芭蕉堂に
集りつ、花の会して其くさくを悉
像前によみあげ奉る。はた遠つ
国よりも捧し花、いと若うおかしげなるも、
老てさびたるも、これみな道の恩
を報るたぐひなりければ、ともにかい
あつめて、例のひとつ巻となし、長く
朽ざらんものとなしける。ことしは我此趣を
書べきにあたりけるまゝ、それにしたがふ。

寛政五年春 四山亭嶠水

(一ウ)

所ぐに降花も供養の夕かな 嶠水
蝶鳥帰る遠近の鐘 闌更
一座みな眠り上戸に春たけて 車蓋
かし傘おほくおろし置也 渭川
流さじと船橋なかば切ひらき 龜渕
たふさぎのみに軽き人々 百哺
雲はらふ風ことによき夏の月 斗流

銀燭ふかく御簾か、げたり
たはれたる名や未摘の鼻赤き
豊後介の眉黒く見ゆ

芦涯 古律

(二オ)

いかにせん道をさへぎる雪の竹
汁の狸の友や啼らん

良交 嵐月

門守りに寺の心はなかりけり
腹もたてずに女房出て行

杜桂 白黛

いにしへのかたちばかりに鍋祭り
しなぬ湖水の魚解きつ、

魯長 蛙方

名月にむかひ申せし玉の輿
八束穂選りて盆にのせ置

一峰 百池

手拭に秋の色ある紅粉絞り
鳥居の陰に恋の半面

暮臘 古塘

さそふ水さそはぬ水も花の中
蜂にもなれて蜜をとるとは

桃睡 土卵

雨になを急がぬ春をとくとまり
跟の灸にすくくとなつ

柏由 俚尤

のさものを物にならずとさ、めきて
軍の留主に漏らぬ所なし

志諺 李明

守袋雪隠かくしの枝にかけ
此ころ産し子のはくを着ル

月峰 雲坡

貸してやる箱を開けば昔碗
報恩講の日にあつたつ三つ

鬼薊 尺菊

月晴て雪丸流る、水の底
貢ちかしとなげく鶴飼

箕溪 蓮車

老の身に弁慶島はにげなくて
地どりの宿の柱かたぶく

甫尺 其成

右一順 下略

(三ウ)

花の香のする夜尾上に箭かな 近江水口 蟹州

草臥て嵐きく夜や花もどり 石部 良交

雨後の花ちるとて枝にすがりけり、 龜渕

下枝は何になりしぞ山ざくら 水口 蓮車

志賀の花に東あふみの雉子の声 江西 瑤雀

ちる花の岩にへばりぬ雨の後 守山 李明

散花の中や仁王の紙つぶて 暮一

花手折人の跡追ふ小てふ哉 大津 如龍

なつかしき桜がもとや暮の人 ほしか 桃仙

日は入ぬしばらく花のひがし山 堅田 未角

誰とはぬはつ花得たり垣の外 辻村 女りき

年ごとやかかはらぬ花に我が皺 水口 甚悦

下市や花に水汲む岸もなし 堅田 一之

斧の音しらぬ都のさくら哉 大津 井子

桜見や十日の雨もふらぬあひ 彦城 旭晃

います時これも咲たる桜かな 湖東 桃溪

かさなりし花のちりばや一重宛 民子

遅ざくら廿日の月におもしろき 枉寿

踏れけり桜がもとの墓 泰人

花の山一もとづ、のはやしかな 大塚 吾人

いにしへの桜を今にそなえけり 伴 幽川

花ざかり牛なめて行嵯峨野哉 麦牛

桜木や咲が中にもはなごゝろ 時中

物たらで一つ茶碗や花の下 可計

岩がねの花に酒宴や七むかし 草津 七十翁

眼ざましや森の陰よりも初桜 僧 涼眉

きのふまで酒うる人も花見哉 許一

紙ちらす峰の嵐や花の本 可能

ちる花を化に餌ばみし小魚かな 陶耐

覚束な鸚鵡返しも花の陰 長浜 此得

花白く石のはぎまを流れけり 高宮 江山

(四オ)

(四ウ)

(五オ)

夜ざくらや禁制札に魚の骨

枝旭

夢の花さめて褥も花くさし

周路

書を寄て花に耕谷の寺

江頭村 尾双

おくぶかき花に一步の葉かな

駒井沢 柏由

かゝる日を人のまことや花供養

義仲寺 重厚

初花や人住山のうちくぼみ

加賀 松菊

いざやねん桜払ふに隙もなき

桜嶺

隣むや花に魚飛ぶ山根川

如蘭

柚の子やふりかたぎ来る花の枝

来々

辛崎もしづむや湖の花霞

眠和

花にうかれ羽をうつ蝶の行ゑ哉

舍涼

河舟やものゝ影そふゆふ桜

柳化

花ふかししかたぶく月のうつり哉

菱形

咲たつや桜の中の撞樓堂

綾窓

谷川の水汲上るさくらかな

文几

いたゞきへ行ば外山も桜かな

独子

有明に尋る浅黄ざくらかな

とみ

僧すむといふや桜の隣山

眉山

花色く月に見直すふもとかな

加賀 竹之坊

花の奥松間くよしの野山

本吉 亀選

咲日より花に來倦ぬ人もがな

才川 松華

よし野からふくかあらしの花霞

本吉 つよ

朧氣のぬけたる月や遅ざくら

宮腰 雅石

手折つゝ花を手向ん道すがら

小立野 湖南

桜見や都のうちはよの世界

麦風

反古買う人にや花のはつ便

魯文

鞍つぽに花の散こむ夕かな

一川

鳥の来てもつれもやらず糸桜

其子

かげ高き恵や花の雨雫

金沢 楚流

破垣の柱となりし桜かな

才川 丸交

潜り入くゞり浮花やよし野川

江花

目にたつや花の中なる柿頭巾

雪馬

一本の桜おしみて小みち哉

対山

野路の花犬さへほえぬ月夜哉

阿青

散花や長き門田の土蔵どめ

金城 更々

花に出ぬ日の珍らしくひと日哉

小松 龜上

はつ桜下戸も上戸もなかりけり

故園

温泉へうつる花に春ひゞき哉

朶山

吹まはす桜の中のさくらかな

金沢 兎文

としぐの雪に老てや山ざくら

一杪

ちる花の浪間にうかぶ人魚哉 能登黒島 珠卜

大磯や花に船漕ぐ釣翁

玻井

曙の花に飯喰ふ舟路哉

文朝

驚の子のねぐらを迷ふ桜哉

岐草

花をめづる罪は弥勒もゆるしけり

似休

賓客も琵琶かきあはす花の下

布遊

雨の夜や花盗人の隣から

埜東

朝日さす額に花の雫かな

馬涼

炭竈の崩れ踏けり山ざくら

柳汀

山伏のひとり花見る深山かな

犁邑

鳥さしの罪をくゆるや花の中

都山

かち星や花静なる山かつら

素玉

風絶てたゞよふ水のさくら哉

菱秀

人だちや初桜より遅ざくら

、七尾 暮臘

一本の桜に霞むはたけかな

所之口 其之

松桜塔にのぼりて花の雲

三階 李青

見かけ行花のよし野の入さ哉

、呉曉

(七オ)

雨のはな漸まじろみぬふところ子

田鶴浜 李溪

してかけて弓はる庭の桜かな

、川田 佳超

人去て静まる花のほひ哉

田鶴浜 帰朝

土鍋にもめしたく家や山ざくら

、荅枝

ふり袖に夜の桜のほこり哉

、トル

花の陰に魚のかたまる小川かな

、几嘯

千はやぶる社に高きさくら哉

、文詠

曙やつり船つゞく島の花

、雨卜

眉かきに召るゝ花の台かな

、虫之

雲はしる中にさくらのうねり哉

、剥笑

色くのさくら植けり祢宜の場

女 むゐ

ほそめたる戸口に匂へ夜の花

、みわ

ゆふばへや渦まく水に花の塵

、大牙

見尽や花のゆふべを花の旅

高田 寛風

はつ花や蛛の巣払ふ地藏堂

、曉泉

ねたましや花を踏行磯の砂

吉田 旭山

猪牙漕てしがらむ花のながれけり

赤倉 可成

神の花火とぼす夕人多し

高岡 楚吟

八重山のほひゆかしき桜かな

登都

花の雲ながれて松の曇り哉

川田 乃至

漕出て舟路の遠きさくらかな

タケベ 好古

柚が家の桜は雨の半かな

、五雲

御車のあととづかしな花の本

東馬場 雨柳

あけぼのや雲をわかるゝ花の色

、知一

夜の花に音なき雨のしらみけり

錦川 玉史

ちる花のついてきにけり洗ひ髪

所之口 李月

人ありて夜は火もやす桜かな

ノトベ 麦杜

栗津野や夜雨桜に日も寒し

越中戸出 蚕臥

(二〇オ)

(九オ)

(九オ)

八重花の七重がさねに根山哉、或静
掃よせて世はかり枕ちり桜、玉可
居過して我を恨みん散り桜、牛石
帯解けばばらつく雨の桜哉、幾秋
花のあらし背負て坂の夕哉、松汀
よきほどに顔香らせよ花の雨、桃井
寒き日もぬぐき日もがな花さかり、泊還量
すれあふて花に寝てみん東山、士沈
木像も此比花のにほひかな、公眉
頭陀の身も桜に残る心哉、右明
時しらぬふもとは花の夜明かな、正口
花さかり人はむかしにかわれ共、梅夫
暮おしむ花や朧の山かづら、支
山ざくら咲埋たるふもとかな、百尔
ちる花は散どもくさかり哉、止定
富士の雪雲に隠れて桜かな、奴原
月白く花猶白きゆふべ哉、其蘭
水遠し酒猶遠し山ざくら、市隠
暮やすく覚て花のたどりかな、井波牛雅

(二一ウ)

二日見し山鳥にちるさくらかな、富春
鹿の背に桜を見たり朝朗、玉支
打すさむ鞆鼓の撥にちる桜、許一
花に暮て又去りがたき月夜哉、凡二
山里や下りて我家も花のおく、以貫
山寺や膾の中のさくらばな、紀一
晚鐘や明日ゆく花のみ寺より、一宮羽黄
月落て星の光にさくら哉、尺龍
朝霞さくらとなるや向ふ島、松井田松和
夕栄や少し風有て花の散、下仁田曉鳥
名残ある花を斜に裏日さす、田島南浦

(二二ウ)

花さくやしるし曲の夜の門、白選
蝶くも人もしたふて花供養、上毛厩橋連室沢 兎了
うき事も忘る、花の旅路哉、沼田亥屋 素喝
同じ世にあらば都ぞ花の山、平出 柳歌
咲につけ散につけ花の面白し、桐生町 素陰
建つくや花の山路のかし座敷、菊夢
ながめやる顔へひらりと花散ぬ、まやはし町 退輪
磯山や花咲中のしほ曇り、素太
雲岫をはなれて花に極りぬ、素舟
揃ふたる顔美しやさくら花、径処
さく花に風つ、がなく吹にけり、素同
けふはまだ延て置れぬ桜かな、四祖
山寺や桜につく鐘の声、輪賀
咲ごとになれて老木の桜哉、李雪
ひれふるや花散籠の鯛ひらめ、土卵
人びとにえ、り都の花盛、米砂
散かゝるさくらが本のまだら牛、下毛助戸 嗽石
生ぐさき風の香きえて磯の花、足利 利井

(二四ウ)

濁江や岸の桜になよし飛、放生津 二翼
山ざくらもどりは流れづたひかな、魚龍
米くはぬ僧都住けり花のおく、白老
静さや花のゆふべの僧一人、麦秀
むかししのぶ花の主のみさほ哉、明神浦 磯仙
桜また花裏がちに見ゆるかな、越後高田 竹茂
煤けたる扇をさして花見哉、十日町 桃路

(二一ウ)

曙の花見るに燃さす篝かな、助戸 一贅
綻織る花のおくなる天の川、柴駅 南楼
しら雲のかゝり所や山ざくら、靱負河屋 雨夕
山ざくら一えだづ、の雲の間、柴駅 湖風
野桜や青草まばら踏しあと、薬町 秀和
遠方の山白く見ゆ花ざかり、新河岸 鶏秀
花に寝てすでに山居の心地せり、境町 専車
おもひ入山もさくらにさくら人、坂本 三千国
牛に乗に花の中行日より哉、笑魚
夜ざくらや朧ことなる明の月、粉川 民化

(二三ウ)

いとさくら乱ては又二さかり、奥州ツガル 呉江
踏かねて立休らひぬ花の道、燕児
人里は暮ても花に鳥の声、金桃
月落て桜が本のうすあかり、弘前 春潮
咲みつる下に二葉の桜かな、勢久
夜ざくら霞ほのめく月の色、桃仙
十分のさくらに風のふく日哉、草夫
朝ざくら神馬の瘦のものさびし、黒石 子尚
散る花やつるべにあがる雨の跡、亀文
帰る時になつて桜の山ふかし、富之

(二五ウ)

探りてもまがはぬ色のさくら哉、盲人 乙外

世わたりの仏織なり花の陰、梅中

花守の花を見てゐる月夜哉、梅成

散花や鱗や筏やよしの川、合浦 宦応

世にうとき心を花に定けり、南部花巻 鶏路

此心夢にや入らん山ざくら、守中 (一五ウ)

見知たる顔して立てり花の門、史山

花見んと人なき門をた、きけり、浣素

花の雲こゝろ競はす水の末、出羽左沢 露橘

花の道や役の行者も出来心、至徳庵

宮守と豆腐喰けり雨の花、左沢 素風

花咲て千里が浦もさかりかな、秋田六郷 洞々

出嫌らひの人に逢けり遅桜、支由

雲となり雨とはならぬ桜かな、美長 (一六オ)

此心常に持たき花見哉、佳笑

宴果て花もおぼろや長局、衆々房

まだら川も花の流を汲にけり、秋田仙北角間川 杵云

散花やほろ／＼雨の暮て行、馬六

昔鬼住にし所も花ざかり、時習

夜桜に鐘撞坊が嚏かな、武州江戸 菊明

朧に月の石ばしる水、瓜坊

書を右に琴を左に春暮て、眉山 (一六ウ)

きのふもけふも飯蛸を囓、百柿

煤を巢に軒の雀や馴ぬらん、百静

輪をなす煙雲となる迄、左鶴

直宿する身はつれ／＼を中宿り、青奴

牛捨に行て卯の花の暮、正蓮

岡の辺の道も当摩の練供養

いかにや遅き辻占の君

嵐して憎き心のみだれ糸

柜の穂さはる窓の曉

月の弓さす手引手のたび枕

鳩ふく人に三日物いふ

母連て音無山の隠れ住

潮のめたる、小貝一籠

花の浪陽炎車す、むらむ

袖ひるがへす東風の狩衣

子に迷ふ猿の通吼うつ、なき

筏繫であがる雪空

此あたり酒は富士見の名にも似ず

隣座敷は公事の相談

兄弟の信トを恋の丸びたひ

心のやわら書延る文

福原の松一しきり落葉して

しら雨そ、ぐ塵の瑞籬

藁一手とり来て馬にはませけり

何に替るぞ真柴椎柴

月に茶に身を墨染の板庇

甘干あまた置初る霜

米絶て車休る水の筋

乞食やさしく梳する

それ／＼に浮世のかざりはかなくて

霞にへだつ九重の宮

花の客いつ迄草の起臥に

麦に鶉の面白き比

桜咲てわた入重くなりけり、江戸 瓜坊

坊

明

栖礎

千崖 (一七オ)

秀川

秀孝

坊

明

柿

静

左

奴

蓮 (一七ウ)

観寿

荷菊

花弟

明

坊

寿

礎

静

川 (一八オ)

孝

柿

奴

蓮

笠蘭

筆

瓜坊

たはむる、鳥や散花ふくみあふ、本庄 釣牛 (一八ウ)

紐解し花に障りそ嵐山、青梅 涼宇

谷川や花のためなる橋普請、勅使河原 快馬

影あふげ暗も明るき山ざくら、江戸 済川

散中にちらぬ桜のあはれ也、尋古

花のさかりなき人の今有ならば、匪石

花うれし人に慈悲せし寢覚より、三彦

さればこそこゝらにも住め山桜、貞松

谷深し花より上を風わたる、本庄 双鳥 (一九オ)

鯛洗ふ門外の寺や花盛、素溪

見しあとや花のあたりの捨提、萱牛

雨ばれや花に行とて物忘れ、みつ女

けふは花にとりわけ多し屋敷衆、喜代女

花もどり礼崩れたる女子連、李明

かけはしや廻れば花に日のたける、一馬

影しばし花に事足る潦、小川 為梁

すこしくはまがれるもよし花の道、本庄 万井

ちる花を今朝は茶に汲覧哉、冬抄 (一九ウ)

花の下枝聖かゝんで潜りけり、雪更

木がくれに谷の手がらや遅桜、女 文絹

散花は朧鳥のねぐらかな、江戸 鳥翠

花びらにそだつ様あり初桜、深谷 羅門

笙の声に桜しらけし深山哉、素山

雨雲はのびて桜の曇かな、上総長者町 汀晃

花咲て酒水くさきふもと哉、正翠

酔ざめや我のみ月の桜人、部田村 魚水

花ねたむ女車の出立かな、押目村 山水 (二〇オ)

青空に春かぜは浅黄桜哉、楽中

世やむかしうち守りつゝ花二重 撰津浪花 尺艾

久かたや日の光より花のちる

、 不休

夕暮や人になだれて散桜

、 春茅

人も見ぬ片山桜風そよぐ

、 文屑

浪の音近うなる迄山ざくら

、 蒼水

咲にけり散けり花のあらし山

、 盛雅

ちる花の台にゆるむ嵐かな

、 秀里

夕あらし花守こぶし握りけり

、 江涯

遠島や船より上を花のなみ

淡路 黛朶

左遷の歌もやあらん島の花

東槩

山人の袷をかけしさくらかな 讀岐笠井 芝峰

西行を夢にまつ山花ざかり

大野 三千雄 (二六オ)

宿とりて朝な夕な花見哉

播州鹿古 玉屑

炭竈といふもの見たり桜狩

小野 君中

迷ひ子の行糸や岨に山ざくら

、 沾良

狂へく狂女もひとり花の陰

、 田履

眠さめて迷はぬ桜散日哉

備中倉敷 玉井

咲崩れ花散や我跼座の上

、 芥舟

窓にまだあけぬ夜あかし花の色

笠岡 春千

待人やまたぬ心の山ざくら

女 瀧

来る春の詠にのこせ花の枝

吉岡 象文

我も花になく鶯の仲間かな

、 蓼雄

花ひとつ乗出けりはるの山

、 箏牙

たちねの笑顔を常の花見哉

女 さな

鳥飛んであとにぎはしき花の山

吉備 文谷

桜咲て薄紅みや水のおも

、 守里

花のあした心にかゝる雲もなし 倉敷 無涯

手向ばや山は其まゝ花供養

(二七オ)

梅のうた花に吟る童かな

、 玉島 桃佐

しづまりて闇の朧や軒の花

、 桃牛

雪の気もさらで北山ざくら哉

、 桃枝

虻蜂の声あるばかり山ざくら

、 桃丸

峰をこす雲に桜のかぎりかな

、 桃三

歟ついで花見の人を見哉

八重村 文重

其薫りゆかしき花の朽木哉

笠岡 知風

色も香も空に満とや花曇

如水

世くになを茂れる花の手向哉

斗外

月と花の中にあかるきけしき哉

文里

ひこばへの花に本木の雫哉 備後三原 梨陰

妻木櫓はこぶ女や花のおく

、 五沖

夕ざくら夜をも思ひは捨ね共

、 士芝

ちる花を岩にかぶせて水ぞ行

、 何笠

静さや浅黄桜の朝ほらけ

、 府中 可卜

ちりがての花こそ花の夕べかな

、 明々

花にねる鳥を羨む夕かな

福山 一声

花咲て名をなのらす山家哉

、 醉楓

おしめども散ありてこそ桜花

、 鷺汀

百度も手向て見たしさくら花

、 女 花夕

それくの花に煙のたつ日かな

、 南竹

夕和や花のかゝみの水しづか

、 仙魚

花の山もどりは月のしろき哉

、 柳里

初花や山間くぬかり道

福山連 阿翠

花の雲行わたりけり暮の鐘

、 南岳

散かゝる花のにほひや芝むしろ

、 寛志

さく花やもとは一本の恵みより

、 指月

ちる花やわづかな雨も恨なる

、 右汐

草臥て児は寝にけり山ざくら

、 李朔

何某のあと見えけり八重ざくら 安芸川尻 金竟

宵闇やいざぬれてみんな花の雨

、 芳壺

道乾く日和となりてはつ桜

、 東升

律院や花に夕べのかしぎ水

御手洗 芦舟

かた道はから樽さげて花見かな

、 千里

はつ花や去年のまゝ成捨竈

、 柴花

かけ橋は草の古葉やはつ桜

、 萩露

公達の脚ふみ出しぬ山ざくら

、 鳳洲

順礼の指さす軒のさくらかな

、 広島 中

さく花の実を結ぶ間の旅路哉

竹原 竹両

ゆく花に暈も出来つおくの坊

御手洗 五柳

しんくゝと照日や花に眠気さす

小カタ 可友

二三本杉の古木や花の山

周防岐波 羽仙

誰人ぞさくらが軒の雨やどり

、 春郷

ちる花に小鳥いざよふ山辺哉

下津令 明羅

宿かりて我もさくらの主かな

、 安甫

ちる花の本に白髪の眠りけり

山口 蘭台

明日といふ世はなかりけり花の山

、 波光

見てもまた又見てもまた桜かな

、 李蹊

掃目にちり込花の積りけり

、 孤峰

桜よりくだる流の薫り哉

、 孤月

高野山女のしらぬさくらかな

、 鴉跡

ふみまよふはては桜となりけり

、 雨竹

秋津洲に其香伝へて花供養

、 天民

道の恩しるや花にも臍にも、三尾 宇宙
 花曇り夜は隈なきけしき哉 上関 荷涼
 花ざかり柚が住居の捨がたき 変白
 歙のえに鳥遊ばせて花見哉、桜二
 花守に精進日あるぞあはれなる 大海 羽琴
 散花やまだ四五日の春寒き、琴那
 世の中のしる人これや山ざくら 室津 鯨牙
 峰も尾も時を得る日や花供養 長州舟木 蝶巴
 世を捨てさくらにおしき命かな、波月
 遠山や雲の上ちるさくらばな 長田僧 孤甫
 花曇り鶯は何地へ寝に行ぞ 赤間関 羅風
 植し花経り行我を思ふ哉、里山
 酔伏てあしたの桜ながめけり、南江
 松原に下りて寒き花見かな、阿声
 初花やふとおもひ出す一むかし、文賈
 山ざとやかはらぬ花に人ひさし、僧 枕石
 しばらくは山をかたどる桜かな、松雨
 夕暮の風や花見のうしろふく、魚能
 蟹の子等骸乾かすや花の陰、里江
 奥深く分入るさとや花白し、錦翠
 雨晴の名残にあまる桜かな、花来
 都近き花ははやくも乱れけり、比雪
 散る花の陰や立て見居て思ひ、楚柳
 ゑのころのたはれ合けり花の本、文川
 花守となりて世わたる男かな、花暁
 人まれに山ふところのさくら哉、南巢
 花やさくらしらぬたつ木の雲の中、薰里

(三〇ウ)

(三一オ)

(三二ウ)

我事におもふ桜のあらし哉 豊前小倉 南明
 ちる花にことたるさかの月夜哉、南珠
 桜ちるころやましらの人に啼、夏夕
 啄木鳥の音おそろしや花の山 豊後鶴崎 掬泉

(三二オ)

流れくふもとは花のさかりかな 筑前飯塚 竹両
 山ざくら酢茎うる家も出来にけり、舎丁
 紙すきのちらは漣こめ山ざくら、奇峰
 米つきも羽織きて出る花見哉、莞而
 散ばこそ花幾里のながれ哉、士沢

(三二ウ)

山ばなやすそに水ある花の雲 黒崎 其柳
 人絶て散かさくらのゆふ月夜 茶屋原 岡寿
 鐘鞆あとに緋桜貝や岡の花 若宮 石睡
 火とほしの宮司疎し夕ざくら 若宮 石睡

咀かげや散静まつてゆふ桜 武者一騎花に睡る山辺かな 甘木 蘭雨
 風軽し花にこぞるも樽ひとつ 思ひ出は花のあたりの丸寝哉、梅廬
 守人はおろかにも花にかしこまる、帰来
 駕昇のうづくまる花の筵かな 若宮 素釣
 境界を花にうらやむ夕かな、蘭溪
 鶏なかぬ関しまりなや花ざかり 直方 可角

(三三オ)

咲初てすぐに桜のゆふべかな、植木 此原
 空に月花散山のあはれなる、雨萩
 ひやくと釣鐘にちる桜かな、寄来
 うかれ気や今日降雨に花の夢、涼眉
 花の本翁に舞をす、めけり、白移
 桜がり心に水の音遠し、曙川
 花にそふ此かたはらの住家哉、遠子

(三三ウ)

人にうときながれ伝ふて花得たり、何来
 山中やまがへる道も花の中 女たき
 片里や花のみ我をそ、なかつ 秋月僧 芝風

待花に朝夕人の侘るかな、木や瀬 木耳
 花散や天津乙女のきぬの色、花情
 花咲て雨ぎる空をいとひけり 笹田 流志
 花の真色見よとて月の曇哉 肥前諫早 白鷺

(三四ウ)

立寄てふらる、もよし花の雪、孤石
 只ならぬ庵に來たり山ざくら、龜水
 暁の風しらみて飛や山ざくら、玉孚
 夕暮やあやなす花に池曇、左東
 花咲てくもらぬ人の心かな、雨夕
 邑足りや月の前なる明の花、春扨
 笠脱て吹る、花のあらし哉、芳笠
 うち霞みく花の高根かな、若柳
 こ、ろよく濡る、山路や花の雨、霞船
 花活てあそぶも花の供養哉、芦月
 出るにも入るにもうれし花の宿、梅路

(三四ウ)

ちれやちれ散か、る花の名残には、停華
 見かへるや桜を惜み日をおしみ、梅枝
 うつとりと見とる、花の盛哉、悦女
 四辻にさくらを分る日へ嘯哉、春声
 花のえだ思はず折て思ひけり、一興
 小路から軽ひ花見の出立かな、聖兄
 はなの山主たづぬる日暮哉、桃局
 雲つぎならぶさくらの一重哉、霞紅
 夕空や神のさくらの雪と降、青呂

(三五ウ)

百とせの花を替らぬ眺かな

、東律

日比憎む風も猶さら散桜

、起雪

初花のたつきとなりぬ洞の人

、輝白

(三五ウ)

曙やはなの上行むら鴉

、梅江

我庵やどちら向ても山桜

、濃波

明行や松のひまより山ざくら

、文塘

高き屋の御製を題す

煙たつかまどは桜咲にけり

、紅良

桜戸やほそくそよぐ夕あらし

、島原 琪月

笠のひも花に解する山路哉

、文智

(三六オ)

三つの外たれる物あり花の庵

、一壺

ちるまでもやさしき花の梢哉

、竹梁

花の日やあくがる、我に暮かゝる

、神代 春喬

みよし野や護摩の煙に桜散

、呂柏

晴てから桜に雨のひかるかな

、利帆

分入ておくも迷はじ遅ざくら

、画鮮

筆持て何おもふ人ぞ花の中

、島原 陀雲

けふも花のもどりは人に後れたり、

、湖竹

(三六ウ)

ちる花は酒のさめ行心かな

、文士

何ざくら斯さくら終に夕嵐

、肥後八代 文暁

魚は水つばくらは花の日和哉

、遊虎

雨風にすこしはのこる山ざくら

、芦石

谷はらや桜にかゝる橋一つ

、野梅

散るまでと花にかざるや借座敷

、不白

島山やさびし桜のあだ曇り

、柿青

仰向けて笠に受ばや花の雪

、野間新地 竹壺

(三七オ)

花に寝てさむるはおし、夢心

、芦北 蔦路

植たて、花にとみたる小家哉

、求麻 石羊

山陰や水もさくらの色に行

、半橋

檜笠ぬぐや老木のさくら陰

、禹巧

花ざかりま、ならぬ身は家に泣

、李程

雨ならで柳に見越す桜かな

、有之

死さうな人ひとりなき花見哉

、綺石

諫ればまた花折りぬねぢけ人

、異治

(三七ウ)

花で候桜で候の身はづかし

、長峰 連山

其数にぬれて嬉しや花の露

、芳山

名をのせて四方に隣々や花車

、外山

湖水眺望

水満て頂き近し花の雲

、熊本 箕溪

花の香に鳥も手向を啼日哉

、尺菊

僕一人犬を愛する花見哉

、李夕

花ちるや僧なき寺の古瓦

、文山

陀羅尼よむ声に散けり軒の花

、飲露

(三八オ)

月七日花散る風もなかりけり

、残鳥

花のかげとゞろくいざり車哉

、真弓

山城や桜にひゞく弦の音

、田鼠

花なれや雲も奥ある朝朗

、女 千恵

行末を思ひ入けり山ざくら

、嵐松

草敷つ石に憩ひつ花ざかり

、亀令

みな人の顔うゑし花の山

、深里

はつ桜雁みな帰尽しけり

、洗竹

山人にたづねて入るや花の道

、孤蕭

(三八ウ)

花ちらく散るや小鍛冶が窓の先

、甲佐 夢月

月は山端しらむは花の光かな

、義一

連やさくらがもとの石広し

、李関

世の中のさまや散花遅ざくら

、素罷

花むしろおしくもた、む日和哉

、草白

桜散る岨に留たり牛車

、俱山

島の花跡に見やりぬ走り船

、季由

谷ふかく住てかひあり遅桜

、遠流

花の山うき世の外の思ひ有

、女 掟

(三九オ)

人をさす思ひ忘し花の蜂

、女 惟

花うりをしばしとめたり黒格子

、雪花

いとまなき人に見せたり山桜

、孤鶴

雨の暮花にあはれを尽しけり

、橋巴

下枝の冠にかゝるさくらかな

、竹雨

あたゝまる曙の小雨やはつ桜

、丹泉

寝ては夢起ては花の弥生哉

、万が瀬 線川

しら雲の行糸をしらず花の峰

、三冬

手を洗ふ水尋けり花の山

、諸鳩

花の山夢に分入る旅寝かな

、取映

月落て障子さしけり夜半の花

、梨雪

遅ざくら葉がちに見ゆる盛り哉

、松柏

振つゝみならず花見の垂髪哉

、白泉

いさら井や花の影汲む古柄杓

、中山 桂雪

蜘蛛の糸花より花に光りけり

、碧水

小雨晴て朝日に匂ふ桜かな

、文里

遠近の花にも出ず家ざくら

、筵之

幾めぐり下戸はありくぞ花の山

、大津 白川

知る人の日にく増るさくら哉

、琴路

(四〇オ)

きのふまで雪と見しまに桜がり

、化雲

八重一重霞を花の風情かな

、上野 雪枝

侘人も出よ明日なき花の色

、涯州 松島

花雪吹して鳥驚きぬ暮の山、隣遊
 しばらくは目も定まらず山ざくら、鳥霞
 一筋に小道立けり花の山、梅山
 静さは歌よむかたや花の山、山曉
 木の本や仰向顔に桜ちる、錦桃
 花の山うしろに見れば暮にけり、和重
 灯消して猶朧なり峰の花、見鯉
 さくや桜山見る町の朝ぼらけ、波文
 あだなれや桜がもとの物狂ひ、和水
 行過て樵夫にとふや初桜、日向 清井
 花あればこそ此山にうし車、対馬 孚湫
 一さかり花の雪ふるよしの哉、石見 志山
 心地よの鳥のさげや花の中、一洞
 明ほのやそよ／＼風にさくら散、斜長
 けふもまた花にくせあり朝曇、戯遊
 ゆふ虹や花より起て花に入、鳳沖
 花のゆふべみな酔さめし人の顔、九日市 其律
 入相をよそに聞けり三井の花、美作久世 呉竹
 うく花を鯉のなぐさむ淀ミ哉、素牛
 茶の露のめぐむ草あり花の山、女 柳志
 折りたがる子に物かれて花見哉、烏雪
 簀の蝶も飛かもはなの山、女 三蝶
 来る人に花も見えけり花の山、麦丸
 松のみか桜も花の下がり、但馬朝来山ノ麓 寿硯
 来た道のほどの遠さよ花もどり、獅鳴
 咲花に踏さる草や野路山路、鯨石
 散花に髪はらひつ、女子同士、麦雨

炭がまの煙はたえてはつ桜、琪竹
 さなきだにかなしき物を塚の花、春紅
 きのふけふ花にうつれる御法哉、生野 山黛
 諸人や黒きたもとに桜散、涼秀
 ちる花に家鴨ながる、天氣哉 丹波梶原 洞々
 よみ人もしらずぬしあるさくら哉、亀山 全瓦
 散さくら春も廿日を限なる、若州 鬼雀
 花山や人になれたるひとつ猿、西津 漁林
 ちる花や米かす女水をせく、雪肆
 大名の花しづかなり堀の内、烏友
 丈六の仏薄暮てさくら散、鷺少
 雲の上にのぼるや花のよしの山、紀州僧 枕石
 今日を花小雨くらゐに人さらず、城州八はた 斗流
 けふもの、雲にもほえず君が花、蛙方
 御舎垣に奇なく日や桜ふる、鯉文
 まぼろしや花の名所めにわたる、古律
 押ひらく襟へさくらの散にけり、城南 五牛
 花いづこ岩うつ波にまどふたり、子邨
 花ざかり雨の香もゆるひるのつじ、雲坡
 祝部が花散やどを鎮華、魯長
 岸の花水をあやどる風情有、だいご 百哺
 廻り来しむかししたふや花の山、さが 峨乙
 玉の緒の夜只さくらにうかれけり、深草 柏葉
 思ひ出て華遠きぞと浮れけり、巴橋
 花高みうしろ望めば杉の風、磯水
 朝かげや花の下枝鳥つたふ、洛 菩山

夜の花や人顔うつるすり火打、稲瀨
 花に行こ、ろ／＼や西ひがし、虹光
 花守をきけば高位の酒宴哉、渭川
 常に見ぬ雲井の花も隣かな、長厚
 花の枝折出ればぬくき月夜哉、坐笑
 散んとす花の上より雲がしら、楚椿
 花遠し一筋道の都鳥、几岩
 下臥や真上の花は鳥が寝る、紫暁
 桜咲と人申より馬に鞍、玄兎
 子共等も筵敷けり花の陰、杞柳
 花に酔てかりし鼓を枕かな、孤秀
 見るも／＼男ばかりや山ざくら、桃李
 花に花いらかにつゞく東山、馬蓼
 御車の雫受けり雨の花、潮路
 咲つ散つわりなき花のけしき哉、志諺
 琴抱てねぶれる花のあるじ哉、都雀
 都辺や花の中なる仏達、あふひ
 遠山の桜見付る小姓かな、甫尺
 夕日にも花にも青し水の色、俚尤
 踏入らば花に迷はん山のおく、貫子
 嵯峨迄は目ぼしの花に浮れけり、五芳
 宿かりて見に行暮の桜かな、在貫
 日比より近まざる花の山辺哉、白黛
 俤のえぼし忍ばし夜の花、不朽
 夕浪に磯山ざくら乱けり、定雅
 花の陰ふところ鏡くもりけり、沙長
 ぬる、気で寝るも興あり花の雨、虎白
 はつかづ、酒買庵の花見哉、芦蝶
 明くれにたゞ花を守無筆哉、桂舟
 いたづらに過してけふの花見哉、凌冬

くれがたや花の座敷のとりまたじ

槐路

其中に花紅葉して散さくらかな

素六

虹消て花の雲覆ふ野中哉

吟賀

太刀はきし衆徒何事ぞ山桜

砂文

(四五ウ)

花ちりて雲のみのこる夕かな

明川

夜桜や足にかゝりしから財布

在京 郭天

岩はなに上見ぬ鷺や桜散

青路

酔ざめや狼送る夜の花

梵外

大寺や花にゆるさぬ門も有

葛谷

亀うりも来にけり池のさくら花

寒河

むら君とよばるゝ花の主かな

月湖

狩暮て華に臥猪の山ふかし

泥尾

つんぼりと花の山見るあした哉

漢水

(四六オ)

桜見る旅や去年の飛鳥山

在京 鬼口

天人もいづや桜の中の町

婆娑

鞭あてゝ花のあらしに追付か

蝸角

ぬれつゝも思ひとまらず雨の花

紫蘭

糸ざくらほどけてうき世心かな

台嵩

又平が画は桃にこそいとざくら

在京 斑山

鐘十日花に文雅のねたみかな

在京 其叟

雛鶴も動く色あり夜の花

、 梨山

(四六ウ)

風なくて匂ひや乱る夜の花

、 素吟

しるしうつ木は横にして花の中

不木

鏡見しあたま成らん花の塵

自来

西東花に二日の日をつもり

二雷

猛者引ば何と教えんさくらかな

光暁

咲たとて只ひとり見る桜かな

女さよ

はつ花やたゝみながらの此小袖

、 つよ

かざし行花おしと思ふ蒼がち

尼得終

興つきて駕籠につけゝる桜哉

嵐月

散る花をひく浪引やいづこ迄

百池

(四七オ)

あかぬ日を花よりそむく移り哉

車蓋

しみぐと花の嵐に寝ぬ夜哉

青阿

遅ざくらちるかなしさは秋の風

以外

百の錢遣ひはたして花見かな

土卵

嵐山終に日暮て花の声

月峰

宵の間や花のしら浪水くらし

一峰

けふと思ふは花ふところに曇けり

古塘

花の香や百とせの今世にみつる

其成

人去て月静なり花の中

芦涯

(四七ウ)

花の中に桜と見ゆる一木かな

桃睡

桜ざかり却て風の光そふ

蘭更

陽炎の眼にたばしるや滝桜 江州辻むら 千鶚

二日来てまだ奥は見ず山桜 勢州龜山 兎秋

一筋に花を心のあゆみかな 行脚 斗醉

朝ざくら行暮人にて有けらし 、 貞天

人はいさ斯までおしき花の暮 、 里栄

蟻のごと這上る見ゆさくら人 石蘭

(四八オ)

山ざくら心届かで暮て行 洛 玄児

袖すれの桜にのこるなさけ哉 あふみ 一蕤

(四八ウ)

京三条通寺町西

御俳諧書林 菊舎太兵衛

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

8 寛政六年『花供養』

底本 竹内本
校異 小林本

花供養

(表紙・題簽)
(表紙見返し)

華の都の花の色々いかでかかずまへ
つくすべけむ。なかにもひがし山の
なかばなる花にならびの林ふかき
芭蕉堂の花供養に天華乱墜の
時来たり。其薫りやすみにみち、
道したふ人のよるべたえず。千々
のくさぐさをとぢあつめ、としごとの
手向となし、かつ四季のながめとなる
めでたき供養なりけりと我輩
はあふぎ侍る。

寛政むつとらのとし

竹堂主人

(一ウ)

あけぼのや花散空の浅みどり
鐘しづかなる蝶鳥の中
春しばしおもひ入べき山買て
刀さす子は旅に居にけり
ぬれ物と見事に書し紙包み
同じ名多き家五六十
月のため始て作る芋なれや
また鹿笛も化にふくらん
秋雨に手習ふ顔の猶よこれ

斗流 蘭更 百池 芦涯 杜桂 月峰 古塘 車蓋 土卵

(二オ)

仏のめしに塵の付たり
恋衣心づくしにぬぎかへて
死ぬ記念を波に引れし
いつしかに楸の陰の穴になり

夏の月夜の風に賑ふ

母親の冤さぬ戸口さしのぞき

厄もの捨る時は来にけり

都とてちらく雪の美しき

歌になるべき伏柴の貧

文字摺の半きえたる綾の裾

夕日を出て見る人のあり

桜咲遠山まゆの雲少し

狐子を守る裏の菜の花

菓子鮎を童のもちし春の風

(一オ)

鐘鐺終りし寺の淋しき

飛越る川を隔て若狭道

背に負ふ猿の枝にすがりつ

村雨の已之刻晴に照返し

立揃たる御柱を見ん

憲清も世を通たる身の安さ

五合の麦の幾日立しぞ

水絶て残る家鴨もくれて遣り

胸かためつ、妻隔て住

片しぐれ色なき樹々は降もせず

石も巖も皆羅漢なり

月かけて深草越る友二人

(二ウ)

魚は見て深く入らし花の人

みな活て桜を出たり芳野山

水口 蟹州 石部 良更

角峰 俚尤

薫河 李山

志諺

貫子

平吞

木貞

其叟

かつみ

巾花

子坤

魯長

歌雄

駟丹

米駒

丁江

旧国

樗堂

一峰

都雀

冠叟

其成

在貫

唐水

巢居

右一巡

(三ウ)

下臥に花の風ひく夜明かな
上臈の花の塵ふくめませ哉
坊が戸をたゝく夜中の桜哉
寝転んで門の花見る奢哉
青空に花ちる竹の風哉
遠かたや奈良茶炊で花供養
日ざかりや軒をはなれぬ花の雲
けふもまた花見て暮す鐘の声
花の会や白雲めぐる双林寺
○
我もけふ花を供養の茶飲連 高宮小栗舎 男
花折く守や機織妻戸先 女ちせ
世に隠れ花に出婆婆の供養哉 七十尼 寿惣
紅ともうつり心ぞ花の露 十二才 いく
紋の蝶を誘ひに来てか花の蝶 十才 野恵
花につれて人中見せん親心 紫石
くちぬ名はたゞ有明の桜かな 日野 曉月
花はまだ根にある枝ぞ春の雪 山上 鷺橋
枝折戸にかけがねはなし留守の花 杉江 素風
たのもしや裏門はみな遅さくら 辻村 女りき
さくら人みどりの髪はそゞりたり 草津 可能
此筋や水に癖なき花の山 篠原 曉宇
山ざくら外は真黒に暮にけり 駒井 沢 柏由
山なりに夜は明にけり花の雲 辻村 千鶴
○
心根や海ながめても花曇 加州金沢 松菊
我あとに花見の続く山路哉 槐路
棟ごしの花はてしなき府中哉 菱歌
たらちめの手をとる花の山路哉 女 英子
しばらくを樽で夢みる花の下 対山

(四オ)

(五オ)

相人なき酒のみくれて散桜

更々

我が馬としらで過けり花の雨

金沢 兎文

○

木のもとや雨もたくめず山桜

金沢 朶山

(五ウ)

金気流る春の岩壺

脇ざしの細身を好む日永にて

槐路

しばしかげろふ盃の月

山

追くぬけて出たる鶏の殻

菊

石の粉たゝく納屋の内場

路

けふも又鰯ばかりの手ぐり網

山

涼しう成て眠気つきけり

執筆

○

楽阿弥の花とやいはん遅さくら

宮之腰 竹之坊

(六オ)

溪陰や忘れし比の遅桜

柏野 麦風

しるべせし池の奥あり花供養

其叟

○

花としぐ人の柔和に薫る哉

馬來

啼声近く巢に帰る鳥

楚流

磯くさき管屋の春に朝寝して

挙遠

かゝりの縄をしめる茶袋

南峰

月の秋何処へもち行起し土

素兄

築崩れたる川上の蔦

朶松

(六ウ)

御所村に打出す碓ゆかしくて

北雁

下略

九重や花につぼめるうす煙り

挙遠

うら風や柳がもとの初ざくら

南峰

花の枝かりやに朝の雫哉

朶松

ことくし桜に長が木戸がまへ

北雁

花の空翌日の天気もみゆる哉

素兄

日の入や花の間く人の声

楚流

○

よく咲て心ぐるしき桜かな

車大

しら雲のさくらにつゞく尾上哉

世涼

雨雲や桜見たらぬ峰の坊

季風

並松のとぎれに旅家の桜かな

我々

○

草臥ておもひ捨けり夜の花

能登黒鳥 玳卜

山の尾長く打霞む軒

麦秀

色うすき雲丹一壺に春闌て

素玉

膠細工の人の耳とき

玻井

かたむきし月の芒に風起

文朝

稀に虎伏露の岩もと

柳汀

亡人の魂をしたふて庵結び

都山

うきに曇るか夜半の灯

錦川 玉史

中空を鳴行雨後の子規

布遊

つゞきノ丘の若葉ひたうつ

朶邑

糸買の細きもと手を奪れて

館分 岐草

子の目のさめる宿の暁

馬涼

水瓶にきよくもうつる月寒

秀

雪になだれし寒竹を伐

ト

をのくも小社詣での塗木履

井

猪頭に見ゆる守影が妹

玉

うつろひしふた本梅や匂ふらん

汀

酢桶干たる陽炎の中

朝

蛙啼井出の流に身を寄て

史

濃き墨染の衣ぬはる、

遊

暑き日に洪の香のする挟箱

邑

松や榎にくらき片町

山

寝つ起つ髪もおどろの狐付

涼

(七オ)

瓢たがへてうつゝなるさま
海あれて小浪のかゝる障子越
宵の千鳥に百々の詩

草 卜 秀

酒を酌みつの笑ひの別路に

玉

石に樗の実の盈れけり

井

鶴はしの鋏を尋る月の前

朝

下部の多き左衛門が秋

汀

一の戸の馬の使に馬に乗

山

川のすそより黒雲のたつ

史

傘のあぶらも引ずならべ置

遊

ひさしのさきのぬか蜂を追

邑

咲うはる花に童の打交り

草

空しづかなる閨如月

筆

○

花にめでる心覆ふや朝曇

馬涼

花もどり常にさへうかれ女かな

文朝

手のひらに花くふ虫を這せけり

都山

ぬれかへる時雨さくらの夕哉

布遊

あり明の桜に騒ぐ鳥かな

玻井

花の雨知らぬ庵の情かな

素玉

山遠く松を見こしのさくら哉

麦秀

猿狂ふ桜の中の小社哉

柳汀

午時過や花の主の坊が軒

朶邑

此頃や人になれたる花の鹿

玳卜

○

峰たかき花に澄るか天の川

錦川 玉史

朝霜に老木の花のからびけり

館分 岐草

すべり道こらへて行ば桜かな

誕舟

○

散さくら己が眠りを驚かす

三階 呉曉

(一〇オ)

(九ウ)

(九オ)

山水の気を咲こめて桜哉 川田 佳超

桜見て外に見る物なき日哉 、 乃至

花さそふ嵐に鳥の高根哉 田鶴ハマ 李溪

島山や楫の音よりゆふ桜 東馬場 雨柳

花の香やくれて戻りの道遠し 高畠 西枝

花の香に人の出て居る夕哉 曾根 珠翠

○ まくり手の袖にすぎるや花雪吹 道下 青泥

侘住や野に山ざくらみゆる里 能登部 朝々

白がねにかへてかざすや初桜 、 金丸

雲動く花白妙の真上かな 、 麦杜

○ 横鞍に乘行花の麓かな 越中放生津 大西

散花やすべりし髪に付て行 、 麦秀

さくらく咲衰へる年もなし (一一オ)

ものゝふの心もとける桜かな 白老

波だちてわたり絶けり島の花 宜令

駕のわたし越れば花見心哉 二上

世の中の道を付たり山ざくら 大 一

世をいとふ人も交りて桜かな 蟠龍

馬下りて衣紋つくらふ花見哉 歌兆

市よりも多かる人の花見哉 里泊

いも顔の被ぬぎたる花見かな 梧報

人しらで太り過けり山ざくら 星府

○ 二翼 (一一ウ)

比しもや山ざくら戸へ樽ひろひ 高岡 白雪

年々人あたらしき花見哉 福野 如台

初ざくらちる日はことに花見哉 、 三秀

漣やさくら動きて橋むかひ 越中 白麻

そよとふく風も重たしいと桜 女 桃河

片手綱ゆるむ桜の山辺哉 ノカヒ 千友

○ 煤けたる扇をさして花見哉 越後十日町 桃路

都にて花すり衣ほころびぬ 白根 文泰

○ 花踏でねる夜もあらん夜の鶴 上州草津 鷺白

花瓶にやさしよ蝶の額つき 菅菰

蝶いくつ匂ひ尋る花の前 石魚

思ひつゝ寝れば夢に桜咲 柳水

薄月に花さがしみる林かな 魚欄

かり家に毛氈敷て花見哉 許一

花の山しらゝに明て朧ちる 夜雪

花に今うたかたとなる人江哉 七十一翁 葵水

山ざくら雲より上の枝もあれ 涼眉

いく山や霞分行さくら狩 狩宿 淡水

○ 山寺や花見えそめて遠一里 宮崎 朔宇

七枝の角ひろひけり花の山 、 以貫

散花や入日の松に鐘の声 、 富春

凍解や花に下駄はく行もどり 一ノ宮 羽黄

花の暮戸さゝぬ庵の明り哉 、 尺龍

散さくら夕日かすりて鳥の飛 、 戯月

花もどり一里の道の月夜哉 下仁田 曉鳥

磯山の花や帆にちり浪に散 松井田 松和

山桜遠き闇より灯影来る 境町 専車

さくら哉こゝらで草鞋はき替ん 赤堀女 さか

狂者なるべし雨夜の花に小松明 島村 万戸

駒つれて繋ぐ木もなし花の山 駒形 岸苔

消残る雪や岨路の花一木 荒牧 亭祖

忘れては帽子撫けり花の雪 上州本宿 兎豪

○ (一二オ)

春ざれて深山のさくらあらはるゝ、 語山

命うれし今年も花の京上り 、 龍山

○ かくしては友さそはんにはつ桜 マヤハシ 呉川

さかりなる桜に重き寝覚哉 、 素汐

雨後の花零流て色深し 、 素舟

酔さめて夕風寒し花の山 、 素太

有明や花をあるじの二日酔 、 米砂

○ (一四ウ)

花曇梁つたふ昼の鼠かな 蓮沼 似鳩

山ふかみ薄匂ふ花の曇かな 、 萩 蝶冥

花の山遠き花より暮にけり 、 詠婦

昼は朧のさくら香の匂ふ 女屋 一尺

おもしろい道に迷ふや山桜 、 黄口

花の山どちら向ても盛哉 樋越 素栄

棹とめて花の山みるいくて哉 横尾 如泉

おもしろき浜の真砂や花供養 靱負河岸 雨夕

○ (一四ウ)

花雪を瀬して残る月寒し シバ 南楼

山めぐる霞静けしゆふ桜 、 湖嵐

一方は花に明けり檐の闇 一方は花に明けり檐の闇 鶏更

片里も人の来るなり糸桜 、 魚道

灯を含て遠きさくらかな 、 僧 画山

○ 捨がたき世となんしりぬ初桜 奥州ツガル黒石 子尚

よい時に成て降りけり花の雨 李耕 (一五オ)

山ざくらかりに酒うる住居哉 斗山

灯の影や鳥驚て桜ちる 千里

雨はあがり風和してのち桜かな 文興

落る日の高くみえけり山桜 梅中

むづかしと柴の戸たてる桜哉

亀文

桜咲て世話しき宿や八重葎

湖月

花の山火もやす処く哉

斎之

いたづらに過て花みる三十日哉

閑窓

家ひとつ桜に埋む麓かな

嵐水

白雲のさくらにうつる夜明哉

茶川

花のもと久しい人に逢日哉

凡鳥

牛買て花の中行男かな

梅成

しのばれぬ花の時かや大根さく

ツガル 呉江

夜ざくらの猶しづかさや神仏

仙台 鉄船

花の山うしろは杉の曇哉

南部 鶏路

山ざくら奢らぬ嘶聞にけり

出羽湯殿 可筑

花三夜いかでや花の夢もなし

相州赤羽村 飯厨

いそがしや桜に狂ふ我こゝろ

左沢 素風

夕暮や桜にうつる塩やの火

露橘

桜見てさとりし人はいつの誰 武州江戸 泰昌

世の中の人の多さよ山ざくら

風化

はつ花や手折ば雪と消ぬべし

信雅

しばらくは人に山なし山ざくら

鳳声

散捨て尾上の花のしらけたり

金久保 民友

そろく人と人から暮るさくら哉

上高野 蝸牛

花咲や名もなき山に人群る

勅使河原 無塵

出来るや花に茶を売人のひま

快馬

花ありて人はほこらぬ浮世哉

江戸 貞松

軒の花暮に對して鼓うつ

菊明

夢に見しさくらをけふの詠哉

金久保 五毫

桜さかりしかも鐘樓の建かはる

花叶

吹越して浅黄桜の散日かな

粉川 白選

狩衣をかけし古木の桜哉

民化

むら雨や夕山ざくら裏に散

龜岡 笑魚

早乗の駒かけめぐる桜かな

金久保 尔来

隠れ行月にさくらの散日哉

本庄 双鳥

岩踏ば花にはづれん二日月

浙江

さくらく海は夕日のうつり哉

素溪

花守が猿つなぎたる柱かな

李明

月うすく桜に曇る夕かな

安房磯村 倭風

小はら女や花によごれし花雪吹

路翠

ちらく花の顔ふく嵐かな

柳水

里の子のものを拾ひけり花盛

此君

遠山や花の霞の朝まだき

楚流

去年植て今年花のあるじ哉

前原 梅岐

かつらぎや花の雪ふる麓道

貴深

散さくら我玉の緒のながき哉

天津町 路求

月夜ざくら其いにしへを散ればく

省我

曙や花の香みつるうしろ堂

斗十

散ときに旭ざくらと成にけり

露仙

狩人のさくらに闇をもどりけり

思成

しら雲の下り居る園の桜哉

阿丈

魂はとくのぼるべし山ざくら

椀楽

散はなにとけぬ心を思ふかな

清澄山 丁々坊

顔見たし木隠れ月の桜人

甲州藤田 可都里

さくら狩すがにはやきとまり哉

漢甫

日の入てはてを見せけり山ざくら

作良

投橋も花へ真向の直路哉

浅原 真帆良

紙板に桜うつるふ西日かな

市川 唐笑

うすぐれて桜にみゆる人の顔

真須魚

花の香や御階を守る五位の袖

黒沢坊

手向山かけてさくらの匂ひ哉

山寺釈 無名

作り木の中にもしたり桜哉

和石

花咲て人をやどすや峰の茶や

梅林

糸ざくら君が折手にまどひけり

百々 令雨

川曲や花の見所落つかず

飯野 真都良

花のもとや坊主ひたすら世を譏る

平岡 如雪

夜桜に人來よとてや摺火打

小笠原 静菴

岸陰や桜を帶て水清し

真都魚

花うらに風忘れけり松の上

都良尾

夜ざくらやみそか男に似たるあり

小原 石牙

花の蝶へ酒こぼし見る二階かな

信州塩名田 柯則

山川やさくら流て春尽す

文涛

順札やつまみ洗ひも花の滝

文耕

山本や花にさはらぬはだか馬

楚水

しるしらぬ人とふ花の主哉

片倉 崎給

日ゆるみや花の香に啼鳥増る

今岡 胡園

ちる花に服紗ひろげる娘哉

作者不知

夜桜の簀垣に移る矢取哉

下県 元夢

雨の花ぬる、も花のかたみ哉

伯水

散花に夕告鳥の啼音哉

桃思

山寺やさくらをし分薪折る

桜井 盛風

酒売のをれ酔しか夕桜

塚原 家副

夜ざくらや光をそめる絵蠟燭

飯田 蘭二

ちる花の滝も朧や夕日映

、 楚洞

散花の雨したなりにひつきけり

、 僧 忍阿

塵湿て花に日を見る旦かな

信州 巴楼

散花や風より起る人の欲

佐久八幡 燕子

咲やさくら散やさくらに空暮る

一正

夕付日さくらが本のあかり哉

飯田 壺伯

遠山やなかばさくらの一朧

、 蕉雨

○ 一日はうき世の外ぞさくら人

奈良井 李蹊

其まゝに日は暮にけり花の雲

汝忝

松を吹風やさくらの山つゞき

扇之

夕山や松もさくらもはな曇

馬風

けふもまた桜に酔か捨坊主

山曉

ふき昏て誰まつ家ぞ山桜

之彩

ながらへて命むすぶぞ糸桜

初更

山ざくら花から花へ人も来ず

凡林

○ 先ひとつ羅漢出来たり初桜

伊勢御園 幡水

朝なぐうごくは花かあらし山

津 銀俗

花の雲見下す高見峠かな

白子 夏井

負公事の山に桜のほまれ哉

、 宇兆

一夜かる宿の湯風呂や窓の花

四日市 馬曹

○ 石山や石に散こむ夕ざくら

津 座聴

色も香もさこそ心の花供養

神路山 秋屋

花曇天窓の重き朝寝哉

白子 翹車

山ざくら我庵こゝにあらばやな

得車

はやもさけ桜はやさけ庭桜

九才童 還車

はし書略

おほかたはきたなき花見心哉

白子 獲車

未練の詠人酒に酔春

翹車

此弥生あらたに屋根をふきかへて

、

夕暮牛の声ながく吼

獲

三月月はあまり本意なき影なれや

、

雨になりぬと粟かりにいで

翹

閑とりと祭角力にもてはやし

、

例の娘を又なぶらなん

獲

大江山幾野の道と打かこち

、

はれまだになき頃日の空

翹

とらへ得し獣のさまを訴けり

、

医者によばるゝ前の県長

獲

萩植てすゝきも植て月も見て

、

松虫もなき鈴虫もなく

翹

くれがての秋に来てぬる旅衣

、

もの乞よりて人にしかられ

獲

雪ふかき幾野の坊の冬籠

、

里烏吹くる風に群騒ぎ

翹

軍に利ある例いはゝん

獲

はかなくも夫の留主に塩たちて

、

骨にしみたる母のくりごと

翹

怠らず都に米を背負つれ

、

清河原の秋のかげろふ

獲

まだ山は楠ばかりの薄紅葉

、

月の戸たゝく風流雄の友

翹

今様の声よきことは無慙なれ

、

影となる迄などはふれけん

獲

入湯をはやとくゝと進めつゝ

、

初ほとゝぎす我も次てに

翹

呉竹を庵の垣ほに打かけて

、

うときもちかき壁隣ぞよ

獲

大声に吹笛だけのかしましき

、

和尚の髭のさて長き也

翹

かきつめし花の供養のもしほ草

、

長閑き御代の伊勢の浦浪

筆

○ 興満て花を敷寝やひぢ枕

大和郡山 蘭陵

あだなれや高根の花に雲かゝる

女 葵夕

年々ゝや行惜まれて散さくら

笠置之辺 峨乙

色や花心の花はうつろはず

郡山 興花

かたつぶり花に角ふる欲もなし

、 未央

山住や夜風そよぎて花もとむ

、 麦丈

○ 寺ぐゝを呼出す花の手柄かな

河内長尾 路平

ふみ分し道なけねばや初桜

楠葉 一笑

京しらぬ深山桜のあるじ哉

招提村 雪江

精進の日に口をしき花見かな

交野郡づ 古光

夕陽の一重を花のいとゝかな

枯木 李山

石潜る水にも花のにほひかな

星田 田毛

○ 蜂密(マデ)やさればぞ花のよしの山

ナニハ 旧国

舞うたふ世にそむけたり花の寂

、 丁江

終まで花訪ふ人の眉白し

、 画涼

夕ざくら花はみつれど唯淋し

、 巾花

やどりせん先花の人花のころ

、 蜂友

蝶ひとつ花のたもとに入日かな

、 不舟

草の戸をとふて尊し桜人

、 仙処

出入の旦は数あり花の山

、 青鯉

芭蕉堂へ詣て

西行の跡うしなはずさくら哉

桃青堂の垣めばるころ

月夕べ此永き日を居眠て

塙あらそふ鳥そゞろ也

切残す裏の竹山風みだれ

つちくれにほふ夏の雨晴

○

散花や紙屑ひろふ橋の先

椀挽の屑たく軒の桜かな

いづれからくるゝぞ花の東山

桜から夜は明にけり峰の雲

花咲日ちる日の暦ほしき哉

行春の手向に山のさくらかな

花を一丁目真黒きかねの鳥居哉

けふのこととめて出たり夕桜

○

花供養花降花も閑なり

ものにいとふ我ならなくに花の暮

花にめで、かまはぬふりや山桜

うかる世にうかるゝ花の盛哉

ぬぎ捨て羽織埋めよちる桜

花ざかり猶水かはん白豆腐

詩に歌にいとなき花の物狂ひ

雨気たえて夕月花をさぐる哉

はなの山わたくし雨のかすり降

月の雨花のあたりを時雨るか

明星の花にしらむや東山

野厠に姫遠まきつ花くれつ

花咲てしだるゝ若木桜哉

花に寝ぬ契か松に夕桜

雲と見し桜に泥る夕雪吹

輩のふもと過けり山ざくら

ちればこそ庭に香もあり花の雪

まよひ子に花をとらせて泣止ぬ

○

遅ざくら淋て尊し三室堂

ながめなき中にながめや雨の花

むつまじく花に連立親子哉

薄ぐれて花を見越の流かな

蝶くゝや花にもゆかで涅槃像

山遠くなりて桜の曇かな

我が影の傾き初つ夜の花

みよし野やまだき桜の山かづら

琴箱を見ればきのふの桜哉

春ごとに見果ぬ花の手向かな

花の日や二年ぶりの人に逢

傾城にあいそ付たり桜狩

行春に花の庭はく御室哉

虹起る尾上や花の夕霞

○

供養の日ふるや誠の花の雨

花ざかり猿に盃投てみむ

雨はれて澄のぼる月の遅桜

山城に大和重ねて花の雲

寺に来て人柄作る花見かな

親二人持て花見し昔哉

来る人の花にたよらぬ袖もなし

風の沙汰しばらく絶て遅桜

此頃や行もかへるも花見人

網野村 仙僕

琴弾浦 北洋

ハリマ北条 嵐芝

小野 沾節

、 君中

但州生野 涼秀

、 倉敷 井角

作州久世 麦丸

、 其綾

孤鴻

富雪

籬北

石州銀山片山 其夢

、 大森 臥山

佐和谷 眠人

因原村 志山

備前岡山 子坤

備中倉敷 玉井

、 寄人

阿波徳島 枝舟

徳島連

サヌキ仁保 指馬

高谷僧 三志

予州西条 梅里

備後福山 李朝

、 雄芝

長門厚狭 羽翔

、 文尚

舟木 梅梢

、 桃雫

木食の山しづかなり遅ざくら

夕ぐれは花にとゞまるあらし哉

○

雲下りて花にくはゝる夕哉

鳥の糞もつけてし花見車哉

散花を空へとさそふ嵐かな

ちる花を魚の噴く風情哉

絶もせで花にまつへり尿かづら

外の色は海のみ花のいつくしま

木の端の榎も花の木陰かな

都にも留主の家あり花の春

京に出て遊ぶにせわし花盛

内外の花も尊し寺の門

山ざとや花散ことを白の唄

はなの中あらはれ出し桜かな

○

深山辺や花にきえ行人の声

ひさぐことしらぬ里あり花の奥

花の香や小鳥の群る日の移り

雲と咲雪と散つゝ花の山

白雲と思ひ入けりさくら狩

時なれや我も供養の桜人

夕風や爪音たえて桜ちる

油せる女の髪や散さくら

○

狩暮てふたゝび迷ふ桜かな

駒とめて里の名とはんはつ桜

詠けり月に桜の黒むまで

花咲や田舎の春も捨られず

咲てちる花なればこそ此色香

高木 可卜

田房 古声

三原 波松

、 墨水

、 逸芳

、 五沖

、 何笠

、 六合

、 古江

、 雨舟

、 可友

、 水唐

、 百樹

、 雄芝

、 羽翔

、 文尚

、 梅梢

、 桃雫

、 仮遊

、 梅月

、 雪鳥

、 波月

、 桃林

、 錦水

、 志高

、 如光

、 不尤

町中やうき世の外の花一本、岐波羽仙
立よれば木の下寒し山桜、春郷
朔日や花ににぎはふ里の者、大海羽琴
三月や名なきさくらの軒に散、琴那
しのびきて友思ひけり夜の花、下津令明羅
花の酒木の下陰に眠らばや、室津鯨牙
はな紙を扇につかふさくら哉、東溪
ちる花の記念にみるや峰の雲、山口無心
鵬の花に居眠る真昼哉、蘭台
夕なぎに老木の花のこぼれけり、波光
風たえて夕日に湧くや花の山、李蹊
春や都人色くの花あそび、芦舟
道くさのなかば青みてはつ桜、巴龍
夕暮や鳥ふくみ飛寺の花、雨竹
等閑に花の雪ふる夕べ哉、桃之
米洗ふ流に花を汲日かな、鴉跡
滝壺に桜ちりこむ詠め哉、鴻南
花の酒幕の外みぬ人も有、孤月
足跡に桜うづもる野寺かな、河柳
磯山や波につらなる花の雲、天民

袋草紙てふ物をひらきて
日のめみぬ風の祝部や花に泣
黄鳥諷ふ松の朝月
幽なる谷の細道雪解て
都に近き酒の味ひ
人足のかはる晦を駕の夢
竹の葉末にかゝる夕雲
○
むべなるやけふ散花の常ならず
長州赤間関 羅風

憎からぬ童や花の雪つぶて
花のふゞき机にゆるむ睡かな
我に吹風なわたりそ花の上
二つ三つ咲ても花のさくら哉
風絶て散をさくらの誠かな
暮て帰る花に浮世の名や立ん
散花の夕暮寒き一重かな
山寺の花に對して眠かな
橋ひとつ渡れば曇る桜哉
思ひ出にさかりの花を狩日哉
盃に散やさくらの何地より
滝水のひゞきに散や山ざくら
月夜にもあらで盛の桜哉
此庵は花を友にや暮すらん
散花を詠る僧のなみだ哉
山川やよどみくの花いかだ
花に来て花より嬉し花の友
うちはらふ袖や花降小雨ふる
分入れば眼くらむ花のふゞき哉
あら樂し老を交へて桜がり
世の中はたゞにさくらの一重哉
などてかく散時花に人なきぞ
○
滝水や雲に散り又花に分
朝淋し不断桜の散残り
石亀の水はなれけり花の本
我さくら客よほどに延かぬる、若松
餅酒の俗を離て花見哉
ぬすまれて感ずる花の主かな
踏こむや花のあらしの亀尾山、黒崎
麦子
里江
花休
指月
芦舟
浪和
市冠
嘉星
松雨
芦盛
名那女
梅童
琴左
浦雪
思言
箕雪
路明
里芳
仙梨
阿声
里山
薰里

筑前飯塚 竹両
、舎丁
、士沢
、若宮
、可十
、文鯉
、其柳
(三三ウ)
(三三オ)
(三三オ)

うす暮や笠に花降現世町
花の山夢はあらしの上を行
分行ば青葉匂ふや花の中
埋むごとく寺は暮けり花の山
谷川や梢は花に水えらむ
○
ざぶくと渡来て花の東山
虚無が家の留主預らん花曇
高まざる浪に散らん磯の花
花の世や所定めぬ初ざくら
日をかさね朝みる花に眠りけり
夜曇や花に心のはこぶとき
硯ほる額に花の光り哉
雲雪と花を呼こそ無念なれ
淀いれよはなものははず島巡り
人去りし跡や桜のちる心
○
桜散てをさまる春の心かな
散かゝる花にまた、く座頭哉
忘れても折な杜の花めぐり
旅人の灸すゆるや花のかげ
傘留て見るに友なき桜かな
朝まふで花汲ながす手水哉
岩はなや波の折くちる桜
夕暮やさくらが本の人よばひ
花に暮月も花から白みけり
さくら狩幸いけふの薄曇
咲さかる花にまばゆき日中哉
半蔀に花吹入る、杜哉
花の雨鶏も聞へぬ宿り哉

、芦屋朝三
、木屋瀬青而
、木耳
、直方可角
、君花
、此原
、寄木
、元二
、白移
、曙川
、遠子
、桃李
、潭月
、蘭丈
、山離
、梅江
、停華
、霞紅
、夏蓼
、娛洞
、梅枝
、春芦
、里石
、女代の
、春向
、一興
、如嬰
、飛音

(三三ウ)
(三三オ)
(三四オ)
(三五ウ)
(三五オ)

岩の花去年の足跡踏にけり、淡波

○

二人見し花にことしは三たり哉、文塘

さくら咲山やさま／＼鳥を聞、梅路

山ひとつたゞ在明のさくら哉、佐賀 交更

散比の人甚し遅ざくら、日向美々津 一甫

きのどくや桜に見する夕日脚、肥後長峰 連山

さめてあれな家土産せん花の酔、芳山

事たりぬ花見るけふの此命、外山

指剪て花の価やむかし人、熊本 飲露

花の日やしらぬ小鳥の打鳴て、亀令

御車やさくらにあらき宿直人、湖東水口 梨風

雨催ひ灯に見んよるのはな、作者不知

よしや世は転ぶ処を花の宿、行脚 丈左坊

桜くれて聞へず成ぬ祢宜が笠、龍尾

東雲や薄花ざくら峰に降、瓜坊

○

雲か花か鐘つく峰の朝朗、サツ出水 春扨

花垣の庄は耕す盛かな、立蘇

寝てもや、花に置く、心哉、阿久根 朝瓜

さくら花散る日は空の曇けり、机翠

さまに來て一夜に花の嵐哉、鹿見島 関叟

○

まだ咲ぬ花にもとゞく心かな、山城八幡 古律

ながめふりて花やにこもる山桜、城南 魯長

山引の舌うるほしぬ花の雲、鬼荊

携ばいとゞ花散る真上より、舍樹

植置しさくら見に行社かな、貞雅

來る人の花にたまらぬ袖もなし、宝珠寺 三志

花の中心すませば匂ふかな、深草 巴橋

花最中斎のあした静なり

○

羽織着て酔はぬ女や花の本、大住 鋤月

関越えて見返れば散さくら哉、子匱

おもしろや月も日もある夕桜、長池 花月

酒にあき花にはたらぬ夕哉、ビハノ庄 鬼笑

山の井も花の案内のひとつ哉、イノヲカ 戸口

散花にいかでか鷹の眼つき、天神森 平水

ちる花にうまく眠れる舍人哉、ト 五牛

○

夜は花に明行花の動き哉、寺田泰夫事 南和

行こせば袖に花ちる木陰哉、雲裡

散か、る花にとりの酒宴哉、良水

前髪のさはる下枝や花のまく、サガ 一鳥

花咲てと、のふ片輪車かな、杏露

塵のうく水は去してやま桜、落口

○

花の色は丸氣に光る入日哉、百池

西山や太秦までは花曇り、嵐月

下り坂や桜の上の昼の月、土卵

夜に入るや桜散つ、酒醒る、渭川

世にたがふ名のみ桜の盛哉、角峰

山陰やさくらにかゝる朝の雲、杜桂

咲と散と花の境や山かつら、平吞

花の香の乱て去ぬ月の前、薰河

花に着し蓑なつかしき夕哉、晨龍

夜の花しづかに床の灯影哉、桃李

月にしのぶ古郷わすれて花見哉、淡雪

淀む江に嵐の花のうき沈み、奥人

照月に一しほ花の詠かな、歌女

磯水庵

尼庚達 (三八ウ)

子匱 (三七オ)

兎毫 絆梅

長池 花月

指月改 虚舟

戸口

江蓼

平水

以菅

五牛

魚泡

南和

志江

雲裡

漢水

良水

玄都

一鳥

二雷

杏露

車蓋

落口

紫曉

百池

甫尺

嵐月

虎白

土卵

尼狸尤

渭川

蛤夢

角峰

貫子

杜桂

木貞

平吞

五芳

薰河

在貫

晨龍

不木

桃李

月峰

淡雪

定雅

奥人

都雀

歌女

斗雪

梅斜

東雲や花の中より顔よ鳥

照月に一しほ花の詠かな

われつ、も花によるべの翁堂

風きて机の上やはな朧

梅斜

東雲や花の中より顔よ鳥

風きて机の上やはな朧

照月に一しほ花の詠かな

われつ、も花によるべの翁堂

山ざくら我もおとなになりけり

梅價

子共等の論語よみけり庵の花

凡二

雫して婀娜なる花の旭哉

大梁

二月やかねてまうせし花誘ふ

杞柳

咲とちる其中よりぞ花供養

其成

森少し神ありてさくら椿哉

白黛

○

花に笛や儀同三司の御齡ひ

長広

寒く明て次第に花の日和哉

唐水

嵐山花も花也のどかなり

以外

花に風酒のみたらぬ日ごとか

古塘

暁や虹もひそみて花の枝

一峰

まだ散らぬ花の匂ひや雨の朝

尼得終

朝ざくら水汲みのぼる尾上哉

米駒

咲花に名高き峰の小寺哉

在京都夕

花ははな情寂寞と成にけり

かつみ

見おろせば日裏の花も盛哉

芦涯

煩悩の犬ひきつれて花見哉

あふひ

いつのとしにかありけん、我も来て

桜に科をおぼせけりと、共に詠め

あひける春の気色にはとかはりに

雨降て科なき花と成にけり

蘭更

追加

伝へしる其俤や花曇り

撮龍

みないとなみを結ぶ糸遊

聞明

蝶くくのけふも野末に集りて

芦江

衣の袖の垣にかゝりし

臥山

月さしてたうとがりける潦

聞明

よはるきぬたにつやの出る汗

撮龍

○

ふり返り古郷見にけり旅の花

芦江

我こ、ろけふは桜にまかせけり

臥山

○

花くれて杖に力のまさりけり

ツシマ

花の雲の上とや妹が生れ里

遠州

狩くれて酔人を花の片荷哉

蓮車

谷川の流れてしるし山桜

洛一虎

暁やきのふの花のあたらしき

芭洛

居ながらに都の花や如意ヶ嶽

大ッ

手折来て置所なき桜かな

ワカサ

夜ざくらや花の木の間の咳払ひ

栗津

○

酔ざめの顔ちる花にふかれけり

南部八戸

朝虹やはつかに花の林より

我文

磯山や一木さくらの夕あかり

卯兮

片泥障うち敷旅の花見哉

信上田

世や花や前鬼が末も只のひと

如玉

君が代や親を負行花の中

玉馬

散さくら人にあきたるけしき哉

洛冬陽

○

雲のぼるかたはらに花咲にけり

近江水口

花の木にのぼるをとむる主哉

雨露

月影を巡りて花の独かな

松露

夜の花人に狂ひし鳥一羽

貫志

花の月曇ながらに明にけり

近江

夜ざくらや処ぐに星の影

桃溪改

麦喰ふて花待里の如月哉

田川

花の雲番ひの鶴を見付たり

洛鸞台

ならはしやさすが嵐に山桜

筑前若宮

白転す先に花散る山路かな

瓜廐

散花や裾はづかしきなら草履

女つる

髪ときて見られに出たり花の山

行脚花鯨

おろくと竹やたはみて花暮る

豊前小倉

ぬし見えぬ夜の車にさくらかな

筑植木

鐘の音や埋もはてぬ夕桜

ナニハ

散花にや、別れたる小蝶哉

文屑

うかくと人に連るや花の中

春茅改

雨の雲ふもとの花にかゝりけり

洛光暁

月と共にながめて行くと山ざくら

稲肥

湯あがりに雨後の桜の詠かな

酒井

色見えて道廻りけりやま桜

林沙

日の中や紅かけし花の枝

湖東水口

夜の花つばさに動くねぐら哉

素水

長閑さや花にうつ、の樽枕

其交

花さくや此山中に下駄のあと

可石

行くと花にとまりの覚悟哉

志摩鳥羽

人につれて名のなきさくら好み哉

伊セ白子

此供養いにしへの花今の花

帯川

花守の棒忘れ行酒宴かな

湖東新城

【校異】白鹿本の本文はここまでで終了。

花に来てうき世心の起るかな

城醍醐

すれ合て散を桜の風情哉

方舟

夜桜や草にそみたる酒匂ふ

奥州

寛政六甲寅三月

京三条通寺町西入

蕉門俳諧書林 菊舎太兵衛寿梓

(裏表紙見返し (四五オ))

(裏表紙)

9 寛政七年『花供養』

底本 白鹿本
備考 『一茶全集』に翻刻がある。

花供養

(表紙・題簽)
(表紙見返し)

花相似たる花供養を、意同じからざる句を
もて、蕉翁の霊前に捧ぐ。もとこれ關更大人、
洛に杖を停めてより、無洩遺冊子を編る
事、重霜十余年、鳥に魚に便りをもと
めて、諸風子閑雅の信を顕し、年々歳々
此挙に預る句々倍に倍せり。年既花雲の
みやびを手向給ひしを句の巻頭にすゑて、
けふや席上の俳諧興に入る事、誠に気楼に
登るがごとく、猶、後年は又、いづれの風流客(一オ)
あらんと、其会其日を待てる人々と共に
此事を約して、爰に筆をさし置のみ

平安 大来堂百池謹書

于時寛政乙卯三月

(一ウ)

桜く我たつ袖の花雲 蜃州
山鳥啼て山ふかき春 關更
裏関は牛も通らぬ永き日に 百哺
塵選る豆を盆に転がす 南峰
月の宿暮ぬうちより用意して 月峰
顔に蜻蛉の行当りたり 淇竹
露残る青物市の跡なれや 芦涯

竹の細工の暖簾洩れ居る
しのばする妹が後を隠しかね
恋のすさびの酒あまき也

沙長 蛇蟄 (二オ)

とりかはす扇に旅の記を書て
むすび捨つる栗の落花

応美

細くと煙の末に雨後の月
舟錢寄る橋本の秋

平吞

遠近に綿打音のかまびすき
御法の松に馬繫ぎ置

白黛

都人のあはれがりつるすまの春
霞の中に入日真向ふ

斗流

鶯の声もしどろに杜の中
葎にからむ為有が軒

杜桂

頼来し多年衣の垢づきぬ
おもへば夢の夜を長居して

木貞

根羽もなき矢を受取し頃日は
木がらし強き越の川音

不才

雪搔のすみかは殊に侘しくて
つぶらといへるものに子の泣

閑都美

ぼくく砂踏路に草臥て
薄月うつる合歓の下陰

魯長 (二ウ)

いつとなくあやしき神を祭来し
絶て名のなき滝にうたれん

五英

雨曇目すがらもの、腥き
いぶせき中に女斉

漢水

藤原の烏帽子の折目世に伝へ
高くもつみし恩賞の米

閑叟

人心坂もいとはず花に寄る
旦を清く鶯の曳声

百池

其成 (三ウ)

花に嵐守夜を八重に明しぬる 江州坊村 蓮車

散花を掃よせちらし散しけり 水口 虎眼

御車の牛も草はむ桜かな 文之

のぼる人の少さく見えて桜山 貫志

花のやどりねられぬ足のほめき哉 一口

合掌の眼にたなびくや花の雲 清川

たはれつ、花に起臥身となりぬ 深川 梅児

恨なよ遅きは土地の山ざくら 八幡 此得

我心なやめる雨のさくら哉 太田 瑤雀

山陰やさくら一木に家ひとつ 篠原 古音

散るや桜なしうち烏帽子斑なる、堅田 千羅

鳥鳴かで山や、深しちる桜 平松女 志宇

夕霞花は朧の渡月橋 万木里 東嶺

蝶ぬれて花に重たき姿哉 堅田 歌雄

花さくや野川流る、子供笛 一之

散過し桜のものとゆふべ哉 籬邑

老らくのむら食しけり花の本 素呈

花にまた田楽焼かすか、り人 吐雲

明樽に活てもどるや山ざくら 守山 李明

花の欲たへてまた寝やけふの雨 坊村 当令

月のさくらまだ落つかぬ鳥羽 上田 無徳

花になる頃やそろに旅ごころ 辻村女 りき

見残して花の嵐や奥の院 春汀

薄雲のたな引空やかはざくら 大塚 吾人

一日は米の飯食て花見哉 岩根 桂石

下戸一人世に拘りて花戻り 古川 一静

山遠し女気のなき花の下 酒人 里童

枝折して桜にあゆむ深山哉 重野

なりはてし身の幸や花の守り 木鬼

石かりも世の思ひ出や山ざくら、立法師村 蓮車

山鳥を追出す犬やさくら狩、大溝 一兆
鋌打の乗物もありさくら狩、武間 眉山
客去て一輪花の散にけり、野田 文山
我庵や問はず語らず山桜、長浜 桃岸
吹入し花の波間や浮御堂、大津 井子
花に寝る腸くされ雨の中、栗津 重厚

(五ウ)

湖の水すみにけり遠ざくら加州金沢 松菊
人の子をいだき上げり花の中、更々

おくふかく花曇けり二尊院、南峰
此上も幸もなし遅ざくら加州 龍湫
飛ぶ鳥や花になれあふ東山、金沢 対山
美しきもの手にふる、桜哉、素后
花鳥や返り見らる、人の情、車大

(六オ)

おもひ入桜が中の忘れ水、金沢 一抄
暮るまで眼の煩惱や花の山、柏野 凌風
うす雲のちら／＼晴て朝桜、方舟
月しづか桜のもとの人薫リ、本吉 左来
月明し花の麓の児ざくら、宮腰 松風
遅ざくら咲や覚ゆる水の味、雅石
あら川や上は一瀬に花曇ル、金沢 凌冬
夕暮や花の上ふく日枝おろし、子風
柴橋を過て桜の曇り哉、蘭吹
ひらかずにたゞ扇もつ花見哉、吾角
ひよ鳥の一群返る桜かな、蘭史
湖近きさくら淋しく詠けり、李下
鳩の声雀の声や花曇り、蒼虬

(六ウ)

夜ざくらや暫眠る松の陰、能州黒島 玳卜
山かげや桜を洩るた、き鉦、柳汀

雲結ぶ山に入けり夕ざくら、都山
眉作る女ありけり軒の花、素玉
船寄る月の汀のさくら哉、文朝
散かゝる賤が膚や夕ざくら、馬涼
いさをしや彼岸日和に花七日、布遊
夜桜やきぶね詣の人に逢、埜東
さくら散麓の闇ぞ恨なる、梨邑
儒者寒く友なき山家桜哉、玻井
呼子鳥花には寝ぬか夜の声、錦川 玉史
我はな見人の花見の疲かな、麦秀
島山や波の間より花見ゆる、陳兆
さくら咲遠山松の曇かな、輪島 柳眉
旅なれや我も花見のかり衣、道下 誕舟
山かげや我に情の遅ざくら、寺口 徂英
花にうかれ暮行鐘の声長し、奇哉
日の入りや磯輪につゞく桜人、良和
はつ桜人等閑に一ト日済、富木 蚊几
外途のほかに明て山桜、桂史
入相に霞のわたる桜かな、僧 梅枝
日のめ見ぬ人の騒ぎや花の山、吐木
杉菜野の駒引もどすさくら哉、柳水
雲おひて見ゆる遠山桜哉、邦明
提灯の貯もあり花の山、二快
ちる花に朝声寒し鉦、道下 青泥
しら雲の我宿近し夕桜、田鶴浜 文路
けふははや少し散けり初桜、川尻 遅逸
雨晴てす、むや花に鳥の声、川田 佳睡
大寺も桜の中や鐘の声、羽坂 文士
白声の坊主見えけり花の山、タケベ 五雲
初霞たな引ひまの花もがな、越中放生津 二翼

(七オ)

花の果見ずに置うか我命、福野八十八歳 列戸
黄鳥も啼止むを忘れ花散日、如台
花に居すごし月をもみてん春の山、三秀
花に迷ふ鳥かしらぬ三日の月、不存
散花に実現なや袖の月、蓮波
灯のしらける花見もどり哉、杜川
はなぎかり松に暮ぬる山家哉、芝僧 魯雲
花の座や乾く間もなき硯水、高岡 壺仙
桜狩とてもやどらむ花の陰、泊士 沈
皆花の月の後光にひらく哉、百尔
花匂ふ薄紅の小袖哉、多胡 魚龍
花の陰にけふしも床し売茶翁、川崎 桃岳
しのばしき都の跡や山ざくら、南越 溪風
夜のはな我より先に小提灯、氷見 馬十

(七ウ)

いぶかしや桜の奥に鶏の声、上毛厩橋 枕岱
乾あみに花散かゝる夕哉、土龍
はかなさは人の上なり花ざかり、女 かな
野社や桜こと木の中に咲、丁峨
先けふはどちらの山の桜見ん、輪賀
あけぼのや花の上なる薄曇、素大
道なくも桜たづねん山ふかみ、麦明
夕月に庭掃花の主かな、亭祖
思ひ切て参らす庭の桜哉、一尺
山越て山見ぬ人やさくら狩、黄口
花咲てまう大切の日和哉、素陰
山の戸や桜に明て人の声、鶯川
良ありて猶珍らしや遅ざくら、素栄
鳥立てさくら一枝散にけり、素閑
へつらはぬ音に思ひ有花の琵琶、土卵

(八オ)

花の果見ずに置うか我命、福野八十八歳 列戸
黄鳥も啼止むを忘れ花散日、如台
花に居すごし月をもみてん春の山、三秀
花に迷ふ鳥かしらぬ三日の月、不存
散花に実現なや袖の月、蓮波
灯のしらける花見もどり哉、杜川
はなぎかり松に暮ぬる山家哉、芝僧 魯雲
花の座や乾く間もなき硯水、高岡 壺仙
桜狩とてもやどらむ花の陰、泊士 沈
皆花の月の後光にひらく哉、百尔
花匂ふ薄紅の小袖哉、多胡 魚龍
花の陰にけふしも床し売茶翁、川崎 桃岳
しのばしき都の跡や山ざくら、南越 溪風
夜のはな我より先に小提灯、氷見 馬十

(九ウ)

(一〇オ)

(八ウ)

余処に打斧に桜の散にけり
、 麦四
わりなしと思ふや花のとり鳥
、 米砂

人の情とぶさの中の花ざくら
、 宮崎 朔宇 (一〇ウ)

花にたらぬ日をこそ競へ桜人

、 以貫
花と雲の間行春の夕鳥
、 富春

桃さけば桜は寺に咲にけり
、 一ノ宮 羽黄

里近し花に琴聞風の暮
、 戯月

花に起花にくれつ、朧月
、 尺龍

鳥取が身がくれ桜さきにけり、下仁田 竹輔

よきほどに松の青みや山桜
、 安中 夢中斎

身に瘤のありとは見えぬ桜哉
、 求我

鉄炮の音心なし山ざくら
、 中宿 佐保 (二一オ)

寺寒し浅黄桜に日のかすり
、 松井田 松和

山ざくらある夜川越す人は誰そ、境町 専車

分入れば曇らぬ空や山桜
、 富岡 有隣

花の林ひろきが中の斧の音
、 島村 万戸

花の陰鐘もひゝかぬ天気哉
、 一ノ宮 沙明

思ひ居れば暫し溜りぬ花ふゞき
、 亞十

朝やけをうしろに花の嵐哉
、 下仁田 曉鳥

夕がてをうつろふ花の小雨哉
、 沢女 沢鷺

湖にかけ桜は花の上にあちる
、 亀丘 笑魚 (二一ウ)

瓶に酒さくらの宿と答けり
、 尾島 官橋

人のあと夜の桜の静まらず
、 太田 掌石

足袋ぬいで見上る花の麓哉
、 本宿 語山

あけぼの、囀は花に寝た鳥か
、 兎豪

朝ひとり見直しに行桜哉
、 龍山

十ばかり家見る里のさくら哉
、 下毛助戸 贅

散花に鳥まだ去らず薄月夜
、 嗽石

白妙や桜にうづむ古寺の春
、 莞尔 (二二オ)

流汲ばさくらや匂ふ芳野川
、 魚有

日闌るや花の中なる鳥の声
、 車丘

水はやし一棹とめん岸の花
、 足利 和井

思ひ入山ざくら戸に留かな
、 栃木 尺樹

初桜弁当もなく見る日哉
、 灯居

行／＼て思はず深山ざくら哉
、 蟠楓

夕栄やいつより山のうす桜
、 暁雨

日下りの鐘恨しや夕桜
、 淡交 (二二ウ)

何処となう山ひとつゝき桜哉
、 奥州仙台 露仙

吹風花や山田のさゝら浪
、 津輕 吳江

雪とまで人なぐさめつ花の果
、 五英

在明にうかれ鳥や花の上
、 八戸 我文

日頃より詭なりぬ花の衆徒
、 瓢馬

欄干に遠山桜惜みけり
、 文翠

ちる花やさすがに暮の嵐山
、 蝶賀

ちればこそ臉にかゝれ夜の花
、 仏平

寝て起て銭なき花の袂哉
、 乙因 (二三オ)

いつもよし酔ざめの水山桜
、 羽州秋田 幽尊

塵うちらはらふ春の膝琴
、 文雄

日とともに鶯の声知らぎて
、 交鴉

月ぞ残れる旅の菅笠
、 梅塙

舟たてし迹か臥たる萩すゝき
、 雄

軒に露置数の貝殻
、 執筆

ことの葉の物になれつる人訪て
、 塙

風折鳥帽子恋にや有らむ
、 尊

折して神の板間に終宵
、 鴉 (二三ウ)

豆腐をとりし雪の棧
、 雄

血に染みし衣をそこらに引散し
、 尊

小櫛に撫る髭の色艶
、 塙

花結ぶ蓮の朝かげ露光る
、 雄

禅坊しんとほとゝぎす啼
、 鴉

夢の世に乳のなき事を歎つ、
、 尊

野老の下を焚たつる也
、 塙

花満て月薫る共うたがはれ
、 尊 (二四オ)

襟の鞆鼓の春に静けき
、 鴉

風遠く薫る桜や檜笠
、 秋田 交鴉

花の山日中の月を見付たり
、 梅塙

馬牽て花の上行山路哉
、 湖山

静なるは花の誠ぞ雨の暮
、 器水

佐保姫のあやとる庭や糸桜
、 女 楓色

花に捨し身は野にも暮山に暮
、 文雄

見し人の思ひ掃てん花の散
、 左沢 素風 (二四ウ)

花の雲心競はす水の末
、 露橘

人なきは人のとがなり山の花
、 武州本庄 双鳥

守宮すくはん水の陽炎
、 李明

帰る雁帰らぬ鳥は妻乞て
、 素溪

老時もりの家いそぎする
、 鳥

鉄気ぬく軒端の鍋に月かゝり
、 明

なかば実になる薺の蔓
、 溪

小大工の笠着て帰る瀬田の露
、 鳥

うなめの吼る隣淋しき
、 明 (二五オ)

月次の百万遍も打忘れ
、 溪

枕にかけん常夏の水
、 鳥

逢坂は松をいのりの種にして
、 明

曲尺譲べき子を育たり
、 溪

かりて行秋の哀の革具足
、 鳥

とつぷり暮て雁の鳴海 明
 手に付し鰯の鱗の月にみへ 溪
 不動参に袷羽織て 鳥 (一五ウ)
 後朝の桜寒しと申候 明
 しのびの小川山吹の歴 溪
 根あがりや鳥さし転ぶ山桜 本庄 双鳥
 日のさすや老木桜の花散て 素溪
 花に寝る鳥あらば花の主哉 李明
 はやく夜の明るも花の光哉、秩父吉田町 周貯
 か、はゆき花白妙に照日哉 如圭
 散花にしづ心なき下部哉 兔遊 (一六オ)
 まはりくもとの桜を詠けり 旧路
 ひとつづゝ我は老けり花の山 二水
 咲花に散や一本の裏表 秀哉
 雨の夢漠に喰せん花盛 芦汐
 斧の音のこだまに高し山桜 曳尾
 花に兩名残の風も思ひなり 宮沢村 文路
 宮雀ふし木桜の巢にぞ鳴 野上町 蘭十
 折かけてゆりやむ花に雨の人 雪鴻
 夜の花匂ひふかきを貰けり 冬鳥 (一六ウ)
 今ははや空もひとつに花の色、三峰山 歌永
 嘶すこと尽て諷ふや桜狩 洗耳
 狩つくしけふは常陰の花に入 楚雲
 寺ひけて老木の桜名を得たり 可南
 家土産や深山さくらの猿亭舶、勅使河原 快馬
 高足の花をぬけたり二日月 黛村 路要
 辻占の札かけ桜さきにけり 金久保 花叶
 なつかしの老や桜にこまがへる 民友
 去ながら月夜桜と暮にけり 五龍 (一七オ)

米貰ふ孝女も見たり山桜 尔来
 酒やめて花にも心やすき哉 梭鳥
 まこと似し雪よ花散る草の庵 江戸 三千彦
 初ざくら感神院の南より 春蟻
 旅の花心のひもの解そめぬ 左鶴
 散はづの花は朝から散にけり 長翠
 初桜桑待里に咲にけり 江戸 貞松
 旅の放下の霞過行 菊明 (一七ウ)
 飯蛸に酔のきく暮を肌ぬぎて 瓜坊
 襖た、かば下りよ鶏 五芳
 乗鞍に月の四方手を結び添 雲和
 たばこの殻の稲妻や待 松
 酒の粕乞食に呉る秋更て 明
 隣の美人髪をろしけり 坊
 琴壳に双ヶ岡を二度通り 芳
 水鶏の昼を雨の乏しき 和
 物書た竹の皮飛ぶひとあらし 松 (一八オ)
 仏をうつす鐘の聞ゆる 明
 月くらき末の磯に船着て 坊
 暮目の絃を何に取られし 芳
 色青き玄蕃が弟二十過 和
 風なき背戸にはこべ焼らん 松
 鷲の柳にも来ず花に居ず 明
 世は陽炎の恋はくせもの 坊
 隠家や命の上に初ざくら 房州 瓜坊 (一八ウ)
 花の陰同じ世にだに小鳥さし 可茹
 遠里の思ひもふかし遅桜 菊二
 見果さで散や暮るや桜人 宇剋

夕月や桜に塔の影法師 平磯 宗拱
 花の雨しみ込岩の匂ひ哉 川戸 松隣
 三芳野や歩行寄間も花の陰 豆州八幡野 買山
 はなは花人にひとしき人もがな 相州猿ヶ島 丈水
 居ながらに梢詠ん花供養 三増 白河
 近よれば音せで月に散桜 甲州下山 幸久 (一九オ)
 忍ぶ夜やあだな桜の顔に散 田鶏
 酔顔のはかりもなき桜かな 直樹
 酒つきて桜しらけし月夜哉 文夔
 中く余情ふくめり遅桜 裏山
 日つもりや見尽しがたき雨の花、台ヶ原 台眠
 女子衆は花見にやりて庭桜 越後十日町 桃路
 朝和や露吸ふ蝶の花誘ふ 荒井 如蘭
 行春も此さくらにはとむべき 飛州高山 千足
 花に蝶桜に人の夕哉 遠州浜松 白輅 (一九ウ)
 あけぼの、月照かへす桜哉 駿州 石蘭
 散花にふところ明る上戸哉 信州塩名田 柯則
 酔臥は誰やらん花の蹊かな 文耕
 花の色今もむかしの小町寺 胡園
 母へ持ぬ桜に罪のあらばあれ 洋水
 花の香に獶獵よる月の汀哉 元夢
 日に殖る桜がもとの出茶や哉 桃思
 咲花に常灯くもる霊屋哉 志考 (二〇オ)
 花に雲心にくも寝てけり 一正
 する墨に花の散込はにふ哉、佐久桜井 心醉
 啞の子のたゞ指して初桜 如仙
 朝露の吹さへうきに散桜 野沢 也是
 あるが中に花見の欲や遠眼鏡、片倉 仙丈
 散浮し桜汲込釣瓶かな 佐久桜井 野秀

雨晴や花の雫のうす青き
ぬしや誰花ちる中の繫馬

、盛風
、佐久文涛

花に花の影うく水の淀ミ哉

、家副

深山たどる葉も花の下枝かな

、崎給

花の露月の静を思ひけり

、発地季広

我が朝の桜にわたる孔雀哉

、飯田蘭二

溪ふかし桜につたふ雲の末

、知足

一とせに我おとろへつ花の主

、以三

酔て猶まことの雲ぞ山桜

、寄三

堀の外や法の車に花の塵

、巴流

城深し桜に虹のたち渡り

、梅好

さく花の下も曇や酒の間

、羽静

夕月やさくらが上の雲元る

、飯田蕉雨

花守の鳥放つなり朝ぼらけ

、壺伯

おもへとや花降かゝる駕の夢

、長瀬可笑

流れ来る花の深山を思ふ哉

、自峰

面白の春のかたみや遅桜

、有声

日ざかりや花散鳩の風白し

、春水

晩鐘をうらむ桜の日和哉

、草戸

ひとつらに咲ぬも風情山ざくら

、三省

花見衆や翁が庵の囃ひ水

、庭山

一しきり人なし花の村つゞき、善光寺猿左

松明ふりて夜川越すあり雨の花

、五什

散さくら此碑と共に埋れん

、柳莊

野や花や家を出るにしくはなし

、希言

山ざくら人なき奥に散終る

、文兆

(二三オ)

此ごろや桜が中の花好み
束のまに千もと咲たつ桜哉

勢州白子 無曲
、神都太貴

山川や花に染つく洗ひ衣

津野田 尚道

都辺や花た、み込舞の袖

、遙江

解て見ん霞の帯や花の山

、知多

被めす御室の桜裾に散

、津吾友

雖だなや花散かゝる造り花

、梅二房

下臥や桜に星の唐にしき

、瓦六

初桜袴のひだもくづれけり

、津部多 万化

酔さめて寝てさへ花が眼にみゆる

、一身田 司朗

浮雲の桜のせ行日和哉

、石薬師 甘谷

一樹く我魂うつす桜かな

、山田 晴山

若もの、腰もたゆみて花の山

尾州城南 梅司

春なれや名のしれぬ木にも花咲ぬ

三州赤坂 像堂

三月の夢さへ花に動きけり

和泉 和榮

花曇晴て桜に入にけり

河州長尾 路平

摺くばむ硯へ散るや児桜

、楠葉 一笑

しかれども其道く遅桜

、一翁

朝ざくら鳥もまだ来ず静也

、招提村 雪江

月はいさ実あけぼの、花の雪

、河西 李山

夜をこめて鳴かも花に鶏の声

和州南都 麦丈

四五日は丹波太郎や山桜

浪花 泊帆

見尽ぬ花にひまなき心かな

、支岳

此供養曇らぬ花の日和哉

、青鯉

花咲てかりに安置す弥陀如来

、撰州伊丹 老橋井

有明のあるかなきかの桜哉

、泉州堺 弓六

人去て暮る間しばし花見哉

、五立

年まして風や薫りぬはな桜 紀州高野山 桂山

(二三ウ)

鳥の花人なつかしき風情哉
面白や朧さだまる花の月

、枕石
、淡州 黛葉

花に寝て夢は胡蝶と成にけり

播州小野 君中

うきも猶空に晴行桜かな

、沾節

ちればそとはいふものはつ桜

、若州能登野 鬼雀

我物にしては短し花の馬場

、若州 黄台

花に来て手よりも口の長き哉

、丹波梶原 洞々

しのばしき桜がもとの烏帽子哉

、丹後官津 白児

ふゞきとも頓て成べし花曇

、下岡村 桃溪

散さぬを手がらに花の姿哉

、網野 壺春

一枝は花見て帰るしるし哉

、福水

うすぐれて花を見越の流かな

、但州生野 文眠

さくら人夕日に騒ぐ御室哉

、義風改 白窟

(二四ウ)

散かゝる桜に水の飴かな

備前岡山子坤改 幽雅

夕ぐれや花に埋る我からだ

、備中倉敷 江曲

しら雲の峰を離てさくら哉

、玉井

神籬や千歳にあまる八重桜

、朱頂

けふぞ翁四方の花見る日成けり

、芥舟

雨となる雲上る山の遅桜

、寄人

仙家尋ていざく花の雲に入らん

、無涯

名にしあふ此山の花も散がてにして

三芳野や月雪もまた見え隠れ

、笠岡 斗外

さくら持し筏の上のわらべ哉

、備後福山 李朝

出ざらひの人にも逢や花の山

、府中 水芽

不掃除もよし散がての花筵

、柳芽

けぶり直き花の麓の夕哉

、明々

長閑さや老も童も花の客

、上下 蝙蝠

汲ほさん此さかづきの花曇

、布野 魚一

(二五オ)

場所に似ぬ発句も出たり山桜、作木 桃之
東雲やしらむ桜に鳥鳴、 楚雲
花ざかり千々物思ふ人あらん、田房 古声
(二五ウ)

遠山の花のあけぼの寢覚哉 石州大森 臥山
大宮やけだかく暮てさくら花、郷津 呂樫
つれなくも日の入がたや散桜、因原 志山
さくら咲日裏の桜風もなし 作州倉敷 井角
花に月たゝならぬ春の夕哉、 孤鴻
雨もよひ今宵ぞ月の薄桜、 其綾
夜ざくらや手折れば鳥の一羽飛、 富雪
(二六オ)

花の庭いとはづかしや旅草履 芸州竹原女 舌向
花むしろ我も胡蝶とならばやな 防州山口 湖流
花守の箒持せし巖哉、香川^マ 宇考
何やらん桜を過て手折人、上ノ関 為充

頃日の山幽なりはつぎくら 伊与西条 冬江
大かたは寝ぬ夜ぞ多き花の比、 湖梅
神ありといふしるしにや森の花、 此涛
すはけふも褥に照るや峰の花、 得雨
(二六ウ)

花守を酔せて手折月夜哉、 鬼洞
誰が情薪にもなして山桜、 其光
杉一本至て高し花の雲、 富彦
吹晴て浅黄ざくらの夜明哉、 千蠶
花の雪朧^レの日脚哉、 梅里
虻蜂の人をもさ、ず花の奥、 斗英

今刺の油加減もゆふ桜、道前 魯川
わるい事は迄きかぬ桜かな、 八龍
(二七オ)

深をして都あり山ざくら、桃洞改 楓国
花守の耳肥しけり宵の雨、今治 卯十
花の雲唐へ行べき日和哉、 車南
宵の雨皆花にして朝ざくら、 卷玉
日の筋の桜まばゆき山路哉 阿州城北 耕夫
空を行人の心や花ざかり 讃州引田 如竹

花咲かぬ木に嵐せよ夕ざくら 筑前直方 君花
ある中に此一谷や遅ざくら、 五雪
散はなや潮たき行厳島、 櫓月
ためしあらばいざや願はん花三十日、 勝野 曙川
散てまた花を筵に寝てもみん、 赤間 郭之
宇都の山植たのも有桜かな、直方 此原
吹上る花や門出る人の声、 桃雫
花もどり何やら寒き川辺哉、 寄木
ある人に折花みせて誘けり、 元二
滝の後一重桜のしろき哉、 甘木 帰来
(二八オ)

皆おなじ夢や桜の影法師、 布館
花に回て思ひよこしまなき日哉、直方 杏華
椎柴に散交りけり称宜が花、 白移
手一合食ふ共奥の花をがな、 秋童
誰なるぞ花の後のた、きがね、 樗舟
野はなべて青が中を桜哉、 古木
花ざかり隣れる松も曇哉、 梢
老にけり花の三世も涙なる、 ひさ
傾城も花にはけふの誠かな、 湍水
咲花にかしこくもみゆ寺男子、 可角
海向ば海にも花の曇哉、若宮 石睡
花守は人の花見る天気かな、 蘭溪
船はやし底行花の雲追へる、 文鯉

名を惜む人や花にもおとしき、若松 可十
母親に訴訟は花のをとり哉、 文之
此神も花の導守るべし、 風壺
さゝれ行水の片瀬や花筏、 芦屋 南枝
花の色地より日のぼる金ケ子原、 朝三
盗れし枝はちいさし夕桜、 宇策
日に埋む谷山桜見て過ぬ、 白志
山ざくら我より先の車跡、 蝶夫
花の暮車大路や人の風、 燕雪
夜ざくらに刀預けて笑けり、 希玉
花の月鳥うつ、の空音哉、飯塚 舎丁
夕ざくらほの^レ見えて石灯笼、 士沢

花の滝濁れるものなかりけり 肥前諫早 孤石
花に行道たしかなり鞍馬山、 雨夕
此春は我身となりて花見哉、 雪士
海原や花を離て雲の影、 五笠
遠近の花にたくみの住居哉、 芳笠
鳥居ふたつ潜るもしらず初桜、 梅路
裏道も不束ならぬ桜かな、 輝白
山村や児手柏に散ざくら、 文塘
千金の宝つたなし山桜、 紅良
人多き中に人あり雨の花、 神代 春喬
何鳥ぞ夜^レ宿るさくら哉、 佐賀 如柳
桜散て着心しまるはだへ哉、 大村 無轍
花の山果やひがしに昼の月、 豊前椎田 有隣
散ざくら鱗交て見えにけり、 田川 蘭丈
梟やさくら月夜の麓寺、 雲水 万井
花に手のとがですぢりもちり哉 日州美々津 吟龍
守神や城の奥なる桜馬場 肥後熊本 飲露

(二九ウ)

花深し廻る日晴の気色そふ

筑島や江を一杯に散桜

散花やものにひかる、身の哀

たまに来て一夜に花の嵐山

、 亀令
対馬 孚湫
(三〇ウ)

時行病をうけぬ離家
見残せる花の噂に春もや、
速くも暮て鳥の鳴止

林 口 花

花一木昔を忍ぶ軒端哉

土佐駒のはなぐしきよ桜がり

冠捨て入にし跡や山ざくら

遠山や花と見るより道急ぐ

散る時を思へば花の桜哉

みの虫や花の梢にふらこ、す

花十日闇にかゝらで散にけり

花に風音なくてさへいをねぬ夜

師の旧庵にて

朝ざくら水汲ことを覚たり

五六町隔りて又花の声

ならび立つ桃よ桜よ像の前

散れ桜大坂もの、首筋へ

桜狩鷗鷺の雛はく山路哉

八重一重花相応の日数哉

木のもとの路は曇らず花の雨

花とのみ我は覚て桜かな

買て見る花と桜や伊勢が家

散さくら丘行人の影うすき

年ぐに顔近付や家ざくら

隠なき花の梢や夜の空

さくら狩道なき暮を惜けり

侘しさも花に興あり荷茶や

啼雛子に花降かゝる岩根哉

風雨もうつくしき花の弥生哉

宮殿のくらきをぬけて花見哉

夕波に磯山ざくらみだれけり

まじろがぬ睡に散や千々の花

、 月窓

江戸 風化

鳳声

一茶坊

、 紗言

梨陰

土芝

何笠

江戸 五芳

百池

嵐月

土卵

蛇蛰

応美

平吞

子言

杞柳

桃李

二雷

壺山

芦翁

寒蓼

杜桂

一峰

あふひ

定雅

月峰

夕山や花に心の入に入ル

細川や花に水うつ裸ぼう

時しなく百花ちらふ裏の園

遅ざくらをそきも末の春辺哉

夜はもの、暁いそげ花に鳥

舞出るや諷ふ此身に散桜

川音を隔て花の曇哉

散らせしとわびつ、花を捧けり

城南木水連

遠山やさくらの上の薄煙

蝶さしまねく玉の檻

客送る笛麗に頼連て

雨の近づく風催ふなり

ありやなき月の行糸の明しらみ

ひらく芙蓉の色浅くみゆ

イめる籬のあれて肌寒き

のこること葉をくり返しつ、

染やらぬ名の流れ行湊川

所ぐに牛市の札

紅粉売の門忍ばしく呼去て

あつしと涙隠す夕月

神風のつもれる塵を払へかし

谷千丈に杉簗たり

堀出せし太刀の主のしたはしく

八幡 斗流

、 古律

城南 魯長

、 鬼荆

寺田 雲裡

城南中村 六山

伏見向島 寛水

醍醐 百哺

天神森 五牛

、 平水

大住 鋤月

天神森 雨林

大住 子邨

飯岡 戸口

長池 花月

林

月

口

水

邨

牛

月

(三オ)

雷鳴て桜ひらけし岩間哉

雉子の声を打返す波

春深く少さき蔵の素建して

竹の筧を埋替る也

落鮎を籠に提行朝の月

すまふ力に乗つぶす馬

脇ざしの小柄とばしる草の露

紙戸へしのお影な移しそ

墨色に引さき文をなつかしみ

起れる雲を詠め返しつ

旅人は駕立て置三島前

鶏に餌蒔て初めの押売

一嵐浅茅にわたる昼の月

秋の哀を白骨の文

胸の霧壮きはわかく打曇

小島隠る、あら波の末

花の日の暮なんとして照返り

今朝をきのふに忘たる春

上毛草津 鷺白

魚 柵

菅 菰

涼 眉

柵

白

眉

菰

柵

眉

白

柵

菰

白

眉

菰

白

筆

蜂あれて屯かへたりさくら人

暮てや、月に成迄桜見し

花守が日和乞せし朝哉

接木せし塩釜桜咲にけり

桜盛山居の叟詩はなきか

散はなやそこにも小家二三軒

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

備三原 梨陰

土芝

何笠

江戸 五芳

百池

嵐月

土卵

蛇蛰

応美

平吞

子言

杞柳

桃李

二雷

壺山

芦翁

寒蓼

杜桂

一峰

あふひ

定雅

月峰

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

(三四ウ)

月に戻る花の林の独法師
又類さくらに月の表かな
花の色の静に見ゆる盛哉
ひとり散る花の木陰の月夜哉
いづちゆく人ぞ花散磯づたひ
さぞ桜鐘に惜まん長楽寺
夕月やさくら流るゝ滝長し
花にあそぶ日は惜まねど暮にけり
米洗ふ谷ひかへたり花の山
曙の花に酒ふくや濃むらさき
新発意の今年も出来つ花の寺
行くゝて檜原となりぬ花の山
行ほどの処が花の都かな
月静さくら静に暮久し
花の山風情あまりてなやましき
さくら咲路縦横の野原哉
殊更に墨染さくら雨の降
絵馬堂や花にそむける童達
袴着て何のついでぞ花の影
朝戸出や桜見る日の握飯
此十日心投うつさくら哉
鳶の輪や曇はなるゝ夕桜
年々ゝやまだ見定めぬ花の色
あれがしの花盗人はなき世哉

閑徒美 光暁 在貫 晨龍 一二三 (三五ウ) 尼 俚尤 得終 不才 古塘 紫曉 都雀 志諺 渡牛 木貞 江蓼 兔毫 凡二 廬雪 芝山 杏露 淋沙 燕淵 泰溪 月居 斗雪 以外 羅外 駟丹

花もどりけふもゆるさぬ乞食哉
花に鳥人のみならず行通ふ
花曇くもりもはてず峰の塔
酒くさき人群来たり夕桜
花に駒大名衆の乗人哉
咲満て此日を曇れ花供養
山里や花の驕に酔菟蕪
さくら戸や誰が長居のぬり枕
雨そぼく桜に今朝の出ぞこなひ
隅くや灯とく庭さくら
さくら咲ふせやの主硯ほる
西山やうしろは暮て散桜
もろこしの花は画に見て庭桜
かさに傘ならべて雨の花見哉
耳にのみふれて桜に暇なみ
花の散のみか塵かは御成門
雲とみる心も花の芳野哉
けふもまたもとの身にして桜散
追加
踏んぱりし二王を過て花見哉
花に酔て心を冷す杉間哉
春遠く見るやさくらの机先
春の心花ちる夜よりからびたり
漢水 松蒼 (三七オ) 蒼山 車莫 芦人 其成 白黛 沙長 南栄 きせ女 (三七ウ) 渭川 米駒 魚泡 楚六 るせ女 長道 芦涯 關更 (三八オ) 浪花 江涯 秀里 采山 丈左坊 天草島牛深興行 心こそ通へ都の花千里 築紫の波も静なる春 化石

風あれ見よ児等窓明て
馬上にすくむ布衣の供風流
傾かぬ月を主の手洗水
露はらくと小笹むら竹
手枕は我がいとまなり山桜
天も花になれりや浮ぶ雲白し
何してぞ僕まだみえぬ山桜
花にさはる程はなたてそ茶の煙
棧や雲の上行花の人
花に行小船に風の吹けふく
花に酔人の眠りや山の隈
踏分る荊が道や山さくら
臙気や花に明行峰の里
ちる花や蝶も交て面白し
栞して入事なかれ山桜
散尽す花に瀬音の絶し哉
酔ざめや花吸ふ鳥も憎からず
人はらふ築地の陰や花ふさき
木曾川の朝も寒し花筏
さくら木の雨より茂る花供養
花の雲夕日かゝりてあはれ也
酔ざめやさくら散来る岩枕
をと白し花の雲間の落滝津
年々ゝにまた新しき桜哉
折そへし桜散する黒木壳
妓王寺にて
咲つ散つ花の行糸や鉦の声
ひよくゝと鳥幽なり山さくら
日のさすや花の間の大はしこ
肥前天草 雪馬 和水 (三八ウ) 金波 雪馬 漱石 漱石 肥前天草 雪馬 和水 (三八ウ) 了砂 雲波 青峨 肚牛 古人 蘇遊 班鳩 豊前小倉 夏夕 信州 忍阿坊 嵯峨 路口 (三九ウ) 伏見 金兎 淡海 柏由 石州佐和 眠人 大坂 如障 蕪城 長州萩 菱可 嵯峨 峨乙 (四〇オ) 羽州能代 紙秋 伏見 礪水

持かゆる杖や左近の花の陰 河州津田 杜撰

折らで帰る人なまめかし山桜 甲州藤田 漢甫

一たびは散て又さく花もがな 、 作良

ちりしほや桜声ある松の上 、 西南湖 樗冠

夕ざくらはぐれ芸者の吹れ居ル 、 浅原 真洞

留主しばし桜咲日にもどる哉 、 南丸

はつ花に人來べきかも下り蛛 藤田 鏡平

吹閉し雲花に散朝日哉 東南湖 政尼

巔や花の上行影法師 、 山之神 鳥語

山ふかし鶯の羽風に散桜 、 市川 唐笑

歳々の花に百里の歩み哉 、 山寺秋 無名

風流士に宿かせ花の東山 、 和石

花の夕あかねさす顔吹れけり 、 李冠

おもしろや花を隔て君と我 、 百々 令雨

月夜よく花の木陰を廻る哉 、 平岡 如雪

午時中や花に居眠る桜人 、 飯野 真都良

山陰や日も悠然と遅桜 、 静良

遠山や過來し花に日の落る 、 小笠原 都良雄

花に來て無筆悲む女あり 、 静管

風あらし二月過て山ざくら 、 藤田 可都里

花守や夜はわたくしの小盃

花最中花見ぬ人の無分別 肥前諫早 梅江

ねよげなる苔の筵や花の下 、 停華

煙太し桜が谷のひとつ家 、 梅枝

ひと日く來て主する桜かな 、 昏芦

子を余多持て花見る奢哉 、 桃局

窓さきやほのかに夜の桜散 、 濃波

春の日の風は花のうき世哉 甲州一町田中 方舟

高盛に花吹か、れ芳野碗 江草津 可能

心のこる花のもどりや暮の鐘 上毛草津 梅枝

世の花は散て今こそ奥之院 、 泉魚

眠がりの朝起うれし花の春 作州弓削 白亀

花の雲たな引かたやひがし山 イセ 恕道

惜からぬ命を花に惜みけり 、 湖幽

鐘つきの天窓の上やちる桜 越後井之岡 清泉

夜を込て桜にしらむ高根哉 信州飯田 菊磨

車井に散やさくらの朝ぼらけ 勢州上田 眠山

山の井は浅し桜に夕付日 芸州甘日市 得雨

こもりくや花に沈める鐘の声 浪花 芦村

山里や花の木陰に白の音 、 美山

大仏に桜散込箭声哉 、 画涼

見上れば誰か見おろす山桜 防州大海 羽琴

山頂や汗かいなぐるさくら人 、 旦 霞尤

花に鳴鳥何くぞ朝付日 、 室津 鯨牙

夕付日花の一重の清きかな 、 陶 楓左

雲折く桜に影の見ゆる哉 、 岐波 春郷

白妙や雨にもくれず桜山 、 和道

岸陰や花踏のぼる雨蛙 、 引野 梅曉

花の間やほのかに響く鈴の音 、 嘉川 錦水

不毛山に花の錦や朝ぼらけ 、 不尤

杳音の御階に近き桜哉 、 志高

炭がまやあれたるま、に散桜 、 小郡 桃林

戯る、穴熊黒し山桜 、 秋月

見返れば晚鐘寒き桜かな 、 花卜

誉たらで科と詠けん桜花 李洞

又といふ春覚東なちる桜 、 山口八十翁 無心

里ふかく何某どの、さくら哉 、 鴻南

曳給ふ裾に静なりちる桜 、 蘭台

風絶てあくまで花の曇けり 、 波光 (四三ウ)

島陰やあぐる白帆に桜ちる 、 鴉跡

夜の花女官の袖に雫せり 、 天民

夕かげや花かすめ行一羽鶴 能州能登部 麦杜

夢想之吟

うへ一重小松にかけて桜かな 、 李応

峰は雲眼の及ぶ花に日の移リ 、 金丸

古寺や花に火とす庭の春 、 朝々

雲白し花吹とちて日の昇ル 長州赤間関 里山

滝凄し斧の柄朽る桜哉 、 花休

散花を追行鴛の番ひ哉 、 里山

潜り出て扱は雪吹の花なりき 、 薫里

一日は人どめもあり花の山 長崎 斗醉

大峰や花に振へば明の雪 江州水口 梨風

絶くも花に名高し吉野山 、 信楽 山鳥

桜咲て松柏木の青き哉 、 田川 ノへ

花にめで、扇をかざす山路哉 能川田 乃至

苔むして花の稀なる古枝哉 城南 貞雅

雨の花巖の角に散にけり 、 孤隣

花さくや戸さ、ぬ庵に高軒 都水

花の雲何地へ杖の曳所 浪速 素柳

ことぐく動がごとし花の山 勢御園 四山

朝なく雲見る山の花重し 、 霰打

花よ月よ人に後れて帰るべし 、 白子 帯川

表六句

宮守の花や囀の夜の音 筑芦屋 白志

(四五オ)

滝に心しのばるゝ月

朝三

浪ひたす春の川原に駒留て

鳥なまぐさき匂ひ成けり

桑の弓納る御代の其中に

涼風わたる軒のなよ竹

花の月寺は曇りてみへざりき

梅ならで東夷も歌ふ花の雲

初花や木樵が里もしたはるゝ

雨の花桜閑に日暮たり

兵者の一筆のこす桜哉

又や見ん花の遅速ぞ頼みなる

夜の花山水赤く人うつる

浮雲や花に吹るゝ蛛の糸

夕照や藻屑が中のさくら貝

色に香にそゞる堪ずや花の雲

山陰の庵もうき世のさくら哉

花咲てむかふが岡の朧哉

世の塵を見失ひけり花曇

花をめづる記

おもへどもく花ほど世の中にめぐゝ

うるはしくゝむがしきものはなかりけり。されば

潘岳は河陽にうゑゝ人丸は吉野山にうかれゝ

これはくゝと口をつぐみゝ咲不言と筆をふるふ。

漢の倭のゝ貴き賤きかぞへかへすなん

めであへりける。かくしもいひならぶるは

月雪のため後めたしとおもはざるには

あらねどゝあら玉の年のひとゝせ十まり

ふた月のうちにゝたぐふべき月なき月にゝたぐふべき花なき花の咲出たるをあひに

あひてゝ今此君が御代にさゝ竹の大宮人ゝ

ものゝふの八十氏人より始て賤しき

賤山がつ迄も物めでしあへる此御代

なればゝ先こそ花はめづべかりけれどゝ

たゞく春はあだし心を我もたず。

おもへどもく

時も時さく花も

花ぞ春の花

勢州とろゝ庵獲車

宵の雨しほるゝ花のあるじ哉

誰が家か桜も最早散すまじ

誰が家か桜も最早散すまじ

跋

東山芭蕉堂像前におゐてゝ

年毎弥生中の二日ゝ弊袍重裳

をゑらばずゝまにく花を奉り

香を炷てゝ正風の高徳を

あふぐことはゝ池子が序に委し

ければゝこゝに記すにあらず。

やつがれも此道にいざといふ人

ありけるよりゝ月に日に志をかさね

けふや連座の末にありながら

花に覆ふ翁の

しづく身にしめむ

斯つたなき一句をさゝげゝ跋に

加ふるものはゝ淡海のかたはらなる

日野の淇竹なりけらし。

京三条通寺町西

蕉門書林 菊舎太兵衛

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

10 寛政八年『花供養』

底本 白鹿本
校異 高岡本・某家本

花供養

(表紙・題簽)
(表紙見返し)

東山の花ざかりなる頃、双林樹下の
席上をふさぐに吟声天地に響

きけるにや、猿は桜をかざして

南無庵を繞り、鳥は花を含

んでばせを堂に落つ。嗚呼、

花供養の時なる哉。

寛政丙辰弥生十二日

加賀 蒼虬

(序オ)

百韻一巡

笠ぬぎて遠方の桜を捧ばや

兎仙

戸帳を揚る袖の陽炎

闌更

じがく／＼と鳴つ、蜂の巢に込て

瓜坊

川のうへなる塵塚の塵

子良

ゆきつきつ千里の人の歩にさゝれ

白黛

にぎはへる代の粟給ひけり

月峰

八朔はきのふに移る月細し

百池

露の円座を打かさね置

芦涯

(序ウ)

島守の茶をつたへたる徒然に

土卵

文とり添し鶴の片股

江蓼

花きそふ菖蒲に祭る弓矢神

応美

ひとりの外はみな娘なり

平吞

長持も覃笥も船の通ひよく

楸子ほどく赤石の上

五七年有髪と成て隠れる

わが細工には出来ぬ烏糸覧

更て行月の桂に雲かゝり

夜啼もの、からびたる秋

磐手野の関の生壁身に入て

木履はく日は春も静けき

花散て眠れる亀の背に乾き

種子の俵の口ほどき置

うつし居る赤飯にほふ火のいりて

かざりし馬の軒にいなゝゝ

夕顔の影もゆかりのあればこそ

記念ひろげて泪かけつゝ、

巖端に寄せては帰る沖つ波

翻天堂を松覆ひたり

零落て故郷人に袖しのぶ

紙結びしは誰道のため

あやしくも時雨の中に灯のともれ

雀となりし実方の夢

た、かれて久しく閉る戸を開き

詩よみのむづかしき世や

信濃路の行ゑ定し月の旅

稲葉の果を水の流るゝ

一しきり風に乱れて渡り鳥

障子に朝の火影消行

さかしげに八島の大臣舞納め

はるかにひゞく物をとがむる

年を経し供養の卒都婆文字もなく

紛るゝ路の雪にあまさえ

兎夕

杜桂

桃李

松蒼

北華

古塘

其成

木貞

花縣

不材

亞漢

芹水

羅城

駟丹

騏六

志諺

墨古

紫甲

唇風

破衣

鸞台

南涯

都雀

未物

李明

蒼虬

竿哨

原水

俚尤

古光

楼に誰を呼る声高き

ゑめるに疎き美人成けり

右

鬢つらに八重たつ花のうつり哉

松杉もめでたき花の曇かな

遅ざくら松風青くふく日哉

月と我只しづかなれ夜の花

ちる花やちら／＼月の庭桜

見ぬ花にうかれ／＼寝ぬ夜哉

花に寝ぬ心はなより発りけり

月やあらん花にばせをの光かな

雨の日の花重たげに散にけり

三井寺の花に狂女の沙汰もなし

下嵯峨や葩よどむすて筏

雨雲や来ぬ人憎し家桜

おらすなよ花に手の出る垣隣

朧夜にいとゝ静けし花一本

花の雲上は梵王帝釈天

鳥はいり雲はされども花の本

花曇はれて嵐のうき世哉

是ほども能あてがひや山ざくら

花曇茶屋に取付く山路哉

山ざくら橋投かけて参らせん

山里の煙や花の雲に添ふ

此頃や吉野の花の夢をみる

咲つゞ中に一本の遅ざくら

蝶もあひ似たりといはん花盛

小夜半や嵐に花のすれる音

近よれば寄るほど花の匂ひ哉

、高島 文山

斗流

龍山

(二ウ)

江州水口 蟹州

石部 良交

、 龜瀨

水口 麴令

、 貫之

、 一更

石部 蚌玉

、 阿山

水口 好女

、 大津 井子

カタ、 一枝

、 一之

、 自笑

、 故友

草津 可能

、 月桂

、 桃峰

、 芦調

、 素更

、 東嶺

、 水石

、 山鳥

、 其月

、 古音

、 文山

、 斗流

(三ウ)

けふも花に美しう世を通けり、万木里 北嶺
あしにまかす心のたけや花の山、ハマン 契之
峰は雪麓は霞比良の花、清水鼻 熊谷
遅桜をそくて風にのがれけり、山上 鷺橋
ちらさじと手向る花の一枝哉、紫甲
白きより夜の桜と成にけり、伴ノ谷 当令
不足なき其夕暮を桜哉、大塚 吾人
妙なるや千手千眼山ざくら、八幡 麦花
柴折て有はむや山ざくら、八日市如来村 何楽
羽二重に置手拭やさくらがり、霜降村 其岩
よきほどに都ぞむくや花のぬし、西太田村 瑤雀
隣から来た枝もあり花ざかり、坊村 蓮車
今も花むかしも花の忌日かな、平松 亞溪

(四オ)

花咲て幾度人に行当り、凸山
漣に棹もさすべき桜かな、馬公
人々によりて興ありさくら花、楚蹠
花待し世を觀じ居る春の雨、本吉 左来
滝音の響く深山のさくら哉、金沢 丸交
分迷ふ路もさら也山ざくら、百之
花ざかり夕日貫く山路哉、十花
只人も多き山路や花の暮、周馬
ちるほどは散夕栄のさくら哉、呉水
散花にふける心や竹杷もち、松斗
山里や花に明行馬の面、里笑
見返れば雲と成けり山桜、雉友
二三丁上り通せばさくら哉、一竹
手枕に雨聞花の旅路哉、眠和
花一本曇る檜原の奥の院、稀才
淋しさは散すむ花の日和哉、能瀬 美水
いそのかみ経れ共くはつ桜、金沢 觚哉
初花や雨のあとなる汚れ道、宮ノコシ 故園
谷川や花見の時の料理屑、柏野 麦風
しゞの葉に桜散置山路哉、能瀬 怕乎
山ざくら夕べの鐘の聞へけり、千布
八十の老をかしらの花見哉、金沢 卜木
朝曇松はかくれて花の浦、桃脂
笠をきて行先はやし桜花、梨松
雨の花なを分入は月の人、兔文
下館や花の外なる笛の音、車大
片里や四隣垣なし花の中、一抄
手に見れば一重桜も花の雲、眉山
寺はみな花の上なり東山、在京槐庵 蒼虬

(六オ)

大寺や桜の中の物もらひ、能州黒島 玦卜
夜の戸や有明桜薄匂ふ、布遊
逢坂や車にむすぶ花の夢、玻井
嶺や登るに耐ぬ桜人、麦秀
そゞろ氣をつくらふ花の戻哉、犁邑
朝馬場の桜をふるふ袂かな、都山
飴売も灯ともす花の夜寒哉、柳汀
負ふた子の花持ながら寝入けり、馬涼
雉子啼遠山花の曇かな、奇哉
桜戸に君転び寝のひと夜哉、文朝
木枕の松脂くさし花の宿、素玉
人過て山鳥啼けりゆふ桜、錦川 玉史
さし汐に海の中なる桜かな、能州三階 呉曉
雨二日いねしかひあり夕桜、李青
思ひ出や杖にすがりてけふの花、ノトベ 破衣
酔さめて月に見直す桜哉、道下 誕舟
諸鳥の声やふもとの朝桜、徂英
浮島や人も桜も夕げしき、寺口 良化
七日目は児見付たりさくら狩、道下 空花
夜桜に人を咎る乞食哉、高田 曉川
明暮にかよひしかひぞ初桜、赤蔵山 阿成
遠方の香もふけ花の川つぎき、能州田鶴浜 大牙
よぢのぼる草のかぶれや遅桜、女 荅枝
夜桜や船ならべをくさゞれ波、梨笑
月代に香のこぼれけり花の波、雨卜
花の山一入月の出がてかな、可諷
雲走る虹のひずみや夕桜、文路
山陰や流のよどむ花曇り、たよ女
処々花にそひつゝうす煙、むあ女
夜桜に轡の風の光り哉、桃川

(七ウ)

、蘭史

夕陰や鳥のわけ入花ふゞき

明わたる鳥さへ花の曇哉

散花や盃ひとつ流つき

廿日たつ花の吹く暮にけり

花散や馬の顔ふる橋の上

花の雨竹の子笠に音きかん

桜ちるや小村の夜の棚霞

白滝や桜の上の日の流れ

ちりつれる物なき花の嵐哉

只はなの深を知て山路哉

花の影小魚の鰭に動きけり

山白く成行花のさかり哉

山もとや蝶のまぎる散ぐく

春の月朧は花の木の間哉

春の暮机の上に花の散

浦山や何処迄つゝく花の雲

雲筋に水のかぎりや遠桜

登きぬ今朝雲と見し花の中

いかにや春をひそむ杉の戸

切きざみ乙女は桑子かしづきて

上ぱり衣手ふき顔ふき

雨二日がくりと寒し下り月

鳴の越来る川添ひの塀

旧苑を守て糸瓜の作り取

宵寝もうしと妻と酒酌

なまめかし江口通ひの棹の歌

蛭籠売合飲の下陰

帰参まつ住家の煙かつくに

水たてまつる暁の星

風の月あしはやく比良横川

貝鐘の声冴る遠巻

逆さまに草鞋はく身のよるべなき

暮露の本寺のふかき簾

破風口の霞ごもりに梅柳

都のたよりにせまりてやみぬ

雨の朝紅鷺啼花の林哉

舟かりて見上ん志賀の山桜

大和路や花に世渡る一在所

さけば散る咲ずばいかに桜ばな

酒旗のあたりは深し花の雲

きのふけふと身こそふりゆけ初桜

散花にはこる里ありをそ桜

見る度に命をしほの山ざくら

はした女や外から覗く花の幕

をしや惜しと立舞袖に散桜

人はいさしらずや花のうかれ月

山里や桜にしづき塩ざかな

桜よけて吹しかいたき夜の風

咲花に都こと葉も交りけり

散花に匂ふむかしや書の上

ちる花にすかし見にけり遅桜

ちる花に作ひろげし田畑哉

我影のうごきて月に散桜

散花にあなにくの鳶や鳥哉

かぎろひなごく打けぶる空

旗

龍

里

朝

雪

旗

大旗

仙芝

東興

蓼花

魯長

一路

文亀

緑毛

不知哉

百川

磯仙

白老

二翼

朔宇

以貫

富春

玉支

凡二

如泉

永白

暮の春出舟の真梶しらぬきて

摩耶が高根の鐘聞ゆなる

月雪に世をわび人の侘住居

ふすまつくらふ紙も歌屑

右表

筆とりて桜によむ人は誰、川原湯温泉

山ふかみそなたも桜尋るか、柴村

入船や花に棹さす人もあり、横尾

ちる花に立つすはりつ終は寝て、下仁田

花に月欲にかぎりはなかりけり、竹輔

夜桜に甘露もふらば草枕、島村

花ちらぬほどに風吹酒の酔、本宿

花折るや又来る春の氣も付ず、龍山

丁々と木を樵る奥や初桜、阿石

居ながらに老の花見や遠眼鏡、長左

人ならば初冠やはつぎくら、春昌

人なれぬ鳥もよる枝や初桜、白質

花に老花に若やぐことし哉、語山

花に老花に若やぐことし哉、一ノ宮

見ぬ人のあるもうき世ぞ花盛、羽黄

吉原へ根こす桜の勢ひ哉、既橋

ちるや桜をしき花びら川の上、枕岱

夜の桜月の出なば見ていねん、土龍

花手折人心なしこ、ろ有、素雄

上に見し花下に見る山路哉、丁峨

夜桜や花定らぬとし影、不吸

暮をしむ迄を桜の世成けり、麦田

桜戸の七日にぎはふ日より哉、高崎

【校異】高岡本の中七「七日にぎをふ」、素奴

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

(二二オ)

三月や花に暮ては花に明	、横室素己	下肴を秤にかけし山の市	一	見渡せば柳の空も花曇り	、女屋黄口
散や桜馬のかみふる木下陰	輪雪	蜜柑の籠にあまる紙屑	眉	隣へも見せけり風の糸桜	、一尺
斯ちらば折まじ物を花の杖	、荒牧吟水	脚病で幾日か供に出ぬ也	橘	分入ば去年の桜の枝折哉	、既橋素太
花守の清くも華に老にけり	、尾島官橋	団扇の細工酒にかへてし	英	増花の有かくときくら狩	、麦甫
夕虹や花より登る雨の月	、新田亀丘笑魚	打水の埃静る暮の月	白	花桜是は妻なき家居哉	、土卵
		声ふりわたる籠の鈴虫	菰	誰が切し黒髪ならん夕桜	、木兔庵米砂
磯山に夜の残りたる桜哉	上毛草津鷺白	露寒しあしをれ鍋も世也けり	柵		
さし来る汐に風春を吹	、菅菰	ちなみ重る旅すりのきぬ	一	恙なき夢の嵐や朝桜	越後高田祖明
燕も去年の釣巢に鳴初て	、魚柵	関守にとがめられたる夕間暮	眉	博労は馬のはなしや花の中	、十日町桃路
八瀬のきこりの鉄漿付てけり	、許一	故郷の空を返り見る哉	橘	初桜星より薄く明はなれ	、荒井如蘭
草鞋の紐解かへる夕月に	、涼眉	長閑くも遊べる花に興余り	菰		
柿偷人の嚏をかしき	、雨橘	翅沈て寝にもどる蝶	英		
招かれし新酒の酔の醒てみれば	、白英				
兀てつたなき太刀の鯉口	白	道かへて入も桜の葉かな	、菅菰		
鶏頭の赤括したる古ものや	菰	夜桜やきけば念なき仏法僧	、涼眉		
西門跡に黄金納めたり	柵	花の日を鶴に餌を蒔法師哉	、雨橘		
便なしや親に離れし六夜七日	一	山寺の軒に市なす花見かな	、許一		
遷宮の場へゆるされてけり	眉	乗捨し駒の嘶く花の山	、白英		
桷葉をかざす烏帽子に月移	橘	桜狩雲に濡たる思ひ有	、魚柵		
聞も妙なる鹿笛の声	英	花に貸七日が中や草の庵	、米器		
秋かなし空也の瘦も秋よりぞ	白	誰に花費て折ん山ざくら	、榎越素栄		
弱き碁打を友に遊びて	菰	風もなく桜散日の思ひ哉	、桐生素陰		
雨晴や谷も巖も花の雲	柵	頼をくあしたの寺や初ざくら	、得牛		
芽だつつ花に蛙鳴也	一	遠里や桜が中の鐘の声	、鷺川		
疱瘡児の赤手拭も春更て	眉	寝心にひらきし明日の桜哉	、玉城		
十団子は誰が土産にせしぞや	橘	花散て柳に似たりいとざくら	、関米倉		
いそのかみ古きよみ歌淋しきに	英	咲初る花明日見んと寝ぬ夜哉	、田雁米糟		
茂りの雫かゝる碑	白	吹かで散桜わりなき夕かな	、荒口素関		
翡翠の行戻たる蓮の花	菰	手折られてはらりと散し桜哉	、米充		
馬に運びて薪売也	柵	鳥飛でさかりの桜散にけり	、皎砂		

初午の隣／＼も河漏うちて

鳥

魄とよばるゝ子の黒き也

明

月のさすかたへと人の立まはり

鳥

夕顔いくら末なりの蔓

明

蛇喰ふ藪蚊に秋の窓をさし

、

ものいふながら軒かゝるゝ

鳥

ありがたき弓丈の御衣の香をきゝて

、

夜明るきはの牡丹真白き

明

小刀をわすれてもどる枕元

(一九ウ)

楊枝こぼれし喰物の中

鳥

船舫ふ浅草川の薄雪に

明

冬の青葉を月か花かと

鳥

売をしむ行基の筆の虫だらけ

明

山伏になる工夫するなり

鳥

かた丘のあしたの原に隠れ来て

明

馬の背中にまづ風が吹

鳥

花を見に一夜とめけり乳兄弟、ハマン山 涼化 (二〇オ)

ちる花や汗かき給ふ面の内

、 甘雨

花に虹日くるはして暮にけり

、 志考

夕桜浅十面は売るなり

、 秩父宮沢 文路

ちる花に胸かきあはす日暮哉

、 文舎

花に宿ほしき汐見の嶺哉

、 本庄 李明

花の陰杉の柱もなつかしき

、 双鳥

人心花になる世を野老売

、 熊谷 雪江

花のもとや蜂にさゝれて泣童

、 勅使河原 無塵 (二〇ウ)

一尺の桜世に経る担ひ売

、 快馬

惜みつゝぬればや夢も散さくら

、 三峰山 日和良

ぬるゝをもよし家土産に花の露

、 楚雲

ちりひぢの麓は過て峰の花

、 洗耳

おもへとや花にさし入夕月夜

、 可南

花やことし我髪白く眼の霞む

、 東都 菊明

天地のしらべもをかし花の山

、 左鶴

酔てから嘶も八重の桜かな

、 武菱 (二二オ)

朝桜夢を残て見に行ん

、 茶暮

水汲ば夕山さくら雲誘ふ

、 由来

山ふかく散来る桜見すまん

、 亘々

遅さくら青き隈よりこぼれけり

、 紗言

花にくれて独按摩のひとり哉

、 春蟻

顔しらぬ親に逢けり花の山

、 東都 成美

よき酒は辛きにあれや散桜

、 宗讀

花の露涙は人のまよひより

、 葛三 (二二ウ)

花に風七つ小姫が手にもふけ

、 長翠

散さくらよせよ返せよ鳩ぐるま

、 三彦彦

散る日からちるをさかるや花の山

、 巢兆

伐り木の古跡のさくら咲にけり

、 鳥泰

花鳥につかはれけらし樽拾ひ

、 下毛栃木 尺樹

黒谷もさくらにはやき夜明哉

、 足利 貞二

寺町や花に女のわらひ声

、 在下毛足利阿波 如臨 (二三オ)

ちる桜舟なき川を隔けり

、 助戸 虚丹

座頭さへうかれきにけり花の山

、 栃木 橘人

住安き山家と成ぬ花七日

、 灯居

帰り来ん夕山さくら火縄五分

、 桃葉

桜戸や雉子鳴て常の暮ならず

、 淡交

花ちるや鯛の鱗の八九丁

、 武中瀬 得之

散さくら散る花の上花の上 野州助戸 贅

はつぎくら別の霜を通れけり

、 嗽石 (二二ウ)

色／＼の花の中よりはつ桜

、 梁田 羊石

うき雲の切て花散植の山

、 足利 和井

書付て岩に言をくさくら狩

、 奥州仙台 露仙

おもひきや桜にもうき名取川

、 露角

一日の心を花にまかせけり

、 儀角

目移らで一本の桜ながめあり

、 和陸

海山と暮行花の驕かな

、 本宮 金英

咲花に何優婆塞の泣けるぞ

、 飛騨高山 東籬

曙やさくらに松のあけくらみ

、 三州矢作 幾久成 (二三オ)

雨晴や花にしたゝる日は斜

、 越前敦賀 五鼎

心清し麻に通へる朝の花

、 羽州左沢 露橘

幾代祭山守神ぞ花の陰

、 素風

傘さして船にたちけり山桜

、 遠州入野 方壺

見ぬよりも思ひ増けりよしの山

、 房州磯村 鳥周

花色／＼因み妬ぬ世なりけり

、 遠州浜松 白輅

夕花や床几はなるゝねち上戸

、 勢州 万化 (二三ウ)

風そよ／＼一重桜のはづれより

、 杜影

散花に定家色紙の価あり

、 瓦六

猿沢や月は隔てぬ八重さくら

、 菊子

うつろふや鑑輻の上の夜の花

、 梅二坊

何事も無意に崩し花に酒

、 石薬師 甘谷

物とば人の律義や山さくら

、 三重郡山田 晴山

閑さや花ちる里のゆふ煙

、 津 楚鴻

花のちる日や西行の捨草鞋

、 銀侍 (二四オ)

狩暮て花ふむ履の重げ也
、雲出川 玉歩
鶉の潜あげつゝ下す花筏
、 蘭月
山落や踏とまりて桜咲
、 茶煙
池の面や日の洩る水に桜花
、 栗花
山陰や桜にそむく家の口
、 御園 四山
神風や浜荻の芽に散桜
子良
二見の注連を波涵す春
吾友
百千鳥も、近き耳聳て
万化
刀さ、ねば帯もゆるまず
一事
掃跡に埃のたまる破だ、み
友
つれなふ焦しあぶりこの飯
良
ぬけ出てそつと踊し月の夜に
事
虫鳴つゞけ糸竹の音を
化

(二四ウ)

慰草もとりの春
遥江
盆山の五色の砂の暖に
知双
鳥居も軒も建替るなり
、 万化
物くる、人をひたもの恋しがり
江
匂はぬ袖を禿振つゝ、
道
袋だな月に鼓を取出して
双
越の城下を雁渡る声
化
野ざくらや馬上に手折夕嵐
、安濃津 烏翠
ぬるむながれの石越る音
、 尚道
軒浅き住居に夏を隣るらむ
子良
国を隔て酒もらひけり
遥江
時行出す館鼠を月に弄び
、 万化
よこたはりたる階子露けき
、 雨柳
つゞくりの普請も秋は果やらず、
坐幽
夫婦中よく羨れ居る
翠
今朝見れば開きおほせし池の蓮
道
十方ぐれも過し雨ばれ
良
供御捧ぐ布衣だ、くさにきながして
江
山田の市の塵に交る
化
みだり風やましき声の蟋蟀
柳
童落穂を拾ふ月の夜
幽
殊更に彼岸の世並静にて
翠
鐘鑄の煙尾上へだつる
道
手枕に長う成たる花の陰
良
見へつ隠れつ蝶現なや
江
春の磯棚なし小船漕はなれ
化
しほり上たる楼の幕
柳
憂君のだまつて涙押のごひ
幽
別を忍ぶ雪の松かけ
翠

(二七オ)

ぬくめ鳥また夜深きに鳴落て
道
井戸の車のきしる汐時
良
念仏する片手に虫歯痛はられ
江
下せし金の返事さへなき
化
八丈が鳥といへども浮世にて
柳
魚に木葉を籠る一蝶
道
照月の身に付衣を透過し
翠
捨て薫りの絶し扇墮
幽
咲初る奥間所の藤ばかま
良
笥を伝ふ堀ぬきの水
江
孝行といふ白作る業に
化
肩のやいとこのいほふ草先
柳
頃日は都鄙押なべてはな心
幽
千々のむつみを結ぶ糸遊
筆
朝日さすや花から立て花の鳥、西ノ田 遥江
峰の雪日にく消て桜かな
、 知双
鳥さしは鳥ねらひけり花の中、大塚 坐幽
篝火の尽てや夜半の花戻り
、 白子 無曲
奈良坂や桜が下の鹿追ひぬ
、 帯川
八重山や雲のはしぐ桜ちる 河内招提村 雪江
酔ぎめの嚏気味よし花の本
、 郡づ 古光
長閑さに人みる花や奥の院
、 如水
白地にうら表なき桜哉
、 楠葉 凡翁
開帳をかけて都の花見哉
、 村野 淡水
筏組よしのは花の雪あかり
、 李山
行届く春や深山の遅ざくら
、 楠葉 和水
日を惜む山に声ある桜哉
、 一笑
(二九オ)

(二八ウ)

したしみの落重りて夜の花 甲州浅原 真洞

朝駒の鞍静りて花の雲 、 六珈

夜桜や膝うちぬらすこぼれ酒 、 友生

東山や月を別て花白し 、 南丸

御狩野の小桶の桜咲にけり 、 山ノ神 鳥語

磯寺や汐風に疾き花の色 、 紫羅

螺貝の出しか花のはしり咲 、 佰洞

よき通伝や文の実にして初桜、東南湖 政尼

花守の世をわたしたる花見哉、市川 有匪

花最中しのばしき夜や月のかさ、藤田 鏡平

見ぬひまを桜かしこく散にけり 作良

古寺や花ものいはず人絶ず 、 漢甫

ちる桜蝶は現に眠るかな 、 暮地 五雲

皆人やけふも桜に黄昏ぬ 、 隣車

雲を帯て峰のしらみや桜花 、 泮水

しるしらぬ人の往来や山ざくら 敬之

春を経て桜に耽る日和哉 琴水

明べき日の暮をしむ桜かな 、 清父

八重霞かすみにまがふ桜哉 、 豊水

花に雲に遠近山の梢かな 、 梅店

桜かざすもろこし人と連だつかと

聞へ給ひしも、今十年あまりこれとて

いひ出すべき事なければ

年々や桜かざして笑みもせず、小笠原 静菴

暮がてや花のひま行鳥の声 山寺 和石

山桜霞の中や人の声 、 楚雀

野宿せんけふより我も桜人 、 小笠原 都良雄

疾植て人驚すさくら哉 、 飯野 真都良

垣ごしに花盗の笑顔かな 、 梅五

我ありとうたふ月夜の花の陰 、 静良

花の庵なきに事たる甚太瓶 、 鮎沢 孤山

朝風呂に遠山桜見付けり 、 古市場 美敬

傘さして来も風情やちる桜 、 平岡 如雪

不通女等も花にうかれよ酒の酔 、 和水

ほりかけの白に散けり山桜 、 谷戸 花仏

さくら見や親里訪ふて山に入 、 杜月

酔人や花に五歩行五歩帰る 、 三沢 をしへ

鏡にはからぬものか花の雲 、 台ヶ原女 青々

山中の花や帯売さかな売 、 台眠

散にけりさくらは桜人は人 、 藤田 可都里

花の雲に乙女酒もる二階哉 信州佐久 柯則

見処は花にふゞきのある日哉 文涛

翠簾影や半面美人朝桜 文耕

連に志賀の花散る夕べ哉 萩露

あるは居りあるはゝさくら哉、根ノ井 胡月

ひとつちる花に口あく蛙哉 、 桜井 楚林

朝山やうごくが如く花の露 発地 季広

しだり桜如意輪深く在けり 今岡 胡園

聾よく吹けどさはらず桜花、七十四才 むら女

妹背山散込花の流かな 桜井 盛風

咲満し花の下枝の烏かな 、 如仙

朝まだき鳥啼花のはやし哉 、 野秀

花山にいくつもほしき散かな 塚原 宗荊

散込し花を双紙の栞哉 中居 可豊

ちる花の色漉込やよしの紙 下県 元夢

花の日や入相の鐘に人ご、ち 桃思

ちる花の鐘楼にのぼる辻風哉 、 志考

酔さめるまでは埋めよ散桜 、 片倉 崎給

世に歴るや陵守が門のはな 、 仙丈

山ざくら心ひらけて目にあまる、善光寺 文兆

しくくと身をさす花の筵かな 、 希言

我ま、に留守の戸た、く花見哉 、 凡化

花の戸や人を見送古行灯 、 牡厚

初ざくら何うたがふて紐とかぬ 、 一重

動かせばひらく花ありはつ桜 、 柳莊

山越や桜見かけて漸一里、木曾奈良井 扇之

鳥飛ぶ桜の下の夜明哉 、 新之

ことなるや花散さとの夕付日 、 初交

黄昏や花の木の間を下る人 、 凡林

しがらみの花に魚飛流かな 、 飯田 風子

山ざくらもどりは杖の情哉 、 柳枝

夜ざくらや伏ど寝られず出て歩行 、 里風

水にちる花の香添ん茶のかまど 、 由梅

酔伏さん芳野は花の木下闇 、 岩村田 岷山

桜の日暮と見しは山の陰 、 善光寺 猿左

花の手向酢売も袴着せ申さん 摂州池田 瓜坊

手折らずに行人ゆかし山桜 、 西ノ宮 芑支

花咲や箔の落付く古仏 、 伊丹 東瓦

夜ざくらは世にうつろはぬ心かな 浪華 秀里

折るをとの我に驚く桜かな 、 蕪城

春の雁鳩其ならば花や見ん 、 詩舳

白妙に匂ひ満たる桜かな 、 素柳

花に目を泣腫したる上戸哉 、 江涯

誰が魂の遊ぶか夜の花の中 浪華 大江丸

山はさくら家は野ぐるみの煙かな、画涼

ひと里は桜に明る夜なりけり 、 長斎

散る花になを惜る、入日哉、たか女
花鳥と共に狂ふや春の人、泥尾
夕栄や虹吹山の花もよひ、呉雪
咲みちて桜の上の曇哉、梅司
夜ざくらや公家町通ふ白拍子、文荃
片枝に斧のひゞきや山ざくら、一炊庵 (三四ウ)

憐兒不覚醺
とらへたり花盗に菓子くれん 播州小野 君中
柴垣一重陽炎を踏み 瓜坊
緑して露干る小網麗に、
鳶まだ霧もしらず顔也 中
常政が月落琵琶もなかりけり、
秋の桜に寄る仮り殿 坊
松風の題目踊見に来れば、
世をさまぐにうしと狂ふか 中 (三五オ)
ゆく水の水にせかる、恋をして 坊
袖のわたりの雪の明ぼの 中
五位の鳥神の直宿をするからに 坊
二日続て君に召る、 中
酒の香に菖蒲をしぼる比なれや 坊
西も東も早苗とる唄 中
我世界乞食袋の面白き 坊
月こそ本との主人成けり 中
雨雲の消て紅葉の散か、り 坊
洪鮎下す滝のしら糸 中 (三五ウ)

花の香を添て一たき苔の下、小野 沾節
花に曇る俤もがな春の月、花桂
雨かほる山ざくら戸の夕べ哉、龍野 十洲

捨鳥の身をよる方や雨の花、加古川 玉屑
かんがりと月洩る花の老木哉、姫路 富雪
ちる沙汰に鬧しうなる花見哉、路高
花の後草に暮行庵かな、後菊 (三六オ)
此花は誰がみとめてや胡蝶飛ぶ、水谷 嘉那
茶に遊ぶ人は桜の花香哉、瓦三
初ざくら朝日こぼる、木の問哉、海鼠
月花の世をいとふてや山ざくら、松本 歌拙
道したふ道はあかるし花の陰、国包 其跡
山里や名のみ残せし散ざくら 石州大森 臥山
見る人も其日のぬしや山ざくら、鳴泉
谷川や又流れ来る花の枝、日原三好 義昼 (三六ウ)
花の陰や再び逢し温泉友達 作州弓削 白亀
花とけふ化して千鳥と成にけり、孤山
は、からぬ道の狭さよ花最中、市仙
桜田の井塞所か花の滝、海田 鶴友
岩橋や花の下道かけわける、倉敷 其綾
夕山や屯崩る、さくら人、富雪
鴉子鳥のおびたゞしく集るに、井角 (三七オ)
さくら／＼群なく花の嵐山、
紙燭さして梢見せうぞ初桜 丹波亀山 全瓦
羽二重に摺てなまめく桜哉、女 芝蘭
白雲の上代めきしさくら哉、牛河内 東畦
真の花に腹の拙き坊主かな、梶原 洞々
飛／＼の花にも山はさくらかな 丹後 木越
花に溺れ花を忘れつ夕太鼓 丹波黒井 白雉
薄暮や俯向く顔に桜ちる 但州夏梅村 湖月
浦山の花吹込や磯の船、桂月 (三七ウ)
蒼空にうつるや峰の八重桜、素月
石竈をいくつ並べて山ざくら、兎月

手をうてば鳥驚きぬ花の山、沙月
咲たはと思へば花に入日かな、瓢舟
若草も酒くさう成て花の本、舟谷 五雁
花折て裏道通る女かな、和田 龍山
花とはな重なる中や日の転ぶ、生野 白窟
酔ざめや手折し花にいかにせん、文眠
東山花に二挺の鼓哉、涼秀 (三八オ)
人去て月をすゑたる桜哉 備前岡山 幽雅
花守の偽らしき眼鏡かな 備中笠岡 文里
初ざくら命の欲もいや増る 備後田房 古声
瘦るとも花にいとほぬ骸哉、福山 一声
初雷の響も遠し花曇、布野 瓢風
倦ながら花を寝言や雨の夜半、三洲 楚雲
鉄鉢で酒のんでみん山ざくら、布野 魚一
物さびて苔井に花の曇哉 府中 青甫 (三八ウ)
分入ば日も有なしや山ざくら、梨英
花といへば恋も無常も籠けり、新市 雪馬
ちる花にすました面や雨蛙、福山 調呂
ふみまよひよき友得たり花の山、笑種
牛飼の花折捨るいとまかな、李朝
花の酔さめても宿る花の下、府中 柳芽
つむや句帳の数しげき春、可卜 (三九オ)
鴉眠る未過けんあた、かに、明々
蓐上れば船の来る見ゆ、虎白
月二夜身はさむしろの露重き、冬芽
野陣解て野菊みだる、青甫
庭の桜たゞ一もとに咲にけり、三原 梨陰
睦月より桜を思ひ初にけり、土芝

遠近の人遠近の桜かな

市中に大かた八重の桜哉

伐木からこぼる、花の蒼哉

居る雁も花見ぬ鳥といはれけり

表には垣してみえぬ山ざくら

名にしおふ桜の一樹みつの道

乗捨る駒も野飼や遅桜

夕山や手の凹飯にちる桜

侘住とおもへど花の夜明哉

見入ては花に食事を忘れり

此家はどの落人ぞさくら花

かへり路や里迄つゞく桜人

うつかりと宿出て夜の桜哉

来た路にうかる、花の戻り哉

花につゞく菅笠ちさし遠の人

花に鳴をくれ鳥や夕月夜

夕山やさくらに遠き道一里

四五日は花に夜なき庵哉

花守や人の来ぬ間を朝詠

あすもしれぬ花の命や散桜

大名の花に暮けり夜の音

夜嵐や花に通へる人心

大空や花いく処花曇り

【校異】高岡本にはこの一句なく、一行分の空白がある。

次句の「湖梅」の肩書を「西条」とする。

そよかゝる花に含や峰の松

蝶くは踏ともちらぬ桜哉

就中智恵ある友よはつ桜

年ぐや花見に花の物語り

、一之

、何笠 (三九ウ)

、可友

、古江

、大椿

、梧川

、呉 帰爪

、御手洗 芦丹

、竹由

、川尻 金竟 (四〇オ)

、防州室 仙家

、石父

、千亭

、思菟

、とみ女

、鯨牙

、予州今治 卷玉

、素雪 (四〇ウ)

、車南

、挹波

、李風

、羽戴

、西条 潜龍

、湖梅

、得雨

、楓梁

、斗龍 (四一オ)

花の陰手向にたらぬ流かな

雪の根も笑ふ麓の桜哉

絶ぬ名や今に吾妻の初桜

花の陰に花を畳むやかしは人

遅ざくら得しれぬ禿倉拌みけり

曙や月の桜に風起る

釣簾の外山に放つ鶯

春雨の詩人をのく韻分て

鶯のこせる葛の太布

夕顔に翠の煙たち登り

三四二家並ぶ里

宗旨まで替て多病の身を悔

寝ぬ夜霞のさらくと降

佐渡船の便求る出雲崎

酒を捧て過る瑞籬

強かりし胡の砦押破り

挿頭の紅葉日は斜なる

女房どち月の催ひに打こぞり

をりゐの宮の憂をとふ秋

大原の麓に草の庵トて

接木漸花をつけぬる

陽炎に地虫蠢く午時の鐘

笑顔長閑に雲母搔児

年ぐや花に朽なん老の筈

鄙よ都よ愛あかぬ春

百千鳥とりは百千に囀りて

風に露散椽先の竹

朝月の影汲水の清らかに

、其光

、杜夕

、知柳

、桃洞

、梅里

、里山

、万井

、山 (四一ウ)

、井

、山

、井

、山

、井

、山

、山 (四二オ)

、井

、山

、井

、山

、井

、井

、花休

、万井 (四二ウ)

、井

、休

衣重ね行秋のたび人

雲去てうたがひもなし山桜

喜六を誦る我党の春

貞室が琵琶に蛙や合すらん

麦多まし置いさら井の水

暮かゝる月に筵を畳みあげ

すまひをまねぶ弟兄の児

分入れば花の衣手露匂ふ

ぬる蝶起す草の曙

種馬の土に背を摺春ふりて

細脰ながら旅の歌人

繰舟のたまりに移る月の影

萩の初穂の真白成けり

我庵や月に嘯く花一夜

隣なき身の静なる春

告天子啼野末遥に小雨して

八重雲起る峰の風越

納涼川棹さし廻る夕暮に

薄柿白く見ゆる帷子

花に来て今様うたふ美人哉

鷗鵲斑匂ふ袖の永き日

窓を打春の点滴濃かに

二ふりながらよき剣也

玉盃の酒に照添ふ秋の月

紅き楓をうつす白紙

、井

、浦雪

、万井

、雪

、井 (四三オ)

、井

、路明

、万井

、明

、明

、井

、井 (四三ウ)

、嘉慶

、万井

、慶

、井

、井

、井

、井

、花暁 (四四オ)

、万井

、井

、暁

、井

、井

散花や夕近づく鳥つ鳥

赤間関 南菓

登帆や明石過れば須磨の花

羅風

花や雲影すむ水の朝ぼらけ

少年 梅童

花守とみへて白髪夫婦哉

錦翠

船寒し花白妙に明にけり

指月

麦飯に桜散込舎り哉

里江

丙辰の春、花供養の日、赤馬関の

僑居月窓亭に社友を会して

如上の手向をなし奉れる

まゝを、つばらに写て洛東の祖堂に

送りて、いさゝか道の恩に酬ふ

桜咲てあまんの花は土の如し

万井

日斜や花に幸ます片山家

長州舟木 梅梢

乗捨し駒の居眠る桜かな

、 芦舟

藻塩たく煙につゞく桜哉

、 子文

しん／＼と経の声あり花の奥

、 露濃

峰のさくら人去ぬれば雲覆ふ

、 梅月

足る事をしらぬ花見の戻哉

、アサ 羽翔

借し駕籠や花の麓に日もすがら

、 文尚

日／＼に新なる花見心かな

、子風改 寛雅

栗鼠登る九輪に花のふゞき哉

赤間関 花曉

暁の花にかへるや花のゆめ

防州山口 湖流

我罪もあへなく散ぬ遅桜

、 如水

落る日や見返る花に鐘沈む

、 流志

見残した跡に鳥の桜哉

、 菱波

よしや日のくるゝはなげの花衣

、 舍州

ちる花にしづ心なき田打哉

、小郡 桃林

行暮しまゝに有明ざくら哉

、 李曉

酔醒に谷水うまし山桜

、 霞夕

かぎりなき春と詠けり桜花

、 花卜

心をもいためる花の盛哉

、 李洞

右左花の中なる不動かな

、 岐波 羽仙

桜咲て牛に跨る世成けり

、 小郡 春郷

夕づくやあだに野山の桜散

、 和道

桜さくの中より朱の鳥居哉

、 松下

雲の前霞の後さくら咲

、三田尻 嘯月

江の花や波間に雨後の月動く

、 山口 蘭台

花色／＼人の心に移る哉

、 天民

世に遠き彼岸桜や藪の中

、 讃州笠居 芝峰

花ざかり世上に外の噂なし

、 引田 如竹

いつしかに杖もたはまん花の下

、垂水村 帯雪

ちればこそ清し桜の此夕

、 高松 吐鳥

花の色は蝶にうつろふ盛哉

、阿州西分 羽角

覆れん友や翁の花ごろも

、豊前椎田 有隣

大和路や花に惟然が拾ひ履き

筑前直方 此原

かきよする岩間の花や散惜み

、 五雪

なまめきし道恐しや花の山

、 苔水

花の風情己を夜に帰す哉

、 元二

花に住で山鳩花に諂らはす

、 遠子

夕煙雲にとゞかん花の星

、 雲里

色／＼の鳥の音聞や花の中

、 嵐之

折桜風なくて家に入にけり

、 曙川

花降て斧を置たる男かな

、 烏川

鉄棒や花の脇道過る音

、 橋雨

散初る花や六日の月の隈

、 寄木

花の雨髻にしむや嵐山

、 桃雫

花守や人にとほしき一枚戸

、 君花

いかばかり吹とや花の濁川、風羅堂下

、 芳杉

花守や寝る間も惜と茶に遊ぶ

、 文推

あらけなや花に飛込山がらす

、 吾涼

腸をうごかす花のあらし哉

、直方 一萍

米搗も羽織着て出る花見哉

、飯塚 芝尔

筆の軸かみわる音や散桜

、甘木 布館

立よりて吉野の花に筆乾く

、木屋瀬宿 友尾

牛によりて眠る人あり花の陰

、福岡 汀化

遠山や心にうごく初ざくら

、 柳鄙女

三芳野や花の木の間の雲と水

、 野陽

花盗人そなまめける男哉

、 紙白

ほころびよ月の夜すがら花の山、黒崎 まつと

朝夕は霞でも見せつ山桜

、若宮 蘭溪

遠山や花にふくめる朝煙

、直方 可角

法橋が花見や袖の飼鼠

、 里梅

うつりけり桜が本の人の声

、木屋瀬 木耳

花の雪我もとゆひにかゝる哉

豊前小倉 南明

鍛冶があと有明桜老にけり

、 不成

雲にむせて花見心の細き哉

、 素流

花廻り訪ふ人たらで帰けり

、 夏夕

咲さくら此外は何を欲にせん

肥前島原 陀雲

午時から乞食も来ぬ花の山

、佐賀 濤明

【校異】某家本は四九オ・ウが脱落している。

新鞍やことしの花に置初ん

、有田 芦風

崑崙で僧をもてなす花見哉

、 雪扨

滝しづか花のひら／＼落にけり

、 波声

花の山松もゆかしきふとり哉

、 尹子

おもひ入るうつゝの暮や花の山

、神代 通鮮

按摩医に花の難所を語けり

、二扇

白雲の中や一すぢ花の道

、長崎 半古

盗人と名乗て折ぬ花一枝

、素人

夜部迄の桜はたゞに雪と降

、菊翁

のがれてし世にも桜の折戸哉

、季明

陵や花にふりぬる世がたらひ

、樗年

おもひなげに臥り桜の深山人

、杜陵

山の井に釣瓶かけたり花の時

、祥禾

日の筋や散かゝる花に鷓鴣の飛

、古琴

漣にさくら流るゝやよひかな

、神代 仙鳥

花の色にうつるふて日も遅哉

、呂柏

おもはずも立よる花のくず家哉

、女 柳枝

ちる桜ふもとの人はみへぬかな

、文帛

江の花や舟さすおのこ酒くさし

、魯盜

明日ありと母はいふ也夜のはな

、完雅

花の枝にあやにくに啼鳥哉

、梨水

雲と見る日は長閑也山ざくら

、雪湖

蝶鳥の心になつて花見かな

、兎丈

呼子鳥春は桜にすむものか

、春喬

うたてやな鳥とる鳥の花に来る

肥後八代 文曉

花守よ雨に訪ひしは誰くぞ

、熊本 潭月

漕出て樹々を尋ん湖の花

、龜令

鐘遠く雲動けり夕桜

豊後岡 笛躬

其匂ひ今に聞日や花供養

、夷 比竹

開帳も日延の札や遅ざくら

、高田 山離

酒盛もみだれぬ浅黄桜かな

、壺月

類なや木の芽の食に山の花

肥前 薫路

雲晴てしばしは花の朝じめり

、和十

山ざくら狩入はては斧の音

、路文

山ざくら立交る木は鳥の糞

、羽雪

かゝる代や鬼が巖も花の雲

、斯長

花近し春風ゆらぐ杉のさき

、廬泉

雲焼の夜に引したふ花の奥

、静風

宵の雨しほるゝ花のあるじ哉

、壺外

朝鮮和館よりの便に

、朝鮮 孚湫

朝鮮の花も供養のひとつ哉

、对州 芋湫

花に精なきや此木の幾千とせ

薩州阿久根 朝瓜

岩測や影澄花の朝ぼらけ

、机翠

雲散て花となるらん朝朗

日向美々津 吟龍

まゝならば世に隠れたし花の山

肥前諫早 梅江

花の夢さめてもやはり花の陰

、停花

緋衣に花の雫や花供養

、霞紅

ちる花を折とゞめよ山法師

、夏蓼

主は誰ぞ桜がもとの樽一荷

、梅枝

うらやまし花の中なる独住

、ゑつ

駒とめて水飼ふ花の流れ哉

、桃扇

山ざくら分別ありて折にけり

、遊鹿

後向まへむく花の入江哉

、一興

初花にこしも命延る哉

、春芦

人知れぬ花に弦なき琵琶も哉

、澧波

花に来て花と成身の安さ哉

、孤石

磯山や鷺の羽音に散桜

、輝白

月影の桜に曇る山辺哉

、雨夕

飯植のさくらくゝに苔み哉

、梅路

散る竹の中に虎の尾桜哉

、都友

花の風枕屏風をとられたり

、芳笠

ちりかゝる桜に扇ひろげたり

、瀧吹

山城や煙の中の夕ざくら

、文塘

菊大夫庵になびけり花の山

、行脚 北華

花に競ふ人の中よりちる桜

、甫尺

憂人の夜見ぬ桜さきにけり

、五芳

鳥と共に人間くゞる桜哉

、一茶坊

要ぬかん風もいとはる花の陰

、花縣

静さに堪たり花のゆふ間澄

勢州山田木枯庵 丘馬

入婿の花出やすき寺院哉

、不及

花咲て二日そろはぬ天氣哉

、後水

傘張が日和も花の日和哉

、筑前 芦江 宇策

散花の影澄月の桂哉

、白志

遅ざくら盛に咲て月丸し

、朝三改 何言

花守やくりごと申明の雨

、希玉

一枝はゆるせ孝子が花好み

、南枝

住ごゝろ花の里なる昼寝哉

、能州 輪島 半直

日もすがらぞみつゝ月の桜哉

、但州 大屋 西郭

一さとは皆花守の子孫かや

、伏見 あし丸

霞に遊ぶ鶴の横平

、梅價

銅雀も弥生の山に連りて

、錦圃

削り立たる木の匂ふ也

、金兎

をのづから銭もたくみし月の客

、穢多 價

何となう風吹音の秋闌て

、丸

心ひかるゝ古郷の文

、兔

吉原に敵としらず膝を組

、圃

曇がちなる此二三日
 贈り来し歌を葬参する
 竹に乱る、竹の釣草
 すべらぎの跡尋れば冬枯て
 人なく月の冴渡るかも
 狢犬の又もゆがみしほのぐに
 浦の帆船のちとも動かず
 奥の雨越シの小雨に吉野笠
 桃青堂の門つゞる朝
 歳ぐに倂残るさくら哉
 物いはぬ花ぞ尊しあみだ坊
 大名も花に端居や中の町
 枯魚も花に儲の庵かな
 山ざくらあのかぼだい出家哉
 又一羽鳥あらはれて桜ちる
 夕煙ひと木の浅黄ざくら哉
 夜ざくらや蝶のさまよふ琴の上
 雨ふるふ鳥に花散梢かな
 人去て水の音あり山ざくら
 白滝や何れのをより散桜
 朝ざくら心澄たるつれひとり
 夜は夜とて花の雲たつや桂川
 朝ざくらうき世がましき庵哉
 水音や夜散る花に峰の月
 花に来て山の入札する人か
 人の情はやきになづめ山ざくら
 花に酔て石を枕す麓哉
 緋ざくらや加持する寺の夕日さし、

丸 價 圃 兎 丸 圃 價 執筆 金兎 あし丸 錦圃 梅價 (五五オ) 玉菅 真菅 寄人 浪花 芦村 城南 貞雅 紅葉 真向 磯水 班鳩 重厚 粟津 山城八幡 斗流 醍醐 百哺 八幡 古律 宇治 梁園 飯岡 戸口

颯や一ふき花の雪を解く、天神森 平水 (五六オ)
 土産に花の芳野を見る日哉、八幡 李風
 像前や紫ならぬ花の雲、白我
 螺の音や又一しきり花の雪、大住 鋤月
 関守に隔られたる桜哉、サガ 峨乙
 七曲りまがりて花のふゞき哉、長池 花月
 晴兼る空に花散噂哉、天神森 雨林
 散花に湯上りの身の赤さ哉、大住 子邨
 ゆふ花に我もすこしと呼子鳥、野尻 魯長
 夜ざくらや世をすねもの、顔に散、天神森 五牛 (五六ウ)
 北山や花をうしろに家五軒 ヤハタ 巴水
 【校異】高岡本にはこの一句なく、一行分の空白がある。
 次句の「文瓜」の肩書を「ヤハタ」とする。
 花の陰静りて夜と成にけり、文瓜
 花ちるや海へ嵐の曇り行、亀洞
 ぬけ道をすれば初花咲にけり 江州堅田 歌雄
 暮か、る空より花の薄白し、籬邑
 吹上て花なきかたの花曇、深川 梅二
 花を出てむかひ待けり山桜 豊前椎田 蘭丈 (五七オ)
 羽織着し酒盗人や花の山 洛 良涼
 武士の刀みじかしさくら狩 湖東八幡 芳志
 水ふくむ尾上の花や朝曇 伏水 梅斜
 咲初て若木の花の足くるし 在京若州 巴龍
 花を見る人を見に出る在処哉、和林
 徒に見るも供養の花の因縁か 洛 嘯山
 酒のあるかたへ動や花の雲、斗雪
 葛城の神は昼寝か花曇、閑空
 むれよるや花を供養のけふとてな、都雀 (五七ウ)

散て後胸にうきけり花の情、鬼薊
 山間の水田にうつる桜かな、方広
 古き世に分入花の枝折哉、芹水
 花散し枝は日の澄あらし哉、駟丹
 花供養咲もの、みな麗しき、唇風
 まだ咲ぬ塩竈桜こがれけり、寒蓼
 手向なば猶清からむ雨の花、南涯
 吹おろす嵐も白きさくら哉、松翁 (五八オ)
 花の駒月の鼠のおもひ哉、偃武
 仙境は尋ぬべからず花の山、江蓼
 花咲ぬ水も色みし谷の苔、芦翁
 桜より乱れぐて人憎し、車莫
 誉る中に散行彼岸桜哉、以夢
 山桜一日はあらし忍びたり、其龍
 みだれんとしてさ、曇桜かな、原水
 花を踏で紙屑拾ふ乞食哉、伴水
 幕申になすてふ花に虻の声 岡崎素柳改 樗山 (五八ウ)
 供養なり花の仏にあらし山 洛 桃李
 日帰や霞のはての山桜、泰溪
 花に来て庵の普請の差図哉、長道
 山里や家もろともに花の雪、二雷
 花を出て提灯ともすゆふべ哉、壺山
 初花や腰かける石の潦、虎白
 見あてたり花の葉の結び心、一堯
 おくれ来て葉桜の陰花の情、李明 (五九オ)
 木隠れて誰やらゆするさくら哉、あふひ
 人顔の朧にくれて桜散、丈左
 うき春も花を心の行ゑ哉、月峰

さくら／＼とばかり春のかぎり迄

、 以外

白妙やさくらにつもる人心
花に風され共弥生なかば哉

、 九山

捻付し枝にも花のながめ哉

、 凡二

申されぬ天のゆらぎや朝桜

、 雀頂

門のうち外もゆかしきさくら哉

、 止履

花散て翁の寢覚訪れけり

、 在貫

花の下にはきためられし芥哉

、 可童

花の香やふりし頭の雪ならで

、 尼 俚 尤

帰るさや夜の花見る人に逢

、 洛 嵐 桂

妻もたぬ身の上安き花見哉

、 露 台

花守に道尋ねけり薄月夜

、 隆 泉

言伝を文にそへけり花の頃

、 里 楽

あたら花筏へ散らす嵐哉

、 嵐 石

花の風美人と見しは隠たり

、 窠 阿

見る人に影のそひけり雨の花

、 鸞 台

句となして遠きより来ぬ花の匂

、 百 池

下駄はいてのぼる端山の桜哉

、 志 諺

花に染心しづむか泣上戸

、 羅 外

骨も身も代々に桜の翁かな

、 応 美

一筋に道定りぬ花の中

、 不 才

雨の日も花にいづるか桑門

、 兎 夕

彼岸とて乞食すはれる花の陰

、 玉 牙

誰酔てもどりし跡や散桜

、 松 琶

ちる花を放下が蔭に畳けり

、 南 来

いそがしや花見る席に小雨降

、 草 美

花によるやゆたのたゆたのうかれ人

、 木 貞

土産の花香に満る住居哉

、 黒 樹

又たぐひ桜に月の面かな

、 光 暁

夕暮はちるよりかなし山桜

、 墨 古

清水にて

、 白 黛

誰が扇さくらに落す舞台哉

、 白 黛

さくら／＼山見ぬこゝろ又違ふ

、 沙 長

いそがしき命よ花の一七日

、 土 卵

雨添も花しづかなり嵐山

、 芦 涯

花咲や嵯峨野に霞土ほこり

、 紫 水

立傘に駅路の桜散にけり

、 杜 桂

花にはなの散かゝる山の姿哉

、 松 蒼

朝桜末頼しき日数かな

、 尼 得 終

【校異】高岡本の本文はここで終了。

(六一ウ)

さくら見るこゝろ叱るぞ市の人

、 米 駒

花に雨たまに女房の出る日哉

、 漢 水

雨の花うしや美人の骨を打

、 志 江

知る人を覗き歩行の花見哉

、 渡 牛

一日のぬしとみえけり花の本

、 路 月

ちる花に地を匍匐童二人哉

、 竿 哨

みよしの、旅人も戻れ花供養

、 其 成

花曇紙に蚕の命かな

雲和改 木 葉

散がてや一重桜の近まさり

、 關 更

祖翁百回忌追善俳諧 豊前小倉

旅人と我名呼れんはつ時雨

、 翁

いく霜むすぶ篠の古道

、 渭 水

西南の山松風に門さして

、 夏 夕

色よき柿を縄につらぬる

、 素 流

かたわれの月に車をおりたてば

、 不 成

水の上にも虫の音を鳴

、 南 明

うみ苧する桶に昔の忍ばれて

水

かいはいはみな腹あしき人

夕

桑の木に結び付たるつり狐

流

星は夜明のむら雲に入

成

うたかたとなり行恋の瘦からだ

明

火打ぶくろを贈る別路

水

鯨取つくしは人の頑に

夕

からかみうたふ月の小杜

流

蓑の毛の細きを風の吹通し

成

みなしごとといふ草とひに行

明

山陰の花見法師と聞へたり

水

窓さしのぞくきさらぎの末

夕

蛤をにじる湯町の裏通り

流

夕陽あかく鴈鳴なり

成

ふし染の着ならし衣手を組て

明

妻にあはじと思ひさだめり

水

酒に身をきのふは駿河けふは伊豆

夕

四月は夢のあとなかりけり

流

高杯に残のとし打けちて

成

供御とりちらしみな船に乗

明

檣柴や葉分の風の吹からに

水

病鹿の来るひはり戸の本

夕

月よしと枕につくる青つゝら

流

死をくれたる露の命ぞ

成

円物のあそび三度の御使

明

波しづまつて谷／＼の鐘

水

笹蟹の空にすかける糸張て

夕

見入のあさき家にすくも焚

流

檜木笠花は白きをうつろはず

成

春の心の今もおなじく

明

(六二ウ)

(六三ウ)

(六四オ)

手向

月やあらぬ松は昔を時雨けり 南明
遠き世の今宵や霜に心澄 不成
したふむかし霜の梢を月と花 素流
鳴衛ふるきをしたふ浦の波 夏夕
見ぬ世したふ蝦夷やうるまや松の霜 渭水
一時雨あとからも来て冬の月 花明
世は永離ひとり今宵の月寒し 菊露
右

遅来

花か雲か妻木樵る男に物申 洛 未物
笠ぬいで娘のひろふ花見かな 肥前平戸月岬改 竹溪
けふの雨花は曇もなかりけり 信州飯田 蘭二
すでに花の時来るけふの盛哉 洛 都水
暮行や花の末なる雪白し 加州 朶山
咲花や園の詠の絶間なき 柏舟
親しみの友訪ふ日あり山桜 、 雅松
誘はれて見ぬ初花の朝気哉 、 一馬
桜咲ほこり立日の最中哉 能州輪島 李席
世の中やうとき人には遅桜 勢州白子 宇兆
洛のはせを堂を思ひ出て
咲花に夜は包まる、庵かな 信州飯田 蕉雨
夜の桜さくらは闇を埋みけり 、 壺伯
花物をいはねど庵の往来哉 備中倉敷 無涯
(六五ウ)

洛東 芭蕉堂蔵板

(裏表紙見返し)
(裏表紙)

11 寛政九年『花供養』

底本 小林本
校異 雲英本

花供養

(題簽 表紙)
(表紙見返し)

さきも残さず散もはじめぬけふ
を其歳ぐに契り置て、翁の御
像をあがめ、追福の法会を執
せらるゝ。そが筵に近き国ぐは
さら也。帆づなよる紀の浦人がいと
ま、箴うつ越路おうなのわざにも
便り枝折をもとめつ、捧げ

(序一オ)

侍る句々を梓にのぼして、ながく
ばせを詞堂の庫に納めしめ、
またわが輩にはさかゆく道の
かたじけなさをしめたまふ。めで度
双紙成りけらし。 伏水あし丸誌

(序一ウ)

百韻一順

世は花に道一筋の変化哉

蝶鳥多きおくの白雲

大名の隠者貴き春の日に

鼓もいつかうち破たり

置替る石の下より水涌て

玉苗配る千株百株

昼の月あるかなきかに雨をやみ

百池

闌更

五牛

有隣

月峰

梅價

芦涯

秋の乙鳥の皆軒をさる

あきなひも分て此季はひかす也

氏神まいり八里すゝめる

虹消て跡はまことに明き日ぞ

軍遁るゝ山と水とに

夢むすぶ袖に律の匂ひ添

忘れし恋を人に問れつ

鳴連る鳥に曇る机先

ゆふべ世話しき械の音哉

濡たぶさしほる汐屋の折ぐに

くすりをしらぬ姉も妹も

白絹のふしを織にも名の高き

七野過れば秋風の吹

月の雲晴て林の下くらき

露ふみ分て疎遠訪ふ

悪太郎またなま中に孤は着ず

ふたゝびくみし桶碎たり

曙に帆をする鳥は何やらむ

ほそき煙の行ゑ定めず

隣にもいまだ仏は持ざりき

牛解刀誰かかくしたる

道つかぬ雪一丈をとし暮る

信玄今に床を払はぬ

幾度か碁にほこる人来りけり

忘れはせじな鐘や落らん

ともし火の消んとしてはばつと照

豊の算のあはぬがち也

想夫恋ふくにも息の力なき

朝の月すむ名ぐわしの池

さまぐの木の有庭の秋更て

(一オ)

白黛

棹雪

芦丸

兎夕

俚尤

応美

南栄

破巾

芹水

木貞

乙道

歌雄

都雀

斗流

由来

駟丹

子政

得終

翫雅

蘭子

不豺

其白

幾久成

桃李

蕉雨

虎白

藏撲

寄人

水芝

兎角

いろ鳥小鳥何あさるらん

枚方の煙の末の消がてに

風呂敷ほどく旅の徒然

人間の五十六才すこやかに

又新田をひらく遠浅

右

句順従遅速

遠退ば水の上なる桜かな

梟の花にせはしき月夜哉

姿見に競負たりいと桜

花に来て世話珍らしや仮世帯

白鳩の一羽出て行桜哉

白雲の庭にこぼれて夕桜

夕山や日はしんとして花の滝

散さくら長き命と思ひけり

花折て後に移る時計かな

散花を都に贈る風もがな

花のおく垣せぬ人の栖かな

狩の備へ乱るゝ花の盛哉

見帰れば親子舞なり夕桜

一本の花に世渡る茶店かな

風はほし花には厭や帰り船

散し見る心や花に狂ふ人

影になりし梢も花の最中哉

うへ向や花の日和の朝朗

酒ぐせや寝て花守の世話になる

人老ぬ負れて出し門の花

酒簾の花有門の出入かな

小雨して昼のさくらに寡鳥

竿哨

其成

辰風

米駒

菊後

(三ウ)

(三オ)

(四オ)

花散て雲こそ移れ桜川

花咲や奈良静なる廬遮那仏

朧夜のおして花や難波寺

山里は花の七日の月夜哉

鐘遠し花の辺の薄曇

石原の桜こたへてあらし哉

かつほ木や鑰石光る朝ざくら

花の山時なし寺ぞこのましき

夕栄や照あふ花の真白なる

花に出て中直りたる男かな

世の花に人も咲添ふ如く也

よの中にうきは桜のさかり哉

五十年を心にもてり花一夜

自ら月の被やいとざくら

月影にうこん桜を尋けり

思はずもやしきに入やさくら花

知る人にあふや花さく西東

水貫ふ隣は遠し山ざくら

雨晴や花ある里の朝朗

しづけさや朧に匂ふ夜のはな

花守の文やとゞきて初桜

花遅き桜は常のあらし哉

我ために守にはあらど花の山

四方の花目にあまりたる峠哉

遠近の鐘静なり花の時

此はなに狩なす人も浮世哉

雪折の片枝は淋し山桜

山寺の桜咲けり夕べ雨

、

、

浪華 器友

、 自楽

、 長斎

加州金沢 黎松

上毛草津 鷺白

、 白英

、 涼眉

、 菅菰

、 魚欄

相州猿ヶ島 丈水

、 半素

、 苾山

武州勅使河原 快馬

、 無塵

伊丹 東瓦

加州 更々

江州貝津 其月

、 芦丹

但馬 五雁

江州万木 東嶺

東武入間ノ里 観心

、 朝霧

、 川柳

、 大兆

、 白羽

、 喜久仙

(四ウ)

をしや散る額に花のへばり付

咲初し千もとの花に桜人

散ればこそ詠もふかき花の山

実花や大名通る此あたり

宮つこも三井寺諷ふ桜哉

風の音花のよすがのかたごころ

独来て独帰るや山ざくら

花の雪煙の下を清めけり

飲水を垂けり嵯峨の花の川

白雲の落ざま見たり花の山

花散や日も闌に鐘霞

花を踏人ちさく見ゆ東大寺

薄暮や桜に埋む鐘の声

夜桜に蠟燭売をとゞめけり

たちもどり手の花とはん荳長し

からむしの布織軒や遅桜

中の二日有無のなか也花の中

乱る花やかしき世とは思共

うき我を世にあらせたる桜哉

分入て袖に物とふ桜かな

行あたる人なつかしやさくら狩

鶯つがひ吹わかれけり花の空

山ざくら駒は月毛の麓哉

煙たゞよふ幕の春風

姑射山へ入かよ花にうかれ人

陽炎消る草にぬる蝶

岡の桜雨夜に千鳥のぼりけり

、 桃栄

、 瑞宜

、 園蝶

、 麦倍

浪花 素吼

江州万木 北嶺

、 加茂 堅山

筑前甘木 布館

江州信楽 九岡

、 一道

西湖万木 素更

上毛島村 万戸

紀州三鍋 九阜

但州和田 蘭山

能州 破巾

飛州 東籬

但州 木姿

越中東水橋 厥叟

勢州四日市 化蝶

、 寺方 里朝

信州林 柳枝

、 風子

、 飯田 里風

、 柳枝

、 柳枝

、 里風

羽州左沢 露橋

(六オ)

花の色や姥と名を呼桜しも

世わたりや占かた鶯花の陰

梟や笑はれに出る花曇り

人しらぬ深山に在て桜哉

なめて見んさくらがもとの潦

花もどり夕轟や渡月橋

床しけれ花守が身の夕心

散ことのあるで桜もさくら也

花見るや雲の上人世すて人

地の底の蟬見付たり遅桜

船玉に夷の国の桜かな

賤の女といはれて花の主哉

葉ざくらや隣は今を遅ざくら

桜生て硯売嵯峨の町家哉

日斜や鳥夫ぐを花に啼

みよしの、花や十年二十年

でかしたり桜分行まよひ道

雁がねの帰る名残や花の客

折花は孫の手にあり山ざくら

山畑やさくら散こむ桔槔

花の頃留守の戸に迄匂ひ哉

見返れば月の影さす桜哉

透し見る桜に二日月夜哉

翌日ありと思へど惜しや夕桜

夕日さす谷へ散行さくら哉

短冊は桜の中のさくら哉

船とめん浦山ざくら日の静

、 白賞

、 素風

芸州能美島 雨丹

城南八幡 班狸

、 自我

阿州西分 羽角

奥南部行脚 一草

浪華 蕪城

甲州三日市 一古

予州今張 卷玉

、 車南

、 古冬

、 李風

、 卯七

江戸 松蘿

播州小野 君中

、 国包 其跡

、 沽節

肥前佐賀 春菓

能州竹之津 瀧の坊

甲州逸見 利躬

上州 雨翠

、 木工

、 文和

、 田口 柳雪

、 前橋 香風

、 庭山

(八ウ)

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

、

月の出て又見る夜の桜哉

、李雪

眼うつりに迎の寂る桜かな

信州浅野 株甫

日は入て山又白しさくら狩

、栗之

島山やさくら咲日の朝ぼらけ

上毛大原 青蒲

出不肖の必くもる桜かな

芸州広島 ふみへ

(九ウ)

咲初て雲も八重たつ桜哉

江戸 一甫

人老ぬ今年も花の見事成

甲州暮地 琴水

花さくや何とせぬ身も暮惜き

肥前 頂華

帰りに枝折尋ん花の山

、佐賀 嘯風

日落てもしばしあかるき桜哉

遠州 幾久成

切株やのほりてあそぶ山桜

但州 蘭山

人群る花も六日の野山哉

越中放生津 白老

嗚呼桜哉と感じて一句なし

讃州 如竹

桜くもえなん峰の入日哉

城南 魯長

(一〇オ)

桜咲て名馬ほしがる奈良法師

不木

有漏無漏の境はいかに散桜

讃州 吐鳥

河音や花に着せたき夜の衣

粟津義仲寺 重厚

こもりたき夜の桜や鞍馬寺

、班鳩

又も花見よとて延し命かも

信州長瀬連月下坊 黒水

三人のたはれ見にけり花の奥

、平松亭 有声

草の上にあたりたき物や散桜

、不可

初ざくら咲や山部の村はづれ

、草耳

木菟の眠りて寒し朝桜

、斧山

夕日さす寺や桜の下あかり

、鬼笑

雲と見る山迄つゞく桜哉

、依山

散花を紙に包んで帰けり

、白亀

さくら咲山を目当や渡し船

、庭山

咲や此さくらの中の鐘青し

、春翠

此あたり水白妙に花の雲

長州赤間関 花休

あけほのをこぼる、花の匂ひ哉、

(二オ)

かたぐ目の花に埋みし人は誰ぞ、

(二オ)

桜さく月の谷川夜明たり、

(二オ)

花やさくら高根はづれし雲もなし、

(二オ)

眠なば花に莊子の夢もがな

(二オ)

あまつさへ花も見えけり淡路島

(二オ)

見ゆるもの皆いさぎよし花の山

(二オ)

さくら咲並木のおくや白の音

(二オ)

桜咲て余所に名をうる片山家

(二オ)

花の山路桜狩とは覚束な

(二ウ)

船つけば岩間隠れの山ざくら

(二ウ)

居所も定めず花の飛鳥山

(二ウ)

花に欲くれて淋しきもどり哉

(二ウ)

花に来てうき世の外ぞ芳野山

(二ウ)

旅人の笠に着て来る雨の花

(二ウ)

君来ぬと桜の中の枝折かな

(二ウ)

見上たる山は桜のとほそ哉

(二ウ)

ほのくくと浅黄桜の朝日哉

(二ウ)

道くや花の葉に鳥の啼

(二ウ)

蝕ばれて桜をちらす夕日哉

(二ウ)

手をうてば夕鳥花にさはぐ也

(二ウ)

ふいと来て桜にあそぶ夕哉

(二ウ)

鳥は音のよくもかれざるぞ花雲

(二ウ)

鶏の音に思ひ明すや花日和

(二ウ)

溪路や花ものいはず新しき

(二ウ)

居ながらに老の花見や千里鏡

(二ウ)

花盗み阿れば母へと申けり

(二ウ)

世の中や花に心の水かみ

(二ウ)

雨折る神もましませ花盛

(二四オ)

さくら咲ころの松風色みたり

(二四オ)

咲初る花に風吹夕かな

(二四オ)

在明や四五軒ならぶ花の庵

(二四オ)

果しなき世とは思へどはつ桜

(二四オ)

それ鞠のしばしめけり花の中

(二四オ)

鯨寄る浦もさくらの旭かな

(二四オ)

提灯の古めく花の戻り哉

(二四オ)

あこがれて花見世帯の奈良の里

(二四オ)

花に出て気はしかうなる女哉

(二四オ)

新しき斧の跡ありはつざくら

(二四オ)

在明や朧の花にかしこまり

(二四オ)

うるはしく花の明りや幕の内

(二四オ)

夕月の西照る花の木の間哉

(二四オ)

池の桜散るは空なるさくら哉

(二四オ)

花を照日洩てうれし吾が齡

(二四オ)

響すな花の辺の薪伐

(二四オ)

三歳の背くらべ桜咲にけり

(二四オ)

里くはみな留守もりの桜哉

(二四オ)

初老の春

(二四オ)

詠入て花にまどはぬ心かな

(二四オ)

花の山嘶く馬のふもと哉

(二四オ)

霞の中を通ふ鐘の音

(二四オ)

炬をふさぐ比は茶臼に眠るらん

(二四オ)

おもしろい名の手紙来る也

(二四オ)

座蒲団をはこぶ小船に八日月

(二四オ)

芦とす、きに露の玉散

(二四オ)

谷ぐの雲のしらみや夕桜 浪花 禎祥

嗚呼さくら草は廿日もある物を 遠州久喜賀浦 演之 (一四ウ)

花ざかり花に寝顔の乞食哉 業甫

栗飯に腹は肥たりかばざくら 玉尾

大木に名高き寺のさくら哉 雄之

酒まいらせん桜がもとに眠る人 和吹

咲満て花に隠る、深山かな 上毛樋越 素栄

吹折れし桜咲けり春の末 鼻毛石 米器

月ひとつ住残りけりゆふ桜 東箱田 米鼠

柴売の迎ひに來たり山桜 米丘 (一五オ)

風もなく散氣の付し桜哉 荒口 米充

山賤にいざこと問んさくら狩 横室 三笑

朝桜浅黄はもの、なつかしき、上ノ宮 羅仏

雨晴や結んで落る花の露 猫村 晶角

一面に花の日和の静かな 桐生 素陰

さくら咲けふや則天赦日 鷺川

寝る時に草臥出たり花戻り 得牛

敷島の行道ひろし花の山 mayaはし 宗応

折て來ぬ花に女房の怨み哉 麦四 (一五ウ)

飲尽てゆふべを花にぬる人か 素太

あしたには雲と成てふ花恋し、木庵 米砂

中ぐにまどへる花のまくら哉 浪花 了江

寺深し桜散夜の月曇る 讃州白鳥 灌圃

散かゝる花にひぐや辻芝居 勢州部田 梅二坊

花の風箔の小袖の上をふく 浪華 魯隱

吹よせて音せぬ浪やちる桜 浅生 (一六オ)

夢に見てふたゝび花のさかり哉 能州富木 蚊几

不可及其愚

花の陰さすがに馬鹿と成にくし 筑前若松 可十

郷見れば日は落かたや花の山 文允

月に除今は桜の枝ほしき 方云

衣そ、ぐ花の流れの里床し 有之

花の集見た夜は大和巡りけり 本木 樗葉

花曇り近よればよき日の目有 文左

花に叫ぶ翁やひとり朝ぼらけ 福岡 競巴 (一六ウ)

花の人尋て花に迷はされ 左々

散浮る花に干渴の嵐哉 蘭夕

花の友同じ心や顔も似て 佩霞

おく山の花に功者よ京の人 左史

歌仙

初ざくら誰が枝せし去年の山 越中放生津 二翼

齒朶の古葉にすべる赤土 大西

蜆汁別墅にかよふ給仕して 白老

なか刺かくす丸額がみ 翼 (一七オ)

昼の月牛打鞭に草のつる 西

声さまぐの虫や飛かふ 老

城跡の秋冷じき堀の水 翼

まつり日知れぬ小祠の神 西

みつ輪組年めでたしと座を譲 老

亥の子の夕霰ふり出し 翼

何となう契し事も疑はれ 西

頑に見る井手の下紐 老

窓の秋打込風の徒然に 翼 (一七ウ)

桂の雁のうつる月影 西

なぐさめも長き夜すがの船の上 老

御傍女中の酌とりになち 翼

植まぜに花と柳のからにしき 西

燕の巢くふ新羅漢堂 老

右下略

明日からは人も訪ばやはつ桜 越中放生津 九阜

見歩行は人の桜はなかりけり 甲州藤田連 可都里 (一八オ)

花ざかりついと出てくる都かな 漢甫

花咲て我にひと癖付にけり 作良

散花をうけて浴る心かな 不求

見事なり又おしげにも桜ちる 序明

夜桜や一雨しのぐ尻畳 柴馬

花の夢峰迄登る寝汗哉 鏡平

花咲て雇人おかじ麓坊 三ノ条 歌筵

見所は日の熏にあり遅ざくら 三紙

月夜ほどよし野桜のしらみ哉、山ノ神 保久二 (一八ウ)

やどり木の桜さくらにやどりけり、鳥語

心あるか門の桜に夜の人 柴蘿

咲花に心の望うせにけり 佰洞

朝山や雉子追立てさくら狩、鍛冶軒居 富久

桜過て眠れど花見心かな 吞鳥

朝戸出や君が行方は花ばかり 市川 鱒魚

分別も捨て出けり花の友 布施 東麻

酒さめて夕桜とはなりにけり 浅原 六珈 (一九オ)

花守や花あるうちの拾ひ物 雄生

こんもりと月夜桜の更にけり 松声

夜桜ややすく更行松の月 真弓

朝ざくら東へ向かぬ顔もなし 真洞

朝ざくらさすがに障る物もなし 東都 捨来

蝶追ふて童につる、桜かな 越前丸岡 八矢

ゆふ月や騎射の嵐に桜ちる 越中高丘 旭山

花景の浮島松や柏かけ 上州横尾 如泉 (一九ウ)

鐘は霞で浪はさら／＼ 杜若

紙鳶老と児との道すがら 茶暉

篠葉草根に風は落たり 泉

月さへて猫の鳴行里あらし 若

器氷りて豆腐ひく比 暉

雲と咲雪に似て散桜哉 伊賀上野 未塵

花咲て三日は空をあんじけり 芸州竹原女 舌向

雨の日や花に飢たる人の顔 嵯峨 峨乙 (二〇オ)

夜桜や菰きた僧の物がたり 阿波 如陰

きぬ／＼や桜に雲のはなれ際 丹州龜山 全瓦

竹馬の鞍打つて花見哉 、女 芝蘭

水白し花に曇れる人の声 筑前 君花

惜しやかゝる花に人なし朝朗 奥州仙台 福二

ほのめくやとぎれ／＼に遅桜 、城山

散る迄も見からず花の主かな 、梅窓

ちる花や風なく見せる花の奥 、古柳 (二〇ウ)

花の世を我もの顔や林守 、彈子

分のぼる六部の鉦や花の山 、東流

古道は覚束なくも桜かな 、五渡

朝船の遠山ざくらうごく也 江東八幡山 柏翠

散花に昔しのぶや小町塚 、紫石

昼中は人に動かん山ざくら 、芳志

雨中惜花

月は雲に隠れもするを雨の花 龍城内三秀亭 李喬

ちる桜筏守家の水の味 三州池鯉鮒 祖風 (二一オ)

谷川や水は濁りて花の陰 越水見 南玉

月影の更て見付し花の露 、祐之

鶯を尋てゆけばはつ桜 、春潮

柴の戸や花の香を吹七つ崎 、魯仙

山ざくら我より先に人の音 、蛙水

花七日石に雉子鳴朝ぼらけ 、水明

軒の曇遠山桜咲ぬらん 、馬十

堅神といへる里にて

春もまだ過かた神や遅桜 志州鳥城 蒼梧 (二二ウ)

桜散陰を神輿の鏡かな 上毛龜丘 笑魚

生船に花散城の出崎かな 、世良田 兎月

馬乗らぬ坂に篠家の遅桜 、志塩

花に来て噓おかしき昼間哉 、尾島 官橋

鐘遠く日をか、へたる露桜 、龜丘 杵白

暮をしと跡じさりする桜かな 出雲 蔵撰

曙に水汲花のふもと哉 、蕉雨

夜桜やはたち若くば反吐踏ん 丹波梶原 洞々 (二二オ)

花越て誰やら呼し我名哉 、牛河内 東畦

一昨日の雨光りけりはつ桜 、上田 暮来

往し花に白眼之助と申けり 、黒井 大梧

散花に長き思ひの醜かし 加州金沢 周馬

長閑さや花にほたへる牛の声 、巴州

酔醒の見る物にせん散桜 河内郡づ 古光

古ざれし誰が塚なるぞ花の下 、芦風

此はなにうき世を捨て庵主哉 、如水

入相に耳ふたぎけり山ざくら 、如竹 (二三ウ)

黙然と子をふところに花見哉、村野 淡水

人絶ぬ花よさくらよ東山 、竹里

散花にまぎれて蝶の狂ひけり、私市 由之

うか／＼と星の桜になりけり、ト子

詠入る滝に音なし山桜 、私部 友光

雲と見し花下にあり九折 、里山

花むしろ地に曙の鳥が啼 浪花 友国 (二三オ)

滝のほとりの春ぞつめたき 長斎

籟のけふは西より霞来て 、

ふくろの中の珠みがく也 国

竹の葉に露もこぼさぬ月なれや 、

たななし船に初潮を汲 執筆

とろけんとする心哉桜かな 城南天神森 五牛

分のぼる桜が中の煙かな 江州朽木 南嶺

軒の花灯ともし比の人の声 上毛下仁田 曉鳥

狼藉の花みだしけり薪伐 長州厚狭 梅扉 (二三ウ)

待花や西風渡る宵の月 肥前有田 波声

灯のさくらにもるや奥の院 、雪扨

初桜笠も此日と着初けり 、島原 陀雲

桜咲や山／＼くれて焚篝 、白狼

花は枝に人声は山に満日哉 、一睡

人はいさ我にふれ／＼花の雪 、董里

花の蜂折とる人を追にけり 、神代 仙鳥

嗚呼桜見る／＼風に仕舞けり 、呂柏

古城のさくらに昔語りけり 、斎我 (二四オ)

花守に羽織たまはる国司哉 、芳洲

代官の花見制して花見哉 、魯盎

花に心借る宵や雨曇り 、梨水

散花に睡りし牛の涎かな
、 兎丈
花に酌酒や客なし主なし
、 完雅
世の中に何事かある花盛
、
路守に白銀くれつ花の人
、 春喬
夷等が肉ぶとりけり島の花
、
やどり木の花見てこれも桜哉
越後荒井 如蘭 (二四ウ)
ちる花と共に大井の水も行
肥後熊本 亀令
酔る花のあく迄床し芳野山
長浜 翅月
花の雲牛鳴車やどりかな
江州彦根 水石
何事に出るも花見けしき哉
行脚 石蘭
花に出て人近き人と呼れけり
筑前戸屋 希玉
花と月清めば昔がたりかな
、 白志
夜桜や人間に富貴鳥貧し
浪花 一炊庵
片枝に吹矢の跡や山ざくら
、 亀丈
六歳ぶり嵐もあらず桜哉
江州江頭 籬庵 (二五オ)
夜ざくらや草に酒ふく白拍子
越前敦賀 沢雉
花に付し毛虫を憎む翁哉
甲州暮地 隣車
諷ふ声花に沈むや日の曇
肥前平戸 魚翁
花の香や露の下闇明初ず
江戸 完来
いにしへよ今よ桜の散寒み
、 午心
初ざくら今年命の手際哉
浪花 大江丸
いつとなく浪に開くや磯桜
日向美々津 吟龍
花を見る乞食や昔何の果
越前敦賀 松琴
花に寝て狐の姿見付たり
江州石部 亀渕 (二五ウ)
待をしむ花の心の老もせず
東都 宗讀
門の花さいて主の留守七日
、 百恐
夕闇や花散あとの梢より
江州平松 亞溪
黛のみだれめだちぬ花の陰
、 女 志宇
又雲にわれいざなふか山桜
奥津軽 五英
白雲に雲たつ雨の桜哉
浪花 如流

初花やゆふべの雨のぬくみより
、 詩舳
大原女の給ははやし初桜
玉房
口あいた人ばかり也花の山
梅邦 (二六オ)
御園より薄茶召けり夕桜
蘇雄
羽根つよく蝶狂ひけり遅桜
能州黒島 玳卜
天の戸やさくらに曇る鳥の声
、 玻井
夜桜に奥の見えすく揚家哉
、 柳汀
蝶鳥に梢の花のちる日哉
、 布遊
夜鴉の花におぼれてや鳴巡る
、 錦川 玉史
二夜庵百韻一順
朝／＼の飯よう焚て花盛
東都 貞松 (二六ウ)
南雲に暮る、二月
松月
鉢壳濡紙きざむ陽炎に
白慶
十人ばかり袖つらね行
金翠
置露の宵寝の雀寝飽らん
紗言
一本竹に影さ、ぬ月
百道
芝栗も短冊板も浮潮ぞ
自閑
声がんばりし秋の野男
浙江
翰人の四十の色香捨かねて
椿羅
うらみつのりし折紙の文
風化 (二七オ)
庫裡口につ、み開けば昼下る
寸羅
こぶらがへりに空蟬を踏
岐暁
里人の横たえたがる長こじり
微日
軍がましく櫃に蓋する
曲阿
薄様に草山集を書つゝめ
和養
胸に杖して途に煩ふ
理玉
黒蛇のは、木隠れも怖しや
五風
彼岸七日をづぶに降たり
惠中

風雲のしらみがちにも月は行
嘉菊 (二七ウ)
老には過し四里の山間
太麻
雨の花人なつかしくねまりつ、
梅人
後れやらじのまだらひしくひ
普撰
竿舟の小くらに風の尾をたぐり
梅甫
膝した、るく君に泣る、
五計
消る火に手のた、かれぬしのぼしき
寸龍
杉をうしろの雪の小城下
素交
琵琶袋たがへて馬をまくり下り
成美
黄昏空の豆腐戴く
寸来 (二八オ)
雷のなれば物くふ癖ありて
真越
佃屋敷は敏う放しける
蘭枝
梓木に合歡の眠や移るらん
荳父
今煮鯉に筧しかけし
文考
祭酒大垣衣のまめやかに
弼水
木戸打比を槍ふらす月
菊明
稲はさの陰行堰さら／＼と
檀丸
鳴あみ持てのらの名を取
江風
いくたりも女郎のたはる店借りて
雉鳴 (二八ウ)
錦帯橋を壁に詠る
筆
初ざくら種芋選ぶ日和哉
相州長井 呉雪
近よれば滝の音あり花の蛇
下総水海道 文考
花満て柴灯のしらみけり
奥州津軽 春潮
散か、る桜に蛛の吹れける
桃仙
火ともせば花色／＼にみゆる哉
五竹
家はづれや桜戻りの潰れ声
玉之
花の暮鐘は清水鳥は北
、岩城平 幾重 (二九オ)
行方を香にさそはれて花の山
露帆
捨杭に鶯のとまるや花日和
沾里

夜ざくらや催馬楽諷ふ都人

水府 旦松

花に寝て門逐るゝは乞食哉

武蔵 金翠

妻もある花の中なる一ツ家

江戸 紗言

醉人の噂やはなの五六日

越中 楚口

都氣にうつろはぬ間や初桜

甲州飯野 真貫

折あらず花盗人も夜は来ず

、 梅五

情ふかし花のうしろの小宴

、 静良

嶺こせばまたなつかし、里の花

平岡 如雪

あだ雲の外は山みな山ざくら

、 龍笛

けふも来てうき世忘れの桜哉

、 和水

晦日まで通ひつめたる桜かな

、 孔阜

遠里の花折添し旅籠哉

、 和石

ある人の月にふれ来る桜哉

、小笠原 都良雄

人心花にとゞかで散日かな

、 静菖

醜きは人にこそあれ花千本

勢州山田 晴山

散浮し源介橋の花いかだ

筑前木屋瀬 木耳

駕にのる奢もにくし桜狩

奥州仙台連 露仙

けふはまた嫁にねだられて山桜

露角

おもひきや傾城つれて桜とは

、 儀角

さく花に賤がさむしろけふも借

、 和睡

桜川風ののちの名成べし

、 右魚

うつろふや花諸共に眼かれせず

、 竹和

夕栄や桜の山の朧雲

、女 仙紫

池清し桜の上を魚狂ふ

、 閑和

山口や花になり行よるの雨

、 白鯉

龍灯のそれに隠るゝさくら哉

、 雪香

あかぬ色と君もの給ふ桜かな 江州大津 井子

散桜人しづまりて帰けり 勢州山田木枯庵 丘馬

ともすれば曇るを花の心哉 四溪

待わびて見尽さぬ内に散桜 百花

夜はすでに人よりしらむ花の山 似蓉

舞ばうたひ或は眠り花の山 梅月庵 坡灰

石置て流れ越し行花見哉 女 幸

譲るべき座を奪るゝ花見哉 桑戸

山ざくら年木にもれて盛かな 不及

花ざかり忍でもないの日和哉、一斗庵 逸漁

夕されば松のひまもるさくら哉 東河

用のある往来に馬場の花見哉 双石

滝の首の名こそ残して咲くら 備後布瑛 ふもと

鮮はまだ小鮎成けり花ざかり 魚一

花守に明松かりて戻りけり 三淵 楚雲

きのふまであだに暮して散桜 防州室津 仙家

しらぬ鳥のかずく鳴や花の山 埋木

竈やる野陣の跡や遅ざくら 石父

鴛鴦に流れかゝるや花いかだ 女と美

躋る山みな花のさかり哉 鯨牙

うつとしい曇には似ず花の山 佐賀 東溪

山里や花にしろよし十二日 浪花 画涼

花五日腹わたに散心かな 筑前木駅 ともを

明がたや風なき岡の散さくら 芦屋 なくら

水白し花に曇れる人の声 直方 君花

人群る花の六日の野山哉 越中放生津 白老

花見るや雲の上人世捨人 甲州三田市 一古

花に嵐散うく水もとゞまらず 下毛栃木 尺樹

花の欲山迄ほしく成にけり 芥舟

紙漉るよしの、里や初ざくら 橘人

花に明花に暮しつ奈良法師 淡交

すごくと酒のむ花の留守居哉 灯居

散やさくら水打庭の物あはれ 桃葉

うとくと杉のみくらし花の山、内西方 不玉

鶯や暈に暮る児二人 奥津輕 富之

折添て桜ちらすな刀もち 五嵐

ほとゝぎす鳴や桜の葉の茂り 梅中

朝さへや鹿の背をかく岡の松 凡鳥

白削る雪の夕の扉かな 梅成

閑さや関の桜に鳥下りる 能登三階首曉改 五井

おく山や人まつ色の遅ざくら セリ川 昇山

くれてやら庭を桜の月夜哉 備後府中 可卜

誰やこの浮世の花に編木する 防州山口 湖流

曇来る空を花まつ便哉 四教

さくら木にいやます花の光かな 河丁

撞や鐘花の夜すがら月の澄 流志

風しぶく曉憂しな花の夢 舍州

表八句

さくら戸や散目をうしこし側め 越中高丘 白雪

田螺耳なれ見なれ県居 東呉

鋤を曳中に千里の駒を侘て 魯長

杓もてしいる半切の酒 荊花

大紋に檜の臭からき空の助 呉

頂ちゝめる比良の根をろし 雪

かゝり船月遅き夜の覺束な 花

芦火の飯の穂わた交りに 長

(三二ウ)

(三三ウ)

(三三ウ)

(三四ウ)

右下略

花に寄れば麓の家の近劣り
 桜咲て世に余さる、暮打哉
 静さや花散里の火縄店
 みやづかひ花に二日の隙もがな
 百年も遊ばんさまや花の蝶
 花の雲はづれにかはら庇哉
 深く香をつゝむ心か山ざくら
 朝付日うるみぬけたり雨後の花
 杳音に人がらしるし庭の花
 咲花に懐旧の情の発りけり
 敷浪や磯山ざくらちりかゝる
 花の雫硯の水となす日哉
 邯鄲の枕と花をしきね哉
 花の狂阿蘭陀酒に人や酔
 遠騎の裾野に暮る桜哉
 あけぼのや花のまに／＼雲動く
 夕鴉啼や真白き山ざくら
 狩人の起ふし安し山桜
 此頃は桜に奢る山家哉
 雲分て稀人去れりゆふ桜
 賑ひやさくらが中の緋毛氈
 花一木其のち桜咲にけり
 此花に誰が夢見しぞ枕紙
 山桜ちるがかなしいか呼子鳥
 我心なやめる雨の桜かな
 雨の桜衣しほれば匂ひけり

、大旗
 、魯長
 、東呉
 、岩坪 鳥籟
 、久々江 北海
 、濁口 白楊
 、里秀
 、魯丁
 、堀岡 吞牛
 西肥諫早 孤石
 、雨夕
 、芳笠
 、都友
 、梅路
 、輝白
 、文塘
 、紅良
 、瀧吹
 、肥前島原 几睡
 常州水府 真向
 筑前福岡 蘭亭
 東都臨海主人 春蟻
 在朝鮮 孚湫
 奥州 冥々
 江西浦 瑤雀
 江戸 芦錐

(三五ウ)

桜見や友選ぶ間の朝曇り
 岡の花人にも春をいそがする
 茶のかてに木の実出しけり花の宿
 初ざくら柳の春を離たり
 山ざくらかごとがましく月に散
 うちつれて花の迎に出かけたり
 まつ風はあちらの谷や山桜
 世はかくぞ花に寝転ぶ借り蒲団
 うち見やる桜は明し雨の人
 十徳の人の世界や花の陰
 雨恋し蒼桜に日の斜
 暮を散花よ女の長羽織
 夕榮や乙鳥のくゞる花の波
 花ざかり昼も月夜も休かな
 花に終見ほれ／＼て俄雨
 うつり行花の下水影澄ぬ
 夕されば漸静まりぬ花の声
 野の宮や桜にひくき朝の月
 山ざくら女の酔も憎からず
 さくらのみ風吹やうに思ひけり
 花散すもの見付たり鳥の声
 物がたき人や桜に片苗字
 心こゝにありて乱る、桜かな
 花のため人の肥たる弥生哉
 鶯は何処へなぐれて雨の花
 八丁の道廻りけり山ざくら
 信州善光寺 柳莊
 、杜厚
 凡化
 、如風
 、文兆
 、希言
 浪花 柏庭
 播州龍野 十洲
 上毛宮崎 朔宇
 、以貫
 、玉支
 、宇明
 、安中 夢中斎
 求我
 、中宿 佐保
 加州 石堂
 伏水 あし丸
 、金兎
 、錦圃
 、梅價
 信州 岷山
 奥州一ノ関 扣角
 豊前 有隣
 駒丹
 月峰
 芦涯

(三六オ)

(三七オ)

朝和やつもる共なき花の色
 夕桜露にまがへて暮にけり
 花もるや花過し人の閑なる
 巡りあふ都の花や双林寺
 花最中囀ん鳥は寝にも来ず
 風情足る花にむかへば月匂ふ
 妙なるや月に移れる花の色
 月の桜や一羽鳥のうかれ声
 花七日中に雨有嵐あり
 常の人うかれの人や花の道
 花にうかるゝ我に表太が魂や入し
 呼ついでくれを下るや桜狩
 衰へぬ花より風のふく日哉
 初ざくら嘘いふ人に出会たり
 花まてる流れきのふに似ざる哉
 散と咲中の二日を花供養
 はつ桜隣もあれどかけ巡る
 花の雲見る我上はさくら散
 花の庭匂ふや鳥の声迄も
 折／＼や花に隠るゝ人の声
 蕨買て案内させばや山桜
 花に眠り月に驚く夕哉
 庭ざくら見る事まれに主ぶり
 花あればこそ鳥も鳴人も笑へ
 咲満て中／＼花の朧哉
 眼澄てあけぼの、花寒かりき
 月となりて鳥眼覚しぬ花の山
 見とゞめて居れば曇れり遠桜
 朝ぼらけ初て花を遠目哉
 棹雪
 唇風
 五六
 水芝
 虎白
 木貞
 兎夕
 兎角
 其白
 都水
 南来
 松琶
 米駒
 不狩
 竿哨
 其成
 芹水
 南榮
 東適
 黒樹
 菊後
 翫雅
 二雷
 寒蓼
 樗山
 杜桂
 尼 狸尤
 甫尺
 白黛

(三七ウ)

(三八ウ)

(三八ウ)

(三九オ)

折といふ手に散もうし山桜
春十日仏めでたし花の寺

桃李

折くは花もつれけりいと桜

左伴

灯うつりや花に動ん夜の蝶

竹風

花さかば告よ鞍馬の石運び

蘇江

眼を閉て心の花を見る日哉

龍美

谷間の水音凄し夕ざくら

蘭子

花曇風はむ鳥の過けり

得終

桜みな露と成けり山かづら

応美

酔機嫌花にまぶれて歩けり

丈左

磯山や春を忘れぬ遅ざくら

嘯山

我も歌に詠入られつさくら人

閑空

花曇裕着て居るひとり哉

斗雪

遠近も花によるべの蝶よ鳥よ

青鯉

あけぼのや浅黄桜の空に移り

都雀

雨はれて花心よき二十日かな

(四〇オ)

恋にかへし桜に暮の嵐哉

長道

わりなしや茎ながら散雨の花

土卵

夜ざくらや花の後の人の顔

松蒼

遅ざくら一木がもとの雪吹哉

可董

花に暮て山松の戸を潜る哉

草美

花の雲天津桜と見やりけり

鉢叩 百々丞

花さそふ水の上にも盛かな

乙道

關更

(四〇ウ)

洛東 芭蕉堂蔵板

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

12 寛政十年『花供養』

底本 月明本（請求番号848）
校異 燕々本

花供養

（表紙・題簽）
（表紙見返し）

徳不孤必となりあり。洛東山なる双林樹下
南無庵の花供養、その徳海内にひろ

ごりて、月の会に光をまし、としごとの春
のいやをひ、あふみかふみのすき人霞む
ゆふべ、鳥が音を啼、あしたをめで、
はた浮立閑語の拍子にもか、はり、あるは
はこび、あるはふみをして、是がために心を
動かさざらんの輩すくなきはあまねく
古池の遺詠あつきいさをしより起れる
がゆへ、たとむにあまりあり。されや杖は
老をたすけて千里をともしなひ、こたび
金玉の山頭に登り、徐に意を空山の
いたゞきにすへ、見ぬ世の昔今を観念し、
はじめに毫をふるふてしかいふものは、能浦
黒島獅子窟の玻井なりけらし

（序一オ）

寛政十年三月

（序一ウ）

一順

朝虹の下もれ出るさくら哉

水ます池に春の漣

蝶鳥の通ふ染屋の翠簾ふりて

蜃洲

闌更

蒼虬

あき手日雇の酒過し声

組板の血しほも氷る雪しまき

ひろき城下のはし／＼の留

後の月鐘鏝あとの土凹／＼

希に柳の色替て散

住人の砧も持し連歌堂

近き都を牛馬のつて

病がちに草のかぶれの口惜き

已待の灯影咎られたり

夏の来て物古くさき下湯殿

すほめる傘に麦秋の塵

忍ぶ間の髪も飾らぬ近まさり

手染を侘る七夕の月

橋もれば竹の嵐に竹の露

鶺鴒の囀に山雀のよる

作法なく三輪組迄つかはれて

明知が陣に荒し山門

ふる道はをくる、花の咲埋み

桑つむ比の越のさき織

若鯨の籠に香のつく夕間暮

小雨に見やる伊勢が柴垣

薄衣札の神の代参り

疼をさへてけさも起ぬる

すたれたる伯父の長者の名の惜き

釜の湯気吹年越の風

紅粉さして爪の匂へる比なれや

老母草のかれ葉恋ほだけかし

亡人の像にちよろ／＼紙魚の出て

みんながよしとす、む葛切

末略

鹿古

松蒼

後楽

志諺

駟丹（一ノ二オ・一）

百尾

馬吹

周泉

寸草

魯長

子邇

芦涯

秋屋

土卵（一ノ二ウ・一）

月峰

江蓼

芹水

白黛

古光

百池

鬼荊

黒樹

破巾（一ノ二オ・二）

其成

得終

南榮

応美

乙道

棹雪

（一ノ二ウ・二）

花咲や吉野あたりの駕かせぎ 上毛藤岡 曲枕

寝まよふと鳴夜烏や花の山 、 琴松

山口に鎖おろしけりゆふ桜 洛凡二

山ざくら我よぶ人の覚束な 、 甫雪

さくら／＼雲にも登る身は軽し 、 壺山

散さくら眠り上戸の閑なり 、 車莫

あしもとの暮るもしらず花見哉 芸州小方 可友

名月や明ればたゞの露の朝 江州長浜 翅月（一オ・三）

道つくる翁ひとりやはつ桜 筑後伯東寺 可承

名月や空一色に静なる 全

心すみて詩意うかみけり竹の月 上毛大原 青蒲

月影や魚のひれふる水の色 、 麴舟

宿かりて心一ぱいの月見哉 遠州植松 和吹

散もせで人をいとふか花曇 浪花 画涼

花高し築地を越る蝶の群 西湖太田 二鶴

雲井に霞む舞鶴の声 知石（一ウ・三）

笠ふたつ親子連立うらゝかに 有隣

鄙風俗もなく敬はれぬる 羅交

里の秋月さやかなる宵なれや 如柳

ひらたき家にしころ打音 隣

らうたげに平氏の末のうそ寒 交

涌出る水の代々に流るゝ 鶴

此国の鬼門を守霊地哉 石

さき織着つゝ宿を求る 柳

一しきり雪にまぶれて鳴衛 鶴（二オ・四）

三上はなれて月は冴たり 石

神垣に忍ぶ祈の嘆して 柳

人のおもひにぬらす被や 交

後朝の歌に眠れるやない筈 隣

笕の手水清く来にけり

しめし野へよるべの産の初桜

酔てよろめく陽炎の中

石 交 柳

花の山奥は恐ろし後鬼前鬼

花を出て鶯の身ぶるふ枯木哉

登りく落る日も見し花の山

永き日に詠めあましつ花の山

遊びたらぬ日とは欲也花の山

散花や釣灯籠の夕気色

長柄さす人を拝むや花の山

我かたへ花皆向けりあらし山

桜木に歌書人ぞおこがまし

死生不断知とも迷ふ花見哉

甘ぐさき水の匂ひや雨の花

おしむ日や心もあらじちる桜

花の井と名付たらなん水鏡

散そめて我身なりけり桜守

四方の花あらく見たる夢売ん

神主も桜折まで酔にけり

風のなき里の低さよ遅桜

花とびて世は驚かぬ心哉

遠近の鐘聞ゆなり夜の花

夕栄やをしてるうらの初桜

花の雪日傘に音もなかりけり

夕ざくらひとり残りし人のあき

花の山奥ふかき事何千里

盥風花漕わけて小船かな

明六ツを女のさはぐさくら哉

花の陰無言の人に興多し

有隣 (二ウ・4)

二鶴

知石

一路

羅交

如柳

文龍

眠山

関亭

老橘井 (三オ・5)

蘭山

柏舟

孚湫

以三

寄三

寄哉

蘭二

由梅

五雁 (三ウ・5)

全

柳枝

月樵

眠石

松羅

梅仙

文由

かゝる世に生れて安き花見哉

見て帰る桜またおもふ月夜哉

遠浅や花迄船のひとりつく

明日の花に髪結さはぐ女かな

友の来てけふも桜に暮にけり

折かけて見て気のついた桜哉

ゑびすらがしらぬ遊や桜狩

存命でうき世の花に狂ひけり

尋来て詠めにあかぬ初ざくら

手を打て唯あきれけり花の山

暮る共しらで深山のさくら哉

鶯の帰る山路や遅ざくら

雨の花人落あひぬ知恩院

思ひたりぬ月のをり咲山ざくら

花ざかり顔よき狂女猶あはれ

白滝や花より出て花に落

都人は何おもはるゝ花の雨

朝の間のさくらの上や雲起る

世の中や咲て桜のしのばしく

やがて咲山うすあかき桜かな

花の家を尋れば実さかり哉

袖かさや恋しき雨の桜人

溪寺や桜一本に人だまり

世にふるも実よ伽藍の花桜

灯のうつるや社地の夕桜

花咲て花一筋の心かな

咲花の魚喰ふ人のなくも哉

花の陰李白が白髪忘れけり

夕山は捨紙多きさくら哉

遠州植松 和吹

下野栃木 尺樹

加賀 卜舟

但州村岡 晴晃

伊勢四日市 路圭

、内堀 市文

、高角 斜柳

、曾井 化蝶

、寺方 一荃

、雨夕

、孤溪

、里朝

加賀 兎文

出羽左沢 露橘

、素風

夢庵

上州桐生町 吐雲

越中高丘 壺仙

全

江州堅田 子得

加賀 観然

伊勢内宮 右竹

西江州高島 南嶺

上毛大原 白斗

、麴舟

、青蒲

雲水 田禾

浪花 蕉里

能登黒島 柳汀

霞みの帰る袖の色草

八重垣や琵琶に鸛鳴声洩て

けし尼狂ふ濡土の上

起直る篠にかけ置居待月

むくにはとめる庵求けり

空也寺の鐘のひゞきの肌寒

通ひ車の雨に中絶

鴛鴦つがひうき世の恋はまゝならず

岸の紅葉の夜半に散ける

荒人の神も奥ある宮造り

鼓を振て古語を唱へる

夏空の月に五升の酒吹て

関の清水に小嵐のたつ

馬士があはれに瘦る物とがめ

餓鬼やどる木の椎も芽を張

雲埋む花の麓の花の坊

あそび尽して陽炎に寝

片隅に烏帽子をぬげば女也

須磨を落行船の暁

鶯鳴松風の音ふきやみて

蛸雑炊のしたはしき比

手雫の貫簀に凍る寒の入

傘並ぶ温公の家

盃に百日紅の花こぼれ

岩そふ水に赤蟹の這

泣くも別れの袂引とゞめ

十日ばかりの御所下の恋

穂芒の露にまばゆき宵の月

狐世を経て秋深き声

山椒ほす冬を隣の妙義院

玳卜

玻井

素玉

文朝

梨邑

都山

嵐枝

埜東 (六オ・8)

布遊

麦秀

為本

文玠

馬涼

加由

卓母

玉史

汀 (六ウ・8)

ト

井

玉

朝

邑

秀

枝

東

涼 (七オ・9)

山

遊

本

玠

炎に燿をおとす杳持

我守星は消ざる北のかた

簾がこひ寒き軒の梅が、

名にそよぐ真葛原の花の鞠

蝶と鳥との行ちがふさま

由 母 史 ト 筆

(七ウ・9)

人媚て月にも奢る桜かな

巡り来て春告草や花供養

両峰の桜移ふ堤かな

いく曲り大河も見たり花の山

山風のこゝろはなきやはつ桜

もどかしや匂ひの遠き舟の花

山ざくらかゝる処に住居哉

遠山や霞の中の花の滝

散花を惜むは浮世心哉

生鯛の嵯峨にゆかしき桜哉

よひ闇の間を眠るさくら哉

ゆふかげの花にも忍ぶ袖香炉

日最中やしぐれ桜の雫せり

灯火をしたふ鳥有夜の花

海山の便も遠きさくら哉

何鳥や巢をくふ花の枝高し

狩くて田舎へ出たる桜かな

、

我が見ると思ふは花に罪深し

咲初て葉に埋みけり犬桜

水清き花に遊べば塩遠し

、

端住や先初花の便よき

麦草の匂ひ通す柴籠

蝶鳥に飴売の笛吹立て

ならべて置し瓦かはける

月の頃すみて流るゝ小石川

こぼれそめけり露の白萩

新酒に旅のつかれや直すらん

童たのみて捨る灰吹

入梅曇引乱したる舟の綱

かひなく水鶏たゝく須磨寺

越かたのあはれ恋歌の朽やらで

おもひひたぶる妾がいたつき

すがくゝと竹の林に月冴ぬ

霜ふる宿に屠る獺

ひとり身の人形造り店借りて

此ほど春の心地こそすれ

広前の夕日に榮し糸桜

佃にそよぐ苗代の風

四方は花鶏の音長う鳴暮す

世の中やあら事くゝし桜狩

遠里の花にこたゆるこだま哉

山賤の薪重からむ花雪吹

薄曇かきあげ城の桜哉

朝の月傍白し花のやま

心ちらぬ一本ぞ庵の遅桜

経の声すみ渡りけり山桜

花守にけふも来て顔みられけり

心地よく花咲揃ふ弥生哉

重荷せし牛も出て来る山桜

下馬先に乞食荷作る遅桜

夕日さしてもゝ、深山の桜哉

晨風

虎洞 (九オ・11)

里晴

飛声

龍至

振

晴

声

立

風

至 (九ウ・11)

声

振

立

晴

風

晨風

飛声

振々 (二〇オ・12)

一革

里晴

慶柳

洞々

酎子

祖龍

虎洞

路江

枳友 (二〇ウ・12)

車輪

魚飛で足もと狂ふ糸桜

帰るさは見馴る連や花の暮

雪の後ふたゝび白し山桜

花の世や月さし残る山かつら

深山から都貫ふてはつ桜

市人の袴をきたる花見哉

夕暮や花は朝から静なり

雨晴て花の山とぞ成にけり

棧もあれや桜の雲つゞき

うき夜の曙さくら咲にけり

角たゝぬ山路なりけり桜狩

花に出て花に入日やよしの山

咲花にするどき樹くゝは隠れけり

青松葉負人いかにはつ桜

夕日もさらず田螺なく宿

南べりの小吹になれば春過て

あそぶ工夫のいつも世話しき

有明の鬼灯はみな籟破り

鳥のふみ消す沙の白露

末枯の鳴戸の船にけぶり立

鉄漿をつけたる僧のさぶらふ

何ひとつ箸にかゝらぬ膳まはり

凌霄咲し朝のつれなき

むら雨の物いふやうに降かゝり

兀たる面をおれに着せるか

打ほかす角力のあとの魚の骨

霧のあちらは鏡鉢のなる

ちらくゝと柱に隠す三日の月

たばこすふ間に馬の子を産

雨声

友甫

鷺白

龍玉

有龍

思童

甫立

雲州 蕉雨 (二オ・13)

日向美、津 吟龍

信州林 里風

、 風子

浪花 尺艾

洛 志諺

伊勢津 烏翠

田禾

子良 (二ウ・13)

翠

禾

良

翠

禾

良

翠

禾

良 (二オ・14)

翠

禾

良

翠

松の尾の花よ神輿を轟かす

皆かぜるふの顔と成けり

禾 良

閑なる日を降にけり花の雪

洛路月

汲汐に磯山ざくら散やちれ

浪花 荷的(二二ウ・14)

咲花にもの拾んと思ひけり

丹波梶原 洞々

夜桜にすぐれて人の寝よき哉

、牛河内 東畦

児をよぶ声こだまして花の奥

、成松 琴牙

昨日けふてるや桜の飛鳥川

、柏原 月壺

暮る迄日 of てる山やはつ桜

越後塩沢 牧之

山ざとや花の奥なる水車

、目来田 里竹

夕桜きのふもけふも照ばこそ

池田 瓜坊

曙のさくら散日と成にけり

城南 五牛

夕山にたまれば花の匂ひ哉

、無兆(二三オ・15)

散花を来てなく鳥の心哉

加州本吉 壺石

こゝまでは鮎ものぼるよ遅ざくら

洛 芹水

水浴し鳥すぐに来ぬけふの花

伊賀上野 蛙方

よち登りのぼる甲斐有山桜

伊勢津 理玉

心うごく隅田の縄手や花の暮

上毛矢川 如雲

望月にちりもはじめぬ桜哉

、本宿 龍山

とてもならあ山越ん花盛

浪花 几仙

千々の桜皆我物と思ふかな

肥前諫早 梅江

うかれくつ有明の桜哉

、夏蓼(二三ウ・15)

一日の友を名残や花の暮

霞紅

人とへば桜咲門と教けり

青呂

花幾日つもる碁磐の埃哉

梅枝

雲去てげに遠山の桜哉

春葱

苔より三たびさくらの風情哉

濃波

さかり場の桜の下や鉦たゝき

上毛三倉 里水

みち汐や磯山ざくら影うつす

如楽

花咲て世の春を知庵かな

朝まだき身ふるふ鳥や花雫

左武 寛雨(二四オ・16)

木戸先や暮行花に田螺鳴

ヒゴ山鹿 涼瓜

うかひして花吐谷の流かな

柳多

夢なれや花にうかれし花心

竹閑

暁の雲消残るさくら哉

孤秀

山ひとつ暮残たる桜かな

、チクタ 一翠

谷くや風をはづれて花残る

、熊本 鳥醉

野の花や二人は狭き石の上

尺菊

出船や入江を去て峰の花

李夕

温泉あがりや眠催す昼の花

箕溪(二四ウ・16)

我が植て幾年見つる桜哉

肥前島原 雪女

日ざかりや雲静りて花の上

芦笛

騎捨て花に更るやひまの駒

兎月

曙とさくらが中の鳥かな

吐龍

月落て灯つきぬ花の下

利貞

花の麓日たゞ酒壳をみな哉

蘭谷

、

朝隈の花を過行外山哉

桃仙

雉子もそゞろに聳ものしつ

、(一五オ・17)

友どちと炉ふさぐ上に酒酌て

、

門に仕丁が嘶あらくれ

、

月代の砂に手習ふ曲形り

、

あそび絶せし事のうそ寒

、

花にくれてそゞろ柴焚男哉

万夫

霞晴ても道にまよへる

桃山

乙鳥は心尽しの鳥ならん

蘭更

末略

(二五ウ・17)

いざ我も一烈せばや花の陰

枝かはす檜の中や山ざくら

肥前島原 万果

やよ花に水荃染ん山かづら

、 桃仙

花の雲中に仏の爪はじき

イセ津 蝨山

あふげばいよく高き陽炎

万井

大釜をいくつも鑄たる春なれや

五六

鳥の落毛の顔にこぼれて

瓢亭

味噌買し宿の月待うそぐらき

子良(二六オ・18)

ことし瓢に尺あてて、見る

山

麻衣木曾路にかゝる秋の風

井

卵累て我を泣かな

六

美しき髪ふりほどきく

亭

残らず伸し合飲の朝かけ

良

若駒に一鞭くれて飛す也

山

あこが年賀に城ゆすりつゝ、

井

炭砕く埃まぶれの宵の月

六

鰐口ばかり寒き音もなし

亭(二六ウ・18)

鶴の鳴沢辺くゝに駕をやり

良

真白き髭の歌を苦しむ

山

桜の木五本からげて貢けり

井

随分米の旨き如月

六

蛭とりの戻りは雨のぼろつきて

亭

くゞれぬほどの花表立たり

良

古郷や松物いはず味きなき

山

やつれ給ひし少将の君

井

硫黄木のほど匂ひける冬の夜に

六(二七オ・19)

門水に来る鈴鳴の声

亭

淋しさのあんまり近き伏見山

田禾

灸の皮をめくりかけては

山

刀さす妾が弟の名を受けて うつけ心に萩を吹風	井	夜桜や我より奥に人の声 松の中や竹の奥より咲桜	江州太田 瑤雀 備後三原 何笠	散じまふ雲井桜や雲の末 花七日世を下陰の庵もがな	芸州能美島 雨丹 武州青梅下 嘯谷
灰汁桶の灰汁の翻る、暮の月 案山子つくれと人の進る	六	雲沈み花浮とみえて雨過ぬ 塵塚のちりの上なる桜哉	、 土芝(一九オ・21) 南方蒼椿更 厲揭	朧夜のしらけて浅黄桜哉 山守を酒にめさる、花見哉	但州芝村 尚古
ひとつ宛法華書つぎ石選か 兜埋し草の短き	禾	花の陰盆とれば月やもる 花見連道くさに吹嵐かな	、 節雨 芸州能美 東明	門高月夜桜のうつりかな 憂恋の姿もあらめ雨の花	、 僧 如月 、 龍堆
船橋はつんぶり霽のかゝる也 田楽くさき春のあけぼの	井(二七ウ・19)	花供養我は露のみ心のみ 如意を尋る朧夜の月	房州此君更 楞石 楚流	夜桜を動す峰の嵐かな 山ざくら月は朧を増にける	、 麦秀 浪花 竹簀
拝れし姿拝むと花咲て みなあたゝかに今時の水	亭	雁がねのしきりに春の音を鳴て 青みし米の糖埃る也	石	山の井に影うつる時夕ざくら かたくなに留守守花の女哉	、 華洲(二二オ・23) 下能登迎 麦杜
かはらけや花の上越す桜狩 花をふむ日はあぢきなき霞哉	仙台 五渡	薄雪に西国便うち設け 尺にあまれる竹の伐口	、(一九ウ・21) 流	花の山十歩に転ぶ鼓かな 初花やふとんのうすき初瀬宿	浪花 広布 、 鯉千
さくら咲や船は明石の朝朗 ちら／＼と星の田毎に風の花	福二 柴船	児達の中にちさきはかしこくて 還御の声のうつる夕暮	石	花見にといふ日に成ぬ庭の花 負ひし子は背に眠りて桜散	、 瑞馬 伊州上野 可慶
寄藻吹風腥し花の雲	東流(二八オ・20)	狩衣の恋風つたふ垣間見に わらは病なるほとゝぎす哉	流	蜂の巣やあたら桜に人もなし 花ちるやさとりし人の後かけ	但州舟谷 五雁 加賀官腰 故園
袖硯拾ふ野道や朝ざくら 桜みん今は嵐の世の中に	江州八幡 紫石 、 芳志	はる／＼と世の冷を訪らへば 落行水に仮の板橋	、 石	花や見ん四五日喰の米はあり しるしらずむさんこに寄花の門	武秩父 日和良 洗耳(二二ウ・23)
分入れば花に奥なし鐘の声 かゝげても桜に細し石灯籠	豊前小倉 桃子 五雲	菊の頃なまなか月の影細く ひさごの酒を神酒に捧る	、 流(二〇オ・22)	花に夜もねられぬ宵の曇哉 夕山や桜にのぼるうす煙り	武秩父 楚雲 如圭
花の下にけふも現ぞ草枕 浪白／＼遠き渚や花曇	敬之 完固	小あきなひすれば西山東山 蝶は身軽に日を安う経る	、 流	散花の下や放下のいば太鼓 ^(調子) 香は誘へ花なちらしそ夕嵐	亀白 周貯
老らくの何を申や花の下 松が浦いつを花見る春にあふ	花水 器水	咲よりもちるは桜の風情にて 琴柱に通ふ春風もなし	石 流	ちる花に紛れて鳥は帰けり 片枝は滝つらぬいて山ざくら	浪花 たか女 江戸 風化
心にくし興ある花に茶の匂ひ 夢なれば又見る山の桜かな	讚州笠居 芝峰(二八ウ・20) 、 少年 沙月	、	、	花の陰稚ささまの翁あり 花に酔て産れしまゝの心哉	浪花 詩船 蘇雄
藪越で桜見えけり長が家 夜ざくらや橋なき筋に恋渡る	、 桂月 涼秀 生野	鳶飛で桜に曇る籠哉 散花や魚のかばねに夕鴉	楚流 鳥周	何某の鳥一声や遅ざくら 世にあはぬ翁来ませり遅桜	玉翠(二二オ・24) 肥前神代 春喬
一里ほど行ば日暮ぬ花の山、 折枝や鳥もくはへて花供養	夏梅少年 水式 湖月	花なれや／＼蝶の三千里 住なれし庵にもどりて初桜	播州小野 君中 越後 如蘭(二〇ウ・22)	山川やさくらちる日は水薫る ある僧の無言破るやちる桜	仙鳥 兎丈

分入ば心うごくや山ざくら

斎我

山守や二日酔する花最中

芳洲

桜盛里の名立るあるじ哉

魯盞

あたらしき道有橋有山桜

皐鶴

又こよひ寝に来る鳥や森の花

梨水

夜くは夢に通ふぞ花の山

呉秀(二三ウ・24)

時として頭たれけり旅の花

完雅

花の陰水もよどむか芳野川

、島原 夢応

いたづらの詠やをしき海士が花

芳水

うつり香に蝶も迷ふか花の袖

一睡

長生の欲も起るやはなの時

几睡

散花にましら子を呼雨夜哉

、伊福 万戸

恋外にむかしは何をさくら花

江州彦根 飛川

見残しもあるらん花の嵐山

洛 関叟

二里下てもとの桜に休みけり

伊勢神戸 東流(二三オ・25)

夕桜人静まらば物いはん

羽雪

酔臥てとほける花の雨夜哉

玉垣 孔阜

門うつは月か桜かよるの人

、山田 晴山

鹿ひとつ追る、花の嵐哉

仙台 弾子

真夜半や花の木の間の魂結び

伊勢津 蘿送

ちる桜匂ひは空に帰けり

筑前甘木 布館

たぐひなく花光けり桜町

江州水口 一更

夕風や人にしられでちる桜

かう女

雉子の声聞迄行やさくら狩

越高丘 楚古(二三ウ・25)

築山や桜見へ越す舞扇

能登七尾 暮臘

木に昇る蟻より遅し散桜

、 其之

灯もたてぬ戸に人声や散桜

未来

どの顔もしらで気随に桜守

烏工

関越てあちらははやく桜哉

許風

たそがれや花に思ひの結び髪

一方

乗物に人なき花の禁哉

眉尺

道あれば霞隠れの桜かな

菊人

山霞む花間くの藁や哉

可仕(二四オ・26)

美しきかなかく花の主哉

三夕

雨一夜千里花咲あした哉

何芳

見えそめて一里つまづく山桜

百尔

、

黄昏の狐たちけり山ざくら

能登七尾 其之

草に寝覚る春の袖人

暮臘

焼若和布もとの塩気にしなやぎて

未来

茶巾ひとつになら布を切

何芳

ひめ杉の風こまやかに月の影

百尔(二四ウ・26)

鳥まつ池の水落しかへ

許風

ふりあげる手斧の先の赤蜻蛉

御斎の酔にはづす肩衣

昼の蚊屋床しう見せて開放し

長崎女奇・楠を盗み売

薄じめり小砂の上の下駄の跡

神輿を渡す舟の鬪引

月の床蓋なき物に酒入て

うつ、夜浅き関の山風

むねあはぬ秋の衣にしらみ紐

もろきながらにふきやまぬ銭

井のもとにそ、げる花の降こぼれ

蒔種つけし坊主馬ひく

、

雨そへて桜かつちる禁かな

信木曾ナラ井 李蹊

雨晴て桜に競ふ人ご、ろ

加賀金沢 槐路

けふよりや春しるさとの初桜

備中笠岡 文里

吹よせし貝散花の入江哉

備后甲山 如耕(二五ウ・27)

心そゞろそゞろに花の散日哉

備後田房 古声

中くに見しこそうければつ桜

遠州 演之

花の山斯いふ姿と申けり

イセ山田 石人

人の春さくらの外はなかりけり

、 桃家

おもしろき世の宝なれ花に月

、 鶯溝

朝雨や花見にゆかば簀かさん

肥前島原 白夢

母負て山寺の花見にゆかん

白花

ついまつの墨して詩書桜哉

浪花 嵐山(二六オ・28)

ちると見て今やめで度花曇

イセ白子 無曲

花に入て人なき野辺の真昼哉

洛都雀

けふこそな花に埋ん古仏

花幾日此日にせまる匂ひ哉

あの鐘の上野に似たり花の雲

雲水 一茶

古寺や箔代なげる花の中

桃里

世は花になりぬる風の行ゑ哉

土卵

竹の闇花の月夜のはせを堂

駒丹

夕暮やちらかる花のしづ心

江蓼(二六ウ・28)

見ならはぬ心に侘し雨のはな

羅月

花供養雲沈らんひがし山

丹後宮津 百尾

捧たきけふを桜の最中哉

、 馬吹

小衣で花見る人の果報哉

洛 兎夕

曙の花貴也けり十二日

杜桂

見るま、に静けき花の光り哉

棹雪

しるよしの人ともなりぬ花七日

百池

花供養真葛が原の風もなし

播磨路 周泉

花盛世は何事もさはりなし

、 寸草(二七オ・29)

咲ぬ木も咲木も花の夕かな

城南 魯長

浪の上も静に遠き桜哉

子邨

物あてな実生の桜蒼たり

ノト 破巾

散花や烏帽子の人の袖かづき 洛 白黛
庭にある物梅よりぞ花供養 其成
行末の夕山ざくら家を蒸 後楽
花にうき世住捨しとぞなつかしき イセ 秋屋
昼の埃しづまる月の桜哉 洛 芦涯
あた、けき迄もつもれ花の雪 河内 古光(二七ウ・29)
山寺の仏尊きさくら哉 芦風
あはれにも老木の桜咲事よ 如水
おもはずも禁酒破りし桜哉 五峰
使者付て何処へ贈る桜かな 谷水
つまづきし石に咎なし桜狩 如竹
雲と咲雪と踏る、桜かな 、私市 由之
心よや花見戻りの星月夜 ト子
花散しあとに茶店の柱穴 歌連
おもひきや夜の花見の五六人 鯉山(二八オ・30)
ひとり来て独帰るや山ざくら 西湖カモ 堅山
風の音花によすがの片ご、ろ、万木 北嶺
あさ／＼と吹ひらかすや朝の花 雲水 五六
鳥追て鷹の入けりゆふ桜 加賀金沢 夢庵
谷川や魚の下なる花の影 巴州
世をいとふ人の濡けり花の雨 周馬
散し上を猶ふく花の嵐哉 眠和
山買へばさくらの主と成にけり 車大
朧とはしげ／＼時か花曇り 能登宇出津 魯邦(二八ウ・30)
ちる花や二百酔してけふも行 筑前木屋瀬 木耳
くらべ／＼八十年よ花ははな 相州猿ヶ島 丈水
花盛月にも一夜寝それけり 起由
遅ざくら只一すぢの詠かな 松調
花にのみ酒や日の影月の影 、三浦 呉雪
山桜野越に麦の畠かな 及古

花になんひかれて山に山に山、室田 巴橋
花にこそよけれ青野の草畑 、茅が崎 曉太
年／＼の桜にふかき思ひ哉 肥前諫早 孤石(二九オ・31オ)
入相や寺の花見る人床し 輝白
雷に雲井の桜散んとす 雨夕
花に欲起りてけふも日の暮る 梅路
山高し桜の夜明鳥の声 文塘
深山辺や花重りて雲に入 イヨ今治 卷玉
百敷や夜すがら花守棒の音 車南
散なしていはほも花の白衣哉 素明
其曇り静や花の山かづら 挹波
花のか、浅茅が宿の五位の声 上毛厩橋 輕覺(二九ウ・31ウ)
黒染の袖へも散し桜かな 晶角
日の入て漸花に別けり 、関 米倉
入相やさくらに深き人の声 、桐生 李陰
青空へ移ふ浅黄桜かな 、荒口 米度
濡顔の雪と見ゆらん朝桜 、桐生 静山
月晴ていよ／＼白し花の庭 得牛
さくら咲山静まらず人の声 厩橋 宗応
花咲て世を面白う暮しけり 香風
あたらしき硯に嵯峨の花見哉 麦四(三〇オ・32オ)
冷水に金かへけり山ざくら 米砂
永き日も桜に暮る夕かな 歌江
思ひつ、来ればちる日の山桜 豊前小倉 南明
花見する人に問けり物の味 夏夕
雲吹や遠山ざくら今いかに ノト七尾 翠洞
花みんと小船に棹をさす日哉 、金丸 雪仏庵
南気や花ちる池の魚の溪 在京 吐月
朝霞桜にもる、鉦鼓かな 、福浦 素石
日の影や風なき山の花曇 雲浪(三〇ウ・32)

動きけり桜にしらむ明の星 ノト 既文
咲たりと思へば雨のさくら哉 上毛厩橋 李雪
何といふ山か桜の花ざかり 、樋越 素栄
不断咲さくらも春ぞ桜なる 、田口 李元
まだ人の足跡はなしはつ桜 込皆戸 枝雪
みよしのや花の見所咲所 訴岱
ちる花の中を往来のしらぬ人 サヌキ仁尾 宗跡
花なかばそ／＼ろになりぬ人心 杏廬
捨かぬる世や初花の草鞋くひ 備后福山 李朝(三一オ・33)
山路暮て花は朧の葉かな イセ山田 平虚
山本や花にかけたる囀籠 ヒゼン神代 画鮮
立人にはや散初るさくら哉 、諫早 都巽
聞済せ花の梢の鸞の琴 越中放生津 二翼
初桜覚束なしと思ひしに 、白老
小座敷に傾城捨て山ざくら 紀熊渡利松島 我青
夜をこめて北山桜さきにけり 信州飯田 何頼
瓶の桜雨の降日は客もあり さく丸
後より月は出にけり山ざくら イセ相可 關鴉(三一ウ・33)
母負てけふも暮しつ花山 、蒼山
花の窓半身の美人みゆる也 、楚雀
塗樽の赤／＼ぬれて花の雨 、柏梁
花ざかり火入の炭の曇けり 、貞律
平山に人あまる花の咲にけり 關更
雲をはなる、蝶に驚く 關島
春の窓酒の香もなき瓶すえて 蒼山
小ぐらき方は土しめるなり 貞律(三二オ・34)
月の夜をうかれ出れば鹿の鳴 楚雀
人とめる家の秋は広／＼ 柏梁

咲つゝも暮のうち也山ざくら

肥前佐賀 清明

花ざかり寺は七つを限り哉

江州水口 斗醉

花供養桜にあらず花にあらず

イセ津 梅二

詞書略

鬼貫があるけぬ旅を春の花

万井(三三ウ・34)

路通は老て芳しき草

牛一

陽炎の朝たつ門に橋もなし

蒼虬

ならんで鳩の皆静なり

田禾

月の名によべる一本は伐残す

鹿古

霧もる膳をすゆる比ほひ

芦涯

花鳥の色音に交る胡蝶哉

尾張熱田 烏玉

霞に植し袖すりの松

雄里

小太郎がとしは三五の春立て

万井(三三ウ・35)

畚あたらしく稼初けり

牛一

月かけて丸木の橋や渡るらん

貞保

星のはこびも遅き秋の夜

よしめ

斯ばかり鹿居る山に酒はなく

一蝶

しのばせ給ふ何某の君

巴三

ちら／＼と目癖はなれぬ桜哉

甲州浅原 真洞

我ものとおもふ桜の暮にけり

六珈

夕闇の桜をさらぬ諷ひ哉

飯野 真都良(三三ウ・35)

何某の寺とたづねて花見哉

静良

酒もねだり花もねだりて手折けり

梅五

糸竹のやゝひるみけり夕ざくら

山之神 鳥語

出歩行ば兎角花見の人に逢

陌洞

朝雨や匂ひ吹そふ遅ざくら

紫羅

花に来て同じ心を隔てけり

可申

来しかたも見渡す方も桜哉

布施 夫雪

日の闌て花にふはつくはだへ哉

山寺 和石

花守の余所出をかしき月夜哉

平岡 孔阜(三四ウ・36)

山鳥のねぐらや花のうら表

龍笛

めでたげに一重は散て八重桜

加水

仇ならぬ桜がもとの煙り哉

如雪

宵闇や寝せて散花あらまほし

百々 令雨

花守と呼ばれぬ寺の男哉

府中 杜与木

朝食のむかひうけたり花の本

いはつみ

花咲て人にうたがひなかりけり

ふたけ

糸ざくら二度来て盛定けり

藤田 漢甫

山寺や花の外には花もなし

鏡平(三四ウ・36)

人とめる有明桜咲にけり

蟹守

久しくわづらひて少し

おこたりける頃

咲日より膝もとにたつ桜哉

可都里

世はすでに八重桜さへ散にけり

下毛栃木 尺樹

二日は花見のもどり暮にけり

灯居

雨はれて思はるゝかな桜山

桃葉

あら小田や桜浮つき水もなし

、間中 百尺

片隅や見る人静花しづか

津軽 里圭

走田川花の流るゝ時し哉

浪花 青鯉(三五ウ・37)

夜ざくらや今灯火も風の前

、一炊庵

ほの／＼と夜は明にけり花の下

赤間関 鶴翁

琴の音色花のふゞきに狂らし

指月

夜の桜腸にしむ雫かな

嘉慶

朝夕の露かゝらぬも花の雲

里翹

花の山鳴過にけり暮の鳥

佳馨

花の山音せぬ風も覚けり

和由

茶煙の末や桜のひと曇

松花

待侘たる継穂の桜咲にけり 蟻好(三五ウ・37)

けふ見ずば人の科ある桜かな

洛 如風

露降る片山ざくら長閑也

玉屑

あすありといふ人花に憎れむ

五芳

露もてる風情を花の誠哉

丹後河守 梅居

散花をかづきて魚の浮江哉

、官津 魯杏

世につれて花見る京の乞食哉

五梅

宿直してあかす有明桜哉

巍道

散花に静成けり人のさま

高田 几丈

低ければ低見る岡の桜哉

カ、凸山(三六ウ・38)

松柏や花の梢に朝の風

カ、李下

あかず見る花は我身の癖成か

玉枝

上もなき花とはなりぬ遅桜

鹿古

うつほ木の土や幾代の花の塵

蒼虬

追加

柚が家の小づかひ銭や花一枝

赤間関 仙露

引汐の漣となるさくら哉

仙梨

花咲て寝所もなき心哉

花休

山幾重花の嵐の移り哉

豊後 蘭子(三六ウ・38)

桜咲てあぶなき道を通けり

里晴

花の色にうつろふ人の心かな

壹岐 鯉星

真先に瘦た男やさくら狩

湖帆

朝戸出て散花寒くみえにけり

其冠

かゝる世に生れて安き花見哉

遠州 和吹

芭蕉堂蔵板

(柱刻なし(三七ウ・39)

(柱刻なし・39)

(裏表紙見返し)

(裏表紙)

併号索引

凡例

- 一 本索引は、本書に収める作者を併号から検索するものである。
- 一 併号は音読みを原則とし、漢音を優先する。ただし、習慣によって読んだものもある。かなを含むものは、訓読みとする。
- 一 配列は五十音順、現代仮名遣いによる。ただし、最初の漢字一字の冒頭3音までが同じ場合は、漢字ごとにまとめて配列する。
- 一 別号、別表記のあるものは、代表する表記に加えて（ ）にも記し、傍線等を付す。なお、別号は捨て見出しを付ける。
- 一 併号等の「坊」「女」「亭」「齋」は省くことがある。
- 一 本文にある肩書、所書きは可能な限り「」に記す。旧国名を付すが、山城は「京」「南山城」、武蔵は「江戸」「武蔵」、摂津は「浪花」「大坂」等とする。
- 一 連句における重複は取らない。その他、同頁に複数ある場合も、取らない。
- 一 「作者不知」「筆」は取らない。
- 一 併号の所在は、次のように略記する。ただし、所在の丁数が併記してある場合は、柱刻（本文上段）による。
天明六年序文表 ↓ 天六序才
寛政元年二丁裏 ↓ 寛一2ウ

あ

あふひ〔葵 _レ 釈〕〔丹波 _／ 京〕 天六初ウ 天六1ウ 天七1才 寛一1才 寛一9才 寛二5ウ 寛二20才 寛三16ウ 寛四38ウ 寛五45才 寛六41ウ 寛七35ウ 寛八59ウ 青銭〔加賀〕 寛四1ウ 寛四14才 青人〔筑前黒崎〕 寛三20才 亞溪〔近江平松〕 天六6才 天七7ウ 寛三8才 寛八1ウ 寛八5才 寛九26才 亞三〔越中〕 寛四21ウ 阿山〔近江石部〕 寛八3才 あし〔芹〕丸〔南山城伏見〕 寛七40才 寛八54才 寛八55才 寛九序1ウ 寛九1ウ 寛九37才 亞十〔上野一ノ宮〕 寛七11ウ 阿丈〔安房〕 寛六18ウ 阿翠〔備後福山連〕 寛五28ウ 蛙水〔越中氷見〕 寛九21ウ 蛙水〔能登〕 寛十8才 阿成〔能登赤蔵山〕 寛八8ウ 阿声〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六33才 阿青〔加賀〕 寛四14ウ 寛五7ウ 蛙井〔加賀〕 寛八5才 阿石〔加賀〕 寛四13才 阿石〔上野本宿／西枚〕 寛八13ウ 寛九13才	蛙方〔山城八幡〕 寛三22ウ 寛四30ウ 寛五2ウ 寛五43才 蛙方〔伊賀上野〕 寛十13ウ 蛙面〔京〕 天六1才 天七1才 寛一8ウ 安甫〔周防下津令〕 寛五30才 い 惟〔肥後女〕 寛五39ウ 為一〔能登〕 寛四18才 為充〔周防上ノ関〕 寛七26ウ 以外〔京〕 寛五47ウ 寛六41才 寛七37才 寛八59ウ 以貫〔上野宮崎〕 寛五12ウ 寛六13才 寛七11才 寛八12ウ 寛九36ウ 以菅〔京〕 寛六39才 いく〔近江〕 寛六4ウ 以三〔信濃飯田〕 寛七21才 寛十3ウ 依山〔信濃長瀬連〕 寛九11才 異治〔肥後〕 寛五37ウ 渭水〔豊前小倉〕 寛二16才 寛八62ウ 寛八64ウ 維清〔甲斐郡内〕 寛九11ウ 維鵲〔志摩鳥羽連〕 天七10ウ 渭川〔京〕 天六初才 天六1才 天七2才 寛一8ウ 寛二1才 寛二20才 寛五2才 寛五44才 寛六38才 寛七38才 一葦〔京〕 寛三4才
---	---

一応〔伊賀名張〕 天七5才 寛一1ウ
 寛二8ウ 寛四14ウ
 一翁〔河内楠葉〕 寛七23ウ
 一魚〔備中〕 寛三18才
 一蕘〔近江〕 寛五48ウ
 一蕘〔京〕 寛八59才
 一事〔伊勢洞津〕 寛八25才
 一贅〔上野助戸〕 寛五13ウ
 一洞〔石見〕 寛五41ウ
 一道〔加賀〕 寛三14才 寛四11才
 一道〔近江信楽〕 寛九6ウ
 一如〔伊賀上野〕 天七4ウ 寛二8ウ
 寛三5ウ 寛四14ウ
 一巴〔若狭〕 寛二11才
 一甫〔日向美々津〕 寛四37才 寛六35ウ
 一甫〔江戸〕 寛九10才
 一木〔京〕 天六1ウ
 以中〔若狭能登野村〕 天七11才
 一路〔越中高岡〕 寛八11ウ
 一路〔近江〕 寛三3才
 一和〔若狭川原方〕 天七11ウ
 一革〔越前〕 寛十10ウ
 一董〔信濃善光寺〕 寛八33才
 逸漁〔一斗庵〕〔伊勢山田〕 寛九31ウ
 一形〔能登〕 寛三14ウ 寛四18才
 一荃〔伊勢寺方〕 寛十4ウ
 一口〔近江水口〕 寛七4才
 一興〔肥前諫早〕 寛五35ウ 寛六35才
 寛八52ウ
 一古〔甲斐三日市〕 寛九8ウ 寛九32ウ

一虎〔京〕 寛六42ウ
 一更〔近江水口〕 寛八3才 寛十23ウ
 一壺〔肥前島原〕 寛四4才 寛五36ウ
 一茶 寛七34才 寛八53才 寛十26ウ
 一尺〔上野女屋／厩橋〕 寛六14ウ
 寛七10才 寛八17ウ
 一枝〔近江堅田〕 寛八3ウ
 一抄〔杓〕〔加賀金沢〕 寛四14ウ
 寛五8才 寛七6ウ 寛八7ウ
 一照〔京〕 寛三22ウ 寛四33ウ
 一笑〔河内楠葉〕 寛六24ウ 寛七23ウ
 寛八29ウ
 一正〔信濃塩名田〕 寛六21才 寛七20ウ
 一之〔近江堅田〕 天七6ウ 寛一3才
 寛二8才 寛五4ウ 寛七4ウ
 寛八3ウ
 一之〔備後三原〕 寛八39ウ
 一炊庵〔浪花〕 寛八34ウ 寛九25才
 寛十35ウ
 一睡〔肥前島原〕 寛九24才 寛十23才
 一翠〔肥後チクタ〕 寛十14ウ
 一声〔備後福山〕 寛四37ウ 寛五28ウ
 寛八38ウ
 一静〔近江古川〕 寛七5ウ
 一川〔若狭〕 寛二10ウ
 一川〔加賀〕 寛三13ウ 寛四13ウ
 寛五7才 寛七47ウ
 一巢〔丹波大山〕 寛六27才
 一草〔陸奥〕 寛九8才
 一竹〔加賀金沢〕 寛八6ウ

一兆〔近江大溝〕 寛七5ウ
 一蝶〔尾張〕 寛十33ウ
 一超〔筑前〕 寛一5才
 一鳥〔山城嵯峨〕 寛四30ウ 寛六38才
 一斗庵↓逸漁〔伊勢山田〕
 一鳥〔備後〕 寛二14才
 一萍〔近江粟津〕 寛二6ウ 寛三7ウ
 一萍〔筑前直方〕 寛八48才
 逸芳〔備後三原〕 寛四10ウ 寛六29才
 一峰〔京〕 天六3ウ 天七2才
 寛一7ウ 寛二3才 寛二20才
 寛三3才 寛三24ウ 寛四31ウ
 寛五2ウ 寛五47ウ 寛六3ウ
 寛六41才 寛七3才 寛七35才
 一方〔能登〕 寛十24才
 田舎坊〔信濃松本〕 寛三9ウ
 以手紙〔越後島新田〕 寛九3ウ
 偃武〔京〕 寛八58ウ
 衣翻〔南山城平川／大久保〕 寛一6ウ
 寛二4ウ 寛四38ウ
 以夢〔京〕 寛八58ウ
 為本〔能登〕 寛十6ウ 寛十8才
 為梁〔江戸小川〕 寛五19ウ
 為荔〔播磨〕 寛三17才
 いはつみ〔甲斐〕 寛十34ウ
 飲河〔越中小杉〕 寛九13ウ
 尹口〔上野〕 寛三10ウ
 因山〔但馬〕 寛四27才
 尹子〔肥前有田〕 寛八49ウ

飲露〔肥後熊本〕 寛五38才 寛六36才
 寛七30ウ
 う

羽角〔阿波西分〕 寛八47才 寛九8才
 雨盥〔近江水口〕 寛六43才
 雨橘〔上野草津〕 寛八15才 寛八17才
 烏橋〔出羽秋田〕 天七13ウ
 憂玉〔伊勢〕 寛四15ウ
 烏玉〔尾張熱田〕 寛十33才
 雨曉〔信濃松本〕 寛三9ウ
 羽琴〔周防大海〕 寛五31才 寛六30ウ
 寛七43才
 卯兮〔陸奥八戸〕 寛六43才
 烏月〔近江湖東〕 寛四24ウ
 宇考〔周防香川〕 寛七26ウ
 烏工〔能登〕 寛十24才
 烏甲〔若狭〕 寛二11才
 烏甲〔加賀〕 寛三13ウ 寛四13ウ
 羽黄〔上野一ノ宮〕 寛三10才 寛四34ウ
 寛五12ウ 寛六13才 寛七11才
 寛八13ウ
 雨降〔伊勢野田〕 天六8ウ
 于康〔能登〕 寛四17才
 禹功〔巧〕〔肥後〕 寛四5ウ 寛五37ウ
 宇剋〔安房〕 寛七19才
 宇策〔筑前芦屋／芦江〕 寛七29ウ
 寛八53ウ
 雨山〔石見〕 寛二15才

卯七〔伊予今治〕 寛三20才 寛九8ウ
 雨舟〔安芸能美島〕 寛六29ウ
 雨萩〔筑前直方／植木〕 寛四9ウ
 寛五33ウ
 卯十〔伊予今治〕 寛七27ウ
 雨什〔上野高崎〕 寛三10才
 羽翔〔長門厚狭〕 寛六29ウ 寛八45ウ
 竿哨〔京〕 寛八2ウ 寛八62才
 寛九3才 寛九38ウ
 烏翠〔伊勢安濃津／津〕 寛八26ウ
 寛十11ウ
 雨翠〔上野〕 寛九9才
 羽静〔信濃飯田〕 寛五22才 寛七21ウ
 雨声〔越前〕 寛十11才
 雨青〔伊勢〕 寛四16ウ
 烏夕〔備中〕 寛三17ウ 寛四8才
 烏夕〔伊賀〕 天七5才 寛六26才
 雨夕〔肥前諫早〕 寛四4才 寛五34ウ
 寛七30才 寛八52ウ 寛九35才
 寛十29ウ
 雨夕〔上野鞆負河岸／柴村〕 寛五13ウ
 寛六14ウ 寛八13才
 雨夕〔伊勢寺方〕 寛十4ウ
 烏雪〔美作久世〕 寛五42才
 羽雪〔肥前〕 寛八51ウ
 羽雪〔伊勢〕 寛十23ウ
 烏川〔越中〕 寛四21才
 烏川〔筑前直方〕 寛八47ウ
 羽仙〔周防岐波〕 寛五30才 寛六30ウ
 寛八46ウ

歌女〔京〕 寛六38ウ
 羽戴〔伊予今治〕 寛八41才
 雨丹〔安芸能美島〕 寛九8才 寛十21才
 雨竹〔周防山口〕 寛五30ウ 寛六31才
 宇宙〔周防三尾〕 寛四28ウ 寛五30ウ
 宇兆〔伊勢白子〕 天七8ウ 寛四16才
 寛五24ウ 寛六21ウ 寛八65ウ
 烏東〔武蔵深谷〕 寛九12才
 雨麦〔近江打風〕 天七6ウ
 雨麦〔大坂松花連〕 寛一6才
 雨卜〔能登田鶴浜〕 寛四17ウ 寛四37ウ
 寛五9ウ 寛八9才
 宇明〔上野宮崎〕 寛九36ウ
 烏友〔若狭西津〕 寛三12才 寛五43才
 瓜坊〔江戸／安房／摂津池田〕
 天七13ウ 寛一8ウ 寛二口ノ1ウ
 寛三3ウ 寛四25才 寛五16ウ
 寛五18ウ 寛六36才 寛七18才
 寛七18ウ 寛八序ウ 寛八33ウ
 寛八35才 寛十13才
 雨柳〔能登東馬場〕 寛四12ウ 寛五10才
 寛六10ウ
 雨柳〔伊勢安濃津〕 寛八26ウ
 雨林〔南山城天神森木水連〕 寛七31ウ
 寛八56ウ
 雲帯〔信濃上田〕 寛二18ウ 寛二21ウ
 寛三9ウ
 雲蝶〔薩摩〕 寛四10ウ
 雲和〔伊勢津部田〕 天七9ウ
 雲和〔江戸〕 寛七18才

雲和↓木葉〔京〕
 雲波〔肥前天草〕 寛七39ウ
 雲坡〔南山城〕 寛四37ウ 寛五3ウ
 寛五43ウ
 雲裡〔南山城寺田〕 天七5ウ 寛三22才
 寛四30才 寛六37ウ 寛七31才
 寛七46才
 雲里〔筑前直方〕 寛八47ウ
 雲浪〔能登〕 寛十30ウ
 え
 英〔安房磯村〕 天六10ウ 寛一2才
 寛三7才 寛四23才
 英〔大坂〕 寛九14ウ
 詠婦〔上野蓮沼〕 寛六14ウ
 栄暉〔上野吾妻横尾〕 寛八12ウ
 栄子〔肥後〕 寛四5才
 英之〔肥後〕 寛四4ウ
 英子〔加賀女〕 寛六5ウ
 永白〔上野吾妻横尾〕 寛八12ウ
 曳尾〔武蔵秩父吉田町〕 寛七16ウ
 得終〔京尼〕 天六2才 天七3ウ
 寛一8才 寛二1ウ 寛二20ウ
 寛三2ウ 寛三24ウ 寛四2才
 寛四32才 寛五47才 寛六41才
 寛七3才 寛七36才 寛八61ウ
 寛九2才 寛九39ウ 寛十1ノ2ウ
 悦女〔ゑつ〕〔肥前諫早〕 寛五35才
 寛八52才

悦溪〔越前敦賀〕 天六11ウ 寛二10ウ
 筵之〔肥後〕 寛五40才
 燕淵〔京〕 寛七36ウ
 猿左〔信濃善光寺〕 寛七22才 寛八33ウ
 演之〔遠江川崎／久喜賀浦〕 寛三6ウ
 寛四2ウ 寛九14ウ 寛十26才
 燕子〔信濃佐久八幡〕 寛六20ウ
 遠子〔筑前直方／植木〕 寛四9ウ
 寛五34才 寛六34ウ 寛八47ウ
 燕児〔陸奥津軽〕 寛五15才
 園蝶〔武蔵入間ノ里〕 寛九6ウ
 蘭蝶〔京〕 寛四32ウ
 渕美〔越中〕 寛四38才
 燕尾〔京〕 天七1ウ
 遠流〔肥後〕 寛五39才
 お
 王霞〔能登穴水〕 寛三15ウ
 鳩鳩〔近江梅木〕 天六6才 天七7ウ
 桜二〔周防上関〕 寛五30ウ
 横馬〔紀伊〕 寛四26ウ
 応美〔京〕 寛七2ウ 寛七34ウ
 寛八1才 寛八60ウ 寛九1ウ
 寛九39ウ 寛十1ノ2ウ
 桜嶺〔加賀〕 寛五6才
 大江丸〔浪花〕 寛八34ウ 寛九25ウ
 翁〔芭蕉／桃青〕 天七イウ 寛八62ウ
 奥人〔京〕 寛六38ウ
 をしへ〔甲斐三沢〕 寛八31ウ

おっかし

乙因〔陸奥八戸〕 寛七13才
乙外〔陸奥黒石〕 寛五15ウ
乙道〔京〕 寛九2才 寛九40ウ

寛十1ノ2ウ

乙路〔丹波〕 寛二5ウ

男〔近江高宮小栗舎〕 寛六4ウ

か

窠阿〔京〕 寛八60ウ

槐庵↓蒼虬〔加賀金沢／京〕

海牛〔紀伊広〕 寛二13才 寛六26才

会月〔若狭〕 寛三12ウ

快志〔丹波〕 寛三16ウ

芥舟〔備中倉敷〕 寛四8才 寛五26ウ

寛七25才

芥舟〔下野栃木〕 寛九32ウ

蟹守〔甲斐〕 寛十35才

海鼠〔播磨水谷〕 寛八36ウ

快馬〔武蔵勅使河原〕 寛五19才

寛六17才 寛七17才 寛八21才

寛九5ウ

介福↓曾陸〔京〕

槐路〔加賀金沢〕 寛五45ウ 寛六5ウ

寛六6才 寛八5ウ 寛十25ウ

化雲〔肥後〕 寛五40ウ

瓜英〔出羽〕 寛四7才

歌永〔武蔵三峰山〕 寛七17才

歌筵〔甲斐三ノ条〕 寛九18ウ

花翁〔加賀〕 寛三13ウ 寛四12才

臥央〔尾張〕 寛四28才

佳乙〔美濃〕 天七13ウ 寛二18才

峨乙〔山城嵯峨／笠置之辺〕 寛四31才

寛五43ウ 寛六24ウ 寛七40才

我々〔加賀〕 寛六7ウ

霞外〔加賀〕 寛四11才

花街〔京〕 天六4才

可角〔筑前直方〕 寛四9ウ 寛五33ウ

寛六34才 寛七29才 寛八48ウ

蝸角〔京〕 寛五46ウ

かゝし〔京〕 天六4才 天七3ウ

香貫〔備中〕 寛三17ウ

嘉菊〔京〕 天七3ウ 寛二口ノ1ウ

寛二1ウ 寛三23才

嘉菊〔江戸〕 寛九27ウ

荷菊〔江戸〕 寛三4ウ 寛五18才

可休〔丹波〕 寛四26ウ

花休〔長門赤間関〕 寛六32才 寛七44才

寛八42ウ 寛九11才 寛十36ウ

蝸牛〔江戸上高野〕 寛六16ウ

架橋〔伊勢洞津連〕 天六8ウ

天七10才

佳馨〔長門〕 寛十35ウ

花橋〔近江守山〕 寛二7ウ 寛三8ウ

寛四24才

花叶〔武蔵金久保〕 寛六17才 寛七17才

花郷〔伊勢野田〕 天六8ウ 天七9ウ

花暁〔長門赤間関〕 寛五32才 寛八44才

寛八45ウ

画橋〔伊勢〕 寛四15ウ

学遠〔加賀〕 寛三14才

鶴翁〔長門赤間関〕 寛九11才 寛十35ウ

郭之〔筑前赤間〕 寛七28才

獲車〔とろゝ庵〕〔伊勢白子轆々社中〕

寛五24ウ 寛五25才 寛六22才

寛七47ウ 寛七47ウ

鶴二〔筑前黒崎〕 寛一5ウ

楽只〔肥前島原〕 寛四4才

岳尔〔伊勢御蘭〕 天七9才

楽中〔上総押日村〕 寛一10才 寛五20ウ

郭天〔在京〕 寛五46才

岳肥〔京〕 寛四31才

角峰〔峰〕〔京〕 天六1才 天七1才

寛一1才 寛一9ウ 寛三23才

寛四2才 寛四31ウ 寛六2ウ

寛六38才

鶴友〔美作海田〕 寛八37才

楽遊〔近江〕 寛三8才

華溪〔江戸〕 寛一10ウ

佳計〔京〕 天七2才 寛一7ウ

可計〔近江上田〕 天七8ウ 寛五5才

可計〔伊勢御蘭〕 天六7ウ 天七9才

可慶〔伊賀上野〕 寛十21ウ

嘉慶〔長門赤間関〕 寛八44才 寛九11ウ

寛十35ウ

歌計〔伊勢津〕 寛三6才

花〔華〕桂〔播磨小野〕 寛一4ウ

寛三17才 寛四29才 寛八36才

花鯨 寛六43ウ

花月〔山城長池〕 寛六37ウ 寛七32才

寛八56ウ

花縣 寛八1ウ 寛八53ウ 寛九12ウ

何言〔対馬〕 寛七31才

何言〔朝三〕〔筑前芦屋〕 寛六33ウ

寛七29才 寛七45ウ 寛八53ウ

寛八53ウ

可交〔伊賀上野 古雅社中〕 天七4ウ

可考〔信濃松本〕 寛三9ウ 寛四36才

歌江〔上野〕 寛十30ウ

霞紅〔肥前諫早〕 寛五35ウ 寛六35才

寛八52才 寛十14才

鶯溝〔伊勢山田〕 寛十26才

臥虹〔越後〕 寛三16ウ 寛四2ウ

賀江〔伊賀〕 寛六26才

瓦三〔播磨水谷〕 寛八36ウ

画山〔上野 僧〕 寛六15才

臥山〔石見銀山大森〕 寛四27才

寛六28才 寛六42才 寛七26才

寛八36ウ

可仕〔能登〕 寛十24才

瓦二〔備後〕 寛二14才

華洲〔浪花〕 寛十21才

可十〔筑前若松〕 寛六33ウ 寛七29才

寛九16ウ

我春〔京〕 天六3才

佳笑〔出羽秋田六郷〕 寛五16ウ

可承〔筑後伯東寺〕 寛十1ウ

可笑〔近江〕 天六6ウ

可笑〔信濃松本〕 天七13ウ

可笑〔信濃長瀬〕 寛七21ウ
花情〔筑前木屋瀬〕 寛四10才 寛五34才
可上〔能登〕 寛四19ウ
可茹〔安房〕 寛七19才
賀松〔薩摩〕 寛四38才
雅松〔加賀〕 寛八65ウ
鷺少〔若狭西津〕 寛三12才 寛四36ウ
寛五43才
可申〔甲斐〕 寛十34才
花岑〔能登〕 寛四17ウ
佳睡〔能登川田〕 寛七8ウ
加水〔甲斐〕 寛十34ウ
可翠〔大和上市・芳野〕 寛一6才
寛二13才 寛三21ウ 寛四36ウ
河翠〔備後〕 寛三18才
花水〔豊前〕 寛十18ウ
一馬〔武蔵本庄〕 寛一2才 寛四25才
寛五19ウ
一馬〔加賀〕 寛八65ウ
可成〔能登赤倉〕 寛五10才
嘉星〔長門〕 寛六32ウ
夏井〔伊勢白子〕 天七9才 寛六21ウ
花井〔近江石部〕 寛六4才
我青〔紀伊熊野渡利松島〕 寛十31ウ
化石〔肥前本草〕 寛七38ウ 寛七39才
化碩〔播磨龍野〕 天七12才
可石〔近江水口〕 寛二6ウ 寛六44ウ
夏夕〔豊前小倉〕 寛二16ウ 寛三21才
寛五32ウ 寛七39ウ 寛八49才
寛八62ウ 寛八64ウ 寛十30ウ

花夕〔備後福山女〕 寛五28ウ
霞夕〔周防小郡〕 寛八46才
蝸石〔筑前〕 寛三20ウ 寛四9ウ
雅石〔加賀宮腰〕 寛五7才 寛七6ウ
鴉跡〔周防山口〕 寛五30ウ 寛六31ウ
寛七44才
歌拙〔播磨松本〕 寛八36ウ
歌舌〔伊賀〕 天七5才
歌舌〔肥後〕 寛四5才
化仙〔肥後〕 寛二17才
花仙〔近江辻村〕 寛三8才
霞川〔近江〕 寛三8才 寛四24ウ
霞船〔肥前諫早〕 寛五35才
画鮮〔肥前神代〕 寛五36ウ 寛十31ウ
鷺川〔上野厩橋／桐生〕 寛七10ウ
寛八17才 寛九15ウ
我桑〔丹波〕 寛六26ウ
柯則〔信濃佐久郡塩名田〕 寛三9ウ
寛四37ウ 寛五22ウ 寛六20才
寛七20才 寛八31ウ
可筑〔出羽湯殿〕 寛六16才
化蝶〔伊勢四日市／曾井〕 寛九7才
寛十4ウ
何鳥〔甲斐〕 寛四39ウ
佳超〔能登川田〕 寛三15ウ 寛四17才
寛五9才 寛六10ウ
可兆〔加賀金沢〕 寛三13才 寛四11才
寛八5ウ
歌兆〔越中〕 寛六11ウ
花潮〔伊勢洞津連〕 天七10才

轄其〔伊勢御園〕 寛五23ウ
葛谷〔京〕 寛五46才
楽国〔京〕 天七2ウ
葛三〔江戸〕 寛八21ウ
かつみ〔閑都〕〔徒〕〔美〕〔京〕 寛六3才
寛六41才 寛七2ウ 寛七35ウ
桂〔能登〕 寛四19才
可都里〔甲斐藤田〕 寛二18才 寛三6ウ
寛四28才 寛五20ウ 寛六18ウ
寛七41ウ 寛八31ウ 寛九18才
寛十35才
河丁〔周防山口〕 寛九33ウ
花弟〔江戸〕 寛三4ウ 寛五18才
花イ〔信濃飯田〕 寛五22ウ
荷的〔浪花〕 寛十12ウ
花〔瓜〕〔庵〕〔筑前若宮〕 寛五33才
寛六43ウ
可董〔京〕 寛九40ウ
可童〔京〕 寛八60才
かな〔上野厩橋女〕 寛七10才
嘉那〔播磨水谷〕 寛八36ウ
金丸〔能登能登部〕 寛四19才 寛六11才
寛七44才
可南〔武蔵三峰山〕 寛七17才 寛八21才
可能〔近江草津〕 天七7才 寛三1ウ
寛四2才 寛四24ウ 寛五5ウ
寛六5才 寛七42才 寛八3ウ
歌白〔遠江掛川〕 寛六26ウ
娥草〔伊勢〕 天六8才
可楓〔日向美々津〕 寛四37ウ

可諷〔能登田鶴浜〕 寛八9才
香風〔上野前橋〕 寛九9ウ 寛十30才
家副〔信濃佐久郡塚原〕 寛六20ウ
寛七20ウ
花仏〔甲斐谷戸〕 寛八31ウ
我文〔陸奥八戸〕 寛六42ウ 寛七13才
下方〔南山城〕 寛二4才 寛四38ウ
何芳〔能登〕 寛四17才 寛十24ウ
可豊〔信濃中居〕 寛八32ウ
可卜〔備後府中高木〕 寛五28才
寛六29才 寛八39才 寛九33ウ
花卜〔周防小郡〕 寛七43ウ 寛八46才
芽木〔浪花〕 天六3ウ
花密〔長門〕 寛二15ウ
花明〔豊前〕 寛八65才
蝶冥〔上野蓮沼沢〕 寛六14ウ
鴉明〔能登川尻〕 寛八9ウ
花毛〔備後〕 寛二14才
仮遊〔長門舟木〕 寛六30才
加友〔河内藤坂〕 寛五25ウ
加由〔能登〕 寛二11ウ 寛三15才
寛十6ウ 寛十8才
可友〔安芸広島／小方〕 天六12ウ
寛二14ウ 寛三19才 寛四22ウ
寛五29ウ 寛六29ウ 寛八40才
寛九4ウ 寛十1才
歌雄〔近江堅田〕 天七6ウ 寛二8才
寛六3才 寛七4ウ 寛八57才
寛九2才 寛九14才
霞尤〔周防旦〕 寛七43才

何来〔筑前植木〕 寛三21才 寛四9才
 寛五34才
 何頼〔信濃飯田〕 寛十31ウ
 花来〔越中富山〕 寛四22才
 花来〔長門赤間関〕 寛五31ウ
 何楽〔近江八日市如來村〕 寛八4ウ
 夏陸〔加賀〕 寛四12ウ
 可立〔薩摩〕 寛四10ウ
 何笠〔京〕 寛二20才
 何笠〔備後三原〕 寛二14才 寛三18ウ
 寛四10ウ 寛五28才 寛六29才
 寛七34ウ 寛八39ウ 寛十19才
 何龍〔京〕 寛四32ウ
 加龍〔伊勢〕 寛五23ウ
 河柳〔周防山口〕 寛六31ウ
 雅龍〔能登川尻〕 寛八9ウ
 夏蓼〔肥前諫早〕 寛六35才 寛八52才
 寛十13ウ
 荷涼〔周防上関〕 寛五30ウ
 画涼〔大坂・浪花〕 寛二12ウ 寛三26才
 寛四29ウ 寛六25才 寛七42ウ
 寛八34ウ 寛九32才 寛十1ウ
 花林〔豊後安岐谷〕 寛九4才
 歌連〔河内〕 寛十28才
 瓦六〔伊勢津〕 寛七22ウ 寛八24才
 完〔筑前黒崎〕 寛一5ウ
 幹員〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ
 寛雨〔上野〕 寛十14才
 甘雨〔武蔵八幡山〕 寛八20ウ
 寒河〔京〕 寛五46才

巨々〔江戸〕 寛八21ウ
 完雅〔肥前神代〕 寛八50ウ 寛九24ウ
 寛十23才
 寛雅〔子風〕〔長門厚狭〕 寛八45ウ
 甌雅〔京〕 寛九2才 寛九39才
 官橋〔上野尾島〕 寛七12才 寛八14ウ
 寛九22才
 卷玉〔伊予今治〕 寛七27ウ 寛八40ウ
 寛九8ウ 寛十29ウ
 閑空〔京〕 寛八57ウ 寛九40才
 菅菰〔上野草津〕 寛五13才 寛六12ウ
 寛七32ウ 寛七34才 寛八14ウ
 寛八16ウ 寛九5才
 寒鴻〔播磨姫路〕 天七12才 寛一10ウ
 寛二13ウ 寛三17ウ
 完固〔豊前〕 寛十18ウ
 甘谷〔伊勢石薬師〕 寛二9才 寛三6才
 寛四15ウ 寛五24才 寛七23才
 寛八24才
 甘谷〔加賀〕 寛三14才
 甘古〔京〕 寛四31才
 丸交〔加賀金沢才川〕 寛五7才
 寛八6才
 寛算〔山城〕 寛二5才
 寛志〔備後福山連〕 寛五29才
 菅之〔豊後安岐谷〕 寛九4才
 管史〔能登〕 寛四19ウ
 貫志〔近江水口〕 寛六43ウ 寛七4才
 貫子〔京〕 寛五45才 寛六2ウ
 寛六40才

貫之〔近江水口〕 寛八3才
 貫扨〔若狭能登野村・向笠〕 天七11才
 寛一3ウ
 貫虱〔摂津〕 寛四29ウ
 完車〔加賀〕 寛四12才
 還車〔伊勢〕 寛六22才
 荅枝〔能登田鶴浜女〕 寛五9才
 寛八9才
 酣子〔越前〕 寛十10ウ
 芑支〔摂津西ノ宮〕 寛八34才
 観心〔武蔵入間ノ里〕 寛九6才
 卷如〔能登〕 寛四20才
 完而〔京〕 寛三2ウ 寛三24才
 寛四35ウ
 完尔〔薩摩〕 寛一5ウ
 莞尔〔而〕〔筑前飯塚〕 寛三21才
 寛四8ウ 寛五32ウ
 莞尔〔下野助戸〕 寛七12才
 観寿〔江戸〕 寛五18才
 岸松〔越中〕 寛三16才
 岸芷〔能登〕 寛二12才 寛四15才
 観水〔京〕 寛二2ウ 寛二21ウ
 観水〔播磨〕 寛二13ウ
 寛水〔山城伏見向島〕 寛七31ウ
 渙水〔京〕 寛五46才 寛六39才
 寛七3才 寛七37才 寛八62才
 観然〔加賀〕 寛十5ウ
 冠叟〔京〕 寛六3ウ
 閑窓〔陸奥〕 寛六15ウ
 浣素〔陸奥花巻〕 寛五16才

岩苔〔摂津兵庫〕 寛四27才
 岸苔〔上野駒形〕 寛六13ウ
 管鳥〔京〕 天七2ウ 寛二4才
 寛三23ウ
 宦応〔陸奥合浦〕 寛五15ウ
 寛風〔能登高田〕 寛五9ウ
 漢甫〔甲斐藤田〕 寛二18才 寛四28才
 寛五21才 寛六18ウ 寛七40ウ
 寛八30才 寛九18ウ 寛十34ウ
 灌圃〔讃岐白鳥〕 寛九16才
 完来〔江戸〕 寛三7才 寛九25ウ
 棕楽〔安房〕 寛六18ウ
 寒蓼〔京〕 寛七35才 寛八58才
 寛九39才
 還量〔越中泊〕 寛五11才
 雁路〔伊勢津〕 天七10ウ 寛二9ウ
 寛四15ウ
 閑和〔陸奥仙台連〕 寛九31才

き

紀一〔上野宮崎〕 寛五12ウ
 義一〔肥後〕 寛五39才
 亀測〔洌〕〔近江石部〕 天六5ウ
 寛一2ウ 寛二口ノ1才 寛二7才
 寛三8才 寛四24才 寛五2才
 寛五4才 寛六4才 寛八3才
 寛九25ウ
 淇園〔伊勢洞津連〕 天六9才
 天七10才

宜応〔陸奥津軽〕 寛四6才
 喜花〔伊勢八丁〕 天七9ウ
 其外〔筑前僧〕 寛四10才
 儀角〔陸奥仙台〕 寛八23才 寛九30ウ
 其冠〔老岐〕 寛十37才
 其岩〔近江霜降村〕 寛八4ウ
 几岩〔京〕 寛五44才
 亀几〔備中〕 寛四8才
 崎給〔信濃佐久郡片倉〕 寛五23才
 寛六20才 寛七21才 寛八32ウ
 荳牛〔武蔵本庄〕 寛五19ウ
 寄筈〔京〕 天六4才
 岐眺〔江戸〕 寛九27ウ
 希玉〔筑前芦屋〕 寛七29ウ 寛八53ウ
 寛九25才
 菊阿坊〔伊勢〕 寛四15ウ
 菊隠〔但馬豊岡〕 天七11ウ
 菊羽〔伊勢雲出〕 寛九12ウ
 菊翁〔肥前長崎〕 寛八49ウ
 菊後〔京〕 寛九3才 寛九39才
 菊子〔伊勢〕 寛八24才
 麴車〔伊勢白子〕 寛五24ウ 寛六22才
 麴舟〔上野大原〕 寛十1ウ 寛十五5ウ
 菊児〔甲斐〕 寛四39ウ
 菊人〔能登〕 寛四17才 寛十24才
 菊二〔安房〕 寛七19才
 喜久仙〔武蔵入間ノ里〕 寛九6才
 幾久成〔三河矢作〕 寛八23才
 幾久成〔遠江〕 寛九10才
 幾久成 寛九2ウ

掬泉〔豊後鶴崎〕 寛五32ウ
 きく丸〔菊磨〕〔信濃飯田〕 寛五22才
 寛七42ウ 寛十31ウ
 菊夢〔上野桐生〕 寛五14才
 菊明〔江戸〕 寛三3ウ 寛四25才
 寛五16ウ 寛六17才 寛七17ウ
 寛八21才 寛九28ウ
 菊良〔越中〕 寛三16ウ
 麴令〔近江水口〕 寛八3才
 菊露〔豊前〕 寛八65才
 鬼荊〔南山城〕 寛六37才 寛七31才
 寛十一ノ2才
 鬼薊〔京〕 寛二4ウ 寛二21才
 寛五3ウ 寛八58才
 箕溪〔肥後熊本〕 寛二17才 寛四5才
 寛五3ウ 寛五38才 寛十14ウ
 其月〔近江海津〕 寛八4才 寛九5ウ
 琪月〔肥前島原〕 寛五36才
 戯月〔上野一ノ宮〕 寛六13ウ
 寛七11才
 希言〔信濃善光寺〕 寛七22才 寛八33才
 寛九36ウ
 季広〔信濃登地〕 寛七21才 寛八32才
 鬼口〔在京〕 寛五46ウ
 其交〔近江水口〕 寛二7才 寛六44ウ
 其光〔伊予西条〕 寛七27才 寛八41ウ
 蟻好〔長門〕 寛十35ウ
 奇哉〔能登寺口／黒島〕 寛七8才
 寛八8才
 寄哉 寛十3ウ

稀才〔加賀金沢〕 寛八6ウ
 寄三〔信濃飯田〕 寛七21才 寛十3ウ
 季山〔備中〕 天六10才
 箕山〔京〕 寛四32ウ
 沂山〔若狭〕 寛三12ウ 寛四36ウ
 俱山〔肥後〕 寛五39才
 記之〔上野女〕 寛四35才
 記史〔能登飯田〕 寛四19ウ
 其子〔加賀〕 寛三13才 寛四14才
 寛五7才
 其之〔能登七尾／所之口〕 寛四17才
 寛五8ウ 寛十24才 寛十24ウ
 鬼雀〔若狭能登野〕 天七11才 寛一3ウ
 寛二10才 寛三11ウ 寛四26才
 寛五42ウ 寛六26ウ 寛七24ウ
 幾秋〔越中戸出〕 寛五10ウ
 其隼〔伊勢龜山〕 寛五24才
 几嘯〔能登田鶴浜〕 寛五9才
 幾重〔陸奥岩城平〕 寛九29才
 鬼笑〔南山城枇杷庄〕 寛六37ウ
 鬼笑〔信濃長瀬連〕 寛九11才
 崎松〔伊勢洞津連〕 天七10才
 碕松〔筑前黒崎〕 寛一5ウ
 鬼丈〔京〕 天七3才
 龜丈〔浪花〕 寛九25才
 几丈〔越後高田〕 寛十36才
 貴深〔安房前原〕 寛六18才
 寄人〔備中倉敷〕 寛三18才 寛四8才
 寛六28ウ 寛七25才 寛八55ウ
 寛九2ウ

器水〔出羽秋田〕 寛七14ウ
 器水〔豊前〕 寛十18ウ
 葵水〔近江草津七十翁〕 寛五5才
 葵水〔上野草津七十一翁〕 寛六13才
 机翠〔薩摩阿久根〕 寛四35ウ 寛六36ウ
 寛八51ウ
 龜水〔肥前諫早〕 寛四4才 寛五34ウ
 几睡〔肥前島原〕 寛九35ウ 寛十23才
 磯水〔南山城伏見深草〕 寛二5才
 寛四30ウ 寛五43ウ 寛六37才
 寛七40ウ 寛八55ウ
 其青〔加賀〕 寛四11ウ
 奇井〔浪花〕 天七6才
 其成〔京〕 天六初ウ 天六1才
 天七1ウ 寛一1才 寛一9ウ
 寛二4才 寛二20才 寛三2ウ
 寛三24ウ 寛四1ウ 寛四34才
 寛五3ウ 寛五47ウ 寛六3ウ
 寛六40ウ 寛七3ウ 寛七37ウ
 寛八1ウ 寛八62才 寛九3才
 寛九38ウ 寛十1ノ2ウ
 寛十27ウ
 葵夕〔大和女〕 寛六24ウ
 起石〔讃岐〕 寛三19ウ
 其石〔加賀〕 寛四12ウ
 其跡〔播磨国包〕 寛八36ウ 寛九9才
 綺石〔肥後求麻〕 寛四5才 寛五37ウ
 きせ女〔京〕 寛七37ウ
 起雪〔肥前諫早〕 寛五35ウ
 箕雪〔長門〕 寛六33才

磯仙〔越中明神浦・放生津〕 寛三16才
 寛四21ウ 寛五12才 寛八12才
 龜選〔加賀本吉〕 寛五6ウ
 几仙〔浪花〕 寛十13ウ
 岐草〔嵐峰〕〔能登館分〕 寛二12才
 寛三15才 寛三15才 寛四18ウ
 寛五8才 寛六8才 寛六10ウ
 帰爪〔安芸呉〕 寛八40才
 其叟〔加賀／在京〕 寛五46ウ 寛六2ウ
 寛六6ウ
 其帑〔丹波園部〕 寛一4才 寛二5ウ
 龜台〔越中〕 寛四20ウ
 喜竹〔京〕 天六1ウ
 淇竹〔近江日野〕 寛七2才 寛七跋ウ
 琪竹〔但馬朝来山〕 寛五42才
 義昼〔石見日原三好〕 寛四39ウ
 寛八36ウ
 其朝〔伊賀〕 天七4ウ
 帰朝〔能登田鶴浜〕 寛五9才
 其蝶〔上野吉井〕 寛三11才
 橘子〔伊賀上野古雅社中〕 天七4ウ
 橘泉〔肥後熊本〕 寛四4ウ
 吃叟〔近江〕 天七8ウ
 橘人〔下野栃木〕 寛八22ウ 寛九32ウ
 几董〔京〕 天七4才
 其道〔近江七条〕 寛四23ウ
 葵道〔播磨姫路〕 寛三17才
 鬼洞〔伊予西条〕 寛七27才
 龜洞〔南山城八幡〕 寛八57才
 其堂〔若狭〕 寛二10才

其童〔大和〕 寛四30才
 義童〔京〕 寛一7才
 巍道〔丹後〕 寛十36才
 既白〔伊勢石薬師〕 寛四16才 寛五24才
 輝白〔肥前諫早〕 寛四3ウ 寛五35ウ
 寛七30才 寛八52ウ 寛九35才
 寛十29ウ
 龜白〔武蔵〕 寛十22才
 其白〔京〕 寛九2ウ 寛九38才
 幾必〔能登〕 寛四17ウ
 箕風〔甲斐小笠原〕 寛四7ウ 寛五21ウ
 几風〔伊予〕 寛三20才 寛四8ウ
 季風〔加賀〕 寛六7ウ
 義風↓白窟〔但馬生野〕
 既文〔能登〕 寛十31才
 龜文〔陸奥津軽郡黒石〕 寛五15ウ
 寛六15ウ
 紀鳳〔尾張〕 寛四27ウ
 奇峰〔筑前飯塚〕 寛三21才 寛四8ウ
 寛五32ウ
 奇〔寄〕峰〔伊勢山田〕 寛一1ウ
 寛二9才
 岐北〔加賀〕 寛四12才
 寄〔奇〕木〔筑前直方〕 寛四9才
 寛六34才 寛七28才 寛八47ウ
 龜卜〔若狭三方〕 天七11才
 季明〔肥前長崎〕 寛八50才
 器友〔浪花〕 寛九4ウ
 希由〔若狭〕 寛二10才
 季由〔肥後〕 寛五39才

起由〔相模〕 寛十29才
 丘馬〔木枯庵〕〔伊勢山田〕 寛八53ウ
 寛九31才
 及古〔相模〕 寛十29才
 弓六〔和泉堺〕 寛七24才
 求我〔上野安中〕 寛七11才 寛九37才
 旧路〔武蔵秩父吉田町〕 寛七16ウ
 寛八19才
 九河〔能登〕 寛四17ウ
 九岡〔近江信楽〕 寛九6ウ
 九夏〔加賀〕 寛四12ウ
 九皐〔越中放生津〕 寛九18才
 九皐〔紀伊三鍋〕 寛九7才
 九山〔京〕 寛八59ウ
 其友〔筑前水城〕 寛七46才
 枳友〔越前〕 寛十10ウ
 戲遊〔石見〕 寛五41ウ
 牛一 寛十33才 寛十33ウ
 牛雅〔越中井波〕 寛五11ウ
 牛琴〔備後〕 寛一5才
 牛石〔越中戸出〕 寛五10ウ
 許一〔近江草津〕 寛五5才
 許一〔上野草津／宮崎〕 寛五12ウ
 寛六12ウ 寛八15才 寛八17才
 魚一〔備後布野〕 寛七25ウ 寛八38ウ
 寛九31ウ
 其葉〔加賀〕 寛三13ウ
 橋雨〔筑前直方〕 寛三21才 寛四9ウ
 寛八47ウ
 杏華〔筑前直方〕 寛七28ウ

興花〔大和郡山〕 寛六24ウ
 狂笑〔近江〕 寛四25才
 眺台〔京〕 寛三2才
 競巴〔筑前福岡〕 寛九16ウ
 橋巴〔肥後〕 寛五39ウ
 鏡平〔甲斐藤田〕 寛七40ウ 寛八30才
 寛九18ウ 寛十34ウ
 杏廬〔讃岐〕 寛十31才
 杏露〔山城嵯峨〕 寛四31才 寛六38才
 寛七36ウ
 暁宇〔近江篠原〕 天七7ウ 寛二8才
 寛三8ウ 寛四23ウ 寛六5才
 暁雨〔下野栃木〕 寛七12ウ
 暁烏〔鳥〕〔上野下仁田〕 寛三10ウ
 寛四34ウ 寛五12ウ 寛六13ウ
 寛七11ウ 寛八13才 寛九23ウ
 暁月〔近江日野〕 寛六5才
 暁山〔京〕 天六4才
 暁翠〔陸奥津軽〕 寛三11才
 暁川〔能登高田〕 寛八8ウ
 暁泉〔能登高田〕 寛五9ウ
 暁太〔相模茅ヶ崎〕 寛十29才
 仰高〔近江万木〕 寛四36才
 業甫〔遠江久喜賀浦〕 寛九15才
 挙遠〔加賀〕 寛六6ウ 寛六7才
 魚測〔上野下仁田〕 天六11才
 魚翁〔肥前平戸〕 寛九25ウ
 旭溪〔京〕 天七3才
 旭山〔能登吉田〕 寛五10才
 旭山〔越中高岡〕 寛九19ウ

旭梟〔近江彦根〕 寛五4ウ
 曲阿〔江戸〕 寛九27ウ
 曲枕〔上野藤岡〕 寛十1才
 玉河〔甲斐〕 寛四7ウ
 玉井〔備中倉敷〕 寛三18才 寛四8才
 寛五26ウ 寛六28ウ 寛七25才
 寛八55ウ
 玉可〔越中戸出〕 寛五10ウ
 玉牙〔京〕 寛八61才
 玉屑〔淡路／播磨加古川〕 寛一4ウ
 寛三3才 寛三24才 寛五26ウ
 寛八36才 寛十36才
 玉慶〔南山城平川〕 寛一6ウ 寛二4ウ
 玉史〔能登錦川〕 寛三15ウ 寛四19才
 寛五10ウ 寛六8才 寛六10才
 寛七7ウ 寛八8才 寛九26ウ
 寛十6ウ 寛十9才
 玉支〔上野宮崎〕 寛四34ウ 寛五12ウ
 寛八12ウ 寛九36ウ
 玉枝〔加賀〕 寛十36ウ
 玉城〔上野一ノ騎馬〕 寛八17ウ
 玉水〔近江草津山寺〕 寛四24ウ
 玉翠〔浪花〕 寛十22才
 玉爪〔京〕 天七3才
 玉之〔陸奥〕 寛九29才
 玉馬〔信濃上田〕 寛六43才
 玉尾〔遠江久喜賀浦〕 寛九15才
 玉斧〔上野〕 寛三10ウ
 玉芙〔上野高崎〕 寛八14才
 玉歩〔伊勢雲出川〕 寛八24ウ

玉房〔浪花〕 寛九26才
 玉李〔肥前〕 寛四4才
 玉孚〔肥前諫早〕 寛五34ウ
 居敬〔志摩鳥羽連〕 天七10ウ
 巨口〔南山城〕 寛四30才
 巨山〔越中〕 寛四21ウ
 魚柵〔上野草津〕 寛五13才 寛六12ウ
 寛七32ウ 寛七33ウ 寛八14ウ
 寛八17才 寛九5才
 巨洲〔州〕〔近江大津〕 天六5ウ
 寛二6才
 虚舟〔指月〕〔京〕 寛六39才
 喜代女〔武蔵本庄〕 寛五19ウ
 魚尺〔下野〕 寛四28ウ
 魚春〔若狭〕 寛二10ウ
 魚水〔上総部田村〕 寛五20才
 巨川〔若狭小浜〕 寛二9ウ 寛三11才
 漁船〔加賀〕 寛三14才 寛四11ウ
 虚丹〔下野助戸〕 寛八22ウ
 魚道〔上野柴〕 寛六15才
 魚能〔長門赤間関〕 寛五31ウ
 虚白〔豊前小倉〕 天七12ウ
 魚夫〔加賀金沢〕 寛九13才
 許風〔能登〕 寛十24才 寛十25才
 御風〔伊勢津〕 寛三6才
 魚泡〔京〕 寛六39才 寛七38才
 魚藻〔甲斐〕 寛四39ウ
 魚有〔下野助戸〕 寛七12ウ
 魚龍〔越中多胡〕 寛五12才 寛七9ウ

漁林〔若狭西津〕 寛三12才 寛四25ウ
 寛五42ウ
 寄来〔筑前植木〕 寛五33ウ
 帰来〔筑前甘木〕 寛二16ウ 寛五33才
 寛七28才
 帰来〔京〕 寛一7才
 其闌〔越中〕 寛五11ウ
 其律〔石見九日市〕 寛五41ウ
 杞〔杞〕柳〔京〕 天六1ウ 天七1才
 寛一8才 寛三23ウ 寛四31ウ
 寛五44ウ 寛六40ウ 寛七35才
 寄流〔伊賀〕 天七5才
 希龍〔若狭川原方〕 天七11ウ
 起龍〔肥後〕 寛四4ウ
 其柳〔薩摩〕 寛四38才
 其柳〔筑前黒崎〕 寛五33才 寛六33ウ
 其流〔陸奥〕 寛四6才
 其龍〔京〕 寛八58ウ
 其綾〔美作倉敷〕 寛六28才 寛七26才
 寛八37才
 其蓼〔石見銀山片山〕 寛六28才
 亀令〔肥後熊本〕 寛五38ウ 寛六36才
 寛七30ウ 寛八51才 寛九25才
 宜令〔越中〕 寛六11ウ
 亀洌↓亀洌〔近江石部〕
 騏六〔尾張清洲〕 寛八2才 寛八18ウ
 きん〔安房〕 寛四23才
 金英〔陸奥本宮〕 寛六45才 寛八23才
 巾花〔浪花〕 寛六3才 寛六25才
 琴牙〔丹波成松〕 寛十13才

吟賀〔京〕 寛五45ウ
 金竟〔安芸川尻〕 寛二14ウ 寛五29才
 寛八40才
 錦月〔近江守山〕 寛二7才 寛三8ウ
 錦河〔甲斐〕 天六11ウ
 錦江〔筑前〕 寛三20才
 琴左〔長門〕 寛六32ウ
 琴秋〔伊予〕 寛四8ウ
 琴松〔上野藤岡〕 寛十1才
 琴水〔甲斐暮地〕 寛八30ウ 寛九10才
 錦水〔周防嘉川〕 寛六30才 寛七43才
 錦翠〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛八45才
 芹水〔京〕 寛八1ウ 寛八58才
 寛九1ウ 寛九38ウ
 寛十1ノ2才 寛十13ウ
 金翠〔武蔵〕 寛九27才 寛九29ウ
 吟水〔近江江頭〕 寛四24才
 吟水〔上野荒牧〕 寛八14ウ
 琴雪〔甲斐〕 寛四39才
 琴川〔丹波〕 寛六26ウ
 銀俗〔伊勢津〕 天七10ウ 寛二9ウ
 寛三6才 寛六21ウ 寛八24才
 錦桃〔涯州〕 寛五41才
 琴桃〔近江海洋〕 天六5ウ
 金桃〔陸奥津軽〕 寛五15才
 金兔〔南山城伏見〕 寛七40才 寛八54才
 寛八55才 寛九37才
 琴那〔周防大海〕 寛五31才 寛六30ウ
 金波〔肥前天草〕 寛七39才

さん〜こう

錦圃〔南山城伏見〕 寛八54才 寛八55才
 寛九37才
 吟龍〔日向美々津〕 寛七30ウ 寛八52才
 寛九25ウ 寛十11ウ
 琴路〔肥後〕 寛五40ウ
 吟呂〔近江〕 寛二7ウ
 空花〔能登道下〕 寛八8ウ
 矩流〔和泉堺〕 寛六26才
 くれを〔丹波〕 寛二6才
 君花〔筑前直方〕 寛一10ウ 寛二16ウ
 寛三20ウ 寛四36ウ 寛五32ウ
 寛六34才 寛七27ウ 寛八48才
 寛九20ウ 寛九32ウ
 薰河〔京〕 寛二1ウ 寛二21才
 寛三23才 寛四33ウ 寛六2ウ
 寛六38ウ
 君岸〔肥前〕 寛四3才
 君中〔播磨小野〕 寛一4ウ 寛二13才
 寛三17才 寛四29才 寛五26ウ
 寛六27ウ 寛七24才 寛八35才
 寛九9才 寛十20ウ
 薰里〔長門赤間関〕 天七12ウ 寛一5才
 寛二16才 寛三19ウ 寛四36才
 寛五32才 寛六33才 寛七44ウ
 薰路〔肥前〕 寛八51才

け

荊花〔越中〕 寛九34才
 鯨牙〔周防室津〕 寛五31才 寛六30ウ
 寛七43才 寛八40ウ 寛九32才
 桂岐〔伊勢津／岩田〕 天六9才
 天七9ウ 寛一2才
 桂月〔但馬夏梅村〕 寛八37ウ 寛十19才
 鶏更〔上野柴〕 寛六15才
 桂吾〔尾張〕 寛四27ウ
 桂山〔紀伊高野山〕 寛六26才 寛七24才
 契之〔近江八幡〕 寛八4ウ
 徑処〔上野厩橋〕 寛五14ウ
 敬之〔甲斐〕 寛八30ウ
 敬之〔豊前〕 寛十18ウ
 桂史〔能登富木〕 寛七8才
 桂舟〔京〕 寛五45ウ
 鶏秀〔上野新河岸〕 寛五13ウ
 桂石〔近江岩根〕 寛七5才 寛九11ウ
 桂雪〔肥後中山〕 寛五40才
 鯨石〔但馬朝来山〕 寛五42才
 恵中〔江戸〕 寛九27ウ
 溪竹↓黛葉〔淡路〕
 蕙蝶〔京〕 寛三22ウ
 溪風〔越前〕 寛七9ウ
 軽鳧〔上野厩橋〕 寛十29ウ
 慶柳〔越前〕 寛十10ウ
 鶏路〔陸奥花巻〕 寛五15ウ 寛六16才
 月下坊↓黒水〔信濃長瀬連〕

月居〔京〕 寛七37才
 月桂〔近江草津〕 寛四24才 寛六4ウ
 寛八3ウ
 月湖〔京〕 寛五46才
 月壺〔丹波柏原〕 寛十13才
 月岬↓竹溪〔肥前平戸〕
 月樵〔武蔵熊谷〕 寛九4ウ 寛十4才
 厥叟〔越中東水橋〕 寛九7才
 月窓〔近江土山〕 寛四23ウ 寛七34才
 月窓亭↓万井〔長門赤間関〕
 月池〔筑前〕 寛三20ウ
 月峰〔京〕 天六2才 天七3ウ
 寛一8ウ 寛二2才 寛三3才
 寛三24ウ 寛四2才 寛四32才
 寛五3才 寛五47ウ 寛六2才
 寛六40才 寛七2才 寛七35ウ
 寛八序ウ 寛八59ウ 寛九1才
 寛九37ウ 寛十1ノ2才
 見漁〔石見〕 寛二15才
 堅山〔近江加茂〕 寛九6ウ 寛十28ウ
 玄子〔京〕 天六3才
 言志〔上野藤岡〕 寛一3ウ
 元二〔筑前直方〕 寛三20ウ 寛六34才
 寛七28才 寛八47ウ
 玄児〔京〕 寛五48ウ
 原水〔京〕 寛八2ウ 寛八58ウ
 軒雫〔備中〕 寛三18才 寛四8才
 玄兎〔近江／京〕 寛二6ウ 寛三23才
 寛四33ウ 寛五44ウ
 玄都〔京〕 寛六39才

こ

言道〔京〕 天六1ウ 天七2才
 寛二1才 寛二20ウ
 元夢〔信濃下県／塩名田〕 寛六20才
 寛七20才 寛八32ウ
 見鯉〔涯州〕 寛五41才
 幸〔伊勢山田女〕 寛九31ウ
 交鴉〔出羽秋田〕 寛七13ウ 寛七14ウ
 江花〔加賀才川〕 寛五7ウ
 扣角〔陸奥一ノ関〕 寛九37ウ
 皐鶴〔肥前〕 寛十22ウ
 江涯〔浪花〕 天六11才 天七13ウ
 寛一1才 寛一9才 寛二12ウ
 寛四29ウ 寛五26才 寛七38ウ
 寛八34才
 幸久〔甲斐下山〕 寛七19才
 江曲〔備中倉敷〕 寛七25才
 光暁〔京〕 寛五47才 寛六44才
 寛七3ウ 寛七35ウ 寛八61才
 黄口〔励之〕〔南山城佐山／男山〕
 天七5ウ 天七5ウ 寛一6ウ
 寛二4ウ
 黄口〔上野女屋／厩橋〕 寛六14ウ
 寛七10才 寛八17ウ
 交更〔佐賀〕 寛六35ウ
 好古〔能登武部〕 寛四17ウ 寛五10才
 寛九12才

更々〔加賀金沢〕 寛三13ウ 寛四14才
 寛五7ウ 寛六5ウ 寛七6才
 寛九5ウ
 虹光〔京〕 天七3ウ 寛五44才
 皎砂〔上野荒口〕 寛八17ウ
 江山〔備中〕 寛三17ウ
 江山〔近江高宮〕 寛五5ウ
 紅枝〔安房〕 寛四23才
 江舟〔近江水口〕 寛一3才 寛二6ウ
 岡寿〔筑前茶屋原〕 寛五33才
 好〔かう〕女〔近江水口〕 寛八3才
 寛十23ウ
 庚達〔京尼〕 寛六38ウ
 黄台〔若狭〕 寛七24ウ
 江朝〔上野下仁田〕 寛四34ウ
 黄鳥〔能登宇出津〕 寛四12ウ
 鴻南〔周防山口〕 寛六31ウ 寛七43ウ
 公眉〔越中〕 寛五11才
 耕夫〔阿波城北〕 寛七27ウ
 孔阜〔伊勢玉垣〕 寛十23ウ
 孔阜〔甲斐平岡〕 寛九30才 寛十34才
 広布〔浪花〕 寛十21ウ
 江風〔江戸〕 寛九28ウ
 蛤夢〔京〕 寛六39ウ
 紅葉〔近江東万木〕 寛八55ウ
 江良〔肥前〕 寛四3ウ
 江蓼〔京〕 寛六39才 寛七3ウ
 寛七36ウ 寛八1才 寛八58ウ
 寛十1ノ2才 寛十26ウ

紅良〔肥前諫早〕 寛五36才 寛七30才
 寛九35ウ
 合黎〔能登宇出津〕 寛四13才
 五雲〔京〕 寛四33才
 五雲〔能登武部〕 寛四17ウ 寛五10才
 寛七8ウ 寛九12才
 五雲〔甲斐暮地〕 寛八30才
 五雲〔筑前〕 寛七46才
 五雲〔豊前〕 寛十18ウ
 五英〔京〕 寛七3才
 五英〔陸奥津軽〕 寛七13才 寛九26才
 故園〔加賀宮腰〕 寛五7ウ 寛八7才
 寛十21ウ
 胡園〔信濃今岡／塩名田〕 寛五23才
 寛六20才 寛七20才 寛八32才
 古音〔近江篠原／小笹原〕 寛七4ウ
 寛八4才
 故友〔近江堅田〕 寛八3ウ
 壺外〔在浪花／肥前〕 寛七47ウ
 寛八51ウ
 孤鶴〔肥後〕 寛五39ウ
 吾角〔加賀金沢〕 寛七7才
 木枯庵↓丘馬〔伊勢山田〕
 虎眼〔近江水口〕 寛七4才
 五雁〔但馬船谷〕 寛八38才 寛九5ウ
 寛十3ウ 寛十4才 寛十21ウ
 後菊〔播磨姫路〕 寛八36ウ
 古橘〔若狭〕 寛四26才

五牛〔南山城天神森ト木水連〕
 寛四37ウ 寛五43ウ 寛六37ウ
 寛七31ウ 寛八56ウ 寛九1才
 寛九23ウ 寛十13才
 古曲〔近江堅田〕 寛七4ウ
 古極〔志摩鳥羽連〕 天七10ウ
 五橋〔能登三階〕 寛四16才
 呉曉〔能登三階〕 寛五9才 寛六10ウ
 寛八8ウ
 古琴〔肥前長崎〕 寛八50才
 午琴〔備後〕 寛二14才
 黒樹〔京〕 寛八61才 寛九38ウ
 寛十1ノ2才
 黒水〔月下坊〕〔信濃長瀬連〕
 寛九10ウ
 谷水〔河内〕 寛十28才
 或静〔越中戸出〕 寛五10ウ
 谷泉〔若狭〕 天六9ウ
 黒沢坊〔甲斐藤田〕 寛四28才 寛五22才
 寛六19才
 黒郎〔江戸〕 寛三4才 寛三7才
 孤溪〔伊勢寺方〕 寛十4ウ
 湖桂〔筑前植木〕 寛四9才 寛六44才
 五計〔江戸〕 寛九28才
 呉溪〔長門〕 寛二16才
 孤月〔周防山口〕 寛五30ウ 寛六31ウ
 胡月〔信濃根ノ井〕 寛八32才
 湖月〔伊勢〕 天七10ウ
 湖月〔陸奥〕 寛六15ウ
 湖月〔但馬夏梅村〕 寛八37ウ 寛十19才

壺月〔豊後高田〕 寛八51才
 五湖〔伊賀〕 寛一1ウ
 古光〔河内交野郡津〕 寛六25才
 寛八2ウ 寛八29才 寛九22ウ
 寛十1ノ2才 寛十27ウ
 古江〔安芸広島〕 寛六29ウ 寛八40才
 孤鴻〔美作倉敷〕 寛六28才 寛七26才
 呉江〔陸奥津軽〕 寛四6才 寛五15才
 寛六16才 寛七13才
 五毫〔武蔵金久保〕 寛六17才
 觚哉〔加賀金沢〕 寛八7才
 湖山〔上総〕 寛一10ウ
 湖山〔出羽秋田〕 寛七14ウ
 孤山〔河内〕 寛五22才
 孤山〔甲斐鮎沢〕 寛八31才
 孤山〔美作弓削〕 寛八37才
 虎山〔石見日原〕 天七12ウ
 壺山〔京〕 寛七35才 寛八59才
 寛十1才
 呉山〔加賀金沢〕 天七13才
 語山〔上野本宿〕 寛四29才 寛五13才
 寛六14才 寛七12才 寛八13ウ
 后車〔紀伊〕 寛五23ウ
 孤秀〔京〕 寛二2才 寛五44ウ
 孤秀〔肥後〕 寛十14ウ
 五周〔尾張〕 寛三6ウ 寛四27ウ
 呉秀〔肥前〕 寛十22ウ
 吾〔呉〕舟〔陸奥〕 寛二19才 寛二19才
 寛四6才
 五什〔信濃善光寺〕 寛七22才

こし〜さい

壺春〔丹後網野〕 寛七24ウ
 孤蕭〔肥後熊本〕 寛五38ウ
 午心〔江戸〕 寛九25ウ
 吾人〔近江大塚〕 寛五5才 寛七5才
 寛八4ウ
 古水〔若狭西津〕 寛三12才
 湖水〔長門〕 寛二15ウ
 五水〔播磨〕 寛二13ウ
 呉水〔加賀金沢〕 寛八6ウ
 後水〔伊勢山田〕 寛八53ウ
 梢〔筑前直方〕 寛七28ウ
 五瀬〔伊勢寺家〕 寛四16才
 古声〔備後田房〕 天七12才 寛一5才
 寛二14才 寛三18ウ 寛四26才
 寛六29才 寛七26才 寛八38ウ
 寛十26才
 湖青〔近江小谷〕 天六5ウ
 五井〔首曉〕〔能登三階〕 寛九33ウ
 孤石〔肥前諫早〕 寛四3才 寛五34ウ
 寛七29ウ 寛八52ウ 寛九35才
 寛十29才
 壺石〔加賀本吉〕 寛十13ウ
 沽節〔播磨国包〕 寛九9才
 五雪〔筑前直方〕 寛七28才 寛八47才
 呉雪〔近江〕 寛三9才 寛四1ウ
 寛四32才
 呉雪〔浪花〕 寛八34ウ
 呉雪〔相模三浦郡長井〕 寛九29才
 寛十29才

壺仙〔蓬戸亭〕〔越中高岡〕 寛七9ウ
 寛八10才 寛九4ウ 寛十5才
 呉川〔上野厩橋〕 寛六14才
 梧川〔安芸川尻〕 寛八40才
 五曹〔加賀〕 寛三14才 寛四11ウ
 湖竹〔肥前島原〕 寛五36ウ
 五竹〔陸奥〕 寛九29才
 呉竹〔美作久世〕 寛五41ウ
 吾中〔備後〕 寛四10ウ
 五沖〔備後三原〕 寛五28才 寛六29才
 呉晁〔越中〕 寛四21ウ
 湖亭〔近江江村〕 天七7才 寛二7才
 五鼎〔越前敦賀〕 天六12才 天七13才
 寛一4才 寛二10ウ 寛八23ウ
 寛九14才
 五渡〔陸奥仙台〕 寛九21才 寛十18才
 古冬〔伊予今治〕 寛九8ウ
 古塘〔京〕 天七3ウ 寛二2才
 寛二19ウ 寛三2ウ 寛三24ウ
 寛四1才 寛四33才 寛五3才
 寛五47ウ 寛六2才 寛六41才
 寛七3才 寛七36才 寛八1ウ
 虎洞〔越前〕 寛十9才 寛十10ウ
 娛洞〔肥前〕 寛六35才
 湖南〔加賀小立野〕 寛五7才
 このめ〔近江〕 寛四25才
 湖梅〔伊予西条〕 寛七26ウ 寛八41才
 五梅〔丹後〕 寛十36才
 壺伯〔信濃飯田〕 寛五23才 寛六21才
 寛七21ウ 寛八65ウ

虎白〔京〕 寛二1才 寛五45ウ
 寛六39ウ 寛八59才 寛九2ウ
 寛九38才
 虎白〔備後府中〕 寛八39ウ
 湖帆〔老岐〕 寛十37才
 五風〔伊賀上野古雅社中〕 天七4才
 五風〔江戸〕 寛九27ウ
 後風〔筑前〕 寛三20ウ 寛四10才
 孤甫〔周防〕 寛三19才
 孤甫〔長門長田僧〕 寛五31才
 孤峰〔周防山口〕 寛五30才
 五峰〔河内〕 寛十28才
 五芳〔京／江戸／行脚〕 寛五45才
 寛六40才 寛七18才 寛七34ウ
 寛八53才 寛十36才
 梧報〔越中〕 寛六11ウ
 古木〔筑前直方〕 寛七28ウ
 五明〔伊賀〕 天七5才
 五明〔出羽久保田〕 寛四6ウ
 湖幽〔伊勢〕 寛七42ウ
 吾友〔近江〕 天六7ウ
 吾友〔伊勢津・洞津〕 寛二9ウ
 寛七22ウ 寛八24ウ 寛八25才
 狐来〔南山城〕 天六5才
 後來〔長門赤間関〕 寛四36才
 五来〔近江〕 寛二6才
 後楽〔京〕 寛十1ノ1才 寛十27ウ
 湖嵐〔備中笠岡〕 天六10才
 湖嵐〔上野柴駅〕 寛五13ウ 寛六15才
 五嵐〔陸奥津軽〕 寛九33才

五六〔伊勢雲水〕 寛九37ウ 寛十16才
 寛十28ウ
 古律〔南山城八幡〕 天六5才 寛三22ウ
 寛四30ウ 寛五2才 寛五43才
 寛六36ウ 寛七31才 寛八56才
 古龍〔江戸〕 寛三4才 寛三7才
 古龍〔越中〕 寛八10ウ
 古柳〔陸奥仙台〕 寛九20ウ
 孤柳〔越中北野〕 寛九13ウ
 湖流〔周防山口〕 寛七26ウ 寛八46才
 寛九33ウ
 湖龍〔越中久々湊〕 寛四22才
 湖龍〔近江〕 寛四24才
 五笠〔肥前諫早〕 寛七30才
 五柳〔安芸御手洗〕 寛五29ウ
 五立〔和泉堺〕 寛七24才
 五龍〔武蔵金久保〕 寛七17才
 呉流〔加賀〕 寛四13ウ
 後流〔加賀久江〕 寛四20才
 壺涼〔能登〕 寛四19ウ
 吾涼〔筑前風羅堂下〕 寛八48才
 吾嶺〔豊前小倉〕 寛六44才
 孤隣〔南山城〕 寛七45才
 五麗〔伊賀〕 寛二8ウ
 五齡〔播磨〕 寛二19才
 昏芦〔肥前諫早〕 寛七42才

さ

柴花〔安芸御手洗〕 寛五29ウ

斎我〔肥前神代〕 寛九24才 寛十22ウ
 在貫〔京〕 天六2才 天七3ウ
 寛一1ウ 寛一9才 寛二3ウ
 寛二20ウ 寛四1ウ 寛四33ウ
 寛五45才 寛六3ウ 寛六40才
 寛七35ウ 寛八60才
 斎之〔陸奥〕 寛六15ウ
 済川〔江戸〕 寛五19才
 柴船〔陸奥〕 寛十18才
 才丁〔上野〕 寛三10才
 柴馬〔甲斐・藤田連〕 寛九18ウ
 柴羅〔甲斐・山ノ神〕 寛九19才
 沙鷗〔丹後河守〕 寛四26ウ
 さか〔上野・赤堀女〕 寛六13ウ
 左鶴〔江戸〕 寛三3ウ 寛三7才
 寛五17才 寛七17ウ 寛八21才
 左橘〔若狭小浜〕 寛三11ウ 寛六42ウ
 左琴〔肥前長崎〕 寛三21ウ
 朔宇〔上野・宮崎〕 天六11才 寛二18才
 寛二19ウ 寛三10才 寛四34ウ
 寛五12才 寛六13才 寛七10ウ
 寛八12才 寛九36ウ
 作良〔甲斐・藤田〕 天六11ウ 寛二18才
 寛四28才 寛五21才 寛六18ウ
 寛七40ウ 寛八30才 寛九18ウ
 左月〔伊賀〕 天七4ウ
 沙月〔但馬・夏梅村〕 寛八38才 寛十19才
 紗言〔江戸〕 寛七34才 寛八21ウ
 寛九27才 寛九29ウ
 左々〔筑前・福岡〕 寛九17才

百々丞〔京・鉢叩〕 寛九40ウ
 左史〔筑前・福岡〕 寛九17才
 瑤雀〔近江・太田／大留／西浦〕
 天七6ウ 寛二8才 寛四24才
 寛五4才 寛六4才 寛七4ウ
 寛八5才 寛九36才 寛十19才
 砂上〔江戸〕 寛三4才
 坐笑〔京〕 寛五44才
 沙長〔京〕 寛四31ウ 寛五45ウ
 寛七2才 寛七37ウ 寛八61ウ
 梭鳥〔武蔵・金久保〕 寛七17ウ
 座聴〔伊勢・津〕 寛六22才
 苗葭〔伊勢・五十鈴川〕 寛八25ウ
 撮龍〔石見・銀山大森〕 寛六41ウ
 左定〔長門・赤間関〕 寛四36才
 左東〔肥前・諫早〕 寛五34ウ
 さな〔備中〕 寛五27才
 左伴〔京〕 寛九39ウ
 左武〔上野〕 寛十14才
 沙文〔越中〕 寛二22才
 砂文〔京〕 寛五45ウ
 佐保〔上野・中宿〕 寛七11才 寛九37才
 沙明〔上野・一ノ宮〕 寛七11ウ
 坐幽〔伊勢・安濃津／大塚〕 寛八27才
 寛八28ウ
 さよ〔京〕 寛五47才
 左来〔加賀・本吉〕 寛七6ウ 寛八6才
 左柳〔伊勢・五十鈴川〕 寛八25ウ
 山活〔安芸〕 寛三18ウ
 蚕臥〔越中・戸出〕 寛五10ウ

三峽〔加賀〕 寛三13才
 三峽〔能登・川尻〕 寛八9ウ
 山喜〔越中〕 寛四21才
 山曉〔京〕 寛二1才 寛二20ウ
 山曉〔涯州〕 寛五40ウ
 山曉〔信濃〕 寛六21才
 三彦〔江戸〕 寛五19才
 蚕月〔伊予〕 寛三20才 寛四8ウ
 残月〔大和・如意山〕 寛四30才
 三爻〔能登〕 寛四18才
 杉光〔摂津・住吉〕 寛九4才
 三才〔讃岐・汐木〕 寛三19ウ
 三枝〔近江・毛牧〕 天六7ウ
 三枝〔甲斐〕 寛四7ウ
 三子〔京〕 寛一7ウ
 三志〔讃岐・高谷・僧〕 寛六28ウ
 三志〔南山・城宝珠寺〕 寛六37才
 三紙〔甲斐〕 寛九18ウ
 三秀〔越中・福野〕 寛六12才 寛七9才
 三秀亭↓李喬〔三河・龍城内〕
 三省〔信濃・長瀬〕 寛七22才
 三笑〔上野・横室〕 寛九15ウ
 山之〔京〕 寛二3ウ
 山水〔上総・押日村〕 寛五20ウ
 三夕〔能登〕 寛十24ウ
 杉雪〔上野〕 寛四35才
 山黛〔但馬・生野〕 寛五42ウ
 霰打〔伊勢・白子／御園〕 天六8才
 天七8ウ 寛二9才 寛七45才

山鳥〔近江・信楽・長野〕 寛七44ウ
 寛八4才
 三朝〔京〕 天七2才 寛一7ウ
 三蝶〔美作・久世女〕 寛五42才
 残鳥〔肥後・熊本〕 寛五38ウ
 山亭 寛四序1ウ 寛四1才
 三冬〔肥後〕 寛五39ウ
 山尾〔京〕 寛二2ウ 寛二21才
 寛三23ウ
 山父〔大坂〕 天六11才 寛一6才
 賛夫〔加賀〕 天七13才
 杉風 天七イ才 天七イウ
 三楽〔大和〕 寛二13才
 山離〔豊後・高田〕 寛四22ウ 寛六34ウ
 寛八51才
 三巴〔大和・宇陀〕 寛五25才
 し
 市隠〔越中〕 寛五11ウ
 翅英〔近江・水口〕 天六7才 寛一3才
 志塩〔上野・世良田〕 寛九22才
 紫燕〔播磨〕 寛二13ウ
 試測↓馬雪〔南山・城佐山〕
 二快〔能登・富木〕 寛七8ウ
 支岳〔浪花〕 寛七23ウ
 二鶴〔近江・太田〕 寛十1ウ 寛十3才
 市冠〔長門〕 寛六32ウ
 之丸〔若狭〕 寛二10ウ
 自閑〔江戸〕 寛九27才

枝鳩〔越中海老江村〕 寛九13ウ
 似休〔能登〕 寛五8才
 似鳩〔上野蓮沼〕 天七14才 寛六14ウ
 珥丘〔能登〕 寛二12才 寛三15才
 四教〔周防山口〕 寛九33ウ
 斯馨〔近江〕 寛三9才
 枝旭〔近江〕 寛五5ウ
 子行〔能登〕 寛四19ウ
 思薨〔周防室〕 寛八40ウ
 紫眺〔京〕 天七4才 寛一6ウ
 寛二3才 寛五44ウ 寛六39ウ
 寛七36才
 子衿〔京〕 寛四32ウ
 史吟〔越中今石動〕 寛八10才
 此君↓樗石〔安房〕
 此君〔越中野寺村〕 寛九13ウ
 四溪〔伊勢山田〕 寛九31才
 志計〔近江鏡〕 天六6ウ
 紫圭〔南山城田原〕 寛三22ウ
 紫桂↓芦仙〔京〕
 翹溪〔近江〕 寛三9才
 指月〔伊勢白子〕 寛四15才
 指月坊〔伊勢二ノ宮〕 寛四16ウ
 指月〔備後福山連〕 寛五29才
 指月〔長門赤間関〕 寛六32才 寛八45才
 寛十35ウ
 指月↓虚舟〔京〕
 思月〔丹波〕 寛二5ウ
 翹月〔近江長浜〕 寛九25才 寛十一才

此原〔筑前植木／直方〕 寛五33ウ
 寛六34才 寛七28才 寛八47才
 子言〔京〕 寛七35才
 志諺〔京〕 天六2才 寛一7才
 寛二3才 寛二21才 寛三22ウ
 寛五3才 寛五44ウ 寛六2ウ
 寛七3ウ 寛七36才 寛八2才
 寛八60ウ 寛十一ノ1才
 寛十一1ウ
 思言〔長門〕 寛六33才
 卮言〔阿波〕 寛三19ウ
 土鴨〔上総長者町〕 寛一10才
 志江〔京〕 寛六39才 寛八62才
 志考〔武蔵八幡山〕 寛八20ウ
 志考〔信濃塩名田／下県〕 寛七20才
 寛八32ウ
 志高〔周防嘉川〕 寛六30ウ 寛七43ウ
 紫更〔京〕 天七1ウ
 紫甲〔京〕 寛八2才
 紫甲〔近江〕 寛八4ウ
 至幸〔京〕 寛一8才
 詩舳〔浪花〕 寛八34才 寛九26才
 子坤↓幽雅〔備前岡山〕
 之彩〔信濃〕 寛六21ウ
 四山亭↓幡水〔伊勢白子連／御園〕
 志山〔石見因原村〕 寛二14ウ 寛五41才
 寛六28才 寛七26才
 芝山〔京〕 寛七36ウ
 士芝〔備後三原〕 寛五28才
 芝尔〔筑前飯塚〕 寛八48才

獅子窟↓玻井〔能登黒島〕
 芝雀〔安芸〕 寛三19才
 思秋〔伊勢亀山〕 寛五24才
 枝舟〔阿波徳島〕 天七12才 寛六28ウ
 紙秋〔出羽能代〕 寛七40才
 芝舟〔若狭後瀬天徳寺〕 天七11才
 寛三12ウ
 時習〔出羽〕 寛五16ウ
 自酬〔伊勢津〕 天七9ウ 寛三6才
 子尚〔陸奥津軽黒石〕 寛五15才
 寛六15才
 思情〔京〕 寛二1ウ
 而章〔越中城端〕 寛四21ウ
 自笑〔近江堅田〕 天七6ウ 寛八3ウ
 二笑〔加賀〕 寛四14ウ
 二上〔越中〕 寛六11ウ
 枝水〔加賀女〕 寛四12ウ
 紫水〔近江〕 天六6才 天七7才
 紫水〔京〕 寛八61ウ
 二水〔武蔵秩父吉田町〕 寛七16ウ
 寛八19才
 私青〔京〕 寛二2ウ 寛二21ウ
 寛三23ウ
 柿青〔肥後八代〕 寛二17才 寛五37才
 子政〔京〕 寛九2才
 思成〔安房〕 寛六18ウ
 思声〔近江仁保〕 天六6ウ
 紫石〔京〕 天七3才
 紫石〔近江八幡〕 寛六4ウ 寛九21才
 寛十18ウ

紫夕〔出羽〕 寛四7ウ
 之尺〔京〕 天七1ウ 寛一7ウ
 枝雪〔上野込皆戸〕 寛十31才
 似雪〔上総長者町〕 寛一10才
 此川〔伊勢洞津連〕 天七10才
 市仙〔美作弓削〕 寛八37才
 志仙〔春茅〕〔浪花〕 寛五25ウ
 寛六44才
 詩船〔浪花〕 寛十22才
 芝仙〔安芸〕 寛三19才
 芝川〔安芸〕 寛三19才
 二扇〔肥前神代〕 寛八49ウ
 四祖〔上野前橋〔厩橋〕〕 寛三10才
 寛四35才 寛五14ウ
 士沢〔筑前飯塚〕 寛三21才 寛四9才
 寛五32ウ 寛六33ウ 寛七29ウ
 思竹〔伊賀〕 寛二8ウ
 時中〔近江〕 寛五5才
 子邇〔南山城大住〕 寛五43ウ 寛六37才
 寛七31ウ 寛八56ウ
 寛十一ノ1ウ 寛十27ウ
 斯長〔肥前〕 寛八51ウ
 士沈〔越中生地／泊〕 寛四22才
 寛五11才 寛七9ウ
 黍人〔近江〕 寛五5才
 止定〔越中〕 寛五11ウ
 此涛〔伊予西条〕 寛七26ウ
 思童〔越前〕 寛十11才
 此得〔近江長浜／八幡〕 寛五5ウ
 寛六4才 寛七4才 寛八3ウ

しどしゆ

子得〔近江堅田〕 寛十五才
至徳庵〔出羽左沢〕 寛五十六才
自徳〔信濃諏訪〕 寛五十三才
指馬〔讃岐仁保〕 寛三十九才 寛四十六才
寛六十八才
紫陌〔上野木島〕 寛九才
枝白〔備中〕 寛三十七才
紙白〔筑前福岡〕 寛八十八才
子麦〔伊賀上野古雅社中〕 天七十四才
柿風〔備後〕 寛一十五才
子風〔加賀金沢〕 寛七十六才
子風↓寛雅〔長門厚狭〕
芝風〔筑前秋月僧〕 寛五十四才
思赴斗〔近江仁保〕 寛四十三才
子文〔長門舟木〕 寛八十五才
市文〔伊勢内堀〕 寛四十四才
史甫〔越中〕 寛四十二才
芝峰〔讃岐笠居〕 寛五十六才 寛八十七才
寛十八才
自峰〔信濃長瀬〕 寛七十一才
璚鳳〔越中野寺村〕 寛九十三才
獅鳴〔但馬朝来山〕 寛五十二才
車蓋〔京〕 天六初ウ 天六二ウ
天七十四才 寛一九才 寛二〇才
寛二四才 寛三十三才 寛四十四才
寛五十二才 寛五十七才 寛六十二才
寛六十九才
舍鳩〔筑前黒崎〕 寛三十六才
車丘〔下野助戸〕 寛七十二才
杜牛〔京〕 天六十二才

尺菊〔肥後熊本〕 寛五十三才 寛五十八才
寛十四才
尺樹〔下野栃木〕 寛四十八才 寛七十二才
寛八十二才 寛九十二才 寛十四才
寛三十五才
尺龍〔上野一ノ宮〕 寛三十才 寛四十四才
寛五十二才 寛六十三才 寛七十一才
雀汐〔伊勢山田〕 寛三十六才
雀頂〔京〕 寛八十九才
若柳〔肥前諫早〕 寛三十五才
舍州〔周防山口〕 寛八十六才 寛九十四才
舍樹〔南山城〕 寛六十七才
車草〔京〕 寛二十二才
車大〔加賀金沢〕 寛四十三才 寛六十七才
寛七十六才 寛八十七才 寛九十三才
寛二十八才
舍丁〔筑前飯塚〕 寛三十一才 寛四十九才
寛五十二才 寛六十三才 寛七十九才
斜長〔石見〕 寛五十四才
蛇蟄〔京〕 寛七十二才 寛七十四才
舍男〔京〕 寛四十八才
車南〔伊予今治〕 寛四十八才 寛七十七才
寛八十四才 寛九十八才 寛二十九才
車莫〔京〕 寛七十七才 寛八十八才
寛十一才
車文〔肥前長崎〕 天六十二才 天七十二才
寛二十七才
捨来〔江戸〕 寛九十九才
斜柳〔伊勢高角〕 寛四十四才
舍涼〔加賀〕 寛五十六才

車輪〔越前〕 寛十一才
支田〔出羽秋田六郷〕 寛五十六才
しう〔志宇〕〔近江平松女〕 天六十六才
天七十八才 寛三十八才 寛七十四才
寛九十二才
嵩平〔越中〕 寛四十二才
秋簞〔筑前直方〕 寛七十二才
秋好〔武蔵深谷〕 寛九十二才
秋屋〔伊勢神路山〕 寛五十二才 寛六十二才
寛一十一才 寛一十一才 寛二十七才
秋月〔防周小郡〕 寛七十四才
秋者〔京〕 寛四十二才
周山〔京〕 寛四十二才
周泉〔播磨姫路〕 寛一十一才
寛二十七才
周岱〔京〕 天七十一才
周貯〔武蔵秩父吉田町〕 寛七十六才
寛八十八才 寛一十二才
周馬〔加賀金沢〕 寛八十六才 寛九十二才
寛二十八才
周路〔近江守山勝部〕 寛一十二才
寛二十七才 寛三十八才 寛五十五才
秀孝〔江戸〕 寛五十七才
秀哉〔武蔵秩父吉田町〕 寛七十六才
寛八十九才
秀川〔江戸〕 寛五十七才
秀里〔浪花〕 寛五十六才 寛七十八才
寛八十四才
秀和〔上野薬町〕 寛五十三才
秀朶〔尾張〕 寛八十八才

繡虎〔近江彦根〕 寛三十八才 寛六十四才
舟呼〔加賀〕 寛四十四才
舟苔〔加賀〕 寛四十七才
萩露〔安芸御手洗〕 寛五十九才
萩露〔信濃〕 寛八十二才
蝨山〔伊勢津〕 寛十六才
十廿〔加賀〕 寛四十一才
十花〔加賀金沢〕 寛八十六才
十洲〔播磨龍野〕 寛八十六才 寛九十六才
重厚〔京／近江栗津義仲寺〕 天六十四才
寛五十五才 寛六十二才 寛七十六才
寛八十六才 寛九十九才
重野〔近江酒人〕 寛七十五才
取映〔肥後〕 寛五十四才
首曉↓五井〔能登三階〕
寿硯〔但馬朝来山〕 寛五十四才
珠翠〔能登曾根〕 寛六十一才
酒井〔京〕 寛六十四才
酒仙〔肥後〕 寛四十四才
寿惣〔近江尼〕 寛六十四才
守中〔陸奥花巻〕 寛五十五才
朱頂〔備中倉敷〕 寛七十五才
株甫〔信濃浅野〕 寛九十九才
珠鳴〔京〕 寛一十一才 寛二十才
守里〔備中吉備〕 寛五十七才
春瓜〔能登〕 寛四十八才
春菓〔肥前佐賀〕 寛九十九才
春鶯〔伊勢津〕 寛三十六才
春岐〔江戸〕 寛一十才

春喬〔肥前神代〕 寛五36ウ 寛七30才	如陰〔阿波〕 寛九20ウ	松童〔但馬生野〕 天六9才 天七11ウ	正口〔越中〕 寛五11才
寛八50ウ 寛九24ウ 寛十22ウ	嘯雅〔能登〕 寛四18才	松琶〔京〕 寛八61才 寛九38才	正蓮〔江戸〕 寛五17才
春郷〔周防岐波・小郡〕 寛五30才	柁寿〔近江〕 寛五4ウ	松柏〔肥後〕 寛五40才	正翠〔上総長者町〕 寛一10才 寛四37才
寛六30ウ 寛七43才 寛八46ウ	杵云〔出羽秋田仙北角間川〕 寛五16ウ	松風〔南山城宇治〕 寛一6ウ 寛二5才	寛五20才
春舛〔遠江〕 寛三6ウ	尚古〔但馬芝村〕 寛十21才	寛二20才 寛三22ウ	嘯月〔周防三田尻〕 寛八46ウ
春蟻〔臨海主人〕〔江戸〕 寛七17ウ	尚道〔伊勢津野田・安野津〕 寛七22ウ	松風〔加賀宮腰〕 寛七6ウ	嘯山〔京〕 寛八57ウ 寛九40才
寛八21ウ 寛九35ウ	掌石〔上野太田〕 寛七12才	松磨〔京〕 天六4ウ	嘯谷〔武蔵青梅下〕 寛十21才
春紅〔但馬朝来山〕 寛五42ウ	昇山〔能登芹川〕 寛九33ウ	松磨〔加賀小松〕 天七13才	嘯風〔肥前佐賀〕 寛九10才
春向〔肥前〕 寛六35才	晶角〔上野猫村〕 寛九15ウ 寛十30才	松羅〔近江日野〕 寛十4才	牆山〔筑前黒崎〕 寛一5ウ 寛二16ウ
春昌〔上野本宿・西牧〕 寛八13ウ	松島〔涯州〕 寛五40ウ	松羅〔江戸〕 寛九8ウ	似蓉〔伊勢山田〕 寛九31才
寛九12ウ	松雨〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六32ウ	松隣〔安房川戸／七浦〕 寛七19才	丈左〔京〕 寛六36才 寛七38ウ
春枝〔越中〕 寛三16才	松翁〔京〕 寛八58才	寛九3ウ	寛八59ウ 寛九40才
春扨〔肥前諫早〕 寛五34ウ	松下〔周防小郡〕 寛八46ウ	松路〔京〕 寛四2ウ	城山〔陸奥仙台〕 寛九20ウ
春扨〔薩摩出水〕 寛四35ウ 寛六36ウ	松花〔長門〕 寛十35ウ	松露〔近江水口〕 寛六43才	常曙〔安芸広島〕 寛三19才 寛九4才
春水〔信濃長瀬〕 寛七21ウ	松華〔加賀金沢才川〕 寛一4才	松和〔上野松井田〕 寛三10ウ 寛四35才	丈水〔相模猿ヶ島〕 寛七19才
春睡〔加賀金沢〕 寛九13才	寛五6ウ 寛八5才	寛五12ウ 寛六13ウ 寛七11ウ	寛九5才 寛十29才
春翠〔信濃長瀬連〕 寛九11才	松菊〔加賀金沢〕 寛三12ウ 寛四13才	湘夕〔京〕 寛四33才	文葉〔若狭小浜〕 寛三11ウ
春千〔備中笠岡〕 寛五26ウ	寛五6才 寛六5ウ 寛六6才	省我〔安房〕 寛六18才	如雲〔上野矢川〕 寛十13ウ
春村〔伊勢神戸〕 寛五24才	松琴〔越前敦賀〕 寛九25ウ	祥禾〔肥前長崎〕 寛八50才	如嬰〔肥前〕 寛六35ウ
春葱〔肥前〕 寛十14才	松月〔江戸〕 寛九27才	笑魚〔上野新田郡大字亀丘〕 寛五13ウ	如何〔志摩鳥羽連〕 天七10ウ
春潮〔越中氷見〕 寛九21ウ	松声〔甲斐浅原〕 寛九19ウ	寛六17ウ 寛七11ウ 寛八14ウ	杵臼〔上野亀丘〕 寛九22才
春潮〔陸奥津軽弘前〕 寛四6才	松蒼〔京〕 寛七37才 寛八1才	寛九22才	諸鳩〔肥後〕 寛五39ウ
寛五15才 寛九29才	寛八61ウ 寛九40ウ	笑種〔備後福山〕 寛八39才	如菊〔京〕 天七3才
春汀〔近江辻村〕 寛七5才	寛十1ノ1才	蕉夢坊〔出羽柳沢〕 寛四6ウ	如暁〔丹後〕 寛四26ウ
春茅↓志仙〔浪花〕	松調〔相模〕 寛十29才	蕉雨〔信濃飯田〕 寛六21才 寛七21ウ	二翼〔越中放生津〕 寛三15ウ
春芦〔肥前諫早〕 寛四3ウ 寛五35才	松汀〔越中〕 寛五11才	寛八65ウ	寛四21才 寛五11ウ 寛六12才
寛六35才 寛八52ウ	松斗〔加賀金沢〕 寛八6ウ	蕉雨〔出雲〕 寛九2ウ 寛九22才	寛七9才 寛八12才 寛九17才
春路〔甲斐小笠原〕 寛四39ウ 寛五21ウ	松童〔肥後〕 寛四5才	寛十11才	寛十31ウ
笋牙〔能登〕 寛四18ウ		蕉里〔浪花〕 寛十5ウ	如蕙〔石見〕 寛二15ウ
笋里〔筑前黒崎〕 寛一5才 寛二16ウ		象文〔備中吉岡〕 寛五27才	

如圭〔武蔵秩父吉田町〕 寛七16才
 寛八18ウ 寛十22才
 如珪〔石見〕 寛二15才
 如月〔但馬芝村僧〕 寛十21才
 初更〔交〕〔信濃奈良井〕 寛六21ウ
 寛八33才
 如耕〔備後甲山〕 寛十25ウ
 如光〔周防嘉川〕 寛六30ウ
 如江〔近江水口〕 天六7才 天七8才
 如行〔越中野寺村〕 寛八10才
 如此〔京〕 天六3ウ 天七2才
 如障〔大坂〕 寛七40才
 如々〔近江大津〕 寛三7ウ 寛四36才
 徐翠〔越後〕 寛三16ウ
 如翠〔長門赤間関〕 寛四36才
 如水〔伊賀〕 天七4ウ
 如水〔大和葛城〕 寛三22才
 如水〔加賀高松〕 寛四13ウ
 如水〔伊勢久居〕 寛四16ウ
 如水〔備中〕 寛五27ウ
 如水〔周防山口〕 寛八46才
 如水〔河内郡津〕 寛八29才 寛九22ウ
 寛十28才
 曙川〔筑前直方／勝野〕 寛五33ウ
 寛六34ウ 寛七28才 寛八47ウ
 如雪〔甲斐平岡〕 寛四7才 寛五21ウ
 寛六19ウ 寛七41才 寛八31才
 寛九30才 寛十34ウ
 如仙〔信濃佐久桜井〕 寛七20ウ
 寛八32ウ

如泉〔上野吾妻横尾〕 寛六14ウ
 寛八12ウ 寛九19ウ
 如台〔越中福野〕 寛六12才 寛七9才
 如竹〔讃岐引田〕 寛四27才 寛七27ウ
 寛八47才 寛九10才
 如竹〔河内郡津〕 寛九22ウ 寛十28才
 汝忝〔信濃〕 寛六21才
 如泥〔京〕 寛四31才
 女桃〔京〕 天六2才
 恕道〔伊勢〕 寛七42才
 如風〔京〕 天七2才 寛一7ウ
 寛十36才
 如方〔加賀〕 寛四11ウ
 如北〔京〕 寛一8才
 序明〔甲斐藤田連〕 寛九18ウ
 如毛〔近江〕 寛二7才
 如毛〔信濃上田〕 寛六43才
 如友〔越中〕 寛三15ウ 寛四21才
 如楽〔上野〕 寛十14才
 如雷〔武蔵深谷〕 寛九12才
 如風〔信濃善光寺〕 寛九36才
 如蘭〔加賀〕 寛四13ウ 寛五6才
 如蘭〔越後荒井〕 寛七19ウ 寛八18才
 寛九24ウ 寛十20ウ
 如柳〔肥前佐賀〕 寛七30ウ
 如柳〔近江〕 寛十2才 寛十三才
 如流〔加賀金城〕 寛一4才
 如流〔越中海老江村〕 寛八10才
 如流〔浪花〕 寛九26才
 如龍〔近江大津〕 寛五4才

如龍〔越中〕 寛九13ウ
 如臨〔下野足利阿波〕 寛八22才
 紫蘿〔甲斐山ノ神〕 寛八29ウ
 寛十34才
 時来〔伊勢一身田〕 天七9ウ
 自来〔京〕 寛三3才 寛三24ウ
 寛四2才 寛四32才 寛五47才
 二雷〔京〕 寛四2ウ 寛四32ウ
 寛五47才 寛六39ウ 寛七35才
 寛八59才 寛九39才
 尔来〔武蔵金久保〕 寛六17ウ 寛七17ウ
 白雄〔江戸〕 寛一10ウ
 自楽〔浪花〕 寛九4ウ
 紫蘭〔在京女〕 天六2才 寛一7ウ
 寛五46ウ
 芝蘭〔丹波亀山女〕 寛八37ウ
 寛九20ウ
 止履〔京〕 寛八59ウ
 齒柳〔薩摩〕 寛一5ウ
 之柳〔越中〕 寛四20ウ
 尔流〔近江〕 寛四23ウ
 二柳〔浪花〕 天六10ウ 天七6才
 寛六25ウ
 子良〔伊勢〕 寛八序ウ 寛八24ウ
 寛八26ウ 寛十11ウ 寛十16才
 士朗〔尾張〕 寛四27ウ
 支〔司〕朗〔伊勢一身田〕 天六8才
 天七9ウ 寛二9ウ 寛七23才
 二浪〔近江〕 寛二8才
 振衣〔伊勢洞津連〕 天七10才

真越〔江戸〕 寛九28ウ
 真爰〔山城〕 寛二4才
 甚悦〔近江水口〕 寛五4ウ
 真貫〔甲斐飯野〕 寛九29ウ
 信雅〔江戸〕 寛六16ウ
 真弓〔肥後熊本〕 寛五38ウ
 真弓〔甲斐浅原〕 寛九19ウ
 真向〔常陸水戸〕 寛八55ウ 寛九35ウ
 尋古〔江戸〕 寛五19才
 芯山〔相模猿ヶ島〕 寛九5ウ
 晒之〔安芸〕 寛三18ウ
 新之〔信濃木曾奈良井〕 寛八33才
 申之〔武蔵秩父吉田町〕 寛八19才
 振々〔越前丸岡〕 寛十9才 寛十10才
 蜃州〔洲〕〔近江水口〕 天六6ウ
 天七8才 寛一3才 寛二6ウ
 寛五4才 寛六4才 寛七2才
 寛八3才 寛九11ウ
 寛十1ノ1才
 心酔〔信濃佐久桜井〕 寛七20ウ
 唇〔辰〕風〔京〕 寛八2才 寛八58才
 寛九3才 寛九37ウ
 晨風〔越前〕 寛十9才 寛十10才
 蜃邦〔近江水口〕 天六6ウ 天七8才
 深里〔肥後熊本〕 寛四4ウ 寛五38ウ
 晨龍〔京〕 寛六38ウ 寛七35ウ

す

水芽〔備後府中〕 寛七25ウ

すい〜せつ

酔月〔近江三宅〕 寛一2ウ 寛二7ウ
 寛三8ウ
 水芝〔京〕 寛九3才 寛九38才
 水式〔但馬夏梅〕 寛十19才
 翠実〔丹波〕 寛六27才
 水石〔近江彦根〕 寛三8ウ 寛八4才
 寛九25才
 瑞宜〔武蔵入間ノ里〕 寛九6才
 水唐〔長門下関〕 寛六29ウ
 翠洞〔能登七尾〕 寛十30ウ
 瑞馬〔浪花〕 寛十21ウ
 醉楓〔備後福山〕 寛五28ウ
 水明〔越中氷見〕 寛九21ウ
 すゑ〔但馬〕 天七12才
 寸草〔播磨姫路〕 寛十1ノ1ウ
 寛十27才
 寸蘿〔江戸〕 寛九27ウ
 寸来〔江戸〕 寛九28才
 寸龍〔江戸〕 寛九28才

せ

贅〔下野助戸〕 寛七12才 寛八22ウ
 青阿〔越中高岡〕 寛四20ウ 寛八10才
 青阿〔京〕 寛五2ウ 寛五47ウ
 青阿〔伊勢菩提山〕 寛八26才
 静為〔丹波〕 寛二5ウ
 井角〔美作倉敷〕 寛六27ウ 寛七26才
 寛八37才
 西郭〔但馬大屋〕 寛八54才

静苔〔管〕〔甲斐小笠原〕 天六11ウ
 寛一3ウ 寛四7ウ 寛五21ウ
 寛六19ウ 寛七41ウ 寛八30ウ
 寛九30才
 盛雅〔浪花〕 寛四29ウ 寛五26才
 青峨〔肥前本草〕 寛七39ウ
 青芽〔京〕 寛二2ウ 寛四31ウ
 勢久〔陸奥弘前〕 寛五15才
 青牛〔近江新城〕 天六5ウ 天七8ウ
 寛二7才 寛六44ウ
 聖兄〔肥前諫早〕 寛五35ウ
 清壺〔肥後〕 寛二17才
 西湖〔京〕 天七3才
 青虎〔肥前〕 寛四3才
 青瓠〔江戸〕 寛三4才 寛三7才
 成山〔近江〕 天六6ウ
 晴山〔伊勢三重郡山田〕 寛五23ウ
 寛七23才 寛八24才 寛九30才
 寛十23ウ
 静山〔上野桐生〕 寛十30才
 声志〔近江〕 天六6ウ
 井子〔近江大津〕 寛一2ウ 寛二6才
 寛三7ウ 寛四36ウ 寛五4ウ
 寛六42ウ 寛七5ウ 寛八3ウ
 寛九31才
 西枝〔能登高島〕 寛六10ウ
 清秋〔伊勢〕 寛二9才 寛三2才
 青面〔筑前木屋瀬〕 寛六34才
 青徐〔上総押日村〕 寛一10才
 青々〔近江彦根〕 天七8才

青々〔甲斐台ヶ原女〕 寛八31ウ
 清井〔日向〕 寛五41才
 清川〔近江水口〕 寛七4才
 清泉〔越後井之岡〕 寛七42ウ
 栖礎〔江戸〕 寛五17才
 青泥〔能登道下〕 寛六11才 寛七8ウ
 青奴〔江戸〕 寛三3ウ 寛五17才
 政尼〔甲斐東南湖〕 寛七41才 寛八30才
 成美〔江戸〕 寛八21ウ 寛九28才
 星府〔越中〕 寛六11ウ
 晴晃〔但馬村岡〕 寛十4ウ
 清父〔甲斐暮地〕 寛八30ウ
 盛風〔信濃佐久桜井〕 寛六20ウ
 寛七20ウ 寛八32才
 青楓〔近江水口〕 寛二6ウ 寛六44ウ
 静風〔肥前〕 寛八51ウ
 青蒲〔上野大原〕 寛九9ウ 寛十1ウ
 寛十5ウ
 青甫〔備後府中〕 寛八38ウ 寛八39ウ
 青蘿〔播磨加古川〕 天七12才
 寛二19才 寛三17才
 青鯉〔浪花／京柿園〕 寛六25ウ
 寛七23ウ 寛八60才 寛九40才
 寛十35才
 井亮〔京〕 天七2ウ
 静良〔甲斐飯野〕 寛五22才 寛六19ウ
 寛七41ウ 寛八31才 寛九30才
 寛十34才
 青呂〔肥前諫早〕 寛五35ウ 寛十14才
 青路〔京〕 寛五46才

夕鳥〔南山城〕 天六4ウ
 石牙〔甲斐東郡小原〕 寛四39才
 寛六19ウ
 尺艾〔下総／浪花〕 天六12才 寛二12ウ
 寛四29才 寛五25ウ 寛九14才
 寛十11ウ
 石魚〔上野〕 寛六12ウ
 夕山〔大和〕 寛三22才
 昔之〔志摩鳥羽連〕 天七10ウ
 石支〔能登〕 寛四18才
 石人〔伊勢山田〕 寛十26才
 石睡〔筑前若宮〕 寛五33才 寛六43ウ
 寛七29才
 関叟〔薩摩鹿児島〕 寛六36ウ 寛七31才
 関叟〔京〕 寛七3才 寛十23才
 石窓〔常陸水戸〕 寛二18ウ
 赤卒〔下野〕 寛二18ウ
 石堂〔加賀〕 寛九37才
 石父〔周防室津〕 寛八40ウ 寛九32才
 夕遊〔能登〕 寛一4才
 石羊〔肥後求麻〕 寛四5ウ 寛五37ウ
 石蘭〔駿河〕 寛五48才 寛七20才
 寛九25才
 節雨〔備後南方〕 寛十19ウ
 雪花〔肥後〕 寛五39ウ
 雪岡〔陸奥〕 寛四6ウ
 雪湖〔肥前神代〕 寛八50ウ
 雪更〔武蔵本庄〕 寛五20才
 雪江〔河内招堤村〕 寛六24ウ 寛七23ウ
 寛七45ウ 寛八29才

せっ〜そ

雪江〔武蔵熊谷〕 寛八20ウ
 雪香〔陸奥 仙台連〕 寛九31才
 雪鴻〔武蔵野上町〕 寛七16ウ
 浙江〔武蔵本庄〕 寛六17ウ 寛九27才
 舌向〔安芸竹原女〕 寛七26ウ
 寛九20才
 雪士〔肥前諫早〕 寛七30才
 雪枝〔肥後上野〕 寛五40ウ
 雪扨〔肥前有田皿山〕 寛四4才
 寛八49ウ 寛九24才
 雪肆〔若狭西津〕 寛三12才 寛五43才
 雪女〔肥前島原〕 寛十15才
 雪川〔陸奥〕 寛三11才
 雪鳥〔長門舟木〕 寛六30才
 雪桃〔遠江木舟〕 寛九13才
 雪馬〔加賀〕 寛五7ウ
 雪馬〔肥前本草〕 寛七39才
 雪馬〔備後新市〕 寛八39才
 雪仏庵〔能登金丸〕 寛十30ウ
 世涼〔加賀〕 寛六7ウ
 蟬雨〔安芸〕 寛三18ウ
 仙鳥〔肥前〕 寛十22ウ
 千鶴〔江戸〕 寛三4ウ
 千崖〔江戸〕 寛五17才
 千鶚〔近江辻村〕 天七7才 寛二7ウ
 寛三7ウ 寛四38才 寛五48才
 寛六5才
 全瓦〔丹波亀山〕 寛五42ウ 寛八37ウ
 寛九20ウ
 仙牛〔京〕 天六1ウ

仙魚〔備後福山〕 寛五28ウ
 泉魚〔上野草津〕 寛七42才
 仙家〔周防室津〕 寛八40ウ 寛九32才
 千鯢〔近江辻村〕 寛三8才
 仙紫〔陸奥 仙台連女〕 寛九30ウ
 仙芝〔越中高岡〕 寛八11ウ
 仙舟〔若狭能登野〕 寛三11ウ
 仙処〔浪花〕 寛六25ウ
 千之〔伊勢白子連女〕 天六8才
 専車〔上野境町〕 寛一3ウ 寛二18ウ
 寛三10才 寛四28ウ 寛五13ウ
 寛六13ウ 寛七11ウ
 扇之〔信濃木曾奈良井〕 寛六21才
 寛八33才
 浅生〔浪花〕 寛九16才
 仙丈〔信濃片倉〕 寛七20ウ 寛八32ウ
 千尺〔京〕 天七2ウ
 専児〔近江〕 寛二8才
 洗耳〔武蔵三峰山〕 寛七17才 寛八21才
 寛十21ウ
 線川〔肥後万が瀬〕 寛五39ウ
 千足〔飛騨高山〕 寛七19ウ
 仙鳥〔肥前神代〕 寛八50才 寛九24才
 洗竹〔肥後熊本〕 寛五38ウ
 全潮〔薩摩〕 寛三21ウ
 千亭〔周防〕 寛八40ウ
 千布〔加賀能瀬〕 寛八7才
 仙風〔武蔵〕 寛二18ウ
 川風〔武蔵金久保〕 寛七46才
 仙僕〔丹後網野〕 寛六27才

そ

千友〔越中ノカヒ〕 寛二22才 寛六12才
 千羅〔近江堅田〕 天七6ウ 寛一3才
 寛二8才 寛七4ウ
 千里〔若狭藤井〕 寛一3ウ 寛三11ウ
 千里〔安芸御手洗〕 寛五29ウ
 千里〔陸奥〕 寛六15ウ
 仙梨〔長門赤間関〕 寛六33才
 寛九11才 寛十36ウ
 川里〔河内破岐井〕 寛四7才 寛五22才
 潜鯉〔上総長者町〕 寛一10才
 川柳〔武蔵人間ノ里〕 寛九6才
 泉柳〔近江新城〕 天六5ウ
 潜龍〔伊予西条〕 寛八41才
 千蠶〔伊予西条〕 寛七27才
 仙露〔長門赤間関〕 寛十36ウ

蒼虬〔槐庵〕〔加賀金沢／京〕 寛七7才
 寛八序才 寛八2ウ 寛八7ウ
 寛八7ウ 寛十1ノ1才
 寛十33才 寛十36ウ
 巢居〔京〕 寛六3ウ
 宗拱〔安房平磯／七浦〕 寛七19才
 寛九3ウ
 桑戸〔伊勢山田〕 寛九31ウ
 草戸〔信濃長瀬〕 寛七22才
 蒼梧〔志摩鳥羽／鳥城〕 天七11才
 寛四27才 寛五25才 寛六44ウ
 寛九21ウ
 宗剂〔信濃塚原〕 寛五22ウ 寛八32ウ
 宗讃〔江戸〕 寛三7才 寛八21ウ
 寛九26才
 蒼山〔伊勢相可〕 寛七37ウ 寛十32才
 草耳〔信濃長瀬〕 寛九10ウ
 蒼水〔浪花〕 寛四29ウ 寛五25ウ
 宗跡〔讃岐仁尾〕 寛十31才
 双石〔伊勢山田〕 寛九31ウ
 嗽石〔下野助戸〕 寛五14ウ 寛七12才
 寛八22ウ
 漱石〔肥前本草〕 寛七39才
 巢兆〔江戸〕 寛八22才
 蒼椿↓腐掲〔備後南方〕
 宗徳〔讃岐〕 寛三19ウ 寛四37才
 像堂〔三河赤坂〕 寛七23才
 草白〔肥後〕 寛五39才
 草美〔京〕 寛八61才 寛九40ウ

そう〜たい

草夫〔陸奥弘前〕 寛三十一才 寛四十六才
 寛五十五才
 蔵撲〔出雲〕 寛九十二才 寛九十二才
 楚雲〔武蔵秩父三峰山〕 寛七十七才
 寛八十二才 寛十二才
 楚雲〔備後作木／三測〕 寛七十五才
 寛八十八才 寛九十二才
 素栄〔上野厩橋郡樋越〕 寛六十四才
 寛七十七才 寛八十七才 寛九十五才
 寛三十一才
 徂英〔能登寺口／道下〕 寛七十八才
 寛八十八才
 素外〔尾張〕 寛四十二才
 鼠角〔南山城〕 天六十五才
 素喝〔上野沼田支屋〕 寛五十四才
 素関〔上野厩橋郡荒口〕 寛七十七才
 寛八十七才
 素菊〔上野棚下〕 寛八十四才
 素牛〔美作久世〕 寛五十四才
 楚蹠〔加賀金沢〕 寛八十六才
 素供〔京〕 寛四十三才
 素玉〔能登黒島〕 寛三十一才 寛三十四才
 寛四十九才 寛五十八才 寛六十七才
 寛六十六才 寛七十七才 寛八十八才
 寛十六才 寛十八才
 素鈞〔筑前若宮〕 寛四十四才 寛五十三才
 素吟〔加賀／在京〕 寛四十四才 寛五十四才
 楚吟〔越中高岡〕 寛四十二才 寛五十二才
 素兄〔加賀〕 寛三十四才 寛六十六才
 寛六十七才

素溪〔武蔵本庄〕 寛五十九才 寛六十七才
 寛七十五才 寛七十六才
 鋤月〔南山城大住木水連〕 寛六十七才
 寛七十三才 寛八十六才
 素月〔但馬夏梅村〕 寛八十八才
 素己〔上野横室〕 寛八十四才
 楚古〔越中高岡〕 寛二十三才
 楚口〔越中〕 寛九十二才
 楚鴻〔伊勢津洞津連〕 天六十八才
 天七十七才 寛八十四才
 素交〔江戸〕 寛九十八才
 素候〔安芸〕 寛三十九才
 素后〔加賀金沢〕 寛七十六才 寛八十五才
 素更〔近江万木〕 寛八十四才 寛九十六才
 素吼〔浪花〕 寛九十六才
 蘇江〔京〕 寛九十九才
 素山〔加賀〕 寛三十三才
 素山〔武蔵深谷〕 寛五十二才 寛九十二才
 楚雀〔甲斐山寺〕 寛八十三才
 楚雀〔伊勢相可〕 寛三十二才 寛三十二才
 素秀〔越中〕 寛三十三才 寛四十二才
 素秋〔近江土山〕 天七十八才 寛七十三才
 素舟〔上野厩橋〕 寛五十四才 寛六十四才
 龜上〔加賀小松〕 寛五十七才
 素人〔肥前長崎〕 寛八十九才
 楚水〔信濃〕 寛六十二才
 素水〔近江水口〕 天六十七才 天七十八才
 寛六十四才
 素汐〔上野厩橋〕 寛六十四才
 素石〔能登福浦〕 寛三十三才

素雪〔伊予今治〕 寛八十四才
 素川〔山城〕 寛二十五才
 蘇泉〔肥後〕 寛四十五才
 素太〔大〕〔上野厩橋〕 寛五十四才
 寛六十四才 寛七十七才 寛八十七才
 寛九十六才
 訴岱〔上野〕 寛三十一才
 蘇竹〔伊賀上野古雅社中〕 天七十四才
 祖竹〔加賀〕 天六十七才 寛六十五才
 蘇蝶〔筑前〕 寛一十才
 楚椿〔京〕 寛五十四才
 素呈〔近江堅田〕 寛七十五才
 楚洞〔信濃飯田〕 寛六十二才
 素同〔上野前橋・厩橋〕 寛三十三才
 寛四十三才 寛五十四才
 楚南〔近江大津〕 天七十六才 寛一十二才
 寛二十六才 寛三十二才
 素罷〔肥後〕 寛五十九才
 素風〔近江土山〕 天七十八才 寛三十九才
 寛四十八才
 素風〔近江杉江〕 寛三十八才 寛四十四才
 寛六十五才
 素風〔出羽左沢〕 寛四十七才 寛五十六才
 寛六十六才 寛七十四才 寛八十三才
 寛九十八才 寛十五才
 祖風〔三河池鯉鮒〕 寛九十二才
 素文〔京〕 寛四十二才
 祖明〔越後高田〕 寛八十八才
 素明〔伊予今治〕 寛三十二才 寛三十九才
 素雄〔上野厩橋〕 寛八十四才

蘇遊〔肥前古人〕 寛七十九才
 蘇雄〔浪花〕 寛九十六才 寛二十二才
 鼠来〔天和〕 寛三十二才
 鼠洛〔伊勢〕 寛二十九才 寛三十二才
 素蘭〔甲斐小沼〕 寛九十一才
 素里〔京〕 寛三十二才
 曾陸〔介福〕〔京〕 天六十三才
 天七十二才 寛一十七才 寛一十七才
 寛二十一才 寛三十二才
 楚六〔京〕 寛七十八才
 楚柳〔長門赤間関〕 寛二十六才 寛五十二才
 楚流〔安房磯村〕 天六十六才 寛四十三才
 寛六十八才 寛三十九才 寛四十二才
 楚流〔下野〕 寛三十八才
 楚流〔加賀金沢〕 寛四十一才 寛五十七才
 寛六十六才 寛六十七才
 祖龍〔越前〕 寛三十九才
 素柳〔浪花〕 寛七十五才 寛八十四才
 素柳〔樗山〕〔京岡崎〕
 素流〔加賀金沢〕 寛八十五才
 素流〔豊前小倉〕 寛八十九才 寛八十六才
 寛八十六才
 楚梁〔京〕 寛三十三才
 楚林〔信濃桜井〕 寛八十三才
 素六〔京〕 寛五十五才
 鱒魚〔甲斐市川〕 寛九十九才
 た
 大一〔越中〕 寛六十一才

たい～ちゃ

大牙〔能登田鶴浜〕 寛四20才
 寛五9ウ 寛八9才
 太黄〔伊勢神都〕 寛七22ウ
 大旗〔越中高岡〕 寛八10ウ 寛八11ウ
 寛九34ウ
 大貴〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ
 大溪〔加賀〕 寛四12才
 大〔泰〕溪〔京〕 天六4才 寛七37才
 寛八59才
 大梧〔丹波黒井〕 寛九22ウ
 対山〔加賀金沢〕 寛五7ウ 寛六5ウ
 寛七6才 寛八5ウ
 台洲〔甲斐市川〕 寛五21才
 泰昌〔江戸〕 寛六16ウ
 乃至〔能登川田〕 寛四17ウ
 寛五10才 寛六10ウ 寛七44ウ
 苔水〔筑前直方〕 寛八47ウ
 怡水↓柳汀〔能登黒島〕
 台嵩〔京〕 寛五46ウ
 帯雪〔讃岐垂水村〕 寛八47才
 帯川〔伊勢白子寺家〕 寛二22才
 寛三5ウ 寛四16才 寛五24ウ
 寛六44ウ 寛七45才 寛八29才
 黛采〔淡路〕 寛五26才
 大樗〔京御室〕 天七5ウ
 大兆〔武蔵入間ノ里〕 寛九6才
 大椿〔安芸竹原〕 寛八40才 寛九14才
 大通〔伊勢〕 天六8ウ
 待兔〔山城山崎〕 天七5ウ
 太麻〔江戸〕 寛九28才

台眠〔甲斐台ヶ原〕 寛五21才
 寛七19ウ 寛八31ウ
 大夢〔近江湖東〕 天七7ウ
 退冥〔越中富山〕 天六12ウ
 大西〔越中放生津／那古／海老江村〕
 寛三16才 寛四20ウ 寛六11才
 寛八10才 寛九14才 寛九17才
 黛葉〔溪竹〕〔淡路〕 寛四38才
 寛六26才 寛七24才
 大来堂↓百池〔京〕
 退輪〔上野厩橋〕 寛五14才
 大梁〔京〕 寛六40ウ
 黛露〔京〕 寛四31才
 陀雲〔肥前島原〕 寛五36ウ 寛八49才
 寛九24才
 たか女〔浪花〕 寛八34ウ 寛十22才
 瀧〔備中女〕 寛五26ウ
 たき〔筑前女〕 寛五34才
 瀧の坊〔能登竹之津〕 寛九9才
 棹雪〔京〕 寛九1ウ 寛九37ウ
 寛十1ノ2ウ 寛十27才
 沢雄〔越前敦賀〕 寛九25ウ
 卓母〔能登浦上〕 寛十6ウ 寛十9才
 沢鷺〔上野沢女〕 寛七11ウ
 竹之坊〔加賀宮之腰〕 寛四13才
 寛五6ウ 寛六6才 寛七46才
 寛八5才
 采山〔加賀金沢〕 寛五7ウ
 寛六5ウ 寛七38ウ 寛八65才
 多洗〔近江辻村〕 寛四24ウ

采々房〔出羽秋田六郷〕 寛五16ウ
 陀仏〔近江大津〕 天七6才 寛一2才
 寛二20ウ 寛二22才 寛三7ウ
 たよ女〔能登田鶴浜〕 寛八9才
 潭月〔肥後熊本僧〕 寛四5ウ
 寛六34ウ 寛八51才
 探湖〔近江土山〕 寛三9ウ
 淡交〔下野栃木〕 寛七12ウ 寛八22ウ
 寛九33才
 旦松〔常陸水府〕 寛九29ウ
 誕舟〔能登道下〕 寛六10ウ 寛七8才
 寛八8ウ
 端周〔能登道下〕 寛十9才
 弾子〔陸奥仙台〕 寛九21才 寛十23ウ
 淡水〔安芸御手洗〕 寛四22ウ
 淡水〔上野狩宿〕 寛六13才
 淡水〔河内村野〕 寛八29才 寛九23才
 湍水〔筑前直方〕 寛七28ウ
 丹泉〔肥後〕 寛五39ウ
 淡雪〔京〕 寛六38ウ
 淡波〔肥前〕 寛六35ウ
 湛露〔肥前〕 寛四4才

ち

知一〔能登東馬場〕 寛五10才
 遅逸〔能登川尻〕 寛七8ウ 寛八9ウ
 千恵〔肥後熊本女〕 寛五38ウ
 竹雨〔上野〕 寛三10ウ
 竹雨〔肥後〕 寛五39ウ

竹簀〔浪花〕 寛十21才
 竹堂主人 寛六1ウ
 竹風〔京〕 寛九39ウ
 竹輔〔上野下仁田〕 寛七11才
 寛八13才
 竹茂〔越後高田〕 寛五12才
 竹由〔安芸御手洗〕 寛八40才
 竹葉〔近江〕 寛三9才
 竹里〔河内村野〕 寛九23才
 竹両〔筑前飯塚〕 寛三21才 寛四8ウ
 寛五32ウ 寛六33ウ
 竹両〔安芸竹原〕 寛五29ウ
 竹梁〔肥前島原〕 寛五36ウ
 竹和〔陸奥仙台連〕 寛九30ウ
 知十〔上野〕 寛三11才
 知水〔安房〕 寛四23才
 ちせ〔近江女〕 寛六4ウ
 知石〔近江〕 寛十1ウ 寛十3才
 知双〔伊勢西ノ田〕 寛八26才 寛八28ウ
 知足〔信濃飯田〕 寛五22ウ 寛七21才
 知多〔伊勢津野田〕 寛七22ウ
 遅竹〔大坂〕 寛九14才
 知蝶〔武蔵秩父吉田町〕 寛八19才
 竹閑〔肥後〕 寛十14ウ
 竹溪〔月岬〕〔肥前平戸〕 寛八65才
 竹壺〔肥後野間新地〕 寛五37才
 知白〔遠江〕 寛二17ウ 寛三6ウ
 知風〔備中笠岡〕 寛四26才 寛五27ウ
 雉鳴〔江戸〕 寛九28ウ
 茶煙〔伊勢雲出川〕 寛八24ウ

ちゃ〜てい

茶暉〔上野〕 寛九20才
 茶菊〔伊勢山田〕 寛三6才
 茶川〔陸奥〕 寛六16才
 茶暮〔江戸〕 寛八21ウ
 茶丸〔河内招堤〕 寛五25ウ
 虫之〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ
 雉友〔加賀金沢〕 寛八6ウ
 ちよ〔京女〕 天六4才
 頂華〔肥前〕 寛九10才
 澄水〔伊勢地家〕 天六7ウ 天七9才
 朝瓜〔薩摩阿久根〕 寛四35ウ
 寛六36ウ 寛八51ウ
 朝瓜〔丹波柏原〕 寛六26ウ
 朝三↓何言〔筑前芦屋〕
 朝々〔能登能登部〕 寛四19才 寛六11才
 寛七44才
 朝霧〔武蔵入間ノ里〕 寛九6才
 朝炬〔筑前水城〕 寛七46才
 朝露〔近江水口〕 寛六43才
 朝叟〔京〕 天六12ウ 寛一9才
 潮花〔近江水口〕 寛一3才 寛二6ウ
 寛四23ウ
 潮路〔京〕 寛二2才 寛五44ウ
 蝶賀〔陸奥八戸〕 寛七13才
 蝶巴〔長門舟木〕 寛五31才
 蝶夫〔筑前芦屋〕 寛七29ウ
 調呂〔備後福山〕 寛八39才
 長広〔京〕 天六1ウ 寛二1才
 寛二20ウ 寛六41才

長斎〔浪花〕 寛八34ウ 寛九4ウ
 寛九14ウ 寛九23才
 長甫〔京〕 寛二2才
 長厚〔江戸〕 寛三7才 寛五44才
 長左〔上野本宿／西牧〕 寛八13ウ
 寛九13才
 長翠〔江戸〕 寛七17ウ 寛八22才
 長道〔京〕 寛七38才 寛八59才
 寛九40才
 鳥語〔甲斐山ノ神〕 寛七41才
 寛八29ウ 寛九19才 寛十34才
 鳥周〔安房磯村〕 寛八23ウ 寛十20ウ
 鳥翠〔江戸〕 寛五20才
 鳥醉〔肥後熊本〕 寛十14ウ
 鳥跡〔加賀小松〕 天七13才
 鳥泰〔江戸〕 寛八22才
 鳥路〔越後〕 寛三16ウ
 鳥籟〔越中岩坪〕 寛九34ウ
 葛橋〔出羽〕 寛四7才
 葛輔〔伊予〕 寛三20才 寛四8ウ
 葛路〔肥後芦北〕 寛二17才 寛五37ウ
 釣牛〔武蔵本庄〕 寛五18ウ
 樗冠〔甲斐西南湖〕 天六11ウ 寛二18才
 寛七40ウ
 直如客〔京〕 天七3才
 儲香〔出羽〕 寛四7才
 樗山〔素柳〕〔京岡崎〕 寛八58ウ
 寛八58ウ 寛九39才
 樗舟〔筑前直方〕 寛七28ウ

樗石〔此君〕〔安房〕 寛三7才
 寛四23才 寛六18才 寛十19ウ
 寛十19ウ
 樗堂〔京〕 寛六3ウ
 樗年〔肥前長崎〕 寛八50才
 樗葉〔筑前本木〕 寛九16ウ
 馳来〔越中〕 寛三16才
 知柳〔伊予西条〕 寛八41ウ
 枕雲〔備後府中〕 寛三18ウ
 玆松〔近江八幡〕 天六7ウ
 枕石〔筑前〕 寛四8ウ
 枕石〔長門赤間関僧〕 寛五31ウ
 枕石〔紀伊高野山僧〕 寛五43才
 寛七24才
 枕岱〔上野厩橋〕 寛七9ウ 寛八14才
 陳兆〔能登錦川〕 寛七7ウ
 椿葉〔伊勢二宮〕 寛四16ウ
 椿羅〔江戸〕 寛九27才

つ

通鮮〔肥前神代〕 寛八49ウ
 都野〔上野女〕 寛三11才
 つよ〔加賀本吉〕 寛四25才 寛五7才
 つよ〔京〕 寛五47才
 都良尾〔雄〕〔甲斐小笠原〕 寛六19ウ
 寛七41ウ 寛八31才 寛九30才
 つる〔筑前若宮女〕 寛六43ウ

て

掟〔肥後女〕 寛五39才
 停華〔花〕〔肥前諫早〕 寛五35才
 寛六34ウ 寛七41ウ 寛八52才
 汀化〔筑前福岡〕 寛八48ウ
 丁峨〔上野厩橋〕 寛七10才 寛八14才
 貞雅〔南山城〕 寛六37才 寛七44ウ
 寛八55ウ
 定雅〔京〕 天六2才 天七4才
 寛一7才 寛二3ウ 寛三2ウ
 寛三24才 寛四33才 寛五45才
 寛六40才 寛七35ウ
 汀画〔加賀小松〕 天七13才 寛四14才
 丁江〔浪花〕 天七6才 寛六3才
 寛六25才
 定斎〔能登所口〕 寛四20才
 庭山〔信濃長瀬〕 寛七22才 寛九11才
 庭山〔上野前橋〕 寛九9ウ
 貞松〔京〕 寛四1才 寛四33才
 貞松〔二夜庵〕〔江戸〕 寛五19才
 寛六17才 寛七17ウ 寛八22才
 寛八22才 寛九26ウ
 禎祥〔浪花〕 寛九14ウ
 亭祖〔上野厩橋／荒牧〕 寛六13ウ
 寛七10才
 亭々〔上野〕 寛三10ウ
 丁々坊〔安房清澄山〕 寛六18ウ
 貞天 寛五48才

貞二〔下野足利〕	貞二22才	と	東溪〔周防〕	寛六31才	藤紫〔石見〕	寛二15才	
泥尾〔京／浪花〕	寛五46才 寛八34ウ		東溪〔肥前佐賀〕	寛九32才	唐水〔京〕	寛六3ウ 寛六41才	
汀鳧〔上総長者町〕	寛一10才 寛五20才		東畦〔丹波牛河内〕	寛八37ウ 寛九22才	東吹〔安芸広島〕	寛一4ウ 寛二14ウ	
貞保〔尾張〕	寛十33ウ		寛十13才		寛三18ウ		
貞律〔伊勢相可〕	寛十32才	吐阿〔石見〕	寛二15才	桃溪〔丹後下岡村〕	寛七24ウ	桃水〔薩摩〕	寛一6才
笛躬〔豊後岡〕	寛八51才	東鳥〔若狭西津〕	寛二10才 寛三12才	桃溪↓毛拳〔近江〕		桃睡〔京〕	寛一1才 寛二口ノ1才
荻人〔伊勢地家〕	天六7ウ 天七9才	東雨〔京〕	天六1才 天七1才	桃局〔局〕〔肥前諫早〕	寛五35ウ	寛二3才 寛三2ウ 寛三24才	寛四1ウ 寛四34才 寛五3才
荻風〔京〕	天七1才	稲測〔京〕	寛五44才	寛七42才 寛八52才		寛四1ウ 寛四34才 寛五3才	寛五48才
荻邑〔能登〕	寛四17才	桃栄〔武蔵入間ノ里〕	寛九6才	踏月〔南山城〕	天六4ウ	桃睡〔越後〕	寛一9才
荻里〔伊賀〕	天七4ウ	冬鳥〔武蔵野上町〕	寛七16ウ	冬江〔伊予西条〕	寛七26ウ	桃青↓翁	
鉄翁〔近江菩提寺〕	天六6才	桃家〔伊勢山田〕	寛十26才	東考〔若狭〕	寛二10ウ	桃井〔越中〕	寛五11才
天七7ウ 寛一2ウ 寛二口ノ1才		島霞〔涯州〕	寛五40ウ	東郊〔近江草津〕	寛三7ウ	桃仙〔陸奥弘前〕	寛四6ウ 寛五15才
寛二7才 寛三2才 寛三24才		東閣〔筑後柳川〕	天七12ウ	東呉〔越中高岡〕	寛八11ウ 寛九34才	寛九29才	
轍左〔伊勢津〕	寛九12ウ	桃岳〔越中川崎〕	寛三15ウ 寛七9ウ	桃佐〔備中玉島〕	寛五27ウ	桃仙〔近江欲賀〕	寛五4才
鉄寿〔長門〕	寛二16才	桃河〔越中女〕	寛六12才	桃三〔備中玉島〕	寛五27ウ	桃川〔肥前〕	寛十15才 寛十16才
鉄船〔陸奥仙台〕	寛六16才	桃丸〔備中玉島〕	寛五27ウ	桃山〔肥前〕	寛十15ウ	桃川〔伊勢〕	寛四16ウ
てる〔浪花〕	寛四29ウ	桃岸〔近江長浜〕	寛六4才 寛七5ウ	冬抄〔武蔵本庄〕	寛五19ウ	桃川〔能登田鶴浜〕	寛八9ウ
田禾〔伊勢津雲水〕	寛十5ウ	冬芽〔備後府中〕	寛八39ウ	唐笑〔甲斐市川〕	寛四28才 寛五21才	桃雫〔筑前直方〕	寛四9ウ 寛六34ウ
寛十11ウ 寛十17ウ 寛十33才		投我〔京〕	寛四2ウ	寛六19才 寛七41才		寛七28才 寛八48才	
田鶏〔甲斐下山〕	寛七19ウ	東河〔越中〕	寛四20ウ	東升〔安芸川尻〕	寛四22ウ 寛五29才	桃朶〔備中〕	寛四8才
沾節〔播磨小野〕	寛三17才 寛四29才	東河〔伊勢山田〕	寛九31ウ	東槩〔淡路〕	寛五26才	陶酎〔近江草津〕	寛五5ウ
寛六27ウ 寛七24ウ 寛八36才		東我〔安房〕	天六10才	桃子〔豊前小倉〕	寛十18ウ	東適〔京〕	寛九38ウ
田鼠〔肥後熊本〕	寛五38ウ	東瓦〔摂津伊丹〕	寛三21ウ 寛八34才	桃思〔信濃下県／塩名田〕	寛六20ウ	登都〔越中〕	寛五10才
天民〔周防山口〕	寛五30ウ 寛六31ウ	寛九5ウ		寛七20才 寛八32ウ		洞々〔丹波梶原〕	天六9才 天七11ウ
寛七44才 寛八46ウ		陶河〔若狭小浜〕	寛二10才 寛三11ウ	桃枝〔備中玉島〕	寛五27ウ	寛一4才 寛二6才 寛三16ウ	
田毛〔河内星田〕	寛四27才 寛六25才	寛四25ウ		桃脂〔加賀金沢〕	寛八7才	寛四26ウ 寛五42ウ 寛六27才	
沾里〔陸奥〕	寛九29ウ	東岐〔丹波〕	寛四26ウ	桃之〔京〕	寛四31ウ	寛七24ウ 寛八37ウ 寛九22才	寛十13才
沾良〔播磨小野〕	寛五26ウ	灯居〔下野栃木〕	寛七12ウ 寛八22ウ	桃之〔周防山口〕	寛六31才		
田履〔播磨小野〕	寛一4ウ 寛五26ウ	寛九33才 寛十35才		桃之〔備後作木〕	寛七25ウ		
		桃牛〔備中玉島〕	寛五27ウ				
		東溪〔志摩鳥羽〕	天六9ウ 天七10ウ				

とう〜とつ

洞々〔越前〕 寛十10ウ	東嶺〔近江万木〕 寛七4ウ 寛八4才	独子〔加賀〕 寛五6ウ	杜若〔上野横尾〕 寛八13才 寛九20才
洞々〔出羽秋田六郷〕 寛五16才	寛九5ウ	杜桂〔京〕 寛二2ウ 寛四2才	都雀〔京〕 天六4ウ 天七4才
桃洞〔伊予西条〕 寛八41ウ	東籬〔飛騨高山〕 寛八23才 寛九7才	寛四32才 寛五2ウ 寛六2才	寛一7才 寛二3才 寛四32才
桃洞↓楓国〔伊予道前〕	当令〔近江坊村／伴ノ谷〕 寛七5才	寛六38ウ 寛七2ウ 寛七35才	寛五44ウ 寛六3ウ 寛六40才
東伴〔肥前〕 寛四3才	寛八4ウ	寛八1才 寛八61ウ 寛九39才	寛七3ウ 寛七36才 寛八2才
稲肥〔京〕 寛六44才	桃路〔越後十日町〕 寛三16ウ	寛十27才	寛八57ウ 寛九2才 寛九40才
荳父〔江戸〕 寛九28ウ	寛四38ウ 寛五12才 寛六12ウ	兔月〔但馬夏梅村〕 寛八38才	寛十26ウ
桃峰〔近江長浜〕 寛八3ウ	寛七19ウ 寛八18才	兔月〔上野世良田〕 寛九22才	兔秋〔伊勢亀山〕 寛五48才
東麻〔甲斐布施〕 寛九19才	吐雲〔若狭能登野／向笠〕 天七11ウ	兔月〔肥前〕 寛十15才	斗十〔安房〕 寛六18才
東明〔安芸能美〕 寛十19ウ	寛一3ウ 寛二10才 寛三11ウ	吐月〔在京〔能登〕〕 寛十30ウ	兔丈〔肥前神代〕 寛八50ウ 寛九24ウ
涛明〔肥前佐賀〕 寛八49才 寛九3ウ	吐雲〔加賀〕 寛三13才	杜月〔甲斐谷戸〕 寛八31ウ	寛十22ウ
寛十32ウ	吐雲〔近江堅田〕 寛七5才	奴原〔越中〕 寛五11ウ	斗醉 寛五48才
冬陽〔京〕 寛六43才	吐雲〔上野桐生〕 寛十5才	戸口〔南山城飯岡〕 寛六37ウ 寛七31ウ	斗醉〔肥前長崎〕 寛七44ウ
東洋〔京〕 寛三3才	斗英〔伊予西条〕 寛七27才	寛八56才	斗醉〔近江水口〕 寛十32ウ
桃葉〔備中〕 寛三18才	杜影〔伊勢洞津連〕 天七10才	杜厚〔信濃善光寺〕 寛九36才	都水〔京〕 寛七45才 寛八65才
桃葉〔下野栃木〕 寛八22ウ 寛九33才	寛二9ウ 寛八24才	渡江〔但馬生野〕 天六9才 天七11ウ	寛九38才
寛十35才	都鴛〔京〕 寛一8才	渡江〔武蔵秩父吉田町〕 寛八18ウ	兔石〔京〕 天六3ウ
桃李〔京〕 寛五44ウ 寛六38ウ	斗外〔備中笠岡〕 寛四26才 寛五27ウ	兔豪〔上野本宿〕 寛六14才 寛七12才	兔夕〔京〕 寛八1才 寛八61才
寛七3ウ 寛七35才 寛八1才	寛七25ウ	兔毫〔京〕 寛六39才 寛七36ウ	寛九1ウ 寛九38才 寛十27才
桃里〔越中〕 寛八10ウ	兎角〔京〕 寛九3才 寛九38才	斗山〔陸奥〕 寛六15ウ	杜夕〔伊予西条〕 寛八41ウ
桃里〔京〕 寛十26ウ	渡牛〔京〕 寛四33才 寛七36才	外山〔肥後長峰〕 寛五38才 寛六36才	斗雪〔京〕 寛四33才 寛六40ウ
董里〔肥前島原〕 寛九24才	寛八62才	都山〔能登黒島〕 寛二11ウ 寛三15才	寛七37才 寛八57ウ 寛九40才
桃柳〔京〕 寛二2ウ	肚牛〔肥前天草〕 寛七39ウ	寛四18ウ 寛五8ウ 寛六8才	兔仙〔京〕 寛八序ウ
桃林〔周防小郡〕 寛六30才 寛七43ウ	得雨〔伊予西条〕 寛七26ウ 寛八41才	寛六9ウ 寛七7才 寛八8才	杜川〔越中福野〕 寛七9才
寛八46才	得雨〔安芸廿日市〕 寛七42ウ	寛十6才 寛十8才	兔泉〔能登二宮〕 寛四17ウ
東律〔肥前諫早〕 寛一5ウ 寛五35ウ	得牛〔上野桐生〕 寛八17才 寛九15ウ	杜市〔在京／越中城端〕 天六4ウ	杜撰〔河内津田〕 寛七40ウ
東流〔陸奥仙台〕 寛九21才 寛十18才	寛十30才	天七13ウ 寛一4才 寛二12ウ	都巽〔肥前諫早〕 寛十31ウ
東流〔伊勢神戸〕 寛十23才	得之〔武蔵中瀬〕 寛八22ウ	寛四22才	吐鳥〔讃岐高松〕 寛八47才 寛九10ウ
	得車〔伊勢〕 寛六22才	土芝〔備後三原〕 寛三18ウ 寛四10ウ	凸山〔加賀金沢〕 寛八6才 寛十36才
	徳島連〔阿波〕 寛六28ウ	寛七34才 寛八39ウ 寛十19才	

斗南〔若狭野登野〕 寛三11ウ
 兎文〔若狭〕 寛二11才
 兎文〔加賀金沢〕 寛三12ウ 寛四14ウ
 寛五7ウ 寛六5ウ 寛七46才
 寛八7才 寛十五才
 斗米〔上野女〕 寛四35才
 吐木〔能登富木〕 寛七8才
 とみ〔加賀金沢〕 寛四14才 寛五6ウ
 とみ女〔と美〕〔周防室津〕 寛八40ウ
 寛九32才
 杜明〔越中氷見〕 寛四22才
 とをも〔筑前木駅〕 寛九32ウ
 兎遊〔武蔵秩父吉田町〕 寛七16才
 寛八18ウ
 都友〔肥前諫早〕 寛四3ウ 寛八53才
 寛九35才
 都邑〔越中〕 寛三16才
 杜与木〔甲斐府中〕 寛十34ウ
 土卵〔京〕 寛二2才 寛二21ウ
 寛三23才 寛四1ウ 寛四33ウ
 寛五3才 寛五47ウ 寛六2才
 寛六38才 寛七3才 寛七34ウ
 寛八1才 寛八61ウ 寛九40ウ
 寛十1ノ1ウ 寛十26ウ
 土卵〔土蘭〕〔上野厩橋・前橋〕
 寛三9ウ 寛四35才 寛五14ウ
 寛七10ウ 寛八18才

斗流〔南山城八幡・男山〕 天六5才
 天七5ウ 寛一6ウ 寛四1ウ
 寛四30ウ 寛五2才 寛五43才
 寛六2才 寛七2ウ 寛七31才
 寛八2ウ 寛八56才 寛九2才
 斗龍〔伊予西条〕 寛八41才
 吐龍〔肥前〕 寛十15才
 土龍〔上野厩橋〕 寛七10才 寛八14才
 兎了〔上野厩橋連室沢〕 寛五14才
 杜陵〔肥前長崎〕 寛八50才
 ところ、庵↓獲車〔伊勢白子轡々社中〕
 吞牛〔越中堀岡〕 寛九35才
 吞空〔若狭西津〕 寛二10才 寛三12才
 吞孤〔若狭能登野村〕 天七11才
 曇水〔京〕 天七1才 寛二1ウ
 寛三23才
 吞鳥〔京〕 天六2ウ
 吞鳥〔甲斐鍛冶軒居〕 寛九19才
 鈍人〔京〕 天七2ウ
 鈍鷲〔加賀〕 寛三13ウ 寛四13ウ
 な
 直樹〔甲斐下山〕 寛七19ウ
 中〔安芸広島〕 寛五29ウ
 なくら〔筑前芦屋〕 寛九32ウ
 名那女〔長門〕 寛六32ウ

南栄〔京〕 天六初ウ 天六1才
 天七1才 寛二口ノ1才 寛二2才
 寛七37ウ 寛九1ウ 寛九38ウ
 寛十1ノ2ウ
 南化〔南山城〕 天六5才
 南葉〔長門赤間関〕 寛八44ウ
 南我〔京〕 天六3ウ
 南涯〔京〕 寛八2才 寛八58才
 南岳〔備後福山連〕 寛五29才
 南丸〔甲斐浅原〕 寛七40ウ 寛八29ウ
 南玉〔越中氷見〕 寛九21ウ
 南江〔長門赤間関〕 寛二16才 寛五31ウ
 南耕〔丹波〕 寛六26ウ
 南枝〔備中〕 寛二13ウ 寛三18才
 寛四8才 寛四22ウ
 南枝〔筑前芦屋〕 寛七29才 寛八54才
 南珠〔豊前小倉〕 寛五32才
 南巢〔長門赤間関〕 寛三19才 寛四35ウ
 寛五32才
 南竹〔備後福山〕 寛五28ウ
 南甫〔上野〕 寛三10ウ
 南甫〔能登川尻〕 寛八9ウ
 南浦〔上野田島〕 寛四35才 寛五13才
 南峰〔加賀金沢〕 寛三13ウ 寛四11才
 寛六6ウ 寛六7才 寛七2才
 寛七6才 寛八5ウ
 南明〔豊前小倉〕 寛二16ウ 寛三21ウ
 寛四10才 寛五32才 寛八49才
 寛八62ウ 寛八64ウ 寛十30ウ
 南来〔京〕 寛八61才 寛九38才

南嶺〔近江高島郡朽木〕 寛九23ウ
 寛十5ウ
 南路〔京〕 天六3ウ
 南楼〔上野柴駅〕 寛五13ウ 寛六15才
 南和↓秦夫〔南山城寺田〕
 に
 二夜庵↓貞松〔江戸〕
 忍阿〔信濃飯田僧〕 寛五22才
 寛六20ウ 寛七39ウ
 の
 濃波〔肥前〕 寛四3才
 は
 破衣〔能登能登部〕 寛四19ウ 寛八2才
 寛八8ウ
 梅英〔南山城平川〕 寛一6ウ 寛二4ウ
 梅塙〔出羽秋田〕 寛七13ウ 寛七14ウ
 佩霞〔筑前福岡〕 寛九17才
 梅價〔南山城伏見〕 寛六40ウ 寛八54才
 寛八55才 寛九1才 寛九37才
 梅旭〔紀伊南部〕 寛四27ウ
 梅岐〔安房前原〕 寛四23才 寛六18才
 梅喜〔安房磯村〕 天六10才 寛一2才
 梅曉〔加賀〕 寛四12才
 梅曉〔周防引野〕 寛七43才

ばい〜はく

梅月〔長門舟木〕 寛六30才 寛八45ウ	梅二房〔伊勢津部田〕 天六8才	梅廬〔筑前甘木〕 寛五33才	柏舟〔伊賀上野〕 寛十3ウ
梅月庵↓坡仄〔伊勢山田〕	寛七22ウ 寛八24才 寛九16才	波弓〔越中福光〕 寛四36ウ	白志〔筑前芦屋〕 寛七29ウ
梅好〔信濃飯田〕 寛七21才	寛十32ウ	巴橋〔喬〕〔南山城深草〕 寛二5才	白賞 寛七45才 寛八53ウ 寛九25才
梅江〔肥前諫早〕 寛四3才 寛五36才	梅人〔筑前〕 寛一10ウ	巴橋〔相模室田〕 寛十29才	白児〔出羽左沢〕 寛九8才
寛六34ウ 寛七41ウ 寛八52才	梅人〔江戸〕 寛九28才	破巾〔能登〕 寛九1ウ 寛九7才	麦四〔上野厩橋〕 寛七10ウ 寛九15ウ
寛十13ウ	梅成〔陸奥津輕黒石〕 寛四6ウ	寛十1ノ2才 寛十27ウ	寛十30才
梅居〔丹後河守〕 寛四26ウ 寛六27才	梅仙〔近江辻村〕 天六6才 天七7才	白移〔筑前植木／直方〕 寛五33ウ	麦子〔南山城伯〕 寛二4才 寛二21ウ
寛十36才	寛一2ウ	寛六34才 寛七28ウ	寛三22才 寛四30ウ
梅五〔若狭〕 天六9ウ	梅窓〔陸奥仙台〕 寛九20ウ	白羽〔讃岐〕 寛三19ウ 寛四36ウ	麦子〔長門〕 寛二15ウ 寛六32才
梅五〔京北野〕 天七5ウ	梅中〔陸奥津輕黒石〕 寛五15ウ	白羽〔武蔵入間ノ里〕 寛九6才	麦秀〔能登黒島／綿川〕 寛二12才
梅五〔甲斐飯野〕 寛八31才 寛九29ウ	寛六15ウ 寛九33才	麦雨〔但馬朝来山〕 寛五42才	寛三14ウ 寛四19才 寛六7ウ
寛十34才	梅店〔甲斐暮地〕 寛八30ウ	白英〔上野草津〕 寛八15才 寛八17才	寛六10才 寛七7ウ 寛八7ウ
梅山〔近江勝部〕 寛三8ウ	梅童〔長門〕 寛六32ウ 寛八44ウ	寛九5才	寛十6ウ 寛十8ウ
梅山〔涯州〕 寛五40ウ	梅破〔安房〕 寛三7ウ	麦栄〔京〕 天七2才	麦秀〔越中奈古／放生津〕 寛三15ウ
買山〔伊豆八幡野〕 寛七19才	梅扉〔長門厚狹〕 寛九23ウ	白河〔相模三増〕 寛七19才	寛四21才 寛五12才 寛六11才
梅司〔尾張城南〕 寛七3ウ 寛七23才	梅夫〔越中〕 寛五11才	白我〔南山城八幡〕 寛八56ウ 寛九8才	麦秀〔伊勢〕 寛四15ウ
梅司〔浪花〕 寛八34ウ	梅仏〔安芸広島〕 寛十4才	白鷺〔肥前諫早〕 寛四3才 寛五34ウ	麦秀〔但馬芝村〕 寛十21才
梅支〔近江彦根〕 天六6ウ	梅甫〔江戸〕 寛九28才	麦花〔近江八幡〕 寛八4ウ	麦二〔信濃上田〕 寛六43才
梅支〔越中〕 寛五11ウ	梅邦〔浪花〕 寛九26才	麦雅〔浪花〕 天六11才	麦丈〔大和郡山〕 寛六24ウ 寛七23ウ
梅枝〔肥前諫早〕 寛四3ウ 寛五35才	梅眠〔能登〕 寛二12才	泊鳩〔加賀〕 寛四12才	伯水〔信濃下県〕 寛六20才
寛六35才 寛七41ウ 寛八52才	梅夜〔甲斐〕 寛四39才	白亀〔美作弓削〕 寛七42才 寛八37才	柏翠〔近江八幡山〕 寛九21才
寛十14才	梅里〔丹後〕 天六12才	白亀〔信濃長瀬連〕 寛九11才	白石〔肥前〕 寛十26才
梅枝〔能登富木僧〕 寛七8才	梅里〔伊予西条〕 寛六28ウ 寛七27才	白義〔加賀〕 寛三14才 寛四12才	白雪〔越中高岡〕 寛六12才 寛八10ウ
梅枝〔上野草津〕 寛七42才	寛八41ウ	麦牛〔近江〕 寛五5才	寛九34才
梅斜〔南山城伏見〕 寛二2才 寛六40ウ	梅林〔甲斐山寺〕 寛六19才	白質〔上野本宿／西牧〕 寛四29才	白選〔武蔵粉川〕 寛五14才 寛六17才
寛八57ウ	梅嶺〔加賀金沢〕 寛三13才 寛四14ウ	寛五13才 寛八13ウ 寛九12ウ	白川〔近江大津〕 寛五40才
梅梢〔長門舟木〕 寛六30才 寛八45才	梅路〔肥前諫早〕 寛四3ウ 寛五35才	剥笑〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ	白泉〔肥後〕 寛五40才
梅児〔梅二〕〔近江深川〕 寛七4才	寛六35ウ 寛七30才 寛八52ウ	柏子〔近江〕 天六6才	麦盛〔近江〕 寛三9才
寛八57才	寛九35才 寛十29ウ	柏舟〔加賀〕 寛四12ウ 寛八65ウ	白岱〔京〕 天六初ウ

白黛〔京〕 天六3才 天七14才
 寛一9才 寛三23ウ 寛四1才
 寛四33ウ 寛五2ウ 寛五45才
 寛六40ウ 寛七2ウ 寛七37ウ
 寛八序ウ 寛八61ウ 寛九1才
 寛九39ウ 寛十一1ノ2才
 寛十27ウ
 麦岱〔武蔵入間ノ里〕 寛九6ウ
 麦太〔若狭〕 天六9ウ
 白雉〔丹波黒井〕 寛八37ウ
 柏庭〔浪花〕 寛九36ウ
 麦田〔上野厩橋〕 寛八14才
 白斗〔上野大原〕 寛十5ウ
 佰〔陌〕洞〔甲斐山ノ神〕 寛七41才
 寛八29ウ 寛九19才 寛十34才
 麦杜〔能登能登部〕 寛四20ウ 寛五10ウ
 寛六11才 寛七44才 寛十21ウ
 麦奴〔上野厩橋〕 寛八14才
 泊帆〔浪花〕 寛七23ウ
 白眉〔京〕 寛四1ウ
 白布〔若狭藤井〕 寛一3ウ
 麦風〔加賀柏野〕 天六10ウ 寛三12ウ
 寛五7才 寛六6ウ 寛八7才
 白木〔越中海老江村〕 寛八10才
 寛九13ウ
 麦甫〔上野厩橋〕 寛八18才
 白麻〔越中〕 寛六12才
 白夢〔肥前島原〕 寛十26才
 麦明〔上野厩橋〕 寛七10才
 柏茂〔能登宇出津〕 寛四13才

柏茂〔武蔵秩父吉田町〕 寛八18ウ
 柏由〔近江駒井沢〕 天六7才 天七7才
 寛一3才 寛二7才 寛三3才
 寛三8才 寛四1才 寛四24才
 寛五3才 寛五5ウ 寛六5才
 寛七40才
 白遊〔長門〕 寛二15ウ
 柏葉〔南山城深草〕 寛二5才 寛五43ウ
 白楊〔越中潟口〕 寛九34ウ
 柏梁〔伊勢相可〕 寛十32才 寛十32ウ
 柏嶺〔京〕 寛九40ウ
 白鯉〔陸奥仙台連〕 寛九31才
 白狼〔肥前島原〕 寛九24才
 白老〔越中放生津〕 寛三16才 寛四21才
 寛五12才 寛六11ウ 寛八12才
 寛九10才 寛九17才 寛九32ウ
 寛十31ウ
 白輅〔遠江浜松〕 寛一3ウ 寛二17ウ
 寛三6ウ 寛四27才 寛五23才
 寛六42才 寛七19ウ 寛八23ウ
 寛九13才
 坡君〔安房磯村〕 寛一2才
 馬群〔能登輪島〕 寛三15才
 波月〔長門舟木〕 寛五31才 寛六30才
 巴孝〔大坂松花連〕 寛一6才
 波光〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才
 寛七43ウ
 馬公〔加賀金沢〕 寛八6才
 はこふ〔丹波園部〕 寛一4ウ 寛二5ウ
 婆娑〔在京〕 寛五46ウ

巴三〔尾張〕 寛十33ウ
 巴州〔加賀金沢〕 寛九22ウ 寛十28ウ
 馬樹〔備後〕 寛一5才
 馬十〔越中氷見〕 寛三16才 寛四22ウ
 寛七9ウ 寛九21ウ
 波松〔備後三原〕 寛六29才
 巴丈〔能登諸橋〕 寛四15才
 芭蕉↓翁
 馬杖〔備後〕 寛二14才
 馬丈〔越中高岡〕 寛四20ウ
 巴水〔南山城八幡〕 寛八57才
 馬吹〔丹後宮津〕 寛十一1ノ1ウ
 寛十27才
 馬水〔加賀〕 寛四12才
 波声〔肥前有田〕 寛八49ウ 寛九24才
 波静〔若狭〕 寛二10ウ
 玻井〔獅子窟〕〔能登黒島〕 寛二11ウ
 寛三14ウ 寛四19才 寛五8才
 寛六7ウ 寛六10才 寛七7ウ
 寛八7ウ 寛九26ウ 寛十序1ウ
 寛十序1ウ 寛十6才 寛十8才
 馬成〔豊前小倉〕 天七12ウ
 馬雪〔試測〕〔南山城佐山〕 天七5ウ
 天七5ウ 寛三22才 寛四30才
 馬曹〔伊勢四日市〕 天六9ウ
 寛三6ウ 寛六21ウ
 坡灰〔梅月庵〕〔伊勢山田〕 寛九31ウ
 秦夫〔南和〕〔南山城寺田〕 天七5ウ
 寛三22才 寛四30才 寛六37ウ
 寛六37ウ

八矢〔越前丸岡〕 寛九19ウ
 八龍〔伊予道前〕 寛七27ウ
 白花〔肥前〕 寛十26才
 白窟〔義風〕〔但馬生野〕 寛六27ウ
 寛七25才 寛七25才 寛八38才
 白圭〔上野〕 寛三11才
 白慶〔江戸〕 寛九27才
 怕乎〔加賀野瀬〕 寛八7才
 馬風〔信濃〕 寛六21才
 馬仏〔加賀金沢〕 寛二11才 寛四13才
 寛四29才 寛八5ウ 寛九14才
 波文〔涯州〕 寛五41才
 馬來〔加賀金沢〕 天六10ウ 寛二11才
 寛三14ウ 寛四11才 寛六6ウ
 芭洛〔京〕 寛六42ウ
 杷柳↓杞柳〔京〕
 巴流〔信濃飯田〕 寛七21才
 巴龍〔京〕 寛三3才 寛三24才
 巴龍〔周防山口〕 寛六31才
 巴龍〔若狭小浜／在京〕 寛六26ウ
 寛八57ウ
 巴凌〔京〕 天六3才
 巴凌〔備中倉敷〕 寛五27才
 巴陵〔若狭西津〕 寛三12才 寛四25ウ
 巴陵〔能登僧〕 寛四16才 寛十8才
 馬涼〔能登黒島〕 寛二11ウ 寛三15才
 寛四18ウ 寛四20才 寛五8ウ
 寛六8才 寛六9ウ 寛七7ウ
 寛八8才 寛十6ウ 寛十8才
 馬蓼〔京〕 寛五44ウ

巴楼〔信濃〕 寛六20ウ
 巴六〔京〕 寛三23才
 馬六〔出羽〕 寛五16ウ
 飯厨〔相模赤羽村〕 寛六16才
 凡翁〔河内楠葉〕 寛八29才
 凡化〔信濃善光寺〕 寛八33才 寛九36才
 梵外〔京〕 寛五46才
 万果〔肥前島原〕 寛十16才
 万化〔伊勢津部田／安濃津〕
 天六8才 天七14才 寛一10ウ
 寛三5ウ 寛七23才 寛八23ウ
 寛八25才 寛八26才 寛八26ウ
 班鳩〔近江栗津義仲寺〕 寛七39ウ
 寛八56才 寛九10ウ
 半橋〔肥後〕 寛四5ウ 寛五37ウ
 半古〔肥前長崎〕 寛八49ウ
 万戸〔肥後〕 寛四4ウ
 万戸〔上野島村〕 寛六13ウ 寛七11ウ
 寛八13才 寛九7才
 万戸〔肥前伊福〕 寛十23才
 万鼓〔石見日原〕 寛四36ウ
 斑山〔京〕 寛五46ウ
 凡十〔大坂／安芸〕 寛一6才 寛二14ウ
 寛三19才 寛四22ウ
 凡二〔京〕 寛二1才 寛二21才
 寛六40ウ 寛七36ウ 寛八59ウ
 寛十1才
 凡二〔上野宮崎〕 寛五12ウ 寛八12ウ

幡水〔四山亭〕〔伊勢白子連・御園〕
 天六7ウ 天七9才 天七9才
 寛二9才 寛四15才 寛五1ウ
 寛五1ウ 寛五2才 寛五23ウ
 寛六21ウ 寛七45才 寛八24ウ
 伴水〔京〕 寛八58ウ
 伴水〔伊勢〕 寛四15ウ
 伴水〔甲斐暮地〕 寛八30才
 万井〔武蔵本庄〕 寛五19ウ 寛六31ウ
 万井〔月窓亭〕〔長門赤間関〕 寛八41ウ
 寛八42ウ 寛八43才 寛八43ウ
 寛八44才 寛八44ウ 寛八45才
 寛八45才
 万井〔伊勢〕 寛十16才
 万井〔肥前〕 寛七38ウ
 万井 寛七30ウ 寛十32ウ 寛十33才
 万遷〔能登〕 寛四20才
 半素〔相模猿ヶ島〕 寛九5才
 半直〔能登輪島〕 寛八54才
 凡鳥〔陸奥津軽〕 寛六16才 寛九33才
 万夫〔肥前島原〕 寛十15ウ 寛十16才
 絆梅〔京〕 寛六39才
 幡楓〔下野栃木〕 寛七12ウ
 班狸〔南山城八幡〕 寛九8才
 凡林〔信濃〕 寛六21ウ 寛八33ウ
 幡榴〔筑前〕 寛三20才
 幡龍〔越中〕 寛六11ウ

ひ

微日〔江戸〕 寛九27ウ
 飛音〔肥前諫早〕 寛六35ウ
 微斤〔能登〕 寛四17才
 美敬〔甲斐古市場〕 寛二18才
 寛五21才 寛八31才
 ひさ〔筑前直方〕 寛七28ウ
 眉山〔京／加賀金沢／江戸／近江武間〕
 寛一8ウ 寛二4才 寛二21才
 寛三23ウ 寛四2才 寛四19ウ
 寛五6ウ 寛五16ウ 寛七5ウ
 寛八7ウ
 尾山〔肥前〕 寛四3ウ
 美山〔浪花〕 寛七42ウ
 鄙雀〔京〕 天六3ウ 寛一7ウ
 眉尺〔能登〕 寛十24才
 美水〔加賀能瀬〕 寛八6ウ
 飛声〔越前〕 寛十9ウ 寛十10才
 匪石〔江戸〕 寛五19才
 比雪〔長門赤間関〕 寛二15ウ 寛五32才
 飛川〔近江彦根〕 天七8才 寛十23才
 尾双〔近江江頭村〕 寛五5ウ
 比竹〔豊後夷〕 寛八51才
 美長〔出羽秋田六郷〕 寛五16才
 俾水〔信濃飯田〕 寛五22才
 必藏〔京〕 寛四31ウ
 一二三〔京〕 寛二2ウ 寛二21才
 寛七35ウ

百栄〔京〕 天六2才
 百鯨〔江戸〕 寛三4才
 百柿〔江戸〕 寛五17才
 百之〔加賀金沢〕 寛八6才
 百尺〔下野間中〕 寛十35才
 百尔〔能登〕 寛四18才 寛五11ウ
 寛十24ウ
 百尔〔越中泊〕 寛七9ウ
 百児〔肥後〕 寛四5才
 百樹〔周防上ノ関〕 寛四28ウ 寛六29ウ
 百静〔江戸〕 寛三3ウ 寛五17才
 百川〔越中高岡〕 寛八12才
 百池〔大来堂〕〔京〕 寛一7才
 寛二口ノ1ウ 寛二3才 寛三2ウ
 寛三24才 寛四1ウ 寛四34才
 寛五2ウ 寛五47才 寛六2才
 寛六38才 寛七1ウ 寛七1ウ
 寛七3才 寛七34ウ 寛八序ウ
 寛八60ウ 寛九1才
 寛十1ノ2才 寛十27才
 百鳥〔京〕 寛二2ウ 寛四31ウ
 百道〔江戸〕 寛九27才
 百馬〔若狭小浜〕 寛二10才 寛三11ウ
 寛四25ウ
 百尾〔丹後宮津〕 寛十1ノ1ウ
 寛十27才

百哺〔南山城醍醐〕 天六4ウ 天七5ウ

寛一6ウ 寛二5才 寛三22才

寛四38ウ 寛五2才 寛五43ウ

寛六45才 寛七2才 寛七31ウ

寛八56才

百明〔京〕 天六3ウ

百来〔加賀〕 寛四12ウ

百和〔播磨〕 寛二13ウ

百花〔伊勢山田〕 寛九31才

百稀〔江戸〕 寛三3ウ

百機〔江戸〕 寛三3ウ

百几〔能登宇出津〕 寛四13才

百恐〔江戸〕 寛九26才

百壺〔豊後安岐谷〕 寛九4才

評一〔上野宮崎〕 寛四34ウ

瓢舟〔但馬夏梅村〕 寛八38才

瓢亭〔伊勢〕 寛十16才

瓢馬〔陸奥八戸〕 寛七13才

瓢風〔備後布野〕 寛八38ウ

翡翠〔甲斐小笠原〕 寛五21ウ

日和良〔武蔵三峰山／秩父〕 寛八21才

寛十21ウ

ふ

風逸〔加賀津幡〕 天七13才 寛四14ウ

寛八5ウ

風化〔江戸〕 寛六16ウ 寛七34才

寛九27才 寛十22才

風壺〔筑前若松〕 寛七29才

楓国〔桃洞〕〔伊予道前〕 寛七27ウ

楓左〔周防陶〕 寛七43才

楓沙〔京〕 寛四31ウ

楓色〔出羽秋田女〕 寛七14ウ

富之〔陸奥津軽黒石〕 寛五15ウ

寛九33才

風子〔信濃飯田／林〕 寛八33ウ

寛九7ウ 寛十11ウ

風手〔加賀〕 寛四37才

楓梁〔伊予西条〕 寛七27才 寛八41才

不可〔信濃長瀬連〕 寛九10ウ

布館〔筑前甘木〕 寛七28ウ 寛八48才

寛九6ウ 寛十23ウ

不朽〔大和〕 天七14才

不朽〔京〕 寛二1才 寛二20ウ

寛三2ウ 寛三24才 寛四1才

寛四32才 寛五45才

不休〔浪花〕 寛四29才 寛五25ウ

寛六44才

不及〔伊勢山田〕 寛八53ウ 寛九31ウ

不吸〔上野厩橋〕 寛八14才

不求〔甲斐藤田連〕 寛九18ウ

富久〔甲斐鍛冶軒居〕 寛九19才

不玉〔下野内西方〕 寛九33才

福二〔陸奥仙台〕 寛九20ウ 寛十18才

福水〔丹後網野〕 寛七24ウ

富彦〔伊予西条〕 寛七27才

不才〔京〕 寛七2ウ 寛七36才

寛八1ウ 寛八60ウ 寛九2ウ

寛九38ウ

斧山〔信濃長瀬連〕 寛九11才

富春〔上野宮崎〕 天六11才 寛三10才

寛五12才 寛六13才 寛七11才

寛八12ウ

不舟〔浪花〕 寛六25ウ

布舟〔播磨高砂〕 天六12ウ 天七4才

孚湫〔対馬／在朝鮮〕 天七13才

寛三21ウ 寛四27才 寛五41才

寛六42才 寛七30ウ 寛八51ウ

寛九35ウ 寛十3ウ

不十〔浪花〕 天六11才

蕪城〔大坂〕 寛七40才 寛八34才

寛九8才

蕪人〔甲斐〕 寛四39ウ

不成〔豊前小倉〕 寛八49才 寛八62ウ

寛八64ウ

不石〔越中〕 寛二22才

富雪〔美作倉敷〕 寛六28才 寛七26才

寛八37才

富雪〔播磨姫路〕 寛八36才

夫雪〔甲斐布施〕 寛十34才

蕪雪〔筑前芦屋〕 寛七29ウ

不染〔河内楠葉〕 天六5才

不染〔能登〕 寛四18才

婦川〔甲斐小沼〕 寛九11ウ

普撰〔江戸〕 寛九28才

不存〔越中福野〕 寛七9才

ふたけ〔甲斐〕 寛十34ウ

不知哉〔越中高岡〕 寛八12才

釜朝〔越中〕 寛八10ウ

仏更〔陸奥八戸〕 寛六42ウ

物載〔尾張〕 寛四27ウ

仏大〔南山城醍醐〕 寛四30ウ

仏平〔陸奥八戸〕 寛七13才

不白〔肥後八代〕 寛五37才

夫木〔京〕 天六1ウ

不木〔京〕 寛三2才 寛三24才

玦卜〔能登黒島〕 寛二11才 寛三14ウ

寛四18ウ 寛五8才 寛六7ウ

寛六10才 寛七7才 寛八7ウ

寛九26ウ 寛十6才 寛十8ウ

ふみへ〔安芸広島〕 寛九9ウ

ふもと〔備後布野〕 寛九31ウ

不尤〔周防嘉川〕 寛六30ウ 寛七43才

布遊〔能登黒島女〕 寛三14ウ

寛四18ウ 寛五8才 寛六8才

寛六10才 寛七7ウ 寛八7ウ

寛九26ウ 寛十6ウ 寛十8ウ

浮遊〔京〕 寛四1才 寛四34才

武菱〔江戸〕 寛八21才

武陵〔丹波〕 寛六27才

旧国〔大坂〕 寛三21ウ 寛六3才

寛六25才

文允〔筑前若松〕 寛九16ウ

文詠〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ

文瓜〔南山城八幡〕 寛八57才

文化〔下野〕 寛四28ウ

文花〔近江八幡〕 天七7ウ

文賈〔長門赤間関〕 寛五31ウ

文賈〔長門赤間関〕 寛五31ウ

文玠〔能登〕 寛二11ウ 寛十6ウ
 寛十8ウ
 文賀〔下野〕 寛四28ウ
 蚊几〔能登富木〕 寛七8才 寛九16ウ
 文几〔加賀〕 寛五6ウ
 文亀〔越中高岡／今石動〕 寛四22才
 寛八10ウ 寛八12才
 文杏〔出羽〕 寛四7才
 文興〔陸奥〕 寛六15ウ
 文夔〔甲斐下山〕 寛七19ウ
 文暁〔肥後八代〕 寛二17才 寛五37才
 寛八50ウ
 文茎〔浪花〕 寛八34ウ
 文絹〔武蔵本庄女〕 寛五20才
 文虎〔丹波水上〕 天六9才
 文江〔越中〕 寛四21ウ
 文耕〔信濃塩名田〕 寛五22ウ 寛六20才
 寛七20才 寛八32才
 文考〔江戸〕 寛九28ウ
 文考〔下総水海道〕 寛九29才
 文谷〔備中吉備〕 寛五27才
 文左〔筑前本木〕 寛九16ウ
 文山〔肥後熊本〕 寛五38才
 文山〔近江高島町野田〕 寛七5ウ
 寛八4才
 文之〔近江水口〕 寛七4才
 文之〔筑前若松〕 寛七29才
 文士〔肥前島原〕 寛五37才
 文士〔能登羽坂〕 寛七8ウ 寛九12才
 文舎〔武蔵秩父宮沢〕 寛八20ウ

文尚〔長門厚狹〕 寛六29ウ 寛八45ウ
 文樵〔丹波〕 寛二5ウ
 文若〔肥前〕 寛四3才
 文重〔備中八重村〕 寛五27ウ
 文推〔京〕 天六4ウ
 文推〔筑前風羅堂下〕 寛八48才
 文翠〔陸奥八戸〕 寛七13才
 文顯〔加賀僧〕 寛三14才 寛四11才
 文屑〔浪花〕 寛五25ウ 寛六44才
 文石〔陸奥〕 寛四6才
 文川〔長門赤間関〕 寛五32才
 文泰〔越後白根〕 寛六12ウ
 文倍〔伊勢〕 天六8ウ
 文倍〔肥前神代〕 寛八50ウ
 文知〔智〕〔肥前〕 寛四4才 寛五36才
 文中〔能登千路〕 寛四19ウ
 文兆〔信濃善光寺〕 寛七22才
 寛八33才 寛九36才
 文朝〔能登黒島〕 寛二11ウ 寛三15才
 寛四18ウ 寛五8才 寛六8才
 寛六9ウ 寛七7ウ 寛八8才
 寛十6才 寛十8ウ
 文塘〔肥前諫早〕 寛二17ウ 寛四3ウ
 寛五36才 寛六35ウ 寛七30才
 寛八53才 寛九35ウ 寛十29ウ
 文涛〔信濃佐久郡塩名田〕 寛四38才
 寛五22ウ 寛六20才 寛七20ウ
 寛八32才
 文堂〔京〕 天六2ウ
 文童〔京〕 天七1ウ

文波〔伊勢津〕 天六8ウ
 文眠〔但馬生野〕 寛六27ウ 寛七24ウ
 寛八38才
 間明〔石見〕 寛六41ウ
 文由〔安芸〕 寛十4才
 文遊〔能登〕 寛二11ウ
 文雄〔出羽〕 寛七13ウ 寛七14ウ
 文鯉〔筑前若宮〕 寛四9ウ 寛六33ウ
 寛七29才
 文里〔備中笠岡〕 天六10才 天七12才
 寛三17ウ 寛四26才 寛五28才
 寛八38ウ 寛十25ウ
 文里〔筑前飯塚〕 寛三21才 寛四9ウ
 文里〔肥後〕 寛五40才
 文龍〔出雲松江〕 寛十3才
 分路〔越中〕 寛四21才
 文路〔能登田鶴浜〕 寛七8ウ 寛八9才
 文路〔武蔵秩父宮沢〕 寛七16ウ
 寛八20ウ
 文和〔上野〕 寛九9ウ

へ

平虚〔伊勢山田〕 寛十31ウ
 米器〔上野厩橋連鼻毛石〕 寛八17才
 寛九15才
 米丘〔上野東箱田〕 寛九15才
 米駒〔京〕 寛六3才 寛六41才
 寛七3ウ 寛七38才 寛八62才
 寛九3才 寛九38ウ

ほ

米砂〔木兎庵〕〔上野厩橋〕 寛五14ウ
 寛六14才 寛七10ウ 寛八18才
 寛八18才 寛九16才 寛九16才
 寛十30ウ
 平松亭↓有聲〔信濃長瀬〕
 米充〔上野荒口〕 寛八17ウ 寛九15ウ
 米二〔伊勢〕 天六8才
 平水〔南山城天神森〕 寛四30ウ
 寛六37ウ 寛七31ウ 寛八56才
 米鼠〔上野東箱田〕 寛九15才
 米倉〔上野関〕 寛八17ウ 寛十30才
 米槽〔上野田雁〕 寛八17ウ
 平吞〔京〕 天六1才 天七1才
 寛二20才 寛三23才 寛六2ウ
 寛六38ウ 寛七2ウ 寛七34ウ
 寛八1才
 米度〔上野荒口〕 寛十30才
 碧水〔肥後〕 寛五40才
 壁斗〔越中〕 寛二12ウ 寛三16ウ
 ノへ〔近江田川〕 寛六43ウ 寛七44ウ
 変白〔周防上関〕 寛五30ウ
 蝙蝠〔備後上下〕 寛七25ウ

蚌玉〔近江石部〕 寛八3才
 方広〔京〕 寛八58才
 方壺〔遠江入野〕 寛八23ウ
 芳壺〔安芸川尻〕 寛五29才
 蓬戸亭↓壺仙〔越中高岡〕
 豊耕〔上野川原湯温泉〕 寛八13才
 芳杉〔筑前風羅堂下〕 寛八48才
 保山〔大坂松花連〕 寛一6才
 芳山〔肥後長峰〕 寛五38才 寛六36才
 方舟〔加賀〕 寛七6ウ
 方舟〔甲斐一町田中〕 寛七42才
 寛九4才
 方舟 寛六45才
 芳志〔近江八幡〕 寛八57ウ 寛九21才
 寛十18ウ
 芳洲〔肥前神代〕 寛九24ウ 寛十22ウ
 鳳洲〔安芸御手洗〕 寛五29ウ
 芳水〔肥前〕 寛十23才
 豊水〔甲斐暮地〕 寛八30ウ
 弼水〔江戸〕 寛九28ウ
 鳳声〔江戸〕 寛六16ウ 寛七34才
 鳳爪〔武蔵〕 寛二18ウ
 鳳沖〔石見〕 寛二14ウ 寛五41ウ
 矛滴〔伊勢〕 寛四15ウ
 方明〔尾張名古屋原〕 寛八18ウ
 邦明〔能登富木〕 寛七8ウ
 蜂友〔浪花〕 寛六25才
 芳笠〔肥前諫早〕 寛五34ウ 寛七30才
 寛八53才 寛九35才
 鳳里〔伊勢亀山〕 寛五24才

保久二〔甲斐山ノ神〕 寛九18ウ
 北雁〔加賀〕 寛三13ウ 寛四11才
 寛六7才
 卜史〔越中〕 寛四21ウ
 卜子〔河内私市〕 寛九23才 寛十28才
 卜舟〔加賀〕 寛三12ウ 寛四37才
 寛十4ウ
 卜之〔安房七浦〕 寛九3ウ
 牧之〔越後塩沢〕 寛九3ウ 寛十13才
 卜尔〔能登田鶴浜〕 寛五9才
 北翠〔若狭〕 寛三12ウ
 北翠〔能登川尻〕 寛八9ウ
 墨水〔備後三原〕 寛六29才
 北生〔能登能登部〕 寛四19才
 北川〔越後塩沢〕 寛九3ウ
 卜貞〔陸奥〕 寛四6才
 牧父〔甲斐〕 天六11ウ
 朴風〔筑前〕 寛三20ウ
 卜木〔加賀金沢〕 寛八7才
 北洋〔丹後琴弾浦〕 寛六27才
 北嶺〔近江万木〕 寛八4才 寛九6ウ
 寛十28ウ
 浦圭〔陸奥〕 寛四6才
 蒲月〔京〕 寛四33ウ
 牡厚〔信濃善光寺〕 寛八33才
 甫山〔石見〕 寛二15才
 菩山〔京〕 寛四32才 寛五44才
 圃〔甫〕丈〔近江高島郡舟木〕
 天七6ウ 寛一2ウ 寛二8ウ
 寛四24才 寛六4才

甫尺〔京／行脚〕 天六2ウ 天七4才
 寛四38ウ 寛五3ウ 寛五45才
 寛六39ウ 寛八53才 寛九39才
 寛十26ウ
 補石〔若狭能登野〕 天七11才
 浦雪〔長門赤間関〕 寛六33才 寛八43才
 甫雪〔京〕 寛十1才
 北華 寛八1才 寛八53才
 北海〔越中久々江〕 寛九34ウ
 墨古〔京〕 寛八2才 寛八61才
 暮来〔丹波上田〕 寛九22ウ
 甫立〔越前〕 寛十9才 寛十11才
 暮留〔能登〕 寛四15才
 暮臘〔能登七尾所口村〕 寛二12才
 寛三14ウ 寛四16ウ 寛五3才
 寛五8ウ 寛八10才 寛十24才
 寛十24ウ

ま

埋木〔周防室津〕 寛九32才
 磨牛〔豊後〕 寛二17才
 麻三〔甲斐一町田中〕 寛九4才
 ます〔長門〕 寛二15ウ
 真菅〔南山城杜多〕 寛二20才
 寛三22才 寛八55ウ
 真須魚〔甲斐〕 寛六19才
 真都魚〔甲斐小笠原〕 寛六19ウ
 万都斗〔まつと〕〔筑前黒崎〕 寛三20ウ
 寛八48ウ

み

松丸〔京〕 寛一8ウ
 真都良〔甲斐飯野〕 寛六19ウ 寛七41ウ
 寛八31才 寛十33ウ
 真洞〔真帆良〕〔甲斐浅原〕 天六11ウ
 寛五21ウ 寛六19才 寛七40ウ
 寛八29ウ 寛九19ウ 寛十33ウ
 満里〔讃岐〕 寛三19ウ 寛四37才
 未央〔大和郡山〕 寛六24ウ
 未角〔近江堅田／大津〕 寛一3才
 寛二6才 寛四24才 寛五4ウ
 未塵〔伊賀上野〕 天七5才 寛三5ウ
 寛六26才 寛九20才
 三千雄〔讃岐大野〕 寛五26才
 三千国〔上野坂本〕 寛五13ウ
 三千彦〔江戸〕 寛七17ウ 寛八22才
 みつ女〔武蔵本庄〕 寛四25ウ 寛五19ウ
 未物〔京〕 寛八2ウ 寛八65才
 みほ〔京〕 天六2ウ
 未来〔能登〕 寛十24才 寛十24ウ
 みわ女〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ
 寛八9ウ
 民化〔武蔵粉川〕 寛五13ウ 寛六17才
 眠江〔京〕 天六3才
 珉〔眠〕山〔伊勢上田／在大阪〕
 寛二9才 寛三6ウ 寛四16才
 寛五24才 寛七42ウ 寛十3才
 岷山〔甲斐市川〕 寛四28才 寛五21ウ

みん〜ゆっ

眠山〔信濃岩村田〕 寛八33ウ 寛九37才
民子〔近江〕 寛五4ウ
眠石〔伊豆伊浜〕 寛十4才
眠人〔石見佐和谷〕 寛六28才 寛七40才
民友〔武蔵金久保〕 寛六16ウ 寛七17才
眠霊〔伊賀名張〕 寛一1ウ 寛二8ウ
寛四14ウ
眠和〔加賀金沢〕 寛五6才 寛八6ウ
寛九13才 寛十28ウ

む

夢庵〔加賀金沢〕 寛十5才 寛十28ウ
むゐ女〔能登田鶴浜〕 寛五9ウ
寛八9才

夢応〔肥前島原〕 寛十23才
無涯〔備中倉敷〕 寛五27才 寛七25才
寛八65ウ

麦丸〔美作久世〕 寛五42才 寛六27ウ
夢客〔京〕 天七2ウ
無牛〔伊勢朝熊岳〕 寛八26才
無曲〔伊勢白子地家〕 天六7ウ

天七9才 寛一2才 寛二9ウ
寛三5ウ 寛四16才 寛五24ウ
寛六44ウ 寛七22ウ 寛八28ウ
寛十26ウ

夢月〔肥後甲左〕 寛五39才
無心〔周防山口〕 寛六31才 寛七43ウ
無塵〔武蔵勅使河原〕 寛六17才
寛七46ウ 寛八20ウ 寛九5ウ

無諍〔丹後河守〕 寛四26ウ
夢中斎〔上野安中〕 寛七11才 寛九36ウ
無兆〔南山城〕 寛十13才

無轍〔肥前大村〕 寛七30ウ
無徳〔近江上田〕 寛七5才
夢半〔上野〕 天七13ウ

夢明〔浪花〕 寛四29ウ
無名〔甲斐山寺釈〕 寛六19才
寛七41才

夢友〔京〕 寛一7才 寛二12ウ
寛三22ウ

無友〔伊勢〕 寛四15ウ
むら女〔信濃今岡〕 寛八32才

め

明五〔京〕 天七1ウ
明川〔京〕 寛五46才

鳴泉〔石見大森〕 寛八36ウ
冥々〔陸奥〕 寛九36才
明々〔備後府中〕 寛五28才 寛七25ウ
寛八39才

も

明羅〔周防下津令〕 寛五30才 寛六30ウ
毛拳〔桃溪〕〔近江〕 寛五4ウ
寛六43ウ 寛六43ウ

木越〔丹後田辺〕 天六12才 寛八37ウ
木姿〔但馬〕 寛九7才

木耳〔筑前木屋瀬〕 寛四10才 寛五34才
寛六34才 寛八49才 寛九30ウ
寛十29才

木腸〔豊前小倉〕 天七12ウ 寛二16ウ
木貞〔京〕 寛六2ウ 寛六40才
寛七2ウ 寛七36ウ 寛八1ウ
寛八61才 寛九1ウ 寛九38才

木兎庵↓米砂〔上野厩橋〕

木鳴〔能登〕 寛一1ウ 寛一9才
木葉〔雲和〕〔京〕 寛八62才

木鬼〔近江立法師村〕 寛七5ウ
木工〔上野〕 寛九9才
模稜〔長門赤間関〕 寛四36才

や

野芹〔加賀〕 寛四11才
約我〔遠江浜松〕 寛一4才 寛二17ウ
寛三6ウ 寛五23才

約我〔近江辻村〕 寛四23ウ
八雲〔浪花〕 寛七46才
野恵〔近江〕 寛六4ウ

野雀〔下野〕 寛四28ウ
野秀〔信濃佐久桜井〕 寛七20ウ
寛八32ウ

也是〔信濃野沢〕 寛七20ウ
夜雪〔上野草津〕 寛五13才 寛六13才
寛七33ウ

桮鳥〔能登〕 寛四19ウ
野笛〔京〕 寛三2才

桮東〔能登黒島〕 寛五8才 寛七7ウ
寛十6才 寛十8ウ

野梅〔肥後八代〕 寛五37才
夜卜〔但馬千原〕 天六9ウ
野陽〔筑前福岡〕 寛八48ウ

ゆ

ゆふ〔筑前〕 寛四9才
遊鶴〔京女〕 天七3才 寛一8才

幽雅〔子坤〕〔備前岡山〕 寛三17ウ
寛四26才 寛六3才 寛六28ウ
寛七25才 寛七25才 寛八38ウ

右魚〔陸奥仙台連〕 寛九30ウ
友卦〔越中〕 寛四21才
熊谷〔近江清水鼻〕 寛八4ウ

友光〔河内私部〕 寛九23才
友国〔浪花〕 寛九23才
遊虎〔肥後八代〕 寛五37才
邑戸〔加賀〕 寛四14才
有之〔肥後〕 寛四5ウ 寛五37ウ
有之〔出羽〕 寛四7才

有之〔筑前若松〕 寛九16ウ
由之〔河内私市〕 寛九23才 寛十28才
宥深〔山城〕 寛二5才
祐之〔越中氷見〕 寛九21ウ

雄芝〔周防上ノ関〕 寛六29ウ
雄之〔遠江久喜賀浦〕 寛九15才
右書〔甲斐小笠原〕 寛四7才 寛五21ウ
遊水〔筑前〕 寛四9才

右汐〔備後福山連〕 寛二14才
 寛三18才 寛五29才
 友生〔甲斐浅原〕 寛八29ウ
 幽川〔近江伴〕 寛五5才
 有声〔平松亭〕〔信濃長瀬〕 寛七21ウ
 寛九10ウ 寛九10ウ
 雄生〔甲斐浅原〕 寛九19ウ
 幽尊〔出羽秋田〕 寛七13ウ
 右竹〔伊勢内宮／五十鈴川〕 寛八25ウ
 寛九12ウ 寛十5ウ
 挹波〔伊予今治〕 寛三20才 寛四8ウ
 寛八41才 寛十29ウ
 由梅〔信濃飯田〕 寛八33ウ 寛十3ウ
 有匪〔甲斐市川〕 寛八30才
 友尾〔筑前木屋瀬宿〕 寛八48ウ
 勇夫〔加賀〕 寛三13ウ 寛四11ウ
 友甫〔越前〕 寛十11才
 有方〔伊勢〕 天六8ウ
 有方〔但馬夏梅〕 寛十19才
 遊峰〔豊後安岐谷〕 寛九4才
 有無〔肥前平戸〕 寛四4才
 右明〔越中〕 寛五11才
 幽明〔京〕 寛四2才 寛四33ウ
 有庸〔京〕 天六初才 天六2ウ
 天七1ウ 寛一8ウ
 由来〔江戸〕 寛八21ウ 寛九2才
 有龍〔越前〕 寛十11才
 有隣〔近江〕 寛四25才 寛十2才
 寛十2ウ
 有隣〔上野富岡〕 寛七11ウ

有隣〔豊前椎田〕 寛七30ウ 寛八47才
 寛九1才 寛九37ウ
 雄里〔尾張〕 寛十33才
 遊鹿〔肥前諫早〕 寛八52ウ
 よ
 遙江〔伊勢津野田／安濃津／西ノ田〕
 寛七22ウ 寛八26才 寛八26ウ
 寛八28ウ
 洋水〔信濃塩名田〕 寛七20才
 羊石〔下野梁田〕 寛八22ウ
 憶丸〔江戸〕 寛九28ウ
 よしめ〔尾張〕 寛十33ウ
 代の〔肥前〕 寛六35才
 ら
 来止〔加賀〕 寛四14才
 来小人〔近江〕 寛四25才 寛六43ウ
 来石〔近江草津〕 寛四24ウ 寛六4ウ
 雷扇〔薩摩〕 寛一6才
 来々〔加賀〕 寛五6才
 羅外〔京〕 天六2ウ 天七2ウ
 寛四32ウ 寛七37才 寛八60ウ
 楽山〔加賀金沢〕 寛一4才
 羅月〔京〕 寛十27才
 羅交〔近江〕 寛十2才 寛十3才
 羅城〔尾張名古屋〕 寛二17ウ 寛四27ウ
 寛八1ウ 寛八18才

羅水〔京〕 寛二ロノ1才
 羅送〔伊勢津〕 寛十23ウ
 羅道〔伊勢〕 寛二9才
 羅風〔長門赤間関〕 寛三19ウ 寛四36才
 寛五31才 寛六32才 寛八44ウ
 羅仏〔上野上ノ宮〕 寛九15ウ
 裸木〔丹後橋立〕 寛四26ウ
 羅門〔武蔵深谷〕 寛五20才 寛九12才
 羅葉〔加賀〕 寛三13才
 蘭雨〔筑前甘木〕 寛五33才
 蘭下〔加賀〕 寛四37才
 嵐艾〔越中〕 寛四21ウ
 蘭鴈〔伊勢相可〕 寛十31ウ
 蘭居〔近江駒井沢〕 寛一3才
 蘭溪〔筑前鞍手／若宮〕 寛四10才
 寛五33ウ 寛六33ウ 寛七29才
 寛八48ウ
 嵐桂〔京〕 寛八60才
 嵐月〔京〕 天六3才 天七1ウ
 寛一7才 寛二3ウ 寛四34才
 寛五2ウ 寛五47才 寛六38才
 寛七34ウ
 蘭月〔伊勢雲出川〕 寛八24ウ
 藍江〔筑前〕 寛二16ウ 寛三26才
 蘭谷〔肥前〕 寛十15才

蘭更〔京〕 天六初才 天六12ウ
 天七ハウ 天七14才 寛一1才
 寛一9ウ 寛二ロノ1才
 寛二19才 寛二19ウ 寛三2才
 寛三24ウ 寛四1才 寛四34才
 寛五2才 寛五48才 寛六2才
 寛六25ウ 寛六41ウ 寛七1才
 寛七2才 寛七38才 寛八序ウ
 寛八62才 寛九1才 寛九40ウ
 寛十1ノ1才 寛十15ウ
 寛十32才
 嵐山〔浪花〕 寛十26才
 蘭山〔但馬和田〕 寛九7才 寛九10才
 寛十3ウ
 嵐枝〔能登〕 寛十6才 寛十8ウ
 嵐芝〔播磨北条〕 寛六27才
 嵐之〔筑前直方〕 寛八47ウ
 蘭史〔加賀金沢〕 寛七7才 寛八6才
 蘭子〔京〕 寛九2ウ 寛九39ウ
 蘭子〔豊後〕 寛十36ウ
 嵐松〔肥後熊本〕 寛五38ウ
 嵐樵〔能登〕 寛四17才
 蘭十〔武蔵野上町〕 寛七16ウ
 蘭丈〔豊前田川／椎田〕 寛六34ウ
 寛七30ウ 寛八57才 寛九12ウ
 寛五22ウ 寛六20ウ
 嵐水〔陸奥〕 寛六15ウ
 蘭吹〔加賀金沢〕 寛七6ウ
 嵐石〔京〕 寛八60ウ

蘭夕〔筑前福岡〕 寛九17才
蘭台〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才
寛七43ウ 寛八46ウ
鸞台〔京〕 寛六43ウ 寛八2才
寛八60ウ

蘭乃〔京〕 天七2ウ

蘭亭〔大坂〕 寛十3才

蘭亭〔筑前福岡〕 寛九35ウ

蘭島〔伊勢〕 寛十32才

蘭尾〔加賀金沢〕 寛三12ウ 寛四13才
寛八5才

嵐峰〔石見〕 寛二15才

嵐峰↓岐草〔能登〕

蘭陵〔大和郡山〕 寛六24才

り

籬庵〔近江江頭〕 寛九25才
李陰〔上野桐生〕 寛十30才
梨陰〔備後三原〕 寛三18ウ 寛四10ウ
寛五28才 寛七34才 寛八39ウ
梨英〔備後府中〕 寛八39才
里栄 寛五48才
里英〔越後塩沢〕 寛九3ウ
李応〔能登能登部〕 寛七44才
李鶯〔丹波〕 寛六26ウ
李下〔加賀金沢〕 寛七7才 寛八5ウ
寛十36ウ
里楽〔京〕 寛八60才
李冠〔甲斐山寺〕 寛七41才

李閔〔肥後〕 寛五39才
りき〔近江辻村〕 寛二7ウ 寛三8才
寛四38才 寛五4ウ 寛六5才
寛七5才

里旧〔伊勢〕 寛四15才

利躬〔甲斐逸見〕 寛九9才

李喬〔三秀亭〕〔三河龍城内〕 寛九21才

里翹〔長門〕 寛十35ウ

李曉〔周防小郡〕 寛八46才

里曉〔石見〕 寛二15才

理玉〔江戸〕 寛九27ウ

理玉〔伊勢津〕 寛十13ウ

里桂〔筑前〕 寛四10才

李溪〔能登田鶴浜〕 寛四15才 寛五9才
寛六10ウ

李蹊〔周防山口〕 寛五30才 寛六31才

李蹊〔信濃木曾奈良井〕 寛六21才
寛十25ウ

李蹊〔伊勢五十鈴川〕 寛八25ウ

里圭〔陸奥津軽〕 寛十35才

李月〔能登七尾所之口〕 寛四18才
寛五10ウ 寛八9ウ

李元〔上野田口〕 寛十31才

鯉湖〔加賀〕 寛三13才 寛四12才

李耕〔陸奥〕 寛六15才

里江〔長門赤間関〕 寛五31ウ 寛六32才
寛八45才

李朔〔備後福山連〕 寛五29才

吏山〔陸奥花巻〕 寛五16才

李三〔豊前小倉〕 寛一5ウ

李三〔加賀〕 寛一9ウ

李三〔備中笠岡〕 寛三17ウ

李山〔京〕 寛六2ウ

李山〔河内枯木／河西／村野〕

梨山〔在京〕 寛一1ウ 寛五46ウ
寛六25才 寛七23ウ 寛八29才

里三〔信濃飯田〕 寛五22ウ

鯉山〔河内〕 寛十28才

裏山〔甲斐下山〕 寛七19ウ

里山〔大坂松花連〕 寛一6才

里山〔長門赤間関〕 寛四35ウ 寛五31才
寛六33才 寛七44才 寛七44ウ

里山〔河内私部〕 寛九23才

李之〔甲斐〕 寛四39ウ

梨雀〔筑前〕 寛四9才

里秀〔越中湯口〕 寛九34ウ

梨笑〔能登田鶴浜〕 寛八9才

里笑〔加賀金沢〕 寛八6ウ

梨水〔肥前神代〕 寛八50ウ 寛九24ウ
寛十22ウ

里水〔上野三倉〕 寛十14才

鯉星〔老岐〕 寛十37才

利井〔下野足利〕 寛五14ウ

李青〔能登三階〕 寛四16ウ 寛五9才
寛八8ウ

里晴〔越前〕 寛十9ウ 寛十10ウ

里晴〔豊後〕 寛十37才

里石〔肥前〕 寛六35才

李席〔能登輪島〕 寛八65ウ

李夕〔肥後熊本〕 寛四4ウ 寛五38才
寛十14ウ

李雪〔上野厩橋・前橋〕 寛四35才
寛五14ウ 寛九9ウ 寛十31才

梨雪〔肥後〕 寛五40才

俚雪〔筑前博多〕 寛三20ウ

鯉仙〔肥前〕 寛四3才

吏仙〔浪花〕 寛十21ウ

吏全〔備後〕 寛一5才

里叟〔加賀〕 寛四12ウ

里竹〔越後目来田〕 寛九3ウ 寛十13才

李朝〔備後福山〕 寛二14才 寛三18才
寛四26才 寛六28ウ 寛七25ウ

李朝〔若狭〕

里朝〔伊勢寺方〕 寛九7才 寛十5才

栗花〔伊勢山田／御園／雲出川〕

栗之〔信濃浅野〕 寛九9ウ

立蘇〔薩摩出水〕 寛四35ウ 寛六36ウ

利貞〔肥前〕 寛十15才

李程〔肥後〕 寛四5ウ 寛五37ウ

里塘〔甲斐〕 寛四39才

李洞〔周防小郡〕 寛七43ウ 寛八46ウ

里童〔近江酒人〕 寛七5ウ

里梅〔長門〕 寛二16才

裏梅〔近江〕 天七6ウ

裏〔裡・り〕梅〔筑前直方〕 寛三20ウ
寛四9ウ 寛八48ウ

李雪〔上野厩橋・前橋〕 寛四35才

梨雪〔肥後〕 寛五40才

俚雪〔筑前博多〕 寛三20ウ

鯉仙〔肥前〕 寛四3才

吏仙〔浪花〕 寛十21ウ

吏全〔備後〕 寛一5才

里叟〔加賀〕 寛四12ウ

里竹〔越後目来田〕 寛九3ウ 寛十13才

李朝〔備後福山〕 寛二14才 寛三18才
寛四26才 寛六28ウ 寛七25ウ

李朝〔若狭〕

里朝〔伊勢寺方〕 寛九7才 寛十5才

栗花〔伊勢山田／御園／雲出川〕

栗之〔信濃浅野〕 寛九9ウ

りは～りよ

里泊〔越中〕 寛四20ウ 寛六11ウ
 利帆〔肥前神代〕 寛五36ウ
 李風〔南山城八幡〕 寛七45ウ 寛八56ウ
 李風〔伊予今治〕 寛八41才 寛九8ウ
 梨風〔近江水口〕 天六7才 寛二7ウ
 寛三9才 寛四24ウ 寛六36才
 寛七44ウ
 里風〔信濃飯田／林〕 寛八33ウ
 寛九7ウ 寛十11ウ
 鯉文〔南山城八幡〕 寛四37才 寛五43才
 寛七45ウ
 李芳〔越中〕 寛三15ウ 寛四21才
 里芳〔長門〕 寛二16才 寛六33才
 籬北〔美作〕 寛六28才
 李牧〔李朝〕〔若狭〕 寛二11才
 李明〔近江守山／京〕 寛二7ウ
 寛三9才 寛四23ウ 寛五3才
 寛五4才 寛七5才 寛八2ウ
 寛八59才
 李明〔武蔵本庄〕 寛四25ウ 寛五19ウ
 寛六17ウ 寛七15才 寛七16才
 寛八19才 寛八20ウ
 李友〔能登〕 寛二12才 寛三15才
 俚尤〔京尼〕 寛五3才 寛五45才
 寛六2ウ 寛六39ウ 寛七3才
 寛七36才 寛八2ウ 寛八60才
 寛九1ウ 寛九39才
 籬邑〔近江堅田〕 寛七4ウ 寛八57才
 柳園〔肥後〕 寛四4ウ
 柳歌〔上野平出〕 寛五14才

柳化〔加賀〕 寛五6才
 柳芽〔備後府中〕 寛七25ウ 寛八39才
 柳橋〔甲斐小笠原〕 寛五21ウ
 柳月〔安房〕 天六10ウ
 柳光〔京〕 寛四33才
 柳子〔若狭〕 寛二11才
 柳只〔若狭西津〕 寛三12才 寛四25ウ
 柳志〔美作久世女〕 寛五41ウ
 柳支〔若狭〕 寛二10才
 柳旨〔上野宮崎〕 天六11才
 柳枝〔加賀二ノ宮〕 寛四20才
 柳枝〔信濃飯田〕 寛八33ウ 寛九7ウ
 寛十4才
 柳枝〔肥前神代女〕 寛八50才
 柳枝〔信濃林〕 寛九7ウ
 柳絮〔近江〕 天七8ウ
 柳水〔上野草津温泉〕 寛五13才
 寛六12ウ
 柳水〔安房〕 寛六18才
 柳水〔能登富木〕 寛七8ウ
 柳雪〔上野田口〕 寛九9ウ
 柳莊〔信濃善光寺〕 寛七22才
 寛八33才 寛九36才
 柳多〔肥後〕 寛十14ウ
 柳汀〔怡水〕〔能登黒島〕 寛二11ウ
 寛三14ウ 寛三14ウ 寛四18ウ
 寛五8ウ 寛六8才 寛六10才
 寛七7才 寛八8才 寛九26ウ
 寛十6才 寛十8ウ
 柳眉〔能登輪島〕 寛四15才 寛七8才

柳里〔備後福山〕 寛五28ウ
 柳鄙女〔筑前福岡〕 寛八48ウ
 龍湫〔加賀〕 寛七6才
 龍美〔京〕 寛四1才 寛九39ウ
 龍花〔筑前黒崎〕 寛一5ウ
 龍玉〔越前〕 寛十11才
 龍山 寛三11才 寛八2ウ
 龍山〔上野西ノ関／本宿／西牧〕
 寛四29才 寛五13才 寛六14才
 寛七12才 寛八13ウ 寛九13才
 寛十13ウ
 龍山〔但馬和田〕 寛八38才
 龍子〔南山城〕 天六5才
 龍至〔越前〕 寛十9ウ
 龍石〔加賀〕 寛四37ウ
 龍堆〔但馬芝村〕 寛十21才
 龍爪〔京〕 寛二19ウ
 龍笛〔甲斐平岡〕 寛九30才 寛十34ウ
 龍尾〔出雲〕 寛二14ウ
 龍尾 寛六36才
 流志〔筑前笹田〕 寛五34才
 流志〔周防山口〕 寛八46才 寛九33ウ
 隆泉〔京〕 寛八60才
 笠蘭〔江戸〕 寛五18ウ
 了江〔浪花〕 寛九16才
 了砂〔肥前天草〕 寛七39ウ
 綾窓〔加賀〕 寛五6ウ
 菱秀〔能登〕 寛五8ウ
 菱丈〔大和郡山〕 寛五25才
 菱風〔加賀柏野〕 寛七6ウ

菱可〔長門萩〕 寛七40才
 菱歌〔加賀〕 寛四13ウ 寛六5ウ
 菱形〔加賀〕 寛五6才
 菱波〔周防山口〕 寛八46才
 凌花〔安房〕 寛三7ウ
 凌冬〔加賀金沢〕 寛三14才 寛四11才
 寛五45ウ 寛七6ウ
 梁園〔山城宇治〕 寛二5ウ
 寛二21才 寛八56才
 涼瓜〔肥後山鹿〕 寛十14ウ
 涼化〔武蔵八幡山〕 寛八20才
 涼山〔信濃下県〕 寛五23才
 涼宇〔武蔵青梅〕 寛五19才
 涼花〔加賀〕 寛四11ウ
 涼秀〔但馬生野〕 寛三17才 寛五42ウ
 寛六27ウ 寛八38才 寛十19才
 涼眉〔筑前植木〕 寛四9才 寛五33ウ
 涼眉〔近江草津〕 寛五5才
 涼眉〔上野草津〕 寛六13才 寛七32ウ
 寛七33ウ 寛八15才 寛八16ウ
 寛九5才
 良化〔能登寺口〕 寛八8ウ
 良交〔更〕〔近江石部〕 天六5ウ
 天七7ウ 寛五2ウ 寛五4才
 寛六4才 寛八3才
 良水〔南山城寺田〕 寛三22才 寛四30才
 寛六37ウ
 良涼〔京〕 寛八57才
 良和〔能登寺口〕 寛七8才

りょゝろじ

蓼花〔阿波福島〕 寛二15ウ 寛四27才
 蓼花〔越中高岡〕 寛八11ウ
 蓼雄〔備中吉岡〕 寛五27才
 緑水〔越中福光〕 寛二12ウ 寛三15ウ
 緑毛〔越中高岡〕 寛八12才
 臨海主人↓春蟻〔江戸〕
 輪賀〔上野前橋・厩橋〕 寛三10才
 寛四35才 寛五14ウ 寛七10才
 林〔淋〕沙〔京〕 寛六44才 寛七36ウ
 蘭枝〔江戸〕 寛九28ウ
 隣車〔甲斐暮地〕 寛八30才 寛九11ウ
 寛九25ウ
 綸車〔南紀〕 寛五23ウ
 輪雪〔上野〕 寛八14ウ
 林亭〔越中〕 寛四22才
 隣遊〔涯州〕 寛五40ウ
 る
 るせ女〔京〕 寛七38才
 れ
 令雨〔甲斐百々〕 寛六19才 寛七41才
 寛十34ウ
 鈴子〔京女〕 寛一7ウ
 勵之↓黄口〔南山城佐山〕
 犁〔犁・梨〕松〔加賀金沢〕 寛三13才
 寛四11ウ 寛六6ウ 寛六7才
 寛八7才 寛九5才

靈沾〔肥後〕 寛四5才
 濃波〔肥前諫早〕 寛五36才 寛七42才
 寛八52ウ 寛十14才
 犁〔犁・梨〕邑〔能登黒島〕 寛三15才
 寛四19才 寛五8ウ 寛六8才
 寛六10才 寛七7ウ 寛八8才
 寛十6才 寛十8ウ
 厲掲〔蒼椿〕〔備後南方〕 寛十19ウ
 列戸〔越中福野〕 寛七9才
 恋宇〔備前岡山〕 寛一5才
 連山〔肥後長峰〕 寛五38才 寛六35ウ
 連止〔江戸女〕 寛三4ウ
 連之〔伊勢山田〕 寛三6才
 蓮車〔近江水口／坊村〕 天六7才
 天七6才 寛一8才 寛二1才
 寛二20ウ 寛三9才 寛四25才
 寛五3ウ 寛五4才 寛六42ウ
 寛七4才 寛八5才
 蓮波〔越中福野〕 寛七9才
 ろ
 芦隠〔肥後熊本〕 寛四5ウ
 魯隠〔浪花〕 寛九16才
 弄花〔但馬〕 寛六27ウ
 老橋井〔摂津伊丹〕 寛四29ウ 寛七24才
 寛十3才
 瀧水〔上総中滝村〕 寛一10才
 瀧吹〔肥前諫早〕 寛八53才 寛九35ウ
 浪和〔長門〕 寛六32ウ

魯雲〔越中芝僧〕 寛七9才
 魯盎〔肥前神代〕 寛八50ウ 寛九24ウ
 寛十22ウ
 芦翁〔京〕 寛七35才 寛八58ウ
 芦涯〔京〕 寛一1才 寛三2ウ
 寛三24ウ 寛三25ウ 寛四2才
 寛四34才 寛五2才 寛五47ウ
 寛六2才 寛六41ウ 寛七2才
 寛七38才 寛八序ウ 寛八61ウ
 寛九1才 寛九37ウ 寛十1ノ1ウ
 寛十27ウ 寛十33才
 芦角〔近江水口〕 天六7才
 芦角〔加賀〕 寛八6才
 露角〔陸奥仙台〕 寛八23才 寛九30ウ
 芦雁〔南山城平川〕 寛一6ウ 寛二4ウ
 露橘〔出羽左沢〕 寛二18ウ 寛四7ウ
 寛五16才 寛六16ウ 寛七15才
 寛八23ウ 寛九8才 寛十5才
 露橘〔近江土山〕 寛三9ウ
 露牛〔陸奥〕 寛四6ウ
 路求〔安房天津町〕 寛六18才
 芦卿〔近江〕 天七6才
 鷺〔路〕橋〔近江山土村〕 天七7才
 天七7ウ 寛一2ウ 寛四24ウ
 寛六5才 寛八4ウ
 魯杏〔丹後宮津〕 寛十36才
 六賀〔安芸小方浦〕 寛一4ウ
 鹿古〔京〕 寛十1ノ1才 寛十33才
 寛十36ウ
 六合〔安芸広島〕 寛六29才

六山〔南山城中村〕 寛七31才
 鹿水〔伊勢楠〕 寛八25ウ
 鹿鳴〔石見〕 寛二15才
 鹿友〔但馬〕 寛三17才
 路圭〔伊勢四日市〕 寛十4ウ
 芦月〔肥前諫早〕 寛四3ウ 寛五35才
 櫓月〔筑前直方〕 寛七28才
 路月〔京〕 寛八62才 寛十12ウ
 呂樫〔石見郷津〕 寛七26才
 芦江〔近江大津〕 寛一2ウ
 芦江〔筑前〕 寛四10才
 芦江〔石見〕 寛六41ウ 寛六42才
 路口〔山城嵯峨〕 寛六38才 寛七39ウ
 呂蛤〔京〕 寛四32ウ
 魯貢〔京〕 寛二1ウ
 魯稿〔丹波〕 寛六27才
 路江〔越前〕 寛十10ウ
 路高〔播磨姫路〕 寛八36才
 露口〔京〕 寛四31才
 露虹〔京〕 寛三23ウ
 露才〔京〕 寛一8才
 駟山〔京〕 寛二ロノ1ウ
 駟山〔鷺山〕〔播磨明石〕 寛一4ウ
 寛二19才 寛二19才
 魯雀〔遠江〕 寛二17ウ
 芦舟〔安芸御手洗〕 寛五29ウ
 芦舟〔長門舟木〕 寛六31才 寛六32ウ
 寛八45ウ
 路春〔京〕 天六2ウ 寛三23才
 露情〔上野富岡〕 寛三10ウ

芦人〔京〕 寛七37ウ
 路翠〔安房〕 寛四23才 寛六18才
 芦錐〔江戸〕 寛九36才
 魯水〔紀伊〕 寛二13才
 芦盛〔長門〕 寛六32ウ
 芦石〔肥後八代〕 寛五37才
 芦汐〔武蔵秩父吉田町〕 寛七16ウ
 寛八19才
 芦雪〔大和多武峰／宇陀〕 寛二13才
 寛四30才 寛五25才
 鷹雪 寛七36ウ
 鷺雪〔越前福井〕 天七13ウ
 芦船〔甲斐鰍沢〕 寛四28才 寛五21才
 芦仙〔紫桂〕〔京〕 天六12才
 鷹泉〔肥前〕 寛八51ウ
 魯仙〔越中氷見〕 寛九21ウ
 魯川〔伊予道前〕 寛七27才
 露仙〔安房〕 寛六18ウ
 露仙〔陸奥仙台〕 寛七13才 寛八23才
 寛九30ウ
 芦村〔浪花〕 寛七42ウ 寛八55ウ
 呂代〔能登七尾〕 寛四17ウ
 露台〔京〕 寛八60才
 芦丹〔安芸御手洗〕 寛八40才
 芦丹〔近江貝津〕 寛九5ウ
 駟丹〔京〕 寛六3才 寛六39ウ
 寛七3ウ 寛七37才 寛八1ウ
 寛八58才 寛九2才 寛九37ウ
 寛十1ノ1才 寛十26ウ
 露竹〔石見日原〕 天七12ウ

芦蝶〔京〕 寛五45ウ
 芦調〔近江長浜〕 寛八4才
 魯丁〔越中潟口〕 寛九35才
 魯長〔南山城野尻〕 寛二口ノ1ウ
 寛二4ウ 寛三22ウ 寛四30ウ
 寛五2ウ 寛五43ウ 寛六3才
 寛六36ウ 寛七2ウ 寛七31才
 寛八56ウ 寛九10才
 寛十1ノ1ウ 寛十27ウ
 魯長〔越中高岡〕 寛八11ウ 寛九34才
 寛九34ウ
 路鳥〔伊勢津／洞津連〕 天六9才
 天七10才 寛八25ウ
 露朝〔備中倉敷〕 寛三17ウ 寛四7ウ
 六珈〔甲斐浅原〕 寛八29ウ 寛九19才
 寛十33ウ
 鷺汀〔備後福山〕 寛五28ウ
 芦笛〔肥前〕 寛十15才
 駟童〔肥後山鹿〕 寛三21ウ 寛四5ウ
 露濃〔長門舟木〕 寛八45ウ
 鷺白〔上野草津〕 寛五13才 寛六12ウ
 寛七32ウ 寛七33ウ 寛八14ウ
 寛九5才
 鷺白〔越前〕 寛十11才
 呂柏〔肥前神代〕 寛五36ウ 寛八50才
 寛九24才
 魯畔〔加賀〕 寛四13ウ
 露帆〔陸奥〕 寛九29ウ
 芦風〔肥前有田〕 寛八49ウ
 芦風〔河内郡津〕 寛九22ウ 寛十28才

呂風〔京〕 天七2ウ 寛一8才
 魯文〔加賀〕 寛五7才
 路文〔肥前〕 寛八51才
 路平〔河内長尾〕 寛四38才 寛五25ウ
 寛六24ウ 寛七23才
 魯邦〔能登宇出津〕 寛十28ウ
 駟鳴〔京〕 寛四2ウ
 路明〔長門赤間関〕 寛六33才 寛八43ウ
 露友〔伊勢石薬師〕 寛五24才
 路要〔武蔵黛村〕 寛七17才
 芦流〔若狭長江〕 天七11才
 わ
 和十〔肥前〕 寛八51才
 和重〔涯州〕 寛五41才
 倭水〔安房〕 天六10ウ
 和吹〔遠江久喜賀浦／植松〕 寛九15才
 寛十1ウ 寛十4才 寛十37ウ
 和水〔薩摩鹿兒島〕 寛四10ウ
 和水〔涯州〕 寛五41才
 和水〔肥前天草〕 寛七38ウ 寛七39才
 和水〔河内楠葉〕 寛八29才
 和水〔甲斐平岡〕 寛八31才 寛九30才
 和睡〔陸奥仙台連〕 寛九30ウ
 和井〔下野足利〕 寛七12ウ 寛八23才
 和石〔甲斐山寺／平岡〕 寛六19才
 寛七41才 寛八30ウ 寛九30才
 寛十34才
 和扇〔安芸能美〕 寛七46ウ

倭泉〔京〕 寛二3ウ
 和旦〔但馬千原〕 天六9ウ 天七12才
 寛三17才
 和道〔周防岐波／小郡〕 寛七43才
 寛八46ウ
 倭風〔安房磯村〕 天六10才 寛一2才
 寛三7ウ 寛四23才 寛六17ウ
 和陸〔陸奥仙台〕 寛八23才
 和由〔長門〕 寛十35ウ
 和養〔江戸〕 寛九27ウ
 和楽〔和泉〕 寛七23才
 和林〔在京若狭〕 寛八57ウ

付表一 各年本の編成

年次	標題	序文	卷頭連句			参列者				奉納発句・連句				刊行書肆	備考	
天明六	丙午花供養	なし	關更	渭川	8	区別せず				14	174	1	なし	菊舎太兵衛	* 卷頭連句は短句一字下げ、以下連句は同様の形式、關更句を巻末に配置	
天明七	なし	芭蕉堂社中	不記	不記	〔百韻〕 0	区別せず				16	214	0	なし	菊舎太兵衛	* 卷頭に杉風発句桃青脇の歌仙、關更句を巻末に配置、「百韻あり略之」とのみ有	
寛政一	寛政元酉年三月十二日 於南無庵興行	なし	芦涯	關更	10	9	36	5	0	4	10	156	1	なし	菊舎太兵衛	* 「奉納句順任到来」、「一座」句を最後に配置、「遅来」有
寛政二	なし	無署名	羅水	關更	〔百韻〕 10	36	36	0	0		25	281	3	なし	菊舎太兵衛	* 地域毎に奉納俳諧、一座連句を最後に配置、追加有
寛政三	なし	可能	清秋	關更	25	18	18	0	0		26	333	3	芦涯	菊舎太兵衛	* 地域毎に奉納俳諧、「奉納句順任到来」、「二座捻香」を最後に配置、遅来有
寛政四	なし	山亭	山亭	關更	34	区別せず					40	620	2	なし	菊舎太兵衛	* 地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、追加、遅来有
寛政五	なし	幡水	幡水	關更	34	区別せず					49	692	4	なし	菊舎太兵衛	* 地域毎に奉納俳諧、短歌二首有、洛を最後に配置、追加有
寛政六	なし	竹堂	斗流	關更	35	区別せず					45	571	8	なし	菊舎太兵衛	* 地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、追加有
寛政七	なし	百池	蜷州	關更	36	区別せず					49	619	8	淇竹	菊舎太兵衛	* 地域毎に奉納俳諧、「遅参」、洛を最後に配置、追加、獲車筆「花をめづる記」有
寛政八	なし	蒼虬	兎仙	關更	〔百韻〕 44	区別せず					67	785	18	なし	芭蕉堂蔵板	* 地域毎に奉納俳諧、洛を最後に配置、遅来有
寛政九	百韻一順	芦丸	百池	關更	42	区別せず					42	545	9	なし	芭蕉堂蔵板	* 地域毎に奉納俳諧「句順従遅速」、洛を最後に配置
寛政十	一順	玻井	蜷洲	關更	32	区別せず					40	434	13	なし	芭蕉堂蔵板	* 地域毎に奉納俳諧、蒼虬句を巻末に配置追加有

※連句の発句を除く

付表Ⅱ 各年別・国別諸国奉納発句数

計	寛10	寛9	寛8	寛7	寛6	寛5	寛4	寛3	寛2	寛1	天7	天6	地域
109	6	33	5	8	21	18	13	3	2				陸奥
36	2	3	2	9	3	11	4		1		1		出羽
45	5	7	12	11		2	5	1	2				下野
325	31	48	55	48	45	46	21	25	2	2	2		上野
4		2	1						1				常陸
50	2	3	1	5	15		9	4		4	1	6	安房
13						4				9			上総
4		1				1	1					1	下総
193	9	30	42	37	19	29	5	15	2	4	1		江戸・武蔵
14	7	4		2	1								相模
2	1			1									伊豆
198	23	43	37	27	18	19	23	1	5	1		1	甲斐
3				1		1	1						駿河
32	4	8	2	1	2	3	1	5	4	2			遠江
4		2	1	1									三河
15			4	1			8	1	1				尾張
163	10	20	37	41	30	17	2	5			1		信濃
3		1	1	1									飛騨
2									1		1		美濃
26	4	6	3	3	2	2	1	4		1			越後
174	4	31	21	14	18	24	35	17	6	1	1	2	越中
310	40	13	41	36	24	43	73	21	17	2			能登
282	15	11	49	24	20	38	75	33	3	4	6	4	加賀
37	21	5	1	1			2		1	1	2	3	越前
85			2	2	3	5	9	23	21	5	12	3	若狭
244	29	19	35	20	12	20	24	14	15	4	29	23	伊勢
12		1			1	1	1				7	1	志摩
34	3	1			3		3	2	5	3	14		伊賀
426	19	26	46	45	42	41	39	38	38	21	39	32	近江
814	31	63	110	83	88	79	81	25	69	50	68	67	京・南山城
23				2	5	3	4	4	3	1	1		大和
50	10	10	8	7	5	5	4					1	河内
124	19	23	17	14	10	9	11	2	3	6	4	6	浪花・大坂・摂津
4				3	1								和泉
11	1	1		2	2	1	2		2				紀伊
9				1	1	5	1			1			淡路
59	4	4	12	2	3	4	3	7	10	5	4	1	播磨
55	4	6	5	2	12	3	4	3	9	3	2	2	丹波
22	6		1	4	4		5					2	丹後
56	14	4	12	2	3	8	1	3			5	4	但馬
5	2	2							1				出雲
36			3	4	6	6	3		12		2		石見
24			7	5	6	6							美作
5			1		1		1	1		1			備前
67	1		4	7	2	21	14	13	1		1	3	備中
100	7	4	17	12	8	21	8	8	9	5	1		備後
59	5	6	8	4	4	10	4	11	4	2		1	安芸
104		10	23	22	26	20	2	1					周防
116	11	6	16	5	33	19	8	3	13	1	1		長門
10		2	1	1	2			2	1		1		阿波
25	3	3	4	1	2	2	4	6					讃岐
55	4	5	16	17	1		6	6					伊予
223	2	19	34	38	33	30	30	22	5	10			筑前
2	1										1		筑後
42	8	2	13	3	2	3	1	2	4	1	3		豊前
13	1	4	4		1	1	1		1				豊後
3	3												壱岐
246	42	31	55	29	17	39	27	1	2	1	1	1	肥前
113	9	1	2	2	6	60	25	1	6				肥後
8	1	1	1	1	1	1	2						日向
22			2	1	5		9	1		4			薩摩
10	1	1	1	2	1	1	1	1			1		対馬
10						10							涯州
5370	425	526	775	615	570	692	617	335	282	155	213	164	計
	44	45	47	51	48	46	50	38	37	29	31	20	国数

(注1)「行脚」「雲水」など地域未詳の者は除いた。

(注2)同年の複数句の入集は、重複して算入しない。

『花供養』所蔵一覧

年次 編者 所蔵先

1	天明	六	關更	綿屋・糸井・白鹿・柿衛・国会・愛知県大・※芭蕉堂	22	九	蒼虬	綿屋・月明・糸井・白鹿・学習院大・石見（合本）・石川歴博	
2		七	關更	綿屋・※芭蕉堂・愛知県大・中島杏文庫	23	十三	蒼虬	月明・竹冷・白鹿・武蔵・愛知県大・石見（合本）・学習院大・麗沢・石川歴博	
3	寛政	元	關更	綿屋・※芭蕉堂・櫻井				【備考】文化八年興行も入集	
4		二	關更	月明（二部）・愛知県大・河野美・※芭蕉堂・雲英	24	文政十一	蒼虬	白鹿・武蔵・時雨（二部）・玉川大・麗沢大	
5		三	關更	綿屋・月明・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・松本節子・堀家（袋付）・松宇	25	天保	元	蒼虬	綿屋・月明（二部）・竹冷・白鹿・石川歴博・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・愛知芸大・愛知県大
6		四	關更	月明・※芭蕉堂・柿衛・奈良文庫・堀家・河野美（二冊）	26	三	千崖	月明・糸井・武蔵・石川歴博・立教大・下垣内・山田・雲英・※芭蕉堂	
7		五	關更	綿屋・月明・白鹿・河野美・武蔵・※芭蕉堂・雲英・下垣内					
8		六	關更	綿屋・月明・武蔵・雲英・蝸牛廬文庫・小林孔・堀家（袋付）・竹内千代子・二松学舎大・白鹿・※芭蕉堂	27	四	蒼虬	綿屋・月明・糸井・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・徳島県図・燕々・下垣内・愛知芸大・愛知教大・麗沢・白鹿（二部）・九州大・長崎県図芦塚	
9		七	關更	綿屋・柿衛・白鹿・戸谷半之助（一茶全集）・燕々・※芭蕉堂	28	五	蒼虬	月明・白鹿（二部）・芭蕉翁記念・※芭蕉堂・山田・古宅家	
10		八	關更	綿屋・月明（二部）・柿衛・白鹿・下垣内・高岡図・奈良文庫・愛媛県図・武蔵・須賀川市図・燕々・※芭蕉堂・雲英・某家	29	天保	十	朝陽	月明・白鹿・武蔵・※芭蕉堂・某家（国文研マイクロ）
11		九	關更	武蔵・※芭蕉堂・小林孔・雲英	30	十一	朝陽	白鹿・立教（袋付）・九州大・大内初夫	
12		十	關更	月明（二部）・柿衛・※芭蕉堂・燕々	31	十二	九起	立教・山崎・櫻井	
13		十一	蒼虬	綿屋・白鹿・竹冷・国会・潁原・石見（合本）・糸魚川市歴資・糸魚川歴資木村	32	十三	九起	綿屋・糸井・白鹿・山田・八戸市図・※芭蕉堂・蝸牛廬文庫・八戸市図百仙洞・九州大	
14	享和	元	蒼虬	綿屋・柿衛・月明・武蔵・石見（合本）・関口（二冊）・櫻井	33	十四	九起	綿屋・月明（袋付）・大阪府図・芭蕉翁記念・立教大・武蔵・中島杏・※芭蕉堂・山本唯一・正宗文庫・下垣内・富山県図・山田・奈良文庫・燕々	
15		二	蒼虬	柿衛・山崎・石見（合本）・台湾大（ビブリア42）				【備考】芭蕉百五十回忌（二冊）	
16		三	蒼虬	綿屋・石見（合本）・久留米図					
17	文化	元	蒼虬	綿屋・奈良文庫・久留米図・雲英・高井悠子					
18		二	蒼虬	綿屋・月明・高岡図・久留米図・武蔵					
19		三	蒼虬	綿屋・糸井・石見（合本）					
34		弘化	元	九起	月明・武蔵・国会・下垣内・※芭蕉堂・雲英				
35		二	九起	月明・白鹿・武蔵・※芭蕉堂・高岡図・九州大・櫻井・燕々					

36	三	九起	月明・白鹿（三部）・国文研・愛知県大・九州大・※芭蕉堂・燕々・竹内千代子
37	四	九起	芭蕉翁記念・愛知県大・京大谷村・須賀川市図矢部・小林孔・大内初夫
38	嘉永二	九起	白鹿・立教大・九州大・※芭蕉堂・村野（国書総目）
39	三	九起	【備考】嘉永元年興行も入集 芭蕉翁記念・立教大・宮城県立小西文庫・奈良大
40	六	公成	月明・柿衛・芭蕉翁記念・石見（合本）・三康・立教大・森・青森県図工藤（二部）・燕々・須賀川市図矢部・国会・小林孔・下垣内
41	安政元	公成	月明・立教大・下垣内・古宅家・奈良大・櫻井・竹内千代子・石川歴博・三康
42	三	公成	白鹿・中島杏・山本唯一・櫻井（欠損有）・内山（国書総目）・三康・奈良大・富山県図
43	四	公成	三康・内山（国書総目）・奈良大（袋付）
44	五	公成	月明・芭蕉翁記念・立教大・九州大・櫻井（欠損有）・内山（国書総目）・下垣内・松本節子・奈良大（袋付）・竹内千代子・白鹿
45	六	公成	月明・柿衛・三康・鈴木勝忠・雲英・奈良大（袋）・青木亮人・綿屋・※芭蕉堂・櫻井（二部）・内山（国書総目）・静岡大原・青木亮人・竹内千代子・白鹿
46	万延元	公成	綿屋・※芭蕉堂・櫻井（二部）・内山（国書総目）・静岡大原・青木亮人・竹内千代子・白鹿
47	文久元	公成	月明・白鹿・※芭蕉堂・九州大・奈良大・竹内千代子（袋付）・三康
48	二	公成	綿屋・芭蕉翁記念・白鹿・九州大檜垣・櫻井・竹内千代子
49	三	公成	糸井・芭蕉翁記念・三康・燕々・櫻井（欠損有）
50	元治元	公成	芭蕉翁記念・三康・小林孔・櫻井（欠損有）
51	慶応元	公成	月明・芭蕉翁記念・須賀川市図矢部・早稲田大（俳海四〇）・櫻井・奈良大（袋付）
52	二	公成	綿屋・白鹿・石川歴博・芭蕉翁記念・岡山市図・龍大大宮・三康・※芭蕉堂

53	三	公成	綿屋・月明・白鹿・芭蕉翁記念・三康・名古屋市鶴舞中央図・東海女短大関山文庫・燕々・櫻井・東海学園名古屋哲誠
54	明治三	良大	綿屋・白鹿・芭蕉翁記念・三康・櫻井

【備考】明治二年興行、同三年刊

一 略記号は次の通りである。

愛知県大	愛知県立大学附属図書館
時雨	秋田県立秋田図書館時雨庵文庫
石川歴博	石川県立歴史博物館大鋸コレクション
糸井	京都府舞鶴市郷土資料館糸井文庫
石見	弘前市立弘前図書館石見文庫
頼原	京都大学文学部図書館頼原文庫
燕々	岡山市立図書館燕々文庫
下垣内	尾道市立大学附属図書館下垣内文庫
河野美	今治市河野美術館
雲英	早稲田大学図書館雲英文庫
月明	石川県立図書館月明文庫
櫻井	立命館大学アート・リサーチセンター 櫻井文庫
関口	長野県立長野図書館関口文庫
高岡図	高岡市立高岡図書館
竹冷	東京大学附属図書館竹冷文庫
中島杏	富山県小矢部市立礪中図書館
白鹿	兵庫県西宮市笹部桜コレクション―白鹿記念酒造博物館寄託―
堀家	京都府城陽市歴史民俗資料館マイクロ資料
武蔵	武蔵野大学図書館旧前田利治蔵
森	大阪市立大学附属図書館森文庫
山崎	大阪府立大学学術情報センター山崎文庫
山田	大阪府立大学山田文庫
麗沢	麗沢大学附属図書館田中文庫
綿屋	天理大学附属天理図書館綿屋文庫

一 ※記号は、目録などに記載はあるが、所在確認のできないもの
一 写本は原則として記載しない

参考文献

- 櫻井武次郎「花供養所蔵先リスト」(大阪俳文学研究会「会報」38号)
『国書総目録』
『古典籍総合目録』
国文学研究資料館古典籍データベース
各図書館・文庫目録及びデータベース

付記

一 本稿は、京都俳諧研究会の成果の一部である。研究メンバーは、竹内千代子、松本節子、小林 孔、高井悠子、青木亮人、金子貴昭、赤間 亮（敬称略）。

一 科学研究費助成事業・基盤研究（C）「近世後期京都の芭蕉顕彰俳諧の研究」（課題番号 20K00353）の成果の一部である。

一 立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際研究拠点」共同研究課題「花供養と芭蕉顕彰俳諧の研究」（代表：竹内千代子）の一部である。なお、成果の一部はWEB公開中である。

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/rarebook/2/3/post-48.html>

表紙『芭蕉堂三代発句集』（架蔵）

『花供養』翻刻集成 I

—— 關更の時代 天明六年（寛政十年）——

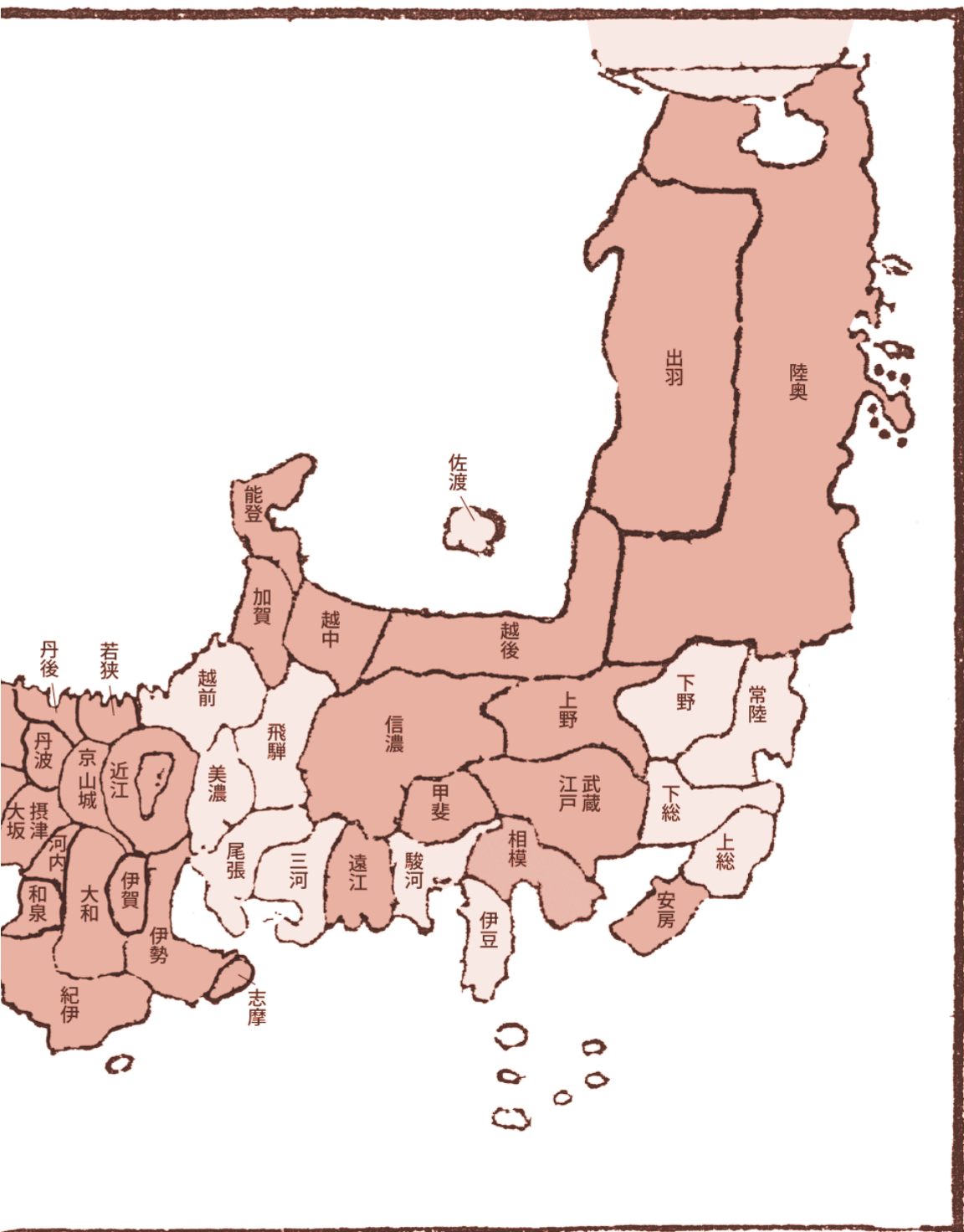
発行日 令和三年二月一日

編・著 立命館大学 非講師
竹内 千代子

印刷 株式会社 昭英社

〒六〇〇人二九

京都市下京区五条通河原町西入本塩竈町五五八
電話 〇七五―三五一―一八一



寛政六年『花供養』より

■ 入集

■ 未入集

『花供養』翻刻集成Ⅰ 正誤表

頁	誤	正
91	なし(俳号索引 凡例)	<p>一 次のものは、特に習慣によって読む。 青銭(あおぜに)、青人(あおんど)、一茶(いっさ)、得終(えしゅう) (俳号索引 凡例)</p> <p>一 刊記の人名は取らない。(俳号索引 凡例)</p> <p>一 次のように改号、別号などの併記がある場合は、所在を重複して記し、傍線等を付し、所在に対応する。 軸磨更 簀深 → 寛二13才 寛二13才 (俳号索引 凡例)</p>
128	なし(付表Ⅰ)	※本文の底本による(付表Ⅰ)
128	※連句の発句を除く(付表Ⅰ)	※連句の発句を除く・ 延数 (付表Ⅰ)
129	付表Ⅱ 各年別・国別諸国 奉納 発句 数	付表Ⅱ 各年別・国別諸国 奉納者 数
129	なし(付表Ⅱ)	※本文の底本による
129	(注2)同年の複数句の 入集 は、重複して算入しない。(付表Ⅱ)	(注2)同年の複数句の 入集者 は、重複して算入しない。
130	なし(『花供養』所蔵一覧)	14 享和元 小林孔(まつり見)
130	なし(『花供養』所蔵一覧)	22 文化九 竹内千代子
130	なし(『花供養』所蔵一覧)	28 天保五 神戸大
130～132	柿 衛 文庫(『花供養』所蔵一覧)	柿 衛 文庫(『花供養』所蔵一覧)
130～132	石見文庫(『花供養』所蔵一覧)	岩見文庫(『花供養』所蔵一覧)